

2 0 2 5 年版
フリーランスの
社会保険に関する意識調査
自由回答一覧

2025.12



プロフェッショナル & パラレルキャリア
フリーランス協会

● 2025年フリーランスの社会保険に関する意識調査自由回答設問一覧

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

(複数回答・必須)

↳Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。(自由回答・任意)

回答数 812 件

Q5.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感や

こうあるべきというお考えがあれば、教えてください。(自由回答・任意)

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

回答数 754 件

Q7.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、

あなたは加入したいと思いますか。(単一回答・必須)

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。(自由回答・任意)

回答数 882 件

Q8.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、

あなたは加入したいと思いますか。(単一回答・必須)

↳Q8F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。(自由回答・任意)

回答数 828 件

Q9.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。(単一回答・必須)

↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。(自由回答・任意)

回答数 791 件

Q10.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。(単一回答・必須)

↳Q10F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。(自由回答・任意)

回答数 674 件

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
支払うお金がかさむため。	30歳未満	被扶養者
会社員と比べて、フリーランスは社会保険料を全額自己負担するため負担が大きいです。また、国民健康保険には扶養制度がなく家族の人数に応じて保険料が増える点も重い負担です。さらに、出産手当金や育児休業給付金といった生活を支える給付が無く、家庭や将来設計に不安があります。教育訓練給付金も利用できないため、スキルアップや学び直しをすべて自己負担で行わなければならない、働き方を続けるうえで不利さを強く感じています。	30歳未満	被扶養者
会社員の社会保険制度に比べて補償が少ないのに金額が高い。開業して収入が少ない時に年金が固定額だったのはかなり苦しい。	30歳未満	扶養者無
まだ独立してで金銭的な余裕や目処がなく、保険料の支払いは死活問題になりかねないため。必要なお金だとわかってるんですが…。	30歳未満	扶養者無
フリーランスで活動はしているが、夫の扶養範囲内で働いているため、実質わたしが社会保険料は払っていない。しかし、健康保険や年金は第3号被保険者であるため、厚生年金受給資格であった正社員の時と比べて、将来受け取れる年金額が少なくなるのが懸念点です。	30代	被扶養者
私は精神障害を抱えながらフリーランスとして働いており、収入が安定したことがありません。病気や体調不良で働けないときに傷病手当金がなく収入が途絶えること、将来的に父の扶養から外れた場合に国民健康保険料が増えること、また収入に関わらず定額の国民年金保険料負担や厚生年金が無い将来の年金額が少ないこと、さらに失業保険がないことは、生活の不安や将来設計の困難さに直結しています。こうした実態を踏まえ、フリーランスや障害者が安心して働き続けられる社会保障制度の改善が必要だと考えます	30代	被扶養者
家族の扶養に入っているため	30代	被扶養者
払う額が多く、もらえる額は少ないと感じているため	30代	被扶養者
収入の額が低ければ、その分負担も大きくなるのが最も心身ともにしんどい	30代	被扶養者
国保に変わったあとの負担が重く、保障も薄く感じたので	30代	被扶養者
ただでさえ持病があり働ける時間が短いのに公的扶助が弱く将来への不安が大きいしかし持病があるため会社員になることもできない	30代	被扶養者
そもそも社会保険料が高すぎます。高齢者が増え働く人が減っている今、高齢者の自己負担増など給付の削減が必要だと思います。	30代	被扶養者
出産に関わる休業期間中の保障がないため、子どもを産むことを躊躇してしまう。自分で掛けられる保険があれば良いと思う。	30代	被扶養者
とにかく今はお金が少なく困っています。物価高も追い打ちをかけてくる。	30代	被扶養者
もしもの時の備えが不安	30代	被扶養者
子育て中で扶養を抜けようと思うと社会保険料の負担が大きいため	30代	被扶養者
収入がある程度継続して得られる仕組みづくりをしないと、生活が厳しくなるため	30代	扶養者無
仕事の波があり収入面で不安定なので余計に支払いが高く感じ、また手当てが薄く感じてしまうため。	30代	扶養者無
会社員と比べるとどうしても支払う額が増えて手元に残る金額が目減りする	30代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
扶養に入るか迷う程度の収入ですが、受注拡大も視野に入れ、思い切って扶養を出る決断をしました。収入も不安定な中で高額な保険料を見ると、やっぱり扶養内のほうがよかったのではと思うことがよくあります。年金に関しても、1号は頑張って払っても3号と比べてメリットもなし。せめて保険料を段階的にするか、わずかでもいいので3号と比べたメリットがほしいです。	30代	扶養者無
数年に1回しか病院に行かないのに、毎月数万円支払わなければいけないのが納得できないから	30代	扶養者無
すでに障害年金を受給しているから	30代	扶養者無
年収が少ない時に税金が高いと子どもがいてると手取りが少なくなり、生活に困るから。また、年収を上げるためにスキルを上げたくても給付金もないので、困ります。	30代	扶養者無
保険料が高いのに、将来の年金額がかなり低いので不安。同じ働き手なのにこの差はないと思う。だったらせめて保険料を低くしてほしい。	30代	扶養者無
出産育児のタイミングで預金をくずすしかなくなる時期があったため。	30代	扶養者無
年収が低くても保険料は高いので	30代	扶養者無
社会保険料については、還元されている感じが薄いために高いと感じます。また、全体として、国がフリーランスを支援していると感じられません。	30代	扶養者無
日本では会社員という働き方が一般的であるという風潮があり、それ以外の選択肢に対してあまり選択肢や柔軟性がないと強く感じる	30代	扶養者無
フリーランス＝自由に働いているんだから仕方ないという風潮を感じる。間違いではないが、会社員であることを基準に整備されていると感じる。	30代	扶養者無
会社員の社会保険制度が弱い。私はホームページ制作を生業で芸術家は副業になってしまうため、文芸美術国民健康保険組合や京都芸術家国民健康保険組合に入れないので、国民健康保険しか選択肢がないのが辛い。	30代	扶養者無
将来への積立が必要だが計画が立てにくい	30代	扶養者無
前年は稼いだけれど今年は仕事をセーブするタイミングで、社会保険料が高くてかなり大変だった。支払金額は前年ベースで計算するから仕方ないとはいえギリギリだった。	30代	扶養者無
厚生年金が会社と折半だったり会社に勤める方が明らかに優遇措置が多いのは本当に羨ましいです。職安で失業手当もらうにも「再雇用を目指す人」かつ「開業を準備していない人」なのがびっくりしました。社会の歯車を作ろうとしてきた日本らしいというか。でも時代は変わっているので、会社勤め以外も働きやすい社会になってほしいです。	30代	扶養者有
個人事業主でもリスクキリングはしたい	40代	被扶養者
現在、公務員の夫の扶養の範囲内で働いているため、保険料の自己負担がないため	40代	被扶養者
個人が負担する金額は国保の方が高いし、個人事業主だと働けなくなった時のリスクが高いのに、補償全然ない。	40代	被扶養者
フリーランスとしてスタートしたくても初年度から売上が立つ方が珍しくハードル高く感じたので。	40代	被扶養者

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
雇用されていると事業所と折半で保険料が納められている仕組みだからその分も自己負担となるので当然高くなるが付帯サービス部分があれば挑戦しやすいと感じている	40代	被扶養者
フリーランスや隙間時間で副業をしていると、将来定年を迎えた時や病気で手術入院する場合に、安心した保障を得られないと感じているため。また、就職氷河期世代のため、将来的な貯蓄額も他世代に対して少ない為。	40代	被扶養者
出産、育児で収入が途絶えるため会社員よりも経済的には負担が大きいのに、育児休業給付金がないのは公平ではない。	40代	被扶養者
独身時代に、保険料の高さでかなり苦労したから。	40代	被扶養者
コロナ時に契約書がない状態であったが解雇になってしまい証明するものがなくコロナ休業の申請できないとかフリーランスは難しいと思った。	40代	被扶養者
フリーランスになってまだ数年で、収入が少ないと、保険料の負担が大きすぎる	40代	被扶養者
仕事を取るのも流動的で経費も自分負担が大きく、万が一仕事ができなくなったときの影響がもろにくる。	40代	被扶養者
自分が病気がちなので、社会保険に入っていると受けられる支援みたいなものが大切だと感じている	40代	被扶養者
扶養内で個人事業主として活動しています。頑張っても税金で持っていかれ扶養から外れるところまで行けません。	40代	被扶養者
フリーランスだが、保険が高くなるので家人の扶養に入る範囲内でしか働けない。	40代	被扶養者
起業して1年目は夫の扶養に入っていたが、2年目は超えそう。急に増えるので、せめて段階的に支払額が決定するようにしてほしい。	40代	被扶養者
勉強し続ける必要があるのに援助がない。自律なのに負担が大きい	40代	被扶養者
もう一人子供を産みたいと考えているが、支払う税金が多い上に育児手当がなくなかなか踏み出せないから。	40代	被扶養者
子育て中や配偶者の転勤により自身の働き方が制約されているなか、それでも働きたいとの思いよりフリーランスとして働いておりますが、社会保障制度の手薄さに将来が見えません。	40代	被扶養者
収入アップを目指す壁になっていると感じる	40代	被扶養者
高すぎるので、子育て中の身としては扶養枠から外れることができなくて仕事＝収入を増やせず、本当に困っている。保険料が上がるのに、受けられる給付が減るというのはデメリットでしかない。	40代	被扶養者
夫の扶養から外れて国保に加入するとなると手取りが少なくなってしまうため。稼働時間が限られており、デメリットの方が大きく感じる	40代	被扶養者
保険料を払うために働いているような気がしている	40代	被扶養者
差があるのに納得がいかない	40代	被扶養者

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
会社員時代の給料をベースとして試算されてしまう	40代	被扶養者
健康保険の仕組みも年金の仕組みもすでに破綻しているにも関わらず改善しようともせず国民から貪り取ろうという姿勢しか見えないこの国に今のところ明るい未来は見えない。困っているというならば、国民の生活を豊かにする気が1mmもない日本政府および政治家・官僚の存在と、そこに対して気付きもしない羊のような人間がいる現実が原因で、未来の子どもたちに確実に負債を残すのが目に見えるのに、影響力を持たずにいる自分の力不足に困っている。	40代	扶養者無
前年度の収入をもとに保険料が決定するのに高いと感じるので。	40代	扶養者無
実際に頑張ってもかなりの金額が社会保険料や年金、住民税で引かれるため	40代	扶養者無
独り身なので何かあったときの保障がないことが不安なため。	40代	扶養者無
日本の社会保障は高くせに何も恩恵がなく既に制度として破綻している。にも関わらず増税を増やすために国民から徴収している事を疑問視しているし納得していない。国の仕組みを根本的に改善しなければ未来はないと思っている。	40代	扶養者無
保険料を支払うだけで、恩恵がない。	40代	扶養者無
以前会社で働いたことがあるから	40代	扶養者無
年収が低いほど損なのが解せない	40代	扶養者無
仕事が無い時や仕事を失った時のサポートが乏しい。	40代	扶養者無
リターンに対して高額だから	40代	扶養者無
高齢者施設に入るのにお金が必要だから。	40代	扶養者無
年収が低いので会社のところより負担額が非常に大きく生活が苦しいです。また、必要な資格を取ろうとしても給付金がないためキャリアアップしづらいです。	40代	扶養者無
収入が安定しない、収入の多くないフリーランスにとっては金額の差によるダメージが大きい。	40代	扶養者無
現在所得が少ないため、国民年金免除申請をして、お金があるときに少しずつ納めています。制度はありがたいですが、将来の不安はあります。現在はこの程度の悩みですが、将来のことを考えると年金受給額のみならず、傷病時や介護の際の保証など、リスクヘッジしなければならないことがたくさんありますが、とても首が回リません。	40代	扶養者無
個人事業主として大きな収入があるわけではないが多くの社会保険料を払う必要が有り困っているため。また、フリーランスをやめて新たなキャリアを探したいと思いちょうど活動中ですが、社会保険からは何の支援もないことを痛感しているため。	40代	扶養者無
収入が少ないから。	40代	扶養者無
一人企業で収入が不安定な中体調を崩したらと思うと不安しかない	40代	扶養者無
負担が大きい割に、見返りが少ないことに厳しさを感じる。	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
年収200万なので報酬の25%が年金と保険に持っていかれる。主人の扶養に入ったほうが良いのかも知れないが、ちょうど仕事が増えていく段階なので、個人事業を諦めきれない。せめて、年金の保険料は一定ではなく累進にしてほしい。それならまだ、年金受給額が少なくても納得がいくかも。	40代	扶養者無
手取りが少ないため	40代	扶養者無
とにかく高い	40代	扶養者無
年収が低いほど負担が大きい	40代	扶養者無
どれだけ収入が低くても国民年金は一律。減免すれば年金額も減る。払えば生活に支障が出る。結婚、出産も考えてしまう。年金額も少ないので老後の生活も心配。	40代	扶養者無
資本の少ないフリーランスは事業収入により自己防衛する手段が限られている点にあります。	40代	扶養者無
就職に失敗し現状なのは仕方がないと思ってきたけど、歳を重ねて周囲が心配してくるようになった。	40代	扶養者無
体調の問題で会社員として長期雇用が難しいためフリーランスという働き方を選んでいる。働かざるを得ないから働いているが、体調をこわいながら働くにはあまりにも社会保険料の負担が大きいのに、それによって守ってはもらえないのだとフリーランスをしていて実感する。とてもつらい。	40代	扶養者無
年によって稼ぎの変動があり、支払いに窮するときもある。一人でやっているの、病気などにより失業などした場合の保障は自分で保険会社と契約していかないと心配だが、高収入ではない場合、民間の保険もあまり入れない。リスクリングを国が進める割には、フリーランスには会社員のようなメリットはない。	40代	扶養者無
実際には正社員時代よりも収入が減った分、社会保険料もかなり安くなった。ただ今後、収入が増えれば社会保険料でとられる金額も増えるだろうことを思うと、収入を増やそうという意欲に水を差される。また、長生きの家系なので老後の年金は心配。長生きしないほうがいいのではないかとすら思う。	40代	扶養者有
フリーランスになって思う様になったが、雇われでなく、自立して経営する立場なのに、国からの保障が減っているの。	40代	扶養者有
急に年収が増えない中で、600万円の年収を境に、会社員と比較した保険・年金料金は毎年負担が大きいことがわかっているから。また、年金受給年齢になっても手取りが少ない。	40代	扶養者有
とにかくお金が足りません。	50代	被扶養者
国民により長期の就労を勧めるならば年収の低い間も安心して働き続けられる仕組みでなければならないと思います	50代	被扶養者
料率が高すぎるから	50代	被扶養者
現在は扶養範囲に抑えているが、差額やサービスの差を考えると中途半端に仕事を増やせない	50代	被扶養者

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
病院代が10割だったとしても、普段病院に通院していなければその時だけ支払った方が安く済む計算になるのは不可解で健康保険制度の意味がない。	50代	被扶養者
フリーランスも会社員も同じように働いているのに、給付金や手当が無かったり、納付額が一律なのは不公平だと思うから。	50代	被扶養者
まず、働いているのに、無職の層と社保の取り扱いが同じくくりになる点が納得いかない。地方在住のため仕事がなく（若い人も好い給与が得られていない環境）、働いても手取りが少なく、どうにもならない。	50代	被扶養者
フリーランスは収入が不安定です。現在私は収入が低く、将来に不安が強くなります。	50代	被扶養者
子育てをするためにフリーランスを選んだものの、2人目、3人目の出産では、出産手当金がなく、働かなければ収入も減るので正直なところ経済的には打撃。少子化が社会的な問題であるが、働き方が多様化している今、働き方に関わらず出産したら同じ内容の支援が受けられるようにしてほしい。これからは介護の問題もまた、フリーランスこそスキルアップが重要であるが、雇用保険加入者のように支援がないため、収益が出せないとスキルアップも難しくなる。	50代	被扶養者
社会保険の扶養から外れようとするときに負担が大きくなるから	50代	被扶養者
年金の管理会社から将来受け取る金額が少なくなるという煽っているとも聞こえる通知や電話が後を経たない。	50代	被扶養者
収入に対して負担がかなり大きい	50代	被扶養者
個人事業主は国的には美味しい人間では無いのだろう ただ個人事業主になってから毎月数十万単位の税金を取られている	50代	被扶養者
収入が減少したのに負担が増えた	50代	扶養者無
老後の心配があるから	50代	扶養者無
老齢年金は小規模企業共済やiDeCoで補える（厚生年金保険こそ破綻している）、失業保険や遺族年金、障害年金は国民年金と厚生年金保険の制度の違いなので仕方ない。	50代	扶養者無
会社員であった頃との比較	50代	扶養者無
年金が大幅に減るのは不安です	50代	扶養者無
収入が少ないので厳しい	50代	扶養者無
会社員に比べると負担、ケガ、病気、長生きの不安が大きい。	50代	扶養者無
病気などで働けなくなった場合、収入も絶たれてしまう。また、教育訓練給付金については、過去に業務のスキルアップを目的にある学校（給付金利用可能）に通おうと考えた時がありましたが、学費の負担が大きく断念したことがありました。	50代	扶養者無
保険料や年金で月5万円ほどかかる年もある それなのに、専業主婦で夫の扶養に入っている方と、将来もらえる年金が同額になるというのは納得できない	50代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
社会保険料を払うと生活が厳しくなるから	50代	扶養者無
自分の負担分が多いから	50代	扶養者無
健康保険料を納めているのに補償が少ない	50代	扶養者無
フリーランスは、雇用形態の違いというだけで色々な面で会社員と保証の乖離があるのは不公平な印象。負担は大きいのにそれだけのメリットがない。	50代	扶養者無
全部自己責任で国に守られていないと感じる	50代	扶養者無
フリーランスは企業と違って給与増を理由に業務委託費の値上げを交渉できない。それで物価が上がっても収入は増えないなか、一定の保険料を払い続けるのは苦しい。	50代	扶養者無
会社員の頃、大病を患った際は傷病手当でたいへん助かったが、フリーランスになってその点は不安を感じる	50代	扶養者無
「そのように考える理由」のそのように、がわからないのですが、国保は全体的に見て不利なことや負担が大きいです。国が副業の解禁を促している割には、フリーランス（個人事業主）は会社員と比べ不利益で不公平だと感じます。	50代	扶養者無
社会保険のために働いているような状況。	50代	扶養者無
売り上げも低く、社会保険料も高いので、パートで扶養内で働く方が安定しているし、手取りが変わらないので、意味がない。介護休業や雇用保険もないし、とても辛い。社会保険料を払うために長時間働いている感じがする。それに追加してインボイスで消費税を払うなら、本当に手取りが少なくなってしまう。	50代	扶養者無
失業等給付の受給資格がないと、つまりは教育訓練給付金がない。昨今のビジネス環境の変化に伴い事業の継続必須になるスキルセットの維持習得のためのリスキリング関連の受講費用補助制度も使えない。個人事業主は受講時は全額負担となり(経費計上と認められにくい、事業に関連性のない講座)は不公平を感じる。	50代	扶養者無
所得が低いうちの年金保険支出は負担が大きい	50代	扶養者無
家庭にお金が残らない。	50代	扶養者無
国民健康保険・国民年金は保障が少ないため	50代	扶養者無
身体を壊してから障害年金の受給要件を調べて、初めて受給要件が厳しいことを知った。また、念のため生活保護などのセーフティネット系の制度も調べたが、フリーランスは生活保護を利用できないことも後から知った。	50代	扶養者無
収入が少なくても負担が大きく、保障が小さい	50代	扶養者無
フリーランスと会社員とでは、社会保障に差がありすぎているから。	50代	扶養者有
守られない&負担が多く生活苦	50代	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスになりたかったけど 国保が高く社会保障の制度はなく全て自己負担で不安要素が多いので 個人事業主になることは、諦めました。	50代	扶養者有
めったに病院にも行かないのに年間何十万もの健康保険料を払わされる。貯蓄に回したい。入院時の費用等は民間の医療保険等で賄えると思う。	60歳以上	扶養者無
収入が安定しない状況下で、一定額を負担するのは収支に与える影響が大きい	60歳以上	扶養者無
生活が苦しく、改善が難しいから。	60歳以上	扶養者無
収入があると、会社員の時より各種の金額（税負担）等が大きいから	60歳以上	扶養者無
保険料が高いように感じます。	60歳以上	扶養者無
特にない	60歳以上	扶養者無
会社が負担する分がないから。	60歳以上	扶養者無
フリーランスは怪我をして働けなくなったら終わり。だから昔の八百屋さんや花屋さんなど個人自営業者は売上を可能な限りごまかして赤字にしていた。それがあまりに多く、「会社員と比べて自営業者は何もかもポケットに突っ込んでる」と言われるようになり、インボイス制度のような、業績の透明化を求める社会の流れとなった。負担が公平であれば、売り上げをごまかして赤字にしておく個人自営業者は少なかっただろうに。	60歳以上	扶養者無
会社員でもフリーランスでも 人生には同じような事が起こる。出産、育児、病気、怪我、介護など。同じように仕事で頑張ってきた人間の待遇に差があるのはおかしいと思う。	60歳以上	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
もし自分が働けなくなった場合の失業手当がないとなると、将来が不安。また、女性なので育児をすると収入が減る傾向にある→保証される制度がないので不安。	30歳未満	被扶養者
病気をして休業を余儀なくされたがその期間は貯金だけでは生活が苦しくなる。	30歳未満	扶養者無
これだけ少子化が叫ばれているのに、仮にそうでなくても、会社員でないだけで出産や育児が支援されないのは納得いかない。	30歳未満	扶養者無
国民健康保険料が高くて同じ所得の会社員より保険料が高いのは納得いかない 保険料高いのに傷病手当がないのもおかしい 表を見ると所得200万の個人事業主は会社員より多くの保険料がかかり 所得が高い方が差額が小さいのは逆累進性があるのでは..? 失業保険も条件付きで加入できるようにして欲しい	30歳未満	扶養者無
私がどう考えるか以前に、制度としておかしすぎる ポーナスもないんだし、インボイスもあるし、普通手厚くするの逆じゃないかと思います アメリカのジョブ型雇用を鑑みると、フリーランスがしんどいのもそうだが、会社員が手厚すぎるのも問題。会社がそんな不満しなくてもいいかもしれん。その分、国がカバーするとか。というか、会社側はともかく、国がフリーランスに対して会社員と差をつけていることが意味不明。誰も得しない気がするけど。早くなんとかしてほしい。差があるのが良くて、国も会社も助けてくれないけど、会社員とフリーランスの年収が同じくらいであれば同じ金額の社会保険料を払うっていうのが妥当じゃないでしょうか。 また、特に年収200万ー300万の層は、年間20ー15万違うだけでだいぶ違うわけだから、もっとシビアに累進課税してほしい	30歳未満	扶養者無
生活費がすくなくなるから	30歳未満	扶養者無
コロナにかかった時、同じように保険料を払っているのに休業手当対象にならなかった	30歳未満	扶養者無
子供を産む気になれない	30代	被扶養者
子どもを産み育てることが難しい	30代	被扶養者
とにかく支払う額が高く、生活費を切り詰めるしかない。つらい。	30代	被扶養者
当然ながら所得が低いほど苦しいと思います。育休や介護休、傷病手当がないのも分かっているが、やはり会社員時代は恵まれていたと思っています。	30代	被扶養者
この秋から個人事業主になり、会社勤めのときはやはり手厚かったなぁと感じる機会が増えたため	30代	扶養者無
介護やケガで休業することになっても、給付金や手当金がないのであれば「無収入状態」になり、金銭的に不安が大きい。それに、休んだ分お金を稼がないと月々の支払いとかが大変になるから、負担も大きい。	30代	扶養者無
今まさに、妊娠していて産休に入れる時期(現在妊娠39週)なのですが、産休・育休手当がないため、入院日ぎりぎりまで働くことにして、体がきついです。	30代	扶養者無
まさに育児の真っ只中にあり、働き方と子育て、家事のバランスを考えた時にフリーランス(業務委託)として仕事を調整しながら働くことがベストであり、その中で社会保障が会社員より劣るのは辛い。社会保障の部分を捨ててもワークライフバランスを取った形だが、働くことと家族が天秤にかけられてどちらかを取らないといけなことは精神衛生上良くないと思うから。	30代	扶養者無
出産すると物理的に働けない期間が必ずあるのでに補填が何もないのでフリーランスのままではよほどお金に余裕がないと産もうと思えない	30代	扶養者無
毎月の売り上げが不安定なのに、定額で支払う額が多いとそれだけで金なくなって貯蓄が全くできないから。また子育て中も働かないといけなくなるので、子育てにも集中できないと思うから。	30代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそう考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
体調を崩した場合、手当がないと休むに休めない状況が続き、万全な状態で仕事に取り組むことができないため。	30代	扶養者無
政府の働き方改革で女性のフリーランスも増えてきた。だが、出産や育児に関わる保険がないのが不思議。	30代	扶養者無
同じ年収で倍以上支払う金額が違うのはさすがにおかしいかなと思います。	30代	扶養者無
保険料が高い上に、安心できるサポートが少ないから。	30代	扶養者無
金額の割に、厚生年金のようにもらえないことや手厚さがない	30代	扶養者無
フリーランスとして稼ぐ為に知識を付けたくても、教育給付金の対象外は不公平だと思う。	30代	扶養者無
個人事業主として誰かを雇っている方は別だと思いますが、フリーランスや1人社長の場合、自分が体調を崩したらダイレクトに売り上げに影響が発生するのに、その際になんの手当てでももらえない。また、上記に近いですが、自分自身の能力やスキルがダイレクトに売り上げに繋がるため、リスクリングやスキルのブラッシュアップが必要になるのに、そのような支援は一切受けられない。遺族厚生年金なども、会社に勤務してる中でなくなったら該当になるのに、会社を退職して個人事業主として働きだしたら25年払ってないともらえないなど、会社にいるのといないのとの差が酷いと感じます。「会社員と違って自分がやりたくてやってる仕事なんだから、そういう制度はなくてもいいでしょ？」って言われてるような気すらしてくるレベルです。	30代	扶養者無
上記の参考資料を見るまでフリーランスの方が支払う保険料が高い事を知らなかった。むしろフリーランスの方が安いと思っていた。	30代	扶養者無
制度について色々と思うところはあるが差がなければ比較ができないと思っているので何をどう選択するか、選択できるかは自分次第。総務経験がなければ知る機会も少ないので何事も知ること(勉強して知識をつける)しかないのかと思います	30代	扶養者無
会社員は会社が一部支払っているとはいえ、個人として税金を支払っているのに個人事業の方が色々と感じるから。特に年金は働けなくなってから苦しい思いをすることになるから。	30代	扶養者無
結婚をするので、働けなくなった時、子どもが生まれた時の保障が少なくて心配。	30代	扶養者無
女性として育児休業などを考える	30代	扶養者無
これなら国保に入らずに、医療費を自分で貯めた方がいい	30代	扶養者無
老後資金が不安だから	30代	扶養者無
フリーランスも厚生年金に加入できるようにしてほしい。	30代	扶養者無
インボイスという事実上の増税、物価高で暮らしが厳しいから	30代	扶養者無
出産直後も仕事を休めなかったのは正直とても辛かったから。	30代	扶養者無
いざという時に何も支援が無いので困ると思うから。	30代	扶養者無
社会保険料が前年の収入によるため、保険料が上がるのが怖くて収入をアップさせるのが怖い。出産、育児の手当がないため子供を産めない。	30代	扶養者無
フリーランスとして稼働ができなくなったら詰むため。	30代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
保険料が高い	30代	扶養者無
会社員でなくとも、働いて納税しているのに、各種手当等に大きな差が出るのはおかしいと思うため。	30代	扶養者無
社会保険制度と比べると支払う保険料の割には保障内容が薄く、不安を解消するには民間などの保険に別途加入しないといけなく、費用がかさむため。	30代	扶養者無
保証がないことで実際に困る状況になった時にすぐ対応ができない。	30代	扶養者無
出産したとき収入が少なく不安だった。負担額は多いのに恩恵が会社員より少ないのが不満	30代	扶養者無
産前産後の数か月間、収入がほぼゼロになりました。金銭的にも精神的にも辛かったです。	30代	扶養者無
組合保険等に入るにしても該当者でなかったり、審査に通らなかったりする場合がある。国保以外の選択肢が狭い。健康診断等の内容にも差があり、国保は保険料が高い割には手当が薄い。	30代	扶養者無
会社員として厚生年金や組合健保の加入期間が長かったため、会社員の保障の手厚さはメリットだったなと感じています。	30代	扶養者無
フリーランスも会社員と同じように子供を産むし介護もする。さらに会社からの補償は一切ない上に、負担も大きい。せめて出産期間は会社員と同等程度の期間（1年程度）は社会保険料を免除してほしい。心身の負担を考えると次の出産を諦めざるを得なく、法の元に平等とは全く感じられなかった。	30代	扶養者無
払う金額の割に雇用時代よりも手当てが少ないから	30代	扶養者無
フリーランスのほうがリスクが高いのに、会社員ばかりが守られているのはおかしいと思う。自己責任にせず、負担の差を縮めていくべき。	30代	扶養者無
フリーランスでしか働けない健康状態で、けど障害補償にまでいかない程度の体調不良の者からしたら、何の補償もないのは非常に辛いから。きちんと長年・例えば要件として10年など誤魔化しが効かない期間に医療を受け続け、且つ確定申告も行っている者という条件で、失業保険など報酬を補償する精度があっていいと思う！	30代	扶養者無
社会保険料が収入に応じて金額が変わったらありがたいと思います。また、介護や出産はやはり大変なので、時間が融通が効くからこそ大変になるかと思うので、少しでも保証されると安心して暮らせると思います。	30代	扶養者無
会社員の夫の扶養でいた頃（第3号被保険者）と、フリーランスとして払っている現在の、受けられる社会保険の内容がほとんど一緒に払い損であるように感じてしまう	30代	扶養者無
手取りが減るため困るから	30代	扶養者無
現在妊娠中で出産手当金や育児休業給付金がフリーランスは対象外であることを知っていたものの、いざ直面すると正社員との待遇の差を感じて精神的につらく、経済的にも苦しいので。	30代	扶養者無
ことし出産し、実際に不利益を被ったから	30代	扶養者無

Q4.フリーランスと社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
国民健康保険や国民年金では何かあったときの負担をカバーしきれず不安な割に、かかるお金が高いから。	30代	扶養者有
収入が安定しないうちから引かれる金額が多いから。	30代	扶養者有
会社との折半もなく、扶養制度もないので、全額支払が必要になる。	30代	扶養者有
結婚して子供が産まれて実感した	30代	扶養者有
扶養の概念がないのは、働けない家族がいる場合にとても厳しいと感じるため。	30代	扶養者有
市町村によって保険料も変わるし、病気や介護は大企業に勤めていない人の方が経済的に厳しいことが多いのに支援がないのは辛い	30代	扶養者有
基本的に収入が不安定なので、負担額が大きい割に、困った時の補助が少ないのが不満	40代	被扶養者
働いても保険料が高額で手元に現金が残らない。なのに受給できる金額が低い、受給要件が厳しいから年老いてから困ると思う。世の制度がフリーランスに優しくない	40代	被扶養者
持病が悪化し、初めて障害年金について調べたところ、国民年金だと3段階のうち2段階しか区分がなく、フルタイムに支障があるにもかかわらず、厚生年金なら受給できる3号の申請ができない。また、高額医療費になったさい、付加給付にあたる建て付けがない。非情すぎます。	40代	被扶養者
収入に対しての割合が多い	40代	被扶養者
フリーランスで出産に踏み切るのにためりました。育児のことも考えるとなおさらです。もし手当があったらもうひとり産んだかもしれないと思います。	40代	被扶養者
個人事業主とはいえ、収入が多くないので生活するのにとても厳しい。手当もないものが多く、年金もただでさえ少ないのに更に減るとなると老後も辛い。	40代	扶養者無
子育て中だが、第二子の出産前に独立したため、第一子の育休中との違いを大きく感じた。不安があり早く復帰せざるを得なかった。また実家の介護が必要になるかもしれない状況であること、自分自身もいつ病気等になるかわからないなど、常に不安を抱えている状態である。	40代	扶養者無
社会保険は福利厚生というよりは、人生設計に関わる問題であるため、雇用形式に縛られない形を望む。	40代	扶養者無
これだけ聞いたらフリーランスになりたい人はいないなと思いました。国保ですが払ったことがほぼありません。高過ぎて手がでないからです。そもそも払えないと思い最近まで保険にすら入っていませんでした？	40代	扶養者無
会社に雇用されている場合と、フリーランスを比較した場合、フリーランスの方がデメリットが大きいと感じているため。	40代	扶養者無
年々金額上がってる	40代	扶養者無
社員の頃、半分会社が負担する形で取られていたこともあって、とにかく急にとんでもない額を請求されるイメージがすごい。あと普通に考えて年収200万から65万円も取るなんてありえない。	40代	扶養者無
総じて払う金額は高いが、もらう金額は低い	40代	扶養者無
自分が直接関係ありそうな将来のリスクヘッジを他に考えないといけなから	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
毎月の収入が一定ではないので、毎月の社会保険料などの捻出が厳しい月もある	40代	扶養者無
収入が低く、医療機関をまったく利用してなくても、社会保険料をこれだけ支払うのは苦しい。それでいて、年金受給額は少なく、不公平さを感じ制度への不満がつのります。	40代	扶養者無
年金が確実にもらえるかわからない中、収入の増減にかかわらず定額を払い続けるのは不安	40代	扶養者無
以前、正社員だったため、フリーランスになり現在と今後の不安を感じた部分だったから。	40代	扶養者無
会員の社会保険料が勤務先と折半なのは分かっているが、個人事業主だと国民健康保険が年収の割に高すぎる。フリーランスが入れる国が認めている組合も職種が限定的で、フリーランスの大多数は組合に入れずに国保と国民健康保険を支払っているのではないだろうか。国民年金の定額は理解できるが、第3号を廃止にすれば金額も国民年金も厚生年金も一律で金額を下げるのが可能になるのではないかと思う。	40代	扶養者無
不安定な職業のため	40代	扶養者無
安くない金額を払っている割に保障が少なすぎる。収入が不安定なので、不安が大きい。	40代	扶養者無
現状始めたばかりで金銭的に苦しい事と、スキルアップに全額自己負担で苦しい部分があるため	40代	扶養者無
業務委託でも社員同様の仕事内容、勤務時間を求められるのに、自分が病氣やけがで仕事ができなくなってしまった時、収入はゼロになり何の保証もない。	40代	扶養者無
どのような雇用形態でも同じ社会保険ルールが適用されると、働き方の自由度が増し転職がしやすくなり、受け入れ側も手続きが減るので良いのではないかと考えています。	40代	扶養者無
スキルアップしたいが元手がなく踏み出せない	40代	扶養者無
社会保険の方が高くなるのだから手厚いのは当然で、逆もまた然り	40代	扶養者無
フリーランスは社会保険料の労使折半分がなかったり、老齢厚生年金の受給分が少なかったり、手当がいろいろとないため、会社員としての働き方に比べて、不利な点が多いと思います。その分メリットも多いのですが、実際今の日本の制度が昭和の日本の頃のままで、いわゆる正社員制度で会社に定年まで属する年功序列型を引きずっているため、誰もが自律的なキャリアを築ける世の中にはなっていないと思います。また、厚生労働省の受託事業による講座を昨年受講しましたが、あくまで、正社員として働く前提のキャリア支援などが前提で就職させるためのプログラムなど内容が偏り、フリーランスが受けられる教育訓練金なども別途拡充してほしいと思いました。	40代	扶養者無
年金は元々少ないから	40代	扶養者無
皆保険であるので、雇用形態によって受けられる保証が異なるのはおかしい。また、雇用形態によって保証を受ける難易度が変わるのはおかしい。会社勤めの場合、見た目上は雇用側が支払っている額面もあるので負担差額はあまり大きくないと思っている。	40代	扶養者無
収入が少ないのは困るので	40代	扶養者無
シンプルではない。	40代	扶養者無
まだ収入が少なく安定していないため	40代	扶養者無
資格取得して仕事との幅を広げようにも自腹になってしまうため	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
将来障害を持つ可能性があるので支給要件が厳しいのは困る 健康面に不安があるので傷病手当がないのも困る	40代	扶養者無
フリーランスで働いている分損をしていると思う。	40代	扶養者無
フリーランスか会社員かで生活水準などは変わらないため	40代	扶養者無
とにかく社会保険が高く、稼いだお金が社会保険に吸い取られている気分。3人出産しており、2人はフリーランスのときだったため、手当もなく収入がかなり落ち込んだ。	40代	扶養者無
病気やケガによって働けなくなったり、仕事の受注が一時的でも減ってしまった場合に、暮らしに影響が出ることや、保険料の支払いが厳しくなることが想定されるので、今は困っていないなくても、常に不安があります。フリーランスという働き方は自分に合っているだけに、セーフティネットの脆さはもう少し何らかの方法でカバーしたいと思っていますが、どうしたらいいのかわかりません。	40代	扶養者無
働いても社会保険料で収入の大半が消えてしまっている	40代	扶養者無
会社負担額が少ない分仕方ないと思うが、各種給付金が無いのはつらい。	40代	扶養者無
収入が安定するまで、生活費を確保するのに苦労したため。	40代	扶養者無
フリーランスこそスキルをアップしていかなければ生き残っていけません。フリーランスに対して教育訓練給付金が出ないのはおかしいと思っています。	40代	扶養者無
負担が大きいと感ずるのは所得に応じた負担額ではない点やスキルアップのために学びたいと考えた時に教育訓練給付金がない点です。傷病手当金がないことや年金が少なくなることは将来的な不安材料となるため。	40代	扶養者無
出産と育児を挟むと、収入が激減して単純に生活が厳しくなるため、何か救済措置があればと思いました。	40代	扶養者無
国民年金が毎年上がっていて高すぎる。それなのに、将来貰える年金額が少ないのはおかしいと思う。	40代	扶養者無
仕方がないですが、扶養に入っていて負担ゼロの3号の方と比較し100万円近く年間支払っているのに、国保や国民年金の保障が少なく、不条理感を感じています。	40代	扶養者無
収入を増やさないと、生活できない	40代	扶養者無
不利な条件がある上に高いというのが厄介。せめて安ければ良いのにと感じる	40代	扶養者無
仮に、病気や怪我で働けなくなった場合の補償がないため	40代	扶養者無
社会保険の対象となる事象（医療・介護、出産・育児、老齢・死亡、教育機会、就労不能など）は、就労形態に関わらず一人の人間として起こりうるものであり、国や自治体のそれらに対する一定のセーフティーネットは格差なく提供されるべき。企業努力による上乗せの仕組みは問題ないが、所得が低くなるほど格差と負担が大きくなる現状の制度は、憲法第25条の生存権の保障を脅かしていると考えます。	40代	扶養者無
現代の働き方が、フリーランスも主流になり、社会の活躍度合いは、雇用と変わらない状況にもありつつ、契約形態により、社会保険や年金金額が違うのは、時代背景に合っていない。	40代	扶養者無
不平等と感じる	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスはただでさえ不安定な働き方です。総合職正社員で働いていましたが発達障害の子どもを育てながらワンオペで両立することが難しく退職しフリーランスになりました。現在は子どもが不登校のため、再就職したくてもできません。このようにフリーランスを選択せざるを得ない状況にありながら、負担は重く、病気になったときや老後の保障も薄い。国民年金基金には加入していますが、心配です。また、さまざまな不安から心身の調子を崩しても、傷病手当金がない、障害年金の額も少なく基準も厳しい、となると、二重、三重に不当であると感じます。	40代	扶養者無
質問がわかりません	40代	扶養者無
雇用されている人との間で、社会保障の格差があるのは不当だと感じる。年金制度については、厚生年金と同等の制度に加入できる選択肢があればよいと常々感じている（個人事業主は経営者でもあるので、全額自己負担になったとしても、その点はかまわない）。	40代	扶養者無
個人として考えた時に、国民年金をサラリーマンより多く支払っているのにもらえる額が少ないのは納得がいかない。	40代	扶養者無
思った以上に社会保険関係の支払いや税金がかさんでいて、支払い期限に足りるか不安がある	40代	扶養者無
フリーランスは正社員よりも高い保険料を自己負担しているにもかかわらず、国民健康保険には病気や失業時の補償がなく、不安を感じています。さらに、雇用保険に加入できないため、失業手当や教育訓練給付金といった制度が利用できないのは不公平だと考えます。また、年金については将来受給できる金額が少なく、制度の仕組みに疑問を感じています。現在は業務委託で働く人や、そうした求人も増えているため、社会保険制度もそれに合わせて変わっていくことを望みます。	40代	扶養者無
会社員と比べ、フリーランスの方が自分で自分を守っていかなければならないのに、手厚い制度がないから。	40代	扶養者無
お金に不自由していない	40代	扶養者無
税務や制度で見るフリーランスは一事業主として意識を求められるが、企業からは安く使える労働力とみなされることが多いと感じる。安く使える労働力としてみずなら、税負担は軽減してほしい。そうでなくても、会社員は財源（雇用保険料など）があるから学ぶ機会なども有利なように感じる。フリーランスでもそうした機会を儲けてほしい（所得制限なしで）	40代	扶養者無
収入が少ないほど負担が重い	40代	扶養者無
個人事業主は、会社員より厳しい状況であるのに、保険料が高い。個人の事業継続性やリスクと、会社員のリスクの違いが顕著に感じられる。チャレンジしやすい社会、新個人事業主を増やし、地域や、少子高齢化に対応した社会づくり ならなら、ベーシックインカムが必要だと感じている。	40代	扶養者無
フリーランスの場合、すべてが自己責任であることを強要されているように感じる。	40代	扶養者無
今までは会社負担もあったため、全額自分負担になると、高く感じる。	40代	扶養者無
親の介護に直面しており、働ける時間が減っても所得補償がないことに途方に暮れているため。	40代	扶養者無
国は 多くのフリーランスは生産性が低いと考え、法人レベルで無いと 消えて行っても構わない方向だと思います ただ、働き方改革で残業ができなくなった今 シワ寄せが来ているのはフリーランスになっています。インボイスも始まった今 法人と同条件ではありますが 社員の残業で対応出来ない仕事はフリーランスに行きます という構図があると思います	40代	扶養者無
住民税額や国保は所得に応じて計算されているので、国民年金も所得に応じて納付できるようにして欲しいと常々感じているから	40代	扶養者無
支払うようになってそう思った	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

↳Q4F1.あなたがそう考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
会社員との違いについては、わかった上でフリーランスを選んだものの、出産やこれから迎える介護等を考えると、収入が途絶える不安は大きい	40代	扶養者有
とくに国保は、年によっては年収の6分の1にもなったことがあるから。	40代	扶養者有
私は両親二人が働いておらず年金もないためフリーランスをしている私の国民健康保険に扶養として加入させています。経費で所得税は減らせれますが、親二人分の生活を見ていると自分の年金を払う余裕がないので免除申請をしています。パートや会社員で働いてた時は厚生年金を全額払っていて、個人事業のように収入に応じた年金の免除申請がないのでかえって私のような家庭の場合は個人事業の国民健康保険、年金制度の方が負担が軽いと思いました。個人事業は自営業者のため仕方ありませんが、今後の自分の老後を考えると会社員の厚生年金の方が国民年金よりも優遇はされているのは確かなので同額の税金を納めている場合は不公平にも感じる部分はあります。	40代	扶養者有
国民健康保険が所得に対して高すぎる。	40代	扶養者有
フリーランスとして働く上で、国保と国民年金にはもしもの時の保障があまりにもなさすぎる。また、すでに持病があつて所得保障保険などにも入れず、自分の稼ぎしか頼るものがない。実際自分も今病気になるし働けない状況にいますので、途方に暮れている。	40代	扶養者有
仕事ができない状況のときに困るから	40代	扶養者有
負担額が大きく感じているから。	40代	扶養者有
収入が安定しないのに負担が厳しいです。	40代	扶養者有
扶養することも病気になることも障害を持つことも介護することも仕事なくなることも、会社員だけのリスクではないから。	40代	扶養者有
国民健康保険料が高く、家計を圧迫しているから。こんなに働いているのに、税金に持っていかれてとても困っている。	40代	扶養者有
毎月支払いに苦勞している状態であるのに、保障が薄く厳しいのは理不尽だと感じます。	40代	扶養者有
フリーランスほど、収入は不安定なので国に助けて欲しい。	40代	扶養者有
個人事業主も基本的には納税者であり、会社員との間に負担額に乖離があることにに対して疑問がある	40代	扶養者有
自分の能力としては会社のような集団の中で働くのは無理だと思って、働き方には満足しているが会社員（特に大企業）に比べるとどうしても福利厚生面で不利なことが多い。	40代	扶養者有
以前、会社員としてずっと社会保険を支払っており、フリーランスになってからかなり手薄になったと実感しているため。	40代	扶養者有
所得の大部分が社会保険の支払いになることが多々ある	50代	被扶養者
払う金額が高く、もらえる金額が少ない点が不満	50代	被扶養者
企業の負担分が得られない	50代	被扶養者
いつまで収入が確保できるか分からない状態で、病気や入院することも出来ず、先行きへの不安ばかり抱えなければいけない。	50代	被扶養者

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
受注も不安定なのだから、もうすこし配慮してほしい、社会保障も。	50代	扶養者無
月によって収納変動があるため、社会保険料の定額支払いは不安	50代	扶養者無
社会保険料にせよ、国民健康保険料にせよ、高すぎるし、会社を辞めて年収が下がったあとでも、前年度の年収で保険料が決まるのもキツイ。	50代	扶養者無
仕組み上仕方のないことですが、フリーランスの社会保険は自助努力によるところも大きく感じます。	50代	扶養者無
国はフリーランスを増やしたくないのだろう。企業に属して管理したいのだなと感じる。あらゆる面で公平性に欠けるため。	50代	扶養者無
保険料が高くて工面が大変、病気等で働けなくなった場合の補償がなく不安	50代	扶養者無
フリーランス初心者なので、そこまで実感がない	50代	扶養者無
収入に関わらず、高い保険料を納めている割に、個人事業なのに疾病手当がないのに加えて、将来の年金額が少なかったりする。	50代	扶養者無
支払うたびにそう思う	50代	扶養者無
収入が安定せず低額であることが多いのに、社会保険出費だけは高額で定額かつ見返りも薄い点は、個人事業主になる前にもっと調べておくべきだった。（会社員にかじりついておくべきだった）	50代	扶養者無
フリーランスでの収入がめちゃくちゃ少ないので、今アルバイトをしているのですが、社会保険には入れてくれたものの、会社員や契約社員とは違って、扶養控除の申請書等がないため、雇用保険はかなりの高額引かれます。ただ、いちど失業したとき国民健康保険と国民年金からありえないほどの高額請求が来て、収入がゼロだったため年金は免除申請したのですが、結果的にそれは帰ってこないと聞いて不安になり、保険に加入できるアルバイトをしたら、結局本業が時間的にできなくなりました。また病気になったり、事故に遭った時も、保証がなくて本当に不安でした。ただ今のアルバイト先が解雇になった場合は、また国民年金と国民健康保険の負担が増えると思うと、果たして生活ができるのか、このまま生活保護などになるのではないかと不安です。	50代	扶養者無
すでに、障害者になり、障害年金を受けているため 今更どうこう出来ないから。	50代	扶養者無
とにかく国民年金が高い。世帯主がほかにいるので後数十万収入が少なければ不要に入れるが、実際には入れない。その結果、収入が自分より低い人のほうが使える金額が大きいことに納得がいかない	50代	扶養者無
社会保険の負担が大きく、会社員との将来的な差が拡大し、不公平感がある。	50代	扶養者無
国民健康保険は健康に働けなくなった場合のサポートが弱い	50代	扶養者無
支払っている保険料に見合った年金は貰えないと感じる	50代	扶養者無
収入に対しての社会保険料の負担が大きく生計をひっ迫する 自己負担と補償（恩恵）が見合っていない	50代	扶養者無
会社員優遇は時代の変化に対応してないと思えるから	50代	扶養者無
介護による休業は身近な問題になりつつあるから	50代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
社会保険料の負担があまりにも大きいから。	50代	扶養者無
現在介護で経済的に困っている。7月には貯金が1万円になった。親・叔母からサポートしてもらって何とか生きている。勤めていた時は有給を取れたのに。	50代	扶養者無
今まさに入院中のため。実感しています	50代	扶養者無
自分が倒れると家族全員に迷惑がかかる 多少の費用が上乗せのなってもフリーランスにも傷病等で補償される公的補償が欲しい	50代	扶養者無
収入の4割程度は持って行かれていて一方で、いざ必要になった時にどれだけ補償があるのかよくわからない。	50代	扶養者無
売上げあげても、国保でもってかれるので、年金対策に回すことができない	50代	扶養者無
身分が不安定なうえに支出が多く、補償も少ない（あるいはない）のでは、雇われていればいいというマインドになってもしかたない。働き方の選択肢が減る。	50代	扶養者無
収入に対する国民健康保険料の金額が高すぎる。売上が増えると保険料が大きく増えてしまう。	50代	扶養者無
個人事業主が会社員と同じような働き方をして、同じ額の年金を支払っても、受給額は半分になるのは不平等ではないか。	50代	扶養者無
ある程度、独立しているからこそ、仕事を失うリスクもあるが、国として、ハイスکیلフリーランス が安心して仕事ができる環境を検討した方が経済的効果も回るのでは？と考えます。	50代	扶養者無
今のままではフリーランスの女性が子供を産み育てるのは難しいと感じます。パートナーもフリーランスだった場合はとても子育てなど考えられないのではないのでしょうか。	50代	扶養者無
月々の収入がまちまちの場合、支払いが大変	50代	扶養者無
社会保険料や税金の支払いの割合が高くなかなか貯金もできないため、老後や万が一の時の保障が薄いことは常に不安	50代	扶養者無
負担が大きい	50代	扶養者無
社会保険料の高さに毎年、くらくらしています。そして、傷病手当がないため自分に何かあったら、どうしようという不安がいつもあります。	50代	扶養者無
自分の身体ひとつで仕事しているため、自分や家族が怪我や病気で働けなくなったり、何かしらのリスクが発生した時に、収入に直結したり事業継続にも関わるため	50代	扶養者無
私の業種は加入できる健康保険組合があり、サービス、料金面で助かっている。	50代	扶養者無
可処分所得が減る	50代	扶養者無
開業し収入が少ないのに、健康保険料が高いのは厳しい。	50代	扶養者無
社会保険の間で、そんなに差があるとは思わなかった	50代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
国民健康保険に加入している個人事業主です。個人的に計算すると一年間で利用する医療機関の診察をすべて自由診療で受けて支払ったとしても、一年間に支払う国民健康保険料の方がとても高いです。どの業界や職種であっても加入できる個人事業主用の健康保険制度を切望します。国民健康保険は住んでいる自治体によって保険料を計算する母数が所得であったり、課税所得であったり一定でないのは不公平だと感じます。国民健康保険で行われる無料の健康診査の項目も自治体によって違うのも不公平だと感じます。国民健康保険は自治体単位で管理するのではなく国で管理して保険料の計算や受けられるサービスも全国で統一してほしいです。	50代	扶養者無
組織、自治体、国に守られていないから。	50代	扶養者無
単純に個人事業主には厳しいとしか言えない	50代	扶養者無
全額自己負担のため、支払い額が高く家計を圧迫している。	50代	扶養者無
公平さがあまりにも無い。社会保険の一本化で良いと思う。	50代	扶養者有
子どもの保険を払っていて負担が大きいかから	50代	扶養者有
毎月の売り上げが常に良いわけではないので。	50代	扶養者有
税理士や美容師のような国保組合を他業種にも広げてほしい。	50代	扶養者有
家族がいるので負担率が高い	50代	扶養者有
会社員は会社が一部負担しているとはいえ、フリーランスでは、会社員と比較して負担が非常に大きく、また、諸条件が厳しすぎる。	50代	扶養者有
身体の傷病時に公的給付がないこと	50代	扶養者有
働く人の権利保障は等しくあるべきだと思う、	60歳以上	被扶養者
正社員が社会保障制度が手厚すぎる。 いっそ、皆が自腹で保険料を納めて法人税から全国民の子育てや年金料、保険料を平等に振り分けてほしい、	60歳以上	扶養者無
家計に与える影響が大きいの	60歳以上	扶養者無
いろいろな保証がないことは知っていますが、それを承知の上でやってきました。でも、失業保険や各種給付金があったら、もっと安心して働ける様に思います。	60歳以上	扶養者無
元会社員なので保護されていた時と大分違うの思っている	60歳以上	扶養者無
収入が少なくても保険料が変わらないこと	60歳以上	扶養者無
所得が多いと、国民健康保険の保険料が高い。高い保険料を払うのに給付金はほとんどない。	60歳以上	扶養者無
すでに国民年金の受給者ですが、厚生年金約半額で厳しい。年金制度は会社員も個人事業主も同じ制度で、ほぼ同額受給できる制度の創設を切に望みます。後世のフリーランスの老後のために。	60歳以上	扶養者無
個人事業主として開業した頃とは年齢が上がって切実になってきたため	60歳以上	扶養者無
毎月の年金の支払いは負担なのに、もらえる年金はおこづかい程度	60歳以上	扶養者無
フリーランスのほうが失業した場合の痛手が大きいから	60歳以上	扶養者無
収入は雇用されていた時より低いのに社会保険料が安くならない	60歳以上	扶養者無
資格取得のための講座を受講する時に 雇用保険がないため全額負担が厳しい	60歳以上	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
こういう点では会社員は有利	60歳以上	扶養者無
同一職種でも違いがあるのは不公平。	60歳以上	扶養者有
会社員より収入が不安定なのに社保負担額が大きい。	60歳以上	扶養者有
保険料が高額である。保証、手当てがなさすぎる。	60歳以上	扶養者有
会社員が優遇されすぎているため。現在は自営業でも生産手段を持たないフリーランスが主流になっているので、会社員と同様の制度を検討すべき。	60歳以上	扶養者有
所得に対して保険料の割合が多くを占めており、想定されるリターンも少ない（本当に掛捨て保険）。	60歳以上	扶養者有
現在67歳でリアルに体験中だから。個人事業として法人化していた時期に、社会保険に加入できるように法改正されたが、年額300万だったので、払えない金額ではなかったにも関わらず加入しなかった。控除されるので、年金受給者となった今、加入しておくべきだったとリアルに感じています。	60歳以上	扶養者有
社会保険制度は企業の支援が手厚いから	60歳以上	扶養者有
国民健康保険税が高いし介護保険料も高い。	60歳以上	扶養者有
現在年金を受給しながらフリーランス（社労士）として仕事をしていますが、国民健康保険税が高く負担感が強い	60歳以上	扶養者有
老齢年金をすでに受給しているが、年金の基礎控除額が低くて所得が残ってしまい、国民健康保険料が高額になっている。	60歳以上	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
何かあった時の保険が、会社より担保されないことになるから	30歳未満	扶養者無
特に失業手当と教育訓練給付金がない点に困ります。フリーランスは特に失業の確率が高いにもかかわらず、何も手当がないのは仕方がないといえ苦しいです。また、新たな仕事の模索として学校に通いたくても、教育訓練給付金を利用できないため自己負担額が増えるのが辛い。	30歳未満	扶養者無
会社員や公務員は各種給付制度が充実している。個人事業主や一人社長は残念ながら育児や病気で利用できる制度がないため。会社によっては給付金の幅が広いのは正直羨ましいと思う。その反面、個人事業主や一人社長はクレジットカードの年会費を経費にできるので、特典の多いビジネスカードを使うしかないと思う。	30歳未満	扶養者無
そんなに高くないので困っていない	30歳未満	扶養者有
老後が心配。また、子が2人いるが3人目がほしくても諦めるしかないと感じる。	30代	被扶養者
将来設計の際、金銭的問題が課題になると感じている	30代	扶養者無
社会保険料は高いと毎年払うたびに強く感じる。扶養や年金など今は影響は実感しないが、正社員よりは制度が弱いのはわかっているので今後ライフステージが変わるタイミングでの不安は感じている。教育訓練給付金も直近通い始めたスクールが「雇用があったら受け取れた」という背景があったので、労働していることには変わらないのにここで差を感じることに不満を持った。	30代	扶養者無
金銭的負担が大きい	30代	扶養者無
将来の備えが自己責任になるのは、仕方がない部分もあるが厳しい。リスクのある投資で備えるしかない。	30代	扶養者無
保険料の高さ、休暇制度の無さで子供を諦めることにした	30代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
会社員からフリーランスになるにあたり、最も悩んだのが、社会保障における不利が生じることでした。実際3年前に出産した際やその後の育児期間では、無収入になること、年金が数ヶ月免除される以外は社会保険料の支払いが必要なことなどが辛いと感じました。会社員と同じように(むしろより多く)社会保険料を納めているにもかかわらず、理不尽なほどに差があると感じました。	30代	扶養者無
出産を控え、休業中が無収入ということを今一度実感してきている	30代	扶養者無
会社員と個人事業主をしているが、個人事業主1本でやっていた時は補助が何も無く苦しいと感じたから。	30代	扶養者無
会社員と比べ、手当や給付金などが少ない	30代	扶養者無
支払ってる額に対してのリターンが少ない	30代	扶養者無
不安定な立場にも関わらず、出費が多い。	30代	扶養者無
将来や万一のリスクまで幅広く検討しなければならないから	30代	扶養者無
働けなくなった時のことを考えると不安である	30代	扶養者無
雇用形態が変わってもライフイベントを迎えて働きたい意志があるのに、出産や年金受給額に差があり不安。もう少し現在や将来的な人口構造や社会構造、無駄な税金を抽出するなどしてフリーランスでも安心して働ける制度を作ってほしい。	30代	扶養者無
働けなくなったときの保障がゼロだと思う	30代	扶養者無
厚生年金との差が大きく不公平感が強い	30代	扶養者無
・会社員が個人事業主かで国からの保障の手厚さが異なることに不満があります。会社独自の福利厚生であればもちろん納得しますが、国の制度として格差があることに疑問です。・こういった不満を漏らすと「自分でフリーランスを選んだんでしょ」と言われてしまうのですが、私の場合は自主的に選択したわけではなく、どうしても会社員として働けない状況にある為仕方なく個人事業主をしています。皆が皆自主的にフリーランスになったのではないということを政府の方々に知っていただきたいです。	30代	扶養者無
国民年金、かなり高いのに、厚生年金より全然はもらえないのが腹が立ちます。（ここだけの話年金はとも払えないのではありません、国保で精いっぱい。）	30代	扶養者無
妊娠出産期間中、無給なのに子どもの出費は増え、かなり苦しい思いをしました。この状況では産後すぐから働かざるを得ず、まともに体調回復もできないまま仕事に復帰しました。この状況では少子化が進むのは当たり前だと思います。フリーランスにも産休育休手当を始め、働けない場合の保証を会社員と同じように整備して欲しいです。	30代	扶養者無
フリーランスの状態で2人出産したが、保障がほとんどなく、会社員に比べると数百万円単位で変わってくる	30代	扶養者無
所得税・住民税よりも、年間払っている健康保険料と年金の金額が多いから。また、それだけ多額の金額を払っているにもかかわらず、大した恩恵を受けることもなく、受給年金額も低いことに納得感は低い。	30代	扶養者無
お金が減るから	30代	扶養者有
色々な保証分まで稼がなければなあないから。	30代	扶養者有
健康保険料に関して、会社員時代に会社側が負担していた割合を、フリーランスは追加で負担すると考えていたが、現実にはリタイア層（元会社員!!）の多い国保の中で負担割合を算出するので、会社側負担以上を追加で負担しているので不公平だと考える。会社員もフリーランスも関係なくリタイア後は全員国保に加入し世話になるに関わらず、その現役世代の負担がフリーランスのみに押し付けられるのは不公平。また、会社員以上の負担を押し付けておいて、会社員には当たり前にある傷病手当や育休給付金などの手当がないのも不公平。	30代	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
生きるためにかかる費用や未来への保証が、会社員よりもリスクの高い働き方をしているフリーランスや個人事業者の方が高くついていることに不満はある。	30代	扶養者有
必要になった時にもらえないため	30代	扶養者有
質問の意図が分かんない	40代	被扶養者
フリーランスになったばかりのとき、社会保険の負担の多さにびっくりし、一方で保障の少なさにもガッカリしたため	40代	扶養者無
会社員に比べて各種保険が手薄な印象。自由の代わりにリスクをとっている。	40代	扶養者無
単純に金額の負担が大きく困っている	40代	扶養者無
フリーランスと会社員とで「病気のなりやすさ」は変わらないのに、病気になって働けなくなった時の給付に差があるのは、フリーランスとして働くことの不利な点だと感じるから。家庭事情でやむなくフリーランスを選んでいるなか、ペナルティみたい感じて苦しい。	40代	扶養者無
昨年出産をして、出産手当金や育児休業給付金がないことを身をもって実感しました。やはり働けない期間があると生活に直結するため、育児にもう少し期間をかけたくても無給の期間が長くなるだけなので泣く泣く復帰しました。出産で出費も増えたので、そういう給付金があれば本当に助かると思います。	40代	扶養者無
国保が高い。高すぎる。世帯まとめた額の請求書が来るので負担大きい。収入増えても翌年の国保が高くなり、意味ない。モチベ下がる。	40代	扶養者無
現在通院しているが、国民保険で3割負担になっていますが、保険料+自己負担額より10割負担の方が安い	40代	扶養者無
手当がなく全て自費であることが不安	40代	扶養者無
フリーランスも、雇用されている人々と同様、社会保険料の支払いはしているのに、その待遇が違いすぎるから。	40代	扶養者無
・毎月の報酬から必要以上にとられるため、毎年の確定申告で正規の額を申告して取り戻すのに負担がかかる ・売上が立てられなかった年でも容赦なく支払い請求が届き、遅れば督促状が何度も届くため精神的なストレスが大きい	40代	扶養者無
保険料が上がるのにもらえる年金が少ない	40代	扶養者無
フリーランスより会社員でいるほうがリスクが少ないという意識になり、フリーランスという働き方を続けにくく、常に不安を感じる	40代	扶養者無
会社員からフリーランスになった時に、社会保険の高さに驚いたから	40代	扶養者無
困っているというよりあきらめている	40代	扶養者無
収入が不安定なため、順当に売り上げが上があればいいが、下がった年は前年度が基準になるため、支払いが厳しい。	40代	扶養者無
個人事業主は個人に事業の責任が課されるのは当然のことだが、それに伴って社会保障に「大きな」差が生じるのは解消する必要があると思う。	40代	扶養者無
毎月社会保険料や税金、さらにインボイスで出費がかさむのでかなり負担	40代	扶養者無
社会保険料のために働いているのかと錯覚するほど高い。	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

↳Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
<p>お店を1人でやっている個人事業主です。 出産をする事になると、産前産後休暇も育児休暇もなかったので、出産10日前まで働いて、出産後1ヶ月で復帰しました。 お休みをすると、売上がないだけでなく、お店の経費がかかって赤字になるので、体が辛くても働かなくてははいけません。 収入はなくとも国民年金も健康保険も当時は免除にならず、支払うのがつらかったです。 保育園に入園させるのも、会社員のフルタイムの人と同じ点数であっても、自営業だと優先順位が低くなる為、希望の認可保育園には入れず、認証保育園になった為、当時は月45000円を払って通っていました。 2人目を出産時もギリギリまで働いて、すぐ復帰しました。 保育園の入園の優先順位が低いからか、兄弟がいても同じ園に入れませんでした。（会社員の方は同じ園に入れていました。） 個人事業主であっても会社員と同じように保障があるべきだと思いますし、積立ができる制度が必要だと思います。 自分は知らずに会社を辞めてフリーランスになりましたが、もっと周知させていかないと、より子供が産みにくく育てにくくなると思います。 もし制度が整っていたら、3人目も考えたかもしれません。</p>	40代	扶養者無
<p>とにかく高すぎるし保障条件が難易度高い。入りたいと一切思えない。ただ、払うことで社会貢献になるのなら、という気持ちで払っている。それも続かなければ無意味。</p>	40代	扶養者無
<p>個人事業主の場合、（雇用主側の負担というのが存在しないので当然ではあるが）負担が多い割にメリットは少なく感じる。</p>	40代	扶養者無
<p>もらえる年金額が低いことは仕方ないが、支払う健康保険料が高すぎる。健康なので大して医者にもかからないし、タバコを止められなかったり自分勝手に不健康な生活をしている人のために保険料が使われていると思うと腹が立つ。</p>	40代	扶養者無
<p>ほとんど病院に行かないのに健康保険料がめちゃくちゃ高いです。市の健康診断を無料で受けられますが、会社員の時と比べると内容に大きな差があり、正直お得感もないです。 年金に関しては国民年金だけでは生きていけないので、他にも積立年金をしたり、NISAやiDecoなどをしていても不安しかありません。生涯現役で働くことも視野に入れていますが、仕事があるかどうかわかりません。物価もどんどん上がり、その割に時給は上がらないので、何歳まで生きられるかお金で寿命が決まりそうで、心底不安しかありません。</p>	40代	扶養者無
<p>とにかく、将来の年金額が心配でなりません。年収の壁の議論が大きく取沙汰されているが、結局はフリーランスや個人事業主は、何も状況が変わらず、年金も1階建てのままで、どうにか変革してほしいと心から思っています。</p>	40代	扶養者無
<p>将来的に困ることが予測されるから</p>	40代	扶養者無
<p>本当に守られていない立場なのだと、保険を見るといつも思う。</p>	40代	扶養者無
<p>個人で仕事をしてるから自分の生活などの保障は自己責任というような制度なので納得できない。労働者兼経営者なので労働者性をもう少し考えて欲しい。</p>	40代	扶養者無
<p>応能負担の仕組みがないと、経済的に潤っている時も、困窮している時も、どちらも不利になる。</p>	40代	扶養者無
<p>すべては自己責任という感じがする</p>	40代	扶養者無
<p>自己負担が多い。より時代に合った収入と保険料のマトリックスを作成する必要があると感じる</p>	40代	扶養者無
<p>共働き二人家庭なので扶養関連には困ってはいないが、もしものときのことを考えると給付金などが受け取りやすい社員が羨ましくは感じる</p>	40代	扶養者無
<p>社会全体の仕組みとして、会社員ばかりが優遇されていて、事業主は負担が多いと感じる。この差が開業や起業の壁になっていることも感じる。</p>	40代	扶養者無
<p>出産や老後、不測の事態の時に個人で何とかできるか、不安である</p>	40代	扶養者無
<p>会社員のほうが充実した制度を受けられる</p>	40代	扶養者無
<p>とにかく支払う額が高い。タイミングによっては社会保険料の支払いによって手持ちの現金がマイナスになってしまいそうなこともある。</p>	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
将来の不安、払えなくなったらどうしようという不安	40代	扶養者無
みんながバリバリ働いてお金を稼いでいるフリーランスなわけではない。やむをえず、フリーランスという働き方をしている人もいるので、会社員との差が酷に感じる	40代	扶養者無
保険料が高すぎて支払いがしんどいです。将来が不安です。	40代	扶養者無
年金の受給額が少ないことが怖い。生きていけないのではないかとと思うからです。	40代	扶養者無
産休育休がなくてつらかったが、もう子どももだいふ大きくなった。次は介護が不安。年金の受給額が少なくなるのに一律なのはすごく不公平感がある。	40代	扶養者無
社会保険料：シンプルに高い。失業保険：払ってないからしょうがない部分はあるが、収入が減る・なくなった場合の短期的なセーフティネットは欲しいと思う	40代	扶養者無
負担が大きすぎる	40代	扶養者無
全部問題ですが、個人的には、家族のための保険が手厚くないことが問題と考えています。	40代	扶養者無
国民健康保険料は、前年の所得によって金額が決まるため、たまたま所得が多かった年の次の年の負担がかなりキツイ。しかも、所得が数十万増えただけでも月々数万円単位で保険料が上がるので、「負担感」が非常に大きい。また、同じフリーランスでも、国保組合がある業種とない業種があるので、不公平感も強い。年金が1階建てなのは仕方がないと考えている。	40代	扶養者無
社会保険料が高い：現金が手元に残らない。教育訓練給付金が無い：勉強、スキルアップの為の投資額が多くなる。	40代	扶養者無
社会保険料が高いのは、その通りです。また、高額な学習をする場合は、教育訓練給付やリスク関連（雇用されている人たち）の制度がうらやましいなあと思います。	40代	扶養者無
社会保険料のために働いていると感じることがある。案件を得れば得るほど健康保険料が増え、住民税が増える。何のために働いているのか分からない	40代	扶養者無
再就職した時に困るから	40代	扶養者無
長年、小規模事業者なので、フリーランスのいろいろリスクは、理解しています。ただ、教育訓練給付金制度は、助成金のバックアップを充実させてほしい。成長欲がある人の学びを後押ししてほしい。	40代	扶養者無
とにかく会社勤めではないフリーランサーは手当がほとんどなく、出産や休業せざるをえないときになんの助けもないのが困る。	40代	扶養者無
固定費の中でもかなりの割合を占めているため。将来の安定性がない職業柄不安になる。	40代	扶養者無
個人事業主になる上での懸念点だったから。おそらくこれらがなければもっと早く開業していた。	40代	扶養者有
個人事業主と会社員の差が不公平だと感じる	40代	扶養者有
1人出産しましたが、育児休業給付金がないので何とかして収入を得るしかなく、産後2週間程度で仕事を再開しました。本当はもう1人産みたかったのですが、給付金なしで働きながら2人を見るというのは大変厳しく思えて断念しました。また、年金保険料は年々上がりで大変な負担です。それなのにもらえる金額は変わらず微々たるもので、ほんのお小遣い程度にしかならないでしょう。フリーランスとして日々真面目に働き、子供を育て、税金を納めていますが、定年後もとても年金で暮らすことはできず（老後のための貯蓄も簡単ではありません）、死ぬまで働き、働けなくなったら生活保護を受けるしかないのだろうなと覚悟しています。	40代	扶養者有
フリーランスは自分で社会保障を組み合わせることができるので、節税につながって良いが、国民健康保険は控除ができないため減らす手段があまり無いため	40代	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
個人の納付額で考えたときに、社会保険料が高額になるにも関わらず、その保障は同等かそれ以下になること。	40代	扶養者有
一人会社の経営者は、法人負担分と合わせると、社会保険料がかなり高額となり、失業保険にも入れない為、セーフティネットが弱いと考えています。	40代	扶養者有
大した収入でもないのに高すぎる	40代	扶養者有
同じ納税者でも、負担が大きく異なるため。また、平均所得前後における会社員との差が顕著である。	40代	扶養者有
どう考えても不利です。教育訓練がないのはおかしい	40代	扶養者有
地方自治体が取りすぎている	50代	被扶養者
自営業者は定年が無いという理由で、年金額が少なくなっているが、今や、定年退職の年齢を引き上げる企業や、定年後も契約社員として雇用することが半ば義務付けられている中、「定年が無いから」と言って、自営業者の年金を低く抑えるのは、理由にならない。自営業者だって、70歳を越えると働けない可能性があるし、多くの定年退職者は、定年後も働いているのだから、自営業者と条件は同じだろう。	50代	扶養者無
会社員時代が手厚かったから	50代	扶養者無
会社員を止めて、国民健康保険に切り替わった際、金額にビックリしました。フリーランスは夢があるけど、こんなところにもリスクがあるんだ…って思いました。	50代	扶養者無
老後の厚生年金部分。自分だけの投資では限界がある	50代	扶養者無
公平・公正な機会均等とは言えないため。会社員でなくても、同じく税金を納める日本人として、補償や保障は労働や稼ぎの量に応じたものである方が納得がいく。	50代	扶養者無
いまひとり起業で法人化しています。最近、ひとり起業でも社会保険の加入が義務付けられていると、社会保険事務所から指導を受けています。いまの役員報酬では、毎月約10万支払わないといけません。現在53歳。この先12年間、毎月10万円の社会保険を支払うのは難しいです。国民年金に12年間支払ったときとどれだけ違うのかなどを試算しました。そして、法人の会社を残し役員報酬を下げ、個人事業主でやっていくことにしました。がしかし、相談できるところがあまりなくこれでいいのか悩んでいます。	50代	扶養者無
毎年支払う金額が高く負担に感じているから	50代	扶養者無
会社員から個人事業主へ変わった場合、補償が薄くなる割に、負担が大きい・保障の種類・範囲が狭くなり、(当時は)労災保険にも入れないという、弱い立場になったと考えました。	50代	扶養者無
一人会社なので会社負担分も自分で支払う必要があり、負担が大きい	50代	扶養者無
収入が不安定な場合、支払えない不安があるから。支払えなければ、将来の生活費に困るのではないかと考えているから。	50代	扶養者無
勤めていたときより明らかに年収が減ったにも関わらず、国民健康保険、国民年金保険が高くて、生活が苦しいため。	50代	扶養者無
会社員の時と比べて、単純に自己負担が強烈に増えたから	50代	扶養者無
国民健康保険がとにかく高い。少し収入が高くなると毎月8万円くらいかかる。ほとんど医者に行かないので不公平感がある。厚生年金もないので将来が不安	50代	扶養者無
もし、子育て真っ最中の頃にフリーランスとなっていたら、「国保には扶養制度がない」「育児休業手当がない」などを選択すると思いますが、子どもが独立した50代ですので上記5つを選びました。	50代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
あなたがそのように考える理由を教えてください。っていう質問の意味がわからない。困っていることは事実なので体感的に、経済的に困っている	50代	扶養者無
理由も何も国保より社保の方が手厚いのは明らかです。	50代	扶養者無
困っているというより不公平。	50代	扶養者無
会社員として払っていた時よりも増えるということを知らなかったので、独立前に想定していたよりも収入が少なくなってしまう。	50代	扶養者無
社会保険料が家計を圧迫している。フリーランスでもスキルアップや学びの継続は必要。すべて自費で負担するのは本当にきつい。教育訓練給付金欲しさに会社員になろうかと心が揺れることがある。	50代	扶養者無
当方の職業に該当する保険組合が見つからない	50代	扶養者無
賃金が安いのに保険料が高いのは困る	50代	扶養者無
収入が少なくても定額で年金を支払うので大きな負担。社会保険料を払うための貯蓄が必要なくらい圧迫。それなのに受給額が少なくなるのは納得いかない。	50代	扶養者無
国民健康保険料が異常に高い、年金を会社員並みに増やせる選択肢がほしい（支払金額がそれなりに高くても）、フリーランスも教育訓練の機会や失業への備えはほしい、と思います	50代	扶養者無
特に社会保険料（国民健康保険）の負担が大きく困っている。	50代	扶養者無
わかっていて今の働き方を選択しているので。	50代	扶養者無
国民保険料の高さに驚き、最初数年は電話して計算が正しいかを確認していました。必要なものとはいえ、フリーランスが負担を軽減できる何か策を練ってほしいです。	50代	扶養者無
会社員とフリーランスを同等にしてもらいたい。	50代	扶養者無
社会保険料は労使折半なので、割安感があると共に保障が大きい	50代	扶養者無
負担が大きくなったから	50代	扶養者無
守ってくれる会社がない（雇用関係がない）分、フリーランスの負担が多くなることは、理屈では分かっています。何をするのも自己責任ですから。理屈は分かっているのですが、制度上の選択肢が少なく感じます。強風が吹いたら倒れそうです。	50代	扶養者無
単純に負担額が大きく分配が少ないと感じる	50代	扶養者無
それほど年収が高くないので、保険料は負担に感じます。	50代	扶養者無
独立して自分で手続きするようになってから、具体的な金額を知ったため。	50代	扶養者無
年収の割に負担がものすごく大きい。年金はともかく国保が高すぎる。	50代	扶養者無
会社に代わって国が保障してくれても良いと思う	50代	扶養者無
会社員の方が様々な面で守られている気がして不公平感がある。	50代	扶養者無
年老いて行くにつれ不安が募る	50代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

↳Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
自己都合退職後（会社正社員から個人事業主へ）の保険料支払いと補償内容が不公平と感じるから。	50代	扶養者無
将来の生活費には足りない年金と、民間企業の2倍以上の負担になる国保の負担が辛いです。年収を多少増やしても、それ以上に負担が増えるため、働きがいがありません。	50代	扶養者無
特には年収500万円以下の場合に、フリーランスと会社員とで、社会保険の条件・内容の差が大きく、理不尽さを感じるため。	50代	扶養者有
会社員の方が優遇されていると思うから。でもフリーランスでも得られるものがある。	50代	扶養者有
年によって売り上げが大幅に変わるので、保険料の支払いが厳しい時があります。表を見るとフリーランスの方が支払う保険料が多いんですね。それなのに、もらえるお金や保障が少ないのは今回知りました。	50代	扶養者有
負担が大きい割に得られるメリットが少なすぎる。	50代	扶養者有
選択した物がないと辛いので	50代	扶養者有
身体一つで生計を立てているのに、傷病手当や障害年金に加え、老後の年金受給額の少なさに大きな不安を感じる。	50代	扶養者有
収入に比べて高額。なのにもらえる金額が低い 老後の生活への大きな不安	50代	扶養者有
暮らしを楽にしようと働けば働くほど、社会保険料が上昇して暮らしは厳しくなる	50代	扶養者有
まだ手当などないとそんな状況になった時の蓄えがないので。	50代	扶養者有
支払いが苦しい。	50代	扶養者有
全体的に万が一の保証が無いことが不安材料となります。	50代	扶養者有
世帯分離していても国民健康保険料が高い	50代	扶養者有
本人負担額と保障範囲（育児や介護）のバランスが個人事業主に厳しい。国は会社員だけにしたい（徴税しやすい）のだな、と思う。	50代	扶養者有
極端に収入の少ない期間がどうしてもある。その期間に介護などが重なると死活問題	50代	扶養者有
年金だけでは老後の生計が成り立たない。	50代	扶養者有
毎年、健康保険料が、変わるので、所得控除対策と計算が、ちょっと手間に感じてます。	60歳以上	扶養者無
国民健康保険料がとにかく高すぎる！	60歳以上	扶養者無
時代の変化に制度がついて来ない	60歳以上	扶養者無
年収が少ないほど会社員との格差が大きい。	60歳以上	扶養者無
足りない分を自分で十分に用意できるほど、取引先からの収入がない。	60歳以上	扶養者無
実際の手取り所得は大した額ではないのに おおよそ10%程度の国民健康保険料を徴収されています	60歳以上	扶養者無
給料が不安定なのに、保険料が高い。	60歳以上	扶養者無
現役世代での負担は低いが、給付の段階になるとその格差（厚生年金との比較）が大きすぎる	60歳以上	扶養者有
収入や保険料とサービスが釣り合わない。会社員は相当優遇されている	60歳以上	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスは労働者だと考えます	60歳以上	扶養者有
国民年金だけでは生活出来ない。	60歳以上	扶養者有
所得に応じた支払い要件は公平性の観点で必要だし、社会保障が低いのであれば費用も安くするか、社会保障を充実してほしい。	60歳以上	扶養者有
実際、そうだから。	60歳以上	扶養者有

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
保険料が高い割にメリットが少ない。	30代	扶養者無
自分で社会保険料を全額納めるため、具体的な金額として実感を持ちやすいため。	30代	扶養者無
昨年の所得が少なかったため、国保の保険料も高くなく、今年は困りごとはないが、来年以降費用負担が増えるので、困る気はする。	30代	扶養者無
国民健康保険料の所得割と被保険者均等割額が本当に高い！所得割について、税率が高いことに加えて、総所得金額にかかるのがつらい！（せめて、課税所得に対してにしてほしい、小規模企業共済とかで、対象金額を下げられるようにしてほしい）被保険者均等割額について、配偶者と子供に対して一律で増額されると、男がフリーランスの場合に、結婚したり子供を持ちづらくなると思う、晩婚と少子化にもつながると思う！健康保険料が高い原因として、なんでもかんでも健康保険の対象にしてるってのもあるので、何を健康保険の対象にするのか、しっかり精査して、まずは医療費のムダを無くしてほしい！そして社会保険料を下げてほしい。	30代	扶養者無
何かあった時の備えがない割に割高な負担	30代	扶養者無
厚生年金などサラリーマンと単純比較ができず、年収を比較してもフリーランスでいくら稼ぐべきかわかりにくいから	30代	扶養者無
直近で支払いに困っていないから。また、育児などで休業する予定がないから。	30代	扶養者無
高齢の親がいて扶養家族に入れてもいいができないため	30代	扶養者有
税金徴収が増えてきているのでフリーランスは会社員より稼いで老後の生活に備えるというのが破綻してきているので	30代	扶養者無
夫が会社員だが、子供が扶養になるには夫より収入を低くしないといけない私の収入があがると私に扶養が来てしまい子供の分まで支払わないといけないので仕事と思うように働けない 育休がなく社会保険は免除が少ないので3ヶ月で復帰した。	30代	扶養者無
強制加入な上、メリットが少ないのに金額が高すぎる。	30代	扶養者無
給与所得者よりもフリーランスの方が、様々なリスクが高い状態で働いていると感じています。現在の制度は、フリーランスの自助努力を前提としている印象が否めず、共助・公助の機能を十分果たせていないと考えます。	30代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
会社員は労使折半とはいえ、健康保険組合が無い職種のため国民健康保険一択となると社会保険料が高すぎると感じる。	30代	扶養者無
現在、国民健康保険だけで年間62万円ほどかかっています。かなりの負担額です。貯金しようにもこれで消えている現状です。	30代	扶養者無
毎月払う国民健康保険料が高いから。5万以上払うので国民健康保険に加入せず10割窓口で負担する方が安い。	30代	扶養者無
困っているというか、あれば良いかなという程度です。会社員との比較ですが、健康保険と厚生年金の会社負担分が考慮されていないのでは？	30代	被扶養者
全額負担なので金額が高くなっているのに、健保のほうが好待遇にみえるので、もっと安くなったり、安くならない代わりに待遇を良くしてくれると嬉しい	30代	扶養者有
フリーランスでは節税に対しては対応できるが、社会保険料に関してはなすすべがない。（法人を立ち上げれば対応可能だが敷居が高い）	30代	扶養者有
一人法人なので健保+厚生年金の価格であり、現時点では役員報酬を低く設定しているので保険料も安い。	30代	扶養者有
働き方の多様化に制度が追いついていない気がするため	30代	扶養者有
病院に殆どかかっていないにも関わらず毎月かなりの社会保険料を支払う必要があり、生活を圧迫している感覚がある	30代	扶養者有
同じくらい稼いでも年金の受給額が少なくなるのは辛い 社会に貢献している仕事をしているのは同じで、会社に属していないだけでなぜこんなにも差があるのか明確な理由が知りたい	40代	扶養者無
不安定なフリーランスだからこそ、社会保険の手厚さを求めたいのだが、実際は逆の状態のため、改善して欲しい。	40代	扶養者無
国保は、半額会社負担は楽だったし、あまり病院も行かないので、そもそも払い損に思える。	40代	扶養者無
家族が増える場合の備え	40代	扶養者無
社会保障の薄さについてある程度理解して、自身で備えてはいるものの、年金や働けない状態となってしまった際の補償、教育分野などには、何かあるとありがたいと感じるため。	40代	扶養者無
一括で大金が出ていくから。怪我や病気の時の補償（傷病、育児、介護及び出産手当金）がないのは、同じ労働者であり、会社員よりも高い額を収めているのに不公平だと思う。特に女性は個人事業主になるハードルになっていると思う。出産・育児手当金をもらうまでは会社員でいて、もらい切ったら会社を辞めて独立した形にする人も一定数いるのかもしれない。	40代	扶養者無
安心して働くことができない。フリーランス、個人事業主としてキャリアを積んでいきたいが、安定性が低いため、このままで良いのかと不安があり、キャリア構築や事業拡大だけに注力できない。現職は非常に充実しており継続していきたいが、国保だと不利な面が大きく、今後将来を考えるとさらに40-50台となった時に何かあった時の方が不安なため、急いで会社員になるべきなのではないかと常に考えてしまう。キャリア構築や勉強や仕事へのやりがいといった本質的な部分で職業を選択することができず左右されるのは、残念である。	40代	扶養者無
フリーランスだからこそいつ仕事が途切れるか分からないのに、雇用保険と同等レベルの保険が無いのでリスクに対する備えが出来ない。（民間で対応しているのは就業不能保険のみ） また、会社員でもiDeCoは出来るのに、フリーランスは厚生年金の代わりになるものがない。その分を自分で準備する必要があるが、老齢年金のような終身給付は民間の個人年金では割高になる。	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
実際に身をもって体験してそう考えた	40代	扶養者無
厚生年金が無く一階建てになるから	40代	扶養者無
休まざるを得ない時の保障が何もない	40代	扶養者無
健康保険が高い	40代	扶養者無
数字が示す通り。年収1000万プレイヤーなら会社員とさほど差は無いようですが。そこに達するまでは苦しい。	40代	扶養者有
国民健康保険には扶養制度がなく、家族の人数に応じて支払保険料が増える→ひとり親なので、子供の保険料がかなり負担と感じてしまう。	40代	扶養者有
個人で支払う社会保険の額は会社員時よりも高いのに、保障内容は充実していないと感じる。あらゆる意味で会社員と差別化されているように思う。時代が変わっているのに、個人事業主でも協会けんぽ、厚生年金に入れるような制度設計、もしくは会社員と同等の保障がされれば安心ではないだろうか。	40代	扶養者有
何かあった時の保証が自己責任で、それを用意するのが大変である。毎回の社会保険料の支払額が大きすぎて萎える。	40代	扶養者有
単純に何故無いのか分からないため	40代	扶養者有
将来の年金受給額が低いことが不安。社会保険料が高すぎる	40代	扶養者無
フリーランスというだけで同じように働いているのに不公平に感じる。	40代	扶養者無
ただでさえフリーランスで収入が不安定なのに、保険料で取られる費用が多い。それでもフリーランスになるメリットもあるとは認識しているが、割が合わないと感じる。	40代	扶養者無
会社負担がない分個人負担が大きいが、負担が大きいのには保障内容が会社員より少ない。	40代	扶養者無
現在は法人(健保+厚生年金)なので、回答が難しいです。	40代	扶養者無
上の表を見て、年収がおなじくらいでも支払う保険・年金額がとて違うことを初めて知った。年収が低い方が差額が多いのはなぜなのか？年収が低いフリーランスの方が生活がきついのに…	40代	扶養者無
保証のないフリーランスで働いてるにも関わらず、会社員に比べて税金がたかいため	40代	扶養者無
百歩譲って、社会保険料を高くしたり、条件を厳しくしたりするなら所得税を減税するなどの緩和措置をとってくれればいいのに、それはなく、とにかく個人で稼ぐ人間にこの国は厳しい。「国民は全員、雇われておけ」という国からのメッセージだと思っている。	40代	扶養者無
国保の金額が高く、生活費を圧迫される	40代	扶養者無
支払が多だけでなく受けられる保障が少ない	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
年金の受給額が思った以上に減った。国民年金基金で上積みをしているが、それでも厚生年金に遠く及ばない。国民健康保険も高すぎると思った。私は建設連合の国民健康組合に入れたのでマシだが、普通に払ったら収入の12%程度なので、負担が大きすぎるように感じた	40代	扶養者無
困るというか国も企業もフリーランス・個人事業主をいかに軽視しているかが読み取れて、色々と失望させられる。	40代	扶養者無
福利厚生などの恩恵を受けないフリーランスが社会保険を多額に払わなければならないのはなぜか	40代	扶養者無
とにかく負担が多い	40代	扶養者無
守られているものが減っているから	40代	扶養者無
社会保険料の高さに見合うだけのペイがない印象です。	40代	扶養者無
保険料を支払っているにも関わらず、そもそもの保険としての機能を十分に果たしていない。	40代	扶養者無
病気や怪我をしたとき、不安である。	40代	扶養者無
保険料が非常に高くても困っているの	40代	扶養者有
健康保険と年金、高い金額を支払っている意味が無いように感じてしまう	40代	扶養者有
とくに健康保険が高いと感じます。フリーランスで子供二人分の健康保険料を毎月払うことに負担感が大きい。もしものときのために別途保険に入る必要があり、その負担ものしかかっている。	40代	扶養者有
社会保険料の比率が高すぎる！	40代	扶養者有
要するに雇用されている者(会社負担+自己負担)と同等の負担をフリーランスもし払っているのにも関わらず、受けられるべき日本国民の権利が、ないこと。であるならば、フリーランスは会社員自己負担分2/3のみの支払いで良いのではないかとも思います。納めるべきと言われているのに、ほぼほぼこちらには恩恵のない制度と思っています、	40代	扶養者有
保険料全額自己負担かつ扶養控除がないため負担が大きい。その割に老後のバックも少なく大変。	40代	扶養者有
収入の半分を国に納めさせられる	50代	扶養者無
会社員は社会保険の半額を会社が負担していたので負担感を感じなかったが、個人事業主になり非常に多くの負担をすることとなり不公平感を感じている	50代	扶養者無
物価が上がっているが業務委託費は増えず、社会保険料は上がっているため。	50代	扶養者無
会社員時代と比べて随分と違うと実感したからです。	50代	扶養者無
収入が減ると保険料が負担になる	50代	扶養者無
フリーランスと会社員で社会保険制度が違う必要があるのか疑問です。	50代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
負担が大きい、補償がない	50代	扶養者無
生活が苦しくなるので	50代	扶養者無
会社の負担分がないために収入を圧迫するほどの健康保険料が課される上、さまざまな手当について不利であり、かつ教育訓練給付金もなく、政府が生活の保障やリスクリングなどについて打ち出すさまざまな施策はほとんどが「会社に雇用されている」（会社への優遇策や補助金など）ことが前提になっていて、恩恵に格差が大きい。	50代	扶養者無
厚生年金保険料が払えるだけの資金を用意してあっても、厚生年金そのものに参加できず、個人事業主はその後の年金を受け取る歳には大きなリスクを抱えることになり、その間家族ができたとしても、夫婦ともども社会のサービスの大事な部分を受けられなくなってしまう。	50代	扶養者無
所得が増えると社会保険料（国保）が高額になるので、働く意欲が減退する。	50代	扶養者無
いざという時に困ることが多そうだと思う	50代	扶養者無
国民健康保険料の金額も年々上がり、その金額がいくらなのかギリギリまで不明なので、年会費などを払っても組合にするか、国保にするかで悩む年収ラインと子供の扶養がありました。	50代	扶養者無
同じ労働者にもかかわらず、制度や保証内容が大きく変わるのがおかしい	50代	扶養者無
とにかく高すぎるのに、手当などはなし。ひどい。	50代	扶養者無
年間を通して殆ど使用しないのに金額がバカ高いこら	50代	扶養者無
国保が高すぎる	50代	扶養者無
自身の病気、親の介護などで仕事思うようにできない場合のセーフティネットがあまりないから不安である	50代	扶養者無
高い割に手当がなかったり、健康診断などで使えるサービスが悪い	50代	扶養者無
会社員に比べて会社負担分も自分で負担しなければいけないというルールは頭ではわかるが、必要経費が最低限しか認められない収入額に対して課されるその額は非常に重すぎる（その分を収入に転嫁するのは難しい）その上、保険額は一年前の収入に対して金額が決まるので、収入手段を失うと非常に大きな負担になる（介護などで働けなくなっても救済手段が何もない）年金については努力はしているが、国民健康保険料の負担を考えると支出を増やすことも難しく、申し訳ないが正直なところ老後に生活保護を受ける以外の選択が想像できない	50代	扶養者無
国民健康保険料が高額な割に保障が少なく、個人事業主のリスクをカバーしきれていないと感じているため。	50代	扶養者無
とにかく国民健康保険が高く、制度として成り立っていない。高齢社の保険料を会社員が負担せず、個人事業主のみで負担する制度で、年々負担が増えていると感じています。	50代	扶養者有
年金の受給額が少なくなるのは困るし、不安だ	50代	扶養者有
将来について貯蓄がなく、年金以外にも収入を得る必要があるが、現在の仕事へいつまでつづけられるか不安があるため	50代	扶養者有
1 階建てが不利なこと	50代	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
扶養家族（子供）は通院の頻度も低く金額も低いにも関わらず、それに見合った保険料になってないと感じる。	50代	扶養者有
過去に企業雇用されていた時期と比較	50代	扶養者有
国民健康保険が高いので年収が上がっても稼いでる感がしない	50代	扶養者有
払ってみると、本当にしんどい	50代	扶養者有
国民健康保険が定額となるから	50代	扶養者有
現在は以前勤めていた会社の健康保険組合に任意継続として加入しているが、2年間で終了となるためその後は国民健康保険に加入する必要がある。国民健康保険の保険料は非常に高額で現在の2倍近くになるため生活が非常に厳しくなると考えている。	50代	扶養者有
毎年の収入が安定していない人に対しての法整備があったらいいのに、と思う。高収入だった年の次に収入が下がると非常に困る。さらにインボイス制度もあるので、稼いでも生活に余裕が出てこない。	50代	扶養者無
同じ仕事をしていても、安心して仕事できない感じは常にあります。私は、契約先のハラスメントに耐えられず、契約を満了しましたが、次の仕事が見つかるまで収入は途絶えます。やはり、会社員の方がいいのかな、と悩んでしまうのは、このような環境の違いからだと思います。	50代	扶養者無
勤務実態は同僚の会社員と同じだが、年齢を理由に業務委託契約しか結んでもらえない。業務委託としてのメリット（自己裁量での業務遂行）もほぼなく、社会保障ではデメリットしかない。	50代	扶養者無
保険料が高すぎて払うのが大変 現在、癌治療中ですが、とてつもなく困っている	50代	扶養者無
サラリーマン時代よりも保険や年金によりサポートされる内容が薄くなっているにもかかわらず、かかる費用が高く感じる。	50代	扶養者無
休業する際に民間の所得保障することになる	50代	扶養者無
やはり年金額が圧倒的に少ないのは不安に感じます	50代	扶養者無
会社員に比べ控除が少ないため、社会保険料の負担が大きい。しかも将来もらえる年金も少ないため。	50代	被扶養者
単純にとても高い割には手当や給付金がない場合が多いから	50代	扶養者有
上の表で見る通り年収200万の人が50万以上払うって、人生終わってる。生活保護受けた方が楽。	50代	扶養者有
国民健康保険の支払いがきつい。	50代	扶養者有
一番大きいのは健康保険が高いということです。個人事業主と会社員の間の不公平がなければ問題ないと思います。国民年金基金の遺族年金をもう少し厚生年金と同等な制度にすれば良いと思います。	50代	扶養者有
年金の支払額に対して、受給額が少ないのが不満	50代	扶養者有
事実だから	50代	扶養者有
会社負担分が全額自分で支払うから	60歳以上	扶養者無
とにかく国保が高い。所得税より高くなる意味が解らない。	60歳以上	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
60歳を過ぎていたので国民年金の負担はなくなりました。会社員の場合は会社が半分負担しているので安いのだと思います。が、本来は給料としてもらうべきものです。そうなると思われないと思います。	60歳以上	扶養者有
国民健康保険料は確定申告の金額に依拠して増減するものであり、定額というのは間違いだと思う。必要経費は確定申告時に清算される仕組みであるが、かなり遅れて清算されるので運転資金や生活資金に窮することがある。天引き金額を下げたい。	60歳以上	扶養者有
事実だから	60歳以上	扶養者有
収入が減っている中で、保険金がこれまでより高額になった。	60歳以上	扶養者有
会社員時代に比べて収入が減り負担が増えた。	60歳以上	扶養者有

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
自営業だと社会保険料が高くなり、負担が大きい	30代	扶養者無
稀に仕事の無い時期があるが、その期間、職業訓練を受けたり、失業手当がもらえる仕組みがあれば、安心して生活できると思った。今のままだと仕事が無くなるかわからないフリーランスでは不安で仕方がない毎日なので。	30代	扶養者無
キャッシュフローを悪化させるため	30代	扶養者無
独身でこれから出産、育児を迎えるかもしれないが、会社員時代に比べて保障が薄いのが厳しい	30代	扶養者無
全体的に手当が少なく感じるため。特に女性だと育児や出産に関する手当がほぼなく、子供作ろうという気持ちになれない。	30代	扶養者無
国保が高すぎる	30代	扶養者無
産前産後、無理をして仕事をしなければ収入が途絶えてしまう。	30代	扶養者無
国保と他健保等の金額と保障される内容を考えた時に国保の費用対効果があまりに薄すぎる。高い国保をはらっているのに働けない時の手当がないのは理不尽に思う。高齢者の負担を第1号被保険者だけが払っているのではと思えてならない。	30代	扶養者無
健康診断が最低限の小学生レベルしか受けられないのに、国民健康保険料はまるで高級医療を受けているかのような法外な金額	30代	扶養者無
フリーランスでも子育てはしたいです	30代	扶養者無
フリーランスでも職業に応じて協会けんぽに入ることのできる人もいるみたいで、私はITエンジニアなのですが、入れそうな健康組合はなく、他の組合と比べると国民健康保険料はかなり高く、職業差別のように感じます。	30代	扶養者無
特に懸念しているのは以下の3点です。1.国民健康保険では出産手当金が出ないこと、2.育児休業給付金が無いこと 3.教育訓練給付金が無いこと。出産・育児・病気は、個人努力で完全にカバーするのは難しく、「自己責任」として扱うのはあっていないと思います。	30代	扶養者無
国民健康保険が特に高いと実感する	30代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
家族がいるため	30代	扶養者無
現在法人化に向けた作業をしておりますが、その理由として第一にあったのが個人事業主は保護が薄いという点でした 傷病手当金など会社員は手厚い保護があったことが個人事業主として独立したことで実感できました	30代	扶養者無
育児が大変なため	30代	扶養者有
家族4人なので負担がかかり 万一の時にいろいろと手薄なのは困る	30代	扶養者有
法人化することで、国民健康保険をやめたので、辛さは減りましたが、そうは言っても会社負担分も、個人負担も両方払う必要があるため辛さはあります。自分の手取り額を低めに抑えないとやってられない。本当は収入は全て手取りにしたい	30代	扶養者有
結局自営業は放置されているから自分でなんとかするしかない	30代	扶養者有
国民健康保険満額支払しているが毎年2〜3万円前後引き上がっており会社員時代と比べて著しく負担が増えた。老齢の両親と同居していても年々負担が増えるばかりで非常に辛い。健康診断などの助成も自治体ごとの違いがあり私は受けられないところに住んでいるため検診に行くのもどうすべきか悩まされる。この辺、未病の段階で防いだ方がいいのは明らかなので国の方で一律補助するなど若者向けの健康応援をしてほしい。	30代	扶養者有
稼ぐほど社会保険料が高くなり、負担が大きい	30代	扶養者有
親の介護にお金がかかって、自分の老後にお金を残せないような気がするから	40代	扶養者無
高いのに手当が少ない	40代	扶養者無
社会保険料（セーフティネットコスト）が高い一方、それに対する権利・範囲が、雇用者に比べて限定される これは、雇用されない働き方を阻害する要因に他ならない。不安定な状況をあえて選択するのであれば、それに見合う価値を出すことに対し、相応の保証をもたらすことが不可欠と考えます。	40代	扶養者無
個人事業主になるのはある程度年齢を行ってからになると思うが、社会保険料が高いくせに高齢化に伴うリスクが増える部分へのカバーがないのがつらい	40代	扶養者無
独身なので正直出産関係などは気にしていませんが、そこそこ税金を払っているのに社会的な保障が少ないことは疑問に思っています。	40代	扶養者無
国民年金基金などで自分で年金が増やせる制度を活用しているものの、収入には波があるため不安は尽きない	40代	扶養者無
とにかく高いイメージがある。その割に自分に関連しそうな保障が十分でない。	40代	扶養者無
会社負担がない分国民健康保険料が非常に高いため。また、支払う社会保険料の総額は変わらなくても、国保の割合が高く年金の割合は非常に低いため、将来的に受け取れる額が少なくなるから。	40代	扶養者無
国民年金の受給額が低くなるにもかかわらず、所得に関わらず国民年金保険料が定額であること。国民健康保険以外にフリーランスも入れる組合が欲しい。土業だけでなく。	40代	扶養者無
もはや今の社会保険は取りやすい財源なだけであって、国保との差をつけている意味もない。制度崩壊しているので、違いがあって一番自分として困っている項目を選びました	40代	扶養者無
年金が少ないことはわかっていたので、年金基金にもお金を払っているが結果的に出るお金が多くなり、プレッシャーが大きくなる	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
将来の受給額に不安がある 親の介護に近い将来ありそうだから	40代	扶養者無
とにかく負担が大きすぎる	40代	扶養者無
収入が安定しないリスクがある上で負担が大きいため。	40代	扶養者無
会社負担分がないのなら、国家が支援して欲しい、リスクなしで働く会社員だけ手厚くされるのは納得できない	40代	扶養者無
フリーランスは、交通費を含めたすべての費用を自己負担しなければならず、社会保険料も高額であるにもかかわらず、受けられる保障は非常に限られています。会社員のような失業給付もなく、収入が途絶えた際の不安は大きいです。そのため、フリーランスであっても保険料を支払うことで雇用保険に加入できる制度が整備されることを強く望んでいます。	40代	扶養者無
自分が働けなくなった時の保障がないにもかかわらず保険料の自己負担が会社員の時よりも高いため。	40代	扶養者無
法人経営者（ひとり社長）の場合は会社負担分まで実質自腹なのでかなり負担が重い。	40代	扶養者無
国民健康保険がとにかく高く支払いきれない	40代	扶養者無
日本という国から差別を受けている感覚	40代	扶養者無
社会保障の観点から格差があり不十分だと感じている。	40代	扶養者無
とにかく国民健康保険が高すぎる。そのため、法人化して、役員報酬を低くして、対策するしかなかった。去年の年収で保険料が決まるので、仕事を辞めるはどうしたらいいか悩む。次年度の高額の保険料が払うためには、倍貯金しておかないと、辞められない。	40代	扶養者無
国民保険に付随する手当は、会社員よりも「なし」または「審査が厳しい」が多い。それにもかかわらず、掛け金支払の負担は国民保険のほうが高い。	40代	扶養者無
健康保険などここ何年も使用していないが、ほぼ満額とられており、まったく納得がいかない。健康保険なしで、10割負担でよいので、そういう選択しもいれてほしい。	40代	扶養者無
会社員からフリーランスになった結果、健康保険料が約2倍になり、負担が如実に増加したから。	40代	扶養者無
今は前職の健康保険を引き継いでいますが2年のみなので、このあと国保になるのが嫌です。	40代	扶養者無
支払っている値段に対して体感できるメリットがない。	40代	扶養者無
国民健康保険料が高すぎて、健康保険の使用と見合っていないと思います	40代	扶養者無
病院にはほぼ行かないのに毎年109万円払ってるのは何だかなあ。	40代	扶養者無
純粹に手取りが変わるのと、将来に不安を感じる	40代	扶養者有
障害や失業などのセーフティネット寄りの制度は全国民が受けられるようになってほしい	40代	扶養者有
組合けんばに加入する前は扶養家族も含め国民健康保険に加入していたが、金額が高く、収入とのバランスがあわないように感じた。	40代	扶養者有
子供がまだ小さいため、働くことが出来る期間を考えると、保証は手厚い方がありがたいため。	40代	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
正社員もフリーランスも自営業も形態に限らず「仕事」をしているにもかかわらず将来に対しての扱いが異なることに強い違和感を感じる	40代	扶養者有
厚生年金に加入できないのは、将来の不安でしか無い。国はフリーランスを進めているのであれば、2階建て部分を考えるべき。	40代	扶養者有
病気をあまりしないうちは、やはり割高に感じる。 まあ、いざ病気にでもなれば有り難みを感じるのかもしれないが。	40代	扶養者有
妻との二人暮らしです。とくに老後の保証の面で差があることに不安を感じています。	40代	扶養者有
会社員からフリーランスに働き方が変わった際に、家族の人数も多く、保険料の負担がきつかったから。	40代	扶養者有
出費が増えるから。しかしそれも分かった上で独立している。	40代	扶養者有
会社員の時と比べて負担感を強く感じるから。	40代	扶養者有
将来的に年金が不足するのが困る	40代	扶養者有
支払いが高額であるにもかかわらず、支給額が少ないなど国民健康保険などフリーの代償は重い	40代	扶養者有
会社員と同等の権利しかないにも関わらず、国民健康保険料の支払いが数倍に増えて不満がある 厚生年金がもらえないのに、国保+国民年金の支払う額は会社員より多い（または同じぐらい）。少なくなるべきでは？	40代	扶養者有
国民健康保険が収入に応じて段階的に高くなりすぎて文芸美術保険に変更した。 国民年金は一定額だが、逆に年金の方を収入に応じて段階的に上げる、老後給付も増やす構造にして欲しい。 何にせよ、税金と保険・年金で年収の半分は徴収されるのがきつい。	40代	扶養者有
収入が安定しない中、高額の支払いが発生する点	40代	扶養者有
とにかくフリーランスは負担が大きく、私は病気を経験しているのでリスクが高いなぁと思いました。とはいえ、今から会社員になることもできず、不安が募ります。	40代	扶養者有
フリーランスは収入が安定せず、常に来月の生活費を稼がなくてはと生きているのに、家族の健康保険代、年金など国へ払う固定費が高く、家族を養うために働いているより、国に税金等を収めるために働いている気がする。	40代	扶養者有
社団法人のアルバイト扱いなので、社会保険料が1/3になり収入が1.5倍なので得しかない。 困っている人はもっと頭使った方がよい	40代	扶養者有
会社員は会社が半分払ってくれてるので保険料が安くなるのはわかるが、年金のところで差がつきすぎている。	40代	扶養者有
法人成りすると、社会保険料の会社負担分も発生するのが苦しか、会社設立に踏み切れない	40代	扶養者有
会社が支払ってくれている分を、自身が会社の代表となり支払っているという点では保険料の負担が増えるのは理解できるが、国保の場合は扶養者全員の負担をする必要があるため、費用が割高であると感じる。	40代	扶養者有
特に国保が健保よりかなり高つくのに、見返りが小さいと思うから。	40代	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
社会保険料が高いとは感じるが、会社員だった場合でも雇用主負担分は結局のところ、企業が従業員を雇用するために支払える額から出ているだけのこと。その分、自分の額面上の年収が小さくなり、そこから折半分の保険料を支払っているに過ぎない。したがって、社会保険料の負担は、フリーランスでも会社員でも変わらないと考えられる。また、私は現状で社会保険料を支払えるだけの収入があるため困ってはいないということもある。法人化して厚生年金に加入しているので、扶養の問題もない。私の現在の境遇ではたまたま困っていないだけで、フリーランスが会社員より不利である問題は改善されるべき課題であると思う。	40代	扶養者有
法人経営者にとって、社会保険料は会社負担分も加味すると負担が大きすぎる。現在の社会の仕組みにおいて、各個人で国保または国保組合の加入を行うのがベストである。	40代	扶養者有
収入がそれほどないのに、取られる保険料が高いと感じる。介護や自分の病気で働けない時の保障がないのは不安。	50代	被扶養者
今は国保組合だが、自治体国保料は異常。年金はiDeCoや小規模企業共済で	50代	扶養者無
少子化が問題になっているのに、自営業者だけ子育てで非常にお金がかかる仕組みがおかしいと思っています	50代	扶養者無
国民健康保険の場合、傷病手当金がない代わりに保険会社の所得補償保険の選択肢があるが、健康状態によって引受できないことが多い。	50代	扶養者無
夫婦で青色申告の個人事業主の中、国保の金額通知を見てあまりの高額に愕然としたため。	50代	扶養者無
現在50歳で今後の人生を考えた時に懸念点が大きいこと	50代	扶養者無
これから親の介護が必要になった時、さまざまな手配で休む必要が出てくるが、その間の収入が無くなってしまうから。	50代	扶養者無
費用に見合たサービスになっていない	50代	扶養者無
扶養家族がいらないため割高。厚生年金の掛け金が高すぎるし、将来の減額は目に見えているため。	50代	扶養者無
フリーランスは支払いタイミングをクライアント都合で変更されることがあり、そのような時は高額な社会保険料の納付が負担	50代	扶養者無
会社員よりも当事者意識を持って仕事しているのに、なぜ会社員が優遇されるのかわからないから。	50代	扶養者無
夫がリストラされてから4年近く失業している。家族の分の社会保険料を支払うことが負担。資格を取るために教育訓練給付金を利用して学びたいがフリーランスのため対象とならない。過去30年近くは会社員だったので教育訓練給付金の対象にしてほしい。	50代	扶養者無
給与に対する割合が高すぎる。（過去と比較しても）20%近く搾取するのはやりすぎ。	50代	扶養者無
様々なことが自己責任	50代	扶養者無
1人分の国民健康保険の負担が月10万円以上あり、高負担であると感じるため。	50代	扶養者無
毎月20万くらい引かれる。その分を単価に乘せないといけない。高い。。	50代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
上記の試算は初めてでしたが、いかに政府がフリーランスを馬鹿にしているかがよくわかりますね。そもそも福利厚生がない職業にも関わらず、年収が低いほど会社員との差額が大きく、負担額が高い。しかも、払っている割にベネフィットがない（ただの払い損）。ま、日本という国のレベルの低さを顕著に表していると思います。	50代	扶養者無
一般的に会社員よりもフリーランスの社会保険料負担が大きいの、給付は少ない／受給要件が厳しいというのは不公平感がある。	50代	扶養者無
社会を支える一員でありながら、あまりにも差がありすぎる。社会的弱者に追いやられている。インボイス制度なども含めて。	50代	扶養者無
仕事や暮らしていく上で最低限の保障はあるけれど、ライフステージ（出産、介護など）のピークでは不足を感じる	50代	扶養者無
運転資金も同様に必要な中、生活が厳しくなるから。	50代	扶養者無
国民健康保険の保険料がとにかく高すぎます。	50代	扶養者無
本当は厚生年金を払って年金受給額を上げたいが、法人化の複雑さで躊躇しているところ。現在の税金や社会保険の金額が高く、うまく法人化できるか不安。法人化せずとも希望者は厚生年金に入れる仕組みがほしい。もちろん企業折半にならないのは理解している。	50代	扶養者無
自分で会社を設立して社会保険に入ることもできますが、労使折半の両方を（実質的に）負担することになります。支払い金額と、実際にもらえる金額を比較すると「（損得勘定で考えるべきではないとはいえ）損だな」と思ってしまいます。とりあえず、・国民年金基金・401k・小規模企業共済・経営セーフティ共済には加入していますが「長生きしすぎるリスク」は不安に思います。	50代	扶養者無
保険料が高く、稼いでも手取りが増えず実感しているから	50代	扶養者無
会社員と比較して保険料が高い。その割には受けられる保障が薄く真面目に税金を納めていても不満が残る。	50代	扶養者無
自分が不慮の事故なので収入が途絶えたり 老後が心配	50代	扶養者無
将来が不安なため。社会保険制度が会社員有利になっていると思うから。	50代	扶養者有
老後の生活資金を考えると、将来の年金が少なくなり、どこまで老度資金としての貯蓄が必要か不安になるため	50代	扶養者有
負担が大きいことに加えて、2階建て部分が自己負担でカバーするしかないので、差が大きい	50代	扶養者有
自営業であっても会社員が会社負担分を除いて支払った額と同等の社会保険が適用されることが公平性の観点から必要だと思う	50代	扶養者有
エンジニアなどのフリーランスは経費が少ないため、いわゆるサラリーマン控除も無く、その上サラリーマンより社会保険が高額で年金の保証も低いというのは条件が厳しすぎると感じ、主に「高い」ということを訴えたいです。	50代	扶養者有
正社員と比較して保険料が高額に感じます。	50代	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスだと生活が守られない	50代	扶養者有
自分個人の責任で事業を行うので仕方ないと思うが、こういう面をもっと国がケアしないと起業しようとする人が減って、国に取って損失だと思う。	50代	扶養者有
健康だからこそ考えなかったが、自分が大病を患って今後の数年先も生きているかわからなくなった時によやくその差に愕然とした	50代	扶養者有
元々会社員だったため、比較してしまう。また売上が低い時も負担があるのは苦しい。	50代	扶養者有
会社員は健保、厚生年金は労使折半なのでサービスも充実しているので差額以上に格差もあるし労使折半を知らない会社員もすごく多い。詳細にお金の使われ方をもっと知りたいし発信してほしい！	50代	扶養者有
そもそもが社会保険料高すぎ。あと、年金の受給要件が会社員と比べて厳しいのは不公平	50代	扶養者有
会社負担分がなく、3号制度もないため	50代	扶養者有
正社員に比べると月当たりの収入の変動幅が大きいが、保障については自前で保険契約を結ぶほかないため。	50代	扶養者有
会社員のころに支払っていた社会保険料より明らかに高い	50代	扶養者有
社会保険料が高すぎるからどこでもいいからどっかの社会保険に入りたい	50代	扶養者有
健康保険について結核負担8万円は不公平極まりない。	50代	扶養者有
国民健康保険料が高すぎる、子供二人の健康保険料も私が払っているが三人でほとんど病院にもかからないのに高い、いっそのこと10割負担で良いので国民健康保険から離脱できたら良い	50代	扶養者有
厚生年金保険、健康保険組合の会社と従業員の負担 個人では自分が経営者のため仕方ない	50代	扶養者有
国民健康保険料の支払額が非常に高額（扶養の考え方がないこと、会社負担の考え方がないことが大きな理由。 傷病手当金がないため、万が一の就業不能時のために別途民間の所得補償保険に加入せざるを得ない。 遺族年金、障害年金の受給要件が厳しいことは知らなかった。家族がいるため万が一の際に非常に困る。	50代	扶養者有
国や各自治体が個人の開業や独立を推進しているにも関わらず、国保の問題は、大きな障害となっていると考えているため	50代	扶養者有
フリーランスなので	50代	扶養者有
ケガや病気は（大部分が）本人責では無い状態で発生するため、働き方の違いで支給、非支給が分かれるのは疑問がある。	50代	扶養者有
基本的に社会的な保証の仕組みは働く形態に関わらず平等であるべきと考えるし、受けられるサービスも同様で、負担も同等であるべきと考えています。	50代	扶養者有
夫婦とも国保の場合、世帯分を世帯主が払うシステムが困った。夫婦独立採算制なので。確定申告も片方が控除できない。	50代	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
国民健康保険は保険料の高さが、国民年金は受給額が少ないのもあるが制度そのものが老朽化していて信用できない。	50代	扶養者有
もうすぐ年金受給者になるが金額が少なくて将来が不安	60歳以上	扶養者無
厚生年金に比べて、見劣りする。	60歳以上	扶養者有
国民健康保険料は高いですね。ただ仕方ないから払ってます	60歳以上	扶養者有
約100万になり、やっていけない	60歳以上	扶養者有
スタートアップ健保のように、フリーランス健保組合を是非つくって欲しい。収入に対する国保料の割合が高い	60歳以上	扶養者有
個人事業主は会社員と比較して社会保険料が多い	60歳以上	扶養者有
社会保険料の支払いが厳しい	60歳以上	扶養者有
会社員時代と比べて扶養家族分や会社負担分が増えたのが切実だから。フリーランスも社会保険に加入できる選択肢がほしい	60歳以上	扶養者有
フリーランスの扱いが悪すぎる。保険料金額相当のケアがあるべき。	60歳以上	扶養者有
保険料の会社負担分が自己負担になるのは辛い。公費負担でもいいと思う。フリーランスの方が休業のリスクが高いが、相応の補償がない。	60歳以上	扶養者有
フリーランスの社会保険制度は、時代に合わせたアップデートがなされず、旧態依然たる制度のまま続いているように感じる	60歳以上	扶養者有
国民健康保険の上限にほぼ張り付いている納付額である。手術受けたこともあるが、年間通して自費で賅った方が、かなり少ない額となる。保険というより税金であり、虐待されている認識である。ITフリーランスは、チュウチュウ税を吸い取られるだけで、メリットが少ない。ぜひ、ITフリーランスのための健保を立ち上げてほしい。虐待され続けると、国に対する信頼感など全くなくなる。モラルハザードが怖い	60歳以上	扶養者有
保証される部分が少ないのだから、社会保険料はその分少なくするべきとは思うが、健康保険組合（大企業など）のような仕組み上の差分が非常に大きくなっていると感じている。	60歳以上	扶養者有
現在は任意継続で保険組合に入っているから	60歳以上	扶養者有

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
そのように何を指すのか曖昧ですが、困っていることと仮定すると単純に費用も増えるしリスクも増えるので大変です。	30歳未満	扶養者無
フリーランスのほうが高い割には制度が整っていないのは厳しいと思う。	30歳未満	扶養者無
事業主負担がないだけでも大きな負担なのに、取られるだけ取られてもらうものは少ないのは納得いかない。私の世代は果たしてどれだけ受け取れるかも不透明なのでなおさら払いたくない。	30代	扶養者無
女性の場合は妊娠出産で働けない時期が来た時、その間手当がないと無収入になるので、なかなか妊娠へと踏み切りがつかせませんでした。	30代	被扶養者
財源に限界がある事は理解できる。しかし、障害年金の受給要件が厚生年金(3級から受給可)と基礎年金(2級から受給可)とで差があるのは公平性に欠ける。	30代	扶養者無
報酬がそこまで多くないので、保険・年金の支払いがすごく大変です。	40代	扶養者無
社会保険自体が高額すぎるし、金額に見合う保証がほとんどない。	40代	扶養者無
働いているという意味では同じなのに、もしものときの保障が少ないのは不公平である	40代	扶養者有
障害になるのは会社員もフリーランスも変わらないのに要件が変わる理由が納得いかない	40代	扶養者無
なんの保障もなく、何かあったら自己責任。フリーランスや派遣といった非正規を都合よく使い、税金や社会保障だけは鬼のように持って行く。現行の法律や制度が弱小フリーランスを想定して作られていない。とにかく税や社会保障で支払う金額が多すぎる。	40代	扶養者無
企業の雇われて働く人は、何かあっても会社や上司に守られて責任は重くない場合も多いのに、すべての責任を負って働く個人事業主より恩恵を受けるのは納得がいかない。同じように保険料や年金を払っているのに、審査が厳しくなるのは不公平。理由が知りたい。	40代	扶養者無
すごく稼げている人と、そうでない人が同じ保険料であることが納得できない。国の補助も年々減って負担は増すばかり。また、傷病手当てもないので、コロナやインフルエンザひとつ羅漢してしまうと収入が途絶える。	40代	扶養者無
支払う金額が高い割には恩恵が少ないと感じている。支払う金額が高くなっているにも関わらず、受け取れる金額が減ってきている。	40代	扶養者無
社保加入時には健康診断なども充実しており、福利厚生もあったが、個人事業主は皆無。事業上の創意工夫をしているにもかかわらず、うまみが少ない。	40代	扶養者無
高いと感じるのは、シンプルに実際に支払っている金額が見えているので。どちらかといえば、会社員の社会保険制度の方がおかしいと思っている。	40代	扶養者無
特に社保に期待していないから	40代	扶養者無
企業側が支払う社会保険の労使折半の金額は、労働者に恩恵をもたらなくてかつ、どの様な事に使われているか不明なので、インチキ金儲けの利権化していると受け止めます。	40代	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
2階建てして支払うことに大きな負担を感じています。また、出産してから独立したのですが、出産前だったら被雇用者ではないので出産一時金も育児休業給付金もなく、かなり苦しい状態だっただろうと想像します。今の制度では、経営者やフリーランスは子どもを産む権利無しとされているような気がします。	40代	被扶養者
特に国民健康保険料が高く、正社員時代より収入は増えているが、税金額（社会保険料含め）が高いと感じている。	40代	扶養者有
各種給付金などがほぼ無く保証も最低限である事。その上に保険料が高額である事。	50代	扶養者無
国民健康保険が全額自己負担の上に、金額も非常に高い。それなのに、傷病手当金が出ないなど、負担ばかり重くて、メリットが少ない。	50代	扶養者無
フリーランスはやることによって、変わってくるので色々とする私には難しさを感じます。	50代	扶養者無
会社員以外での働き方に対するペナルティーのように感じる。差別的。	50代	扶養者無
会社員は半分を企業側が負担してくれるが、フリーランスはすべて個人負担なので、会社員との差が大きいのと感じる。また、その分も請求額に紙しなればいけないが難しい場面がある	50代	扶養者有
会社員と比較して社会保険料が高負担なのに、高頻度で起こり得るいざという時のセーフネットが貧弱で不安。	50代	扶養者無
国民年金は保険料免除制度があるが、国民健康保険には保険料の免除も軽減措置もない。また、雇用保険に加入できないので、何かスキルを身につけようと思っても全額自腹となり、教育訓練給付金をもらうこともできない。	50代	扶養者無
一番大事な時に保証が少ないことが困る	50代	扶養者無
親の介護の際、休業とまでいかなくとも仕事を減らさざるを得なくなり、収入も減った。年金は所得にかかわらず定額のため「免除」を選ぶしかなく、これも将来の年金が減ることになり不安が増す。一度断るとその後はなかなか仕事はもらえなくなる。自分が病気になった場合も同様。自身が選んだ働き方とはいえ、始めた当初と違い、仕事単価も下がる一方、インボイスも取引先からのやんわりな圧力で申請せざるを得なくなった。廃業がいつもチラつく。	50代	被扶養者
自己負担額が高い割に保証がない	50代	扶養者有
一部職種では、協会けんぽに加入できるのに、フリーランスで多い「WEB系人材」は、国民健康保険に加入せざるを得なく、保険料が高額であることに不満を感じる。また、フリーランスを顧問扱いにして、社会保険に加入させて、保険料を軽減できるというサービスも目にするが、法的にかなりグレーなため、利用したくない。フリーランスも社会保険に加入できる仕組みが欲しい。	50代	扶養者有
先月退職したばかりで給付金の利用イメージより支払う金額に意識が向くので	60歳以上	扶養者無
税金、保険料の負担が大きく困ってます	60歳以上	扶養者無
差違が激しい	60歳以上	扶養者無

Q4.フリーランスと会社員の社会保険制度の違いについて、困っていることを5つまでお選びください。

└Q4F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスと言っても、起業家・独立性の高い個人事業主ではなく、企業からの発注を受けて仕事をし、その報酬で生計を立てるという労働者に近い働き方をしている。ライフリスクへのセーフティネットが整備されていないことは、キャリア形成をしながら継続的に働くことを阻害する。これは、公平性の問題や働く者の権利上の問題だけでなく、企業にとっても社会にとっても損失である。	60歳以上	扶養者無
社会保険料の水準自体が高い。	60歳以上	扶養者無
業務委託収入によって、会社員の社会保険と比べて劣後する金額をカバーすることは到底不可能なため	60歳以上	扶養者有
年金よりも、国民健康保険料が高すぎると思います。1年間病院に行っていないのに支払う保険料があまりにも高すぎる。年金は仕組みがわかりづらい。国民年金、厚生年金とわけではなく、1階の基礎年金のみにして、2階の上積み分は選択できるようにすべき。1階は固定プラス所得の応じた金額。2階は固定でも良いと思う。国民年金だと2階部分が選択できないので不公平。	60歳以上	扶養者有

Q5.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
自分の所得や状況に応じて選択肢があれば良いなと思っている	30歳未満	被扶養者
現在は夫の扶養内でフリーランスとして活動しています。表面的には「保険料を抑えられて助かっている」ように見えますが、実際には不妊治療のために高額な医療費がかかり、自己負担が大きく家計への影響も深刻です。会社員であれば出産手当金や育児休業給付金といった制度に守られる場面も、フリーランスでは一切対象外で、治療や妊娠・出産に関わる経済的リスクをすべて自分で背負わなければなりません。さらに将来を見据えたとき、厚生年金に加入できないことで老後の年金額が少なくなることも不安の一つです。働き方の自由度を選んだ代わりに、安心できるセーフティネットを失っていると強く感じます。今後は「扶養内だから大丈夫」ではなく、フリーランスでも安心して医療を受けられ、老後も暮らせる制度が整ってほしいと切に願っています。	30歳未満	被扶養者
とにかく金額が高すぎる 年金に関しては収入額に応じた金額にするべき 現代の技術なら、前年の収入額に応じて金額を決めるのではなく、現在の収入額で支払い額を定められるのでは？	30歳未満	扶養者無
体調の面から、社員として働くのが難しいため、フリーランスをしています。しかし、フリーランスは経理、営業業務には料金が発生しなく、慣れない業務に働いていてもお金が発生しない時間が多くあります。そのため、研修含め同じ分、外で働いて社会保険に入った方がもちろん、稼げると思います。フリーランスが増えて時代が変わっているのに社会保険制度が変わらないのは不思議です。	30歳未満	扶養者無
今の所思いつかない。	30代	被扶養者
扶養に入っている・入っていないでフリーランスでも社会保険制度の加入や継続のやり方が大きく変わってくる印象があり、勉強しないと難しいので現状維持で放置してしまっている人が多い気がする。	30代	被扶養者
私は精神障害を抱えフリーランスとして活動しており、現行の社会保険制度には以下の課題を感じています。<TAB>1.<TAB>病気や体調不良で働けないときの保障が不十分<TAB><TAB>国民健康保険には傷病手当金がなく、収入が途絶える不安が大きい。<TAB>2.<TAB>将来の年金や老後保障が不安定<TAB><TAB>国民年金のみの加入では、老齢年金や障害年金の給付額が少なく、生活設計が困難。<TAB>3.<TAB>扶養制度や保障制度が制限されている<TAB><TAB>父の扶養から外れた場合の保険料負担増や、職種によって国保組合に加入できるかどうか不透明であったり、自身にあった組合を探さなければならないことも不安要素。こうした課題を踏まえ、フリーランスも会社員と同等の保障を受けられる社会保険制度の整備が必要だと考えます。	30代	被扶養者
扶養されている先の保険に魅力が大きいため、自分の収入がよっぽど増えなければ扶養から抜けるメリットがない。	30代	被扶養者
厚生年金がなく、将来の老後資産に不安を感じている。自助努力でお金を貯めることや資産運用をしているが、会社員の年金制度には劣るので何とかできればと常々感じているが、フリーランスの報酬の安さもあるのでそもそも手取りが増えなければならぬと思っている。	30代	被扶養者
フリーランスの社会保険制度の在り方やフリーランス法の問題などまだまだ漠然と課題が多いように感じる	30代	被扶養者
老後やけがなどで働けなくなったときの不安が大きい	30代	被扶養者
全体的に高い	30代	被扶養者
社会保険料が高すぎ、高齢者への給付が手厚すぎます。人口動態を鑑みてもこの制度が維持可能だと到底思えません。国民皆保険や高額医療制度、障害年金等の重要な制度を維持するためにも、優先度の低い給付の見直しが必要だと考えます。	30代	被扶養者
業務委託なので将来の保証がなく困る	30代	被扶養者
社会保険制度に無理があるほど保険料の高額化が進んでいる。任意にしてほしいと思うことがある。NISAや個人年金での運用で良いのでは思う。	30代	被扶養者

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
年金では老後の生活はできないところ	30代	扶養者無
今の加入状況でいいのか、また支払いに対して継続できるか不安がある。	30代	扶養者無
とにかく保険料の負担が重い。定収入（非課税）扱いになって年金の支払いは免除されているが、年ごとに収入が大きくかわるので今後どうなるかわからない。	30代	扶養者無
月々主運輪卵が変わるので税負担が大きい	30代	扶養者無
国保・国民年金ですが、1号は払う金額のわりに3号と比較してメリットがないのが気になっています。現行の制度は、少しでも将来年金が増える厚生年金に比べて、「これなら扶養内に抑えておこうか」という結論に達しやすい仕組みになっていると思います。少しでいいのでメリットがあると、3号から1号の選択を促進（または1号から3号の選択を阻止）できるのではないのでしょうか。	30代	扶養者無
とくがない	30代	扶養者無
フリーランスであっても社会保険(会社員と同等)に加入できるようにしてほしい。	30代	扶養者無
将来もらえる年金額が低すぎると思う。最高で6万円ほどではとてもじゃないが暮らしていけない。だったら、保険料を低くしてくれたほうがいい。その分、自己負担で別の保険や投資などで老後の蓄えができるので。	30代	扶養者無
収入が減っているので、社会保険料が高くこのまま払っていけるのかとても不安。また、自分が年金受給対象年齢になったときに、生活していけるだけの年金がもらえるのかがとても不安。	30代	扶養者無
働き続けなければ一切の収入がなくなる　と感じている点	30代	扶養者無
将来の不安。	30代	扶養者無
やはり厚生年金の代わりとなる様な制度などが欲しいと感じる。自由はとても働きやすいが、先の年金金額に関して不安が残る	30代	扶養者無
結局、今も将来も安心した生活はできないと思っている。	30代	扶養者無
フリーランス協会で「文芸美術国民健康保険組合」のような制度があれば加入したいと考えていました。しかし、職種の関係で国民健康保険しか選択肢がなく、厚生年金保険並みの保障が受けられないため、今後どのようにしていくべきか悩んでいます。	30代	扶養者無
年度区切りでの算出なので必要になったときと収入にアンバランスな自体が起きる心配	30代	扶養者無
低収入だと支払いが難しい場合も多いため、そもそもの年収を上げなければならない。年金についてはiDeCoなど自身での貯蓄・投資も活用したいとは考える。	30代	扶養者無
稼ぎに対しての年金が高すぎる。健康保険は所得によってそれなりになるのであまり気にならない。 今後しばらくはたくさん働けないと思うので、配偶者の扶養に入りたいと考えてしまいます。	30代	扶養者無
扶養している家族の分の保険料の支払いがあるので会社員に戻るか悩んでいます。	30代	扶養者有
配偶者の収入ありき	40代	被扶養者
特になし	40代	被扶養者
扶養されている身として、収入の壁を意識しています。	40代	被扶養者

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
------	----	------

今は家族の扶養内での活動を考えているので不安はないが将来的に撤廃されていく流れともきているのでその部分はとても不安です	40代	被扶養者
フリーランスで大きな金額を得ているわけではないので、加入しやすく最低限の保証が得られるものに入っています。年金に関しては、減免を利用して払ったりしていますが、追納したとしても雀の涙だと感じています。少しでも年金受給額を増やしたくて付加保険料も検討しましたが、払いたい場合は満額払った時のみ対応など、ハードルが高いと感じています。可能なら支払い金額を自由に設定できたり、支払える時に気軽に何ヶ月分か払えるなら助かります。また、追納したいと思っても10年しか遡れないのは常々疑問に思っていて、払いたい人がいる場合は制限を撤廃できるようにしてもらえたら、定年時には満額の給付にできるのではないかと思います。	40代	被扶養者
扶養に入っており、現時点での課題はない	40代	被扶養者
私は夫の扶養内でフリーランス活動をしています。正直、この恩恵を受けれていて本当にありがたいのですが、パートやアルバイト雇用者には働き制限につながります。私も社会保険の扶養を超えて働くようになったら保険料のことを真剣に考えないといけなく、保険料の負担が大きくなると固定費が増えるので毎月色々な支払いに追われる感が出てくる上に税金もあるし、フリーランスは経営者であるので、お金のリテラシーを高めないでフリーランスとして働き続けるのは厳しいと感じている。	40代	被扶養者
やはり月々の保険料が高い	40代	被扶養者
とにかく情報が足りなくて知らないことが多いし 保険料を払うために仕事をしていたいわけでもない	40代	被扶養者
繰り返しになるが、扶養から外れると急に多額の支払いが発生して、「何のために働いているのか」とモチベーションを失いやすい。これだけ物価が上がっていて（特に食費）、それが反映されない仕組みがそもそもおかしいのでは？と思う	40代	被扶養者
3号から1号へ切替の条件が不明確	40代	被扶養者
フリーランスだからといって仕事ができない産前産後や保育園に預けられない育休期間の収入を保障してもらえないのが本当に不安です。	40代	被扶養者
医療や介護等様々な面で万が一に備えた補償がない中でフリーランスとして働くのは不安がある。	40代	被扶養者
所得がふえれば社会保険料負担が増えるため、個人事業主としては計画的な事業投資がしづらい	40代	被扶養者
とにかく保険料が高すぎる。扶養の壁を越えられない。超えて稼げるようになりたいが、子育てを犠牲にできない。	40代	被扶養者
扶養外れて働きたいが、ある程度の収入がないと手取りが減ってしまうため、仕事をセーブしている。	40代	被扶養者
高い	40代	被扶養者
夫の不要を出るか出ないかとかよくわからないのが辛い	40代	被扶養者
自己負担料の高さ	40代	被扶養者
まだ扶養内だけだそろそろ加入しなきゃと思っている。売り上げがあまりないから働き損な気がする	40代	被扶養者
年金は免除されやすく現在も払っていない。なんなら将来いらないから今まで払った分を返して欲しい。医療保険は病院行っていないから本気で払いたくない。強制的に払わせるのを辞めてもらいたい。	40代	扶養者無
フリーランスも収入はバラバラだろうからみんなにいい制度を作るのはむずかしかったです。	40代	扶養者無
会社員と比べて社会保険料が高額であるし、自分自身の所得が低くても、配偶者の所得が人並みにあると、社会保険料が高くなってしまう。現在、所得のおよそ半分が社会保険料や税金などで引かれており、がっかりしてしまう。	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

< 年収200万円未満 >		
自由回答	年代	扶養状況
会社員として働くことが向いていないからフリーランスとして生きているのに、社会保険が会社員よりも負担が大きいのは理不尽だと感じています。	40代	扶養者無

高すぎる	40代	扶養者無
支払いが義務で、恩恵を受ける権利がない。	40代	扶養者無
この国の根本的な制度がおかしいと思うので、一から作り直したほうが良いと思う。	40代	扶養者無
年金保険は平等であってほしいと思う	40代	扶養者無
事業の収入が十分に得られない間は社会保険料の負担が大きいため、非常勤の職を得て収入を確保しようと思う。	40代	扶養者無
高い	40代	扶養者無
フリーランスになった際、任意継続、国保加入、扶養に入る等の有利不利がある選択を迫られること。間違えたら取返しがつかないこと。	40代	扶養者無
支払額の負担率が高すぎるため、収入を増やしていきたい。	40代	扶養者無
フリーランスになったことで、保障や給付が大きく下がることは、大きな課題です。安心して仕事に集中できる環境を平等にもうけて欲しい。	40代	扶養者無
年金をどれだせ積み増せるか 傷病保険への加入	40代	扶養者無
社会保険に関する費用がとても高額なので困っています。この調査の中の、前の箇所の設問にも記載しましたが、保険料徴収の仕組みと給付される仕組みの両方を早く改革していただきたいです。	40代	扶養者無
主に金額	40代	扶養者無
不安しかない)	40代	扶養者無
給与所得者に比べ、将来の備えが必要だという意識は常にある。	40代	扶養者無
年金保険料が高い点	40代	扶養者無
フリーランスとしてでの課題感というわけではないが、日本国籍外の外国人に社会保険制度を使わせるのは問題だと感じる。また、政治家が予算を不透明でガバガバな使い方をしているくせに「保険料に使う為のお金が足りない」という内容も疑問に感じる。それで、ただでさえ高額な保険料が圧迫されてはかなわない。	40代	扶養者無
国民保険料、年金がかなり圧迫しているため、早くフリーランスにも社会保険の適用をしてほしい	40代	扶養者無
年収が低い内は負担が大きすぎて不安しかありません	40代	扶養者無
社会保険に入る為に法人化すると国税、地方税の支出が大きくなり、国保、国民年金のままなら税金は少なく将来の受取額も少ない。どちらをとるかずっと考えている。	40代	扶養者無
今までは国保と国民年金（＋付加年金）が払えてたらいやと思っていたけど、昨今のインフレや社会や将来への不安を思えば、フリーランスが安心できる制度を国に少しでも保証してほしいと思ってます。	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
収入が少なくても保険料を払いたくても払えない。フリーランスは不安定なので支払えなくなることも多いので、支払えない時に利用できる制度を拡充してほしい	40代	扶養者無
将来、年金がどれほどあるのか不安です。個人年金を掛けていますが、それも微々たるもの。収入が途絶えたら支払えなくなるかも知れず、考えるほどに不安と心配が尽きません。フリーランスにも社会的な枠組みの保障をもう少し広げてもらえたらと思います。	40代	扶養者無

所得が少ないために十分な将来設計ができていない	40代	扶養者無
協会けんぽで使えた健康診断のプランが使えず、自治体が提供する割安の健康診断を使っているため、細かい検査をどこまで自分で選んでやるべきか迷う。	40代	扶養者有
保障が低すぎる	40代	扶養者有
収入が少ないがこれから頑張って一定の年収まで上がれば、逆に負担が大きくなるので、毎年不安になる。	40代	扶養者有
フリーランスで働けば働くほど老後は会社員と比べて全く良いことがない、この状況を変えなければ長く働く労働者は確実に減り続けると思います	50代	被扶養者
特に無し	50代	被扶養者
安いほうが助かるが、バンバン払えるくらい稼ぎたい	50代	被扶養者
いずれ開業届を出すので、税金でほとんど持っていかれてしまうと、相当儲けなければならない事になり、主婦が自己実現の為に頑張って店を持つ夢は全く達成されない。主婦は主婦のまま一生を過ごす人が増えるのでは無いかと思う。(空の巣症候群の女性が益々増える)	50代	被扶養者
子供たちを扶養に入れる形で健保加入したい。健保だけ見ると、まるで無職、働いていない人間と思われる。	50代	被扶養者
保険料の支払いが生活を圧迫する要因の一つです。その上、将来受け取る金額が少ないのではないかと不安です。会社を守ってもらい会社員と違って、フリーランスは自分で自分を守る必要がありますが、国にもフリーランスをもっと守ってもらえると安心して働けます。	50代	被扶養者
自分での対応が十分できる収入がないことが問題	50代	被扶養者
フリーランスの保障は費用の割に少ない仕事の継続がないかもしれないのに事前にセーフティネットを用意できる選択肢が少ない	50代	被扶養者
世帯主でないため、社保は引き落としもできないが、手紙などで引き落としできると謳うのはやめてほしいです。フリーランスの方が毎日仕事として誠実に働いていると思います。	50代	被扶養者
将来の年金支給額がいくらになるか不安	50代	扶養者無
行政が医療財政や年金財政の将来的な見通しについてきちんと検証しているのか疑問である。	50代	扶養者無
自分で働く人に対して制度は不利。結局サラリーマンがお得ですよ、と進路を狭められているような気がします。	50代	扶養者無
払い損にならないでほしい	50代	扶養者無
医療保険料は利用に応じて変動する（病院利用無しで安くなるなど）仕組みにすべき。	50代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
請負業務上で怪我を負った時に、労災の制度がないので治療費が全額自己負担になってしまうことには不安を感じています。 (私自身が怪我を負ったのではないですが、過去の現場でそのようなことがありました)	50代	扶養者無
夫の扶養内で仕事を続けるほうが楽になるけど、フリーランスは月々の収入にばらつきがあるので上手にコントロールできない	50代	扶養者無
収入に関係ない保険料なので、収入が低い時は保険料払うために食費を削ったりして本末転倒な気がします	50代	扶養者無
保険料額が多い。働けなくなったときの保障がないのはとても不安。	50代	扶養者無
将来に不安がある	50代	扶養者無

特に年金に関しては何歳でもらえるのか、本当にもらえるのか、いくら貰えるのか（どこまで金額が下がってしまうのか）等など不安要素は常にある。	50代	扶養者無
フリーランスは異端なので保障制度はなくて当たり前という見方をされているように感じる	50代	扶養者無
とにかく高い。	50代	扶養者無
医療保険については、収入に応じて保険料が変化するため、ある程度安心できると思う。年金については、受給できる金額が少なすぎるように感じる。	50代	扶養者無
50代、単身なので自分の老後が心配です。これから体力・気力も低下していくと考えると、いつまで健康でいられるのか不安になります。収入も自分一人が生活できるくらいしかないので、社会保険が充実してくれると嬉しいです。	50代	扶養者無
支払いの負担が大きすぎる	50代	扶養者無
保険料が高い！	50代	扶養者無
そもそも社会保険制度そのものが複雑で、人それぞれなので、そもそもの概要を理解できていない人が多いと感じる。	50代	扶養者無
年金保険と医療保険、統合して運用してほしい	50代	扶養者無
多少負担が増加しても、保障を増やしていただきますとありがたいです	50代	扶養者無
保険料負担が大きすぎる。所得が下がった分が保険料所得割に反映されるのが翌年の秋では遅すぎる。	50代	扶養者無
国民年金保険料が収入額に関係なく、原則固定されているのはなんとかしてほしい。	50代	扶養者有
生活苦になる上 確実に将来もらえるかも不透明 これでは不安・不満しかない	50代	扶養者有
制度が判りづらい	50代	扶養者有
現在、シングルマザーですが娘が来年18で成人のタイミングでフリーランスになりたかったのですが、医療費含め学費のこともありフリーランスなり、国保を払っていける自信がなく今の職場でモヤモヤしています。年齢も重ね体力も不安をかかえて生活していく中で老後の資産作りや今後の自分の生活がまず不安です。医療保険や年金を払っていけるのか病気や怪我で仕事できなくなり払えなかった場合はどうなるのかなどどう、クリアしていけばフリーランスになれるのか今後の課題です。	50代	扶養者有
保険料が高すぎます。	60歳以上	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
いい制度だとは思いますが、収入との比例度合いが高収入者有利に感じるため見直してほしい	60歳以上	扶養者無
収入が安定しないわりに、保険料は会社勤めと変わらない。国は起業やスタートアップを推すわりにサポートする仕組みがない。	60歳以上	扶養者無
概ね会社員で定年まで働いたので、これまではあまり問題なかったが、定年後の保障の備えが金銭的に難しい気がします	60歳以上	扶養者無
老後の心配をなく過ごせる補償が必要だと思います。	60歳以上	扶養者無
特にない	60歳以上	扶養者無
なぜこれほどに会社員と自営業者の間に差をつけたのだろうか。戦後すぐの頃は皆生きていくためにいろんな事業を始めた。いまの大企業のいくつかもそこが出发点ではないのか。なぜ「会社員安泰」の風潮になったのだろうか。「一億総会社員」の社会の風潮が、自営業者の補償を考えなくなった原因のような気がする。	60歳以上	扶養者無

現在62歳なので年金を繰上げるかどうかで悩んでいるし、繰り上げてもやっていけるのかと思う。	60歳以上	扶養者無
---	-------	------

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
病気をしたので傷病手当が無いのが辛い。	30歳未満	扶養者無
保険料の負担が高すぎる。医療保険は仕方ないにしても、収入が不安定な中で、年金に強制加入させられるのは納得いかない。	30歳未満	扶養者無
医療保険は保険料高い、受診費も高いで病院行けない 病院行けない→重症化→やっと病院→治療費高いのループになってそう 年金は若い人でも障害年金があるが 審査が厳しく支払われない現状がある 年金は若い人は損する確率が高い(支払額と受け取り額を見た時、収支がマイナス、受給年齢引き上げ、受給前または受給直後に死亡)	30歳未満	扶養者無
将来の年金額が不安	30歳未満	扶養者無
支払う額は簡単に下がらないのに年金受給額はどんどん減っているのは筋が通っていない	30歳未満	扶養者無
年金はもらえないものとして考えている	30代	被扶養者
健康保険料が割高である。年金については課題感はありませんでした。	30代	被扶養者
未来の担保が何も無いので不安ではあります。健康第一でいいと…	30代	被扶養者
特にありません	30代	扶養者無
・国保 傷病手当金がないこと。 ・年金保険 自分の老後に、自分がもらえる年金がとても少ないこと。 国保の保険料は自分の病院受診等に関して自己負担額が少なくなるメリットがあって支払いに納得できるけど、年金保険は自分のためではないのに高額で負担が大きく、今後、少子高齢化の影響でさらに金額が上がっていくのではないかと不安もある。年金制度に問題があると感じており、「若い人が高齢者を支えるために」年金保険を支払うのではなく、強制的に自分の老後資金の積立とするほうが自分のための支払いとして高額でも納得できる。	30代	扶養者無
会社勤めで、社保に加入している人はわ子どもの分の保険料不要、会社が半分負担と、国保と比べて優遇されることが多くて羨ましい。社会保険に入りたい。	30代	扶養者無
受給年金が少なることで、自分の職業人生を100年で設定して働き続けたいといけない。フリーランスの女性の場合、どうしても出産と産休期間は仕事ができないので、せめてここだけでもカバーできる制度ができてほしい。基本的な国民保険で医療費がカバーできる点は逆に信頼しているので、女性特有に必要な部分は補償費がほしい。	30代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
つねに背水の陣のような気持ちで仕事をしているため、フリーランスでも傷病・失業手当のようなものがあると気持ちの安定ができると思う。	30代	扶養者無
社会保障の負担が重すぎる。またとくに九州は社会保険を折半できるグループ（文国保等）がなく困る。選択肢さえない。せめて地方ごとのフリーランスが入れる健保的なものを作って欲しい。今の制度はあまりにも不利	30代	扶養者無
働いていることに変わらないのでやはり社会保険制度はもう少し幅を持たせて自分で選択できるように制度を見直してほしいです。	30代	扶養者無
収入が上がるにつれて負担が重い。かと言って制度が充実しているわけでもない。	30代	扶養者無
フリーランスは社会保険制度が充実していないのに、会社と折半できず本人負担が多い割に老後や就労中に保証が少ないため、法人化しないといけないのではと思っています	30代	扶養者無
収入が安定しないから年金の支払いが高いなと感じる時がある。営業先への移動中に事故したら、どうなるんだろうという不安がある	30代	扶養者無
法人成りしない限りは、全ての負担が自分にのしかかってくると感じています。	30代	扶養者無

さまざまな知識が必要となるため、ある程度勉強しても結局今のままでいいのかどうするべきなのかまで考えることができていないこと。	30代	扶養者無
出産手当金がないこと	30代	扶養者無
現在健康なのに、年間何十万と払っている。将来に対しての保険料ではあるが支払った分に対しての、価値があまり対等とは思わない	30代	扶養者無
社会保険制度高く、稼ぐ気がなくなる。	30代	扶養者無
金額が高すぎる	30代	扶養者無
物価スライドに対応できる年金制度を作ってほしい。	30代	扶養者無
高すぎる	30代	扶養者無
医療は受けられているので、不満は特にない。フリーランスの状態での出産・育児についてはかなりハードモードなので、もう少し手厚くしてもらえたらもう一人産める。	30代	扶養者無
何か丁度いい保険が無いか探している。	30代	扶養者無
フリーランスかつ、薬剤師のパートをしています。医療に関しては、崩壊しつつあると感じています。また、年金は税金だと思って、確定拠出年金と積立ニーサ、暗号資産の積み立てをしています。	30代	扶養者無
保険料が高い	30代	扶養者無
全額自腹なので毎月の支払いがきつい	30代	扶養者無
今のところはありません	30代	扶養者無
妊娠・出産の可能性のある世代の女性にとっては、金銭面を会社員と比べると妊娠や出産を考えたときにフリーランスとして働くメリットがあまりないと感じる。一方、出産後の育児においてはフリーランスのフレキシブルな働き方はメリットになる可能性が高いので、そのギャップをうまく埋められる制度や仕組みがあるといいのではないかと思う。	30代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
何をしたらいいのかわからない。国保から社保に変えた方がいいのか。どこに入った方がいいのかわからない。何かそういうセミナーがあったら嬉しい。オンライン希望です。	30代	扶養者無
グレーゾーンで社保に加入しているため、ITフリーランスだけが加入出来る団体があったらいいな	30代	扶養者無
会社員同様出産手当・育児手当があった方が良く、年金額も受け取り額の引き上げをした方が良く思う	30代	扶養者無
老後の給付金が間違いなく足りないこと。	30代	扶養者無
社会保険制度を含めて法人化の検討もしているが、経理を雇う余裕もないので、法人化に際して経理業務の増加の懸念がある。	30代	扶養者無
フリーランスでも会社員でも、将来どうせともに貰えない年金に支払い続けるのが時々馬鹿らしくなる（現在のシニアの分を払っているのは理解しているが）。毎回毎回フリーランスが「税金払ってない」風潮になりがちなのもウンザリ。	30代	扶養者無
出産や病気等で働けなくなった時も一律でルールに従って払い続けなければいけない。人口減少する日本においてこの仕組みでは国民負担が増大するばかりで根本的な構造改革をしてもらわないと困る。	30代	扶養者無
社会保険に加入できないので、備えが薄いとは思う。ただ、民間の保険に多くを費やすのも無駄な気がするので、投資や一定の貯蓄で備えるようにしている。	30代	扶養者無

厚生年金に入れない。厚生年金を支払える収入がない。そもそも仕事を取りづらくなっている。健康上の問題から在宅ワーク・フリーランスしか働けない人間への補償、社会制度が必要だ！先の回答でも述べたように、医療の診察を10年継続していると同時に確定申告も10年行っているとか誤魔化しの効かない要件を決めれば不正も無いと思う。早い、フリーランス救済法を求めたい！	30代	扶養者無
年金保険が高いと感じていて、自分たちの時にもらえるか負担である	30代	扶養者無
個人事業主として社会保険の制度に不安があったため、法人成りをして協会けんぽに変更した	30代	扶養者無
受け取れる年金が少ない	30代	扶養者無
国民健康保険の所得が上がれば上がるほどどんどん高くなる仕組みが辛くて保険料が定額の国保組合に加入しました。国保組合に入る懸念点は所得が下がったとしても定額になってしまうことでしたが、まさに加入した1年目に妊娠が発覚し、所得が減ったため不安な気持ちになっています。せめて子育てに関する手当を正社員にだけ充実させてフリーランスにはかなり手薄な制度のみという状況がとてもひどいと感じておりもうすこし配慮が欲しいと思います。	30代	扶養者無
収入が不安定なため支払いがづらい	30代	扶養者無
老後に対してや何か病気をしたときの生活が不安	30代	扶養者有
そもそも年金は今後貰える額も減っていくと思われるし、不安しかない。	30代	扶養者有
どんな働き方でもある程度は保証があったらいいと思いますが平等では無い部分、きちんと使われるのが不安感があるので信頼できない部分があります。もう少し簡素化してわかりやすい方が良いと思います。	30代	扶養者有
保険料を抑えるために収入自体を抑えたりすることがある。その選択肢があるのもフリーランスのメリットだが、働ける人間が働き控えをすること自体は全体としてはいいことではないと考える。働き控えの起きうる仕組みを改善できたらいいのと思う。	30代	扶養者有
手仕事をしていて、体は仕事道具。40代で不調が出てきて体が壊れないよう必死です。壊れる前の予防として、運動やマッサージなどは会社員より切実な物なのに、社会にはそういうことへの理解やサポートはない。	40代	被扶養者

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
扶養内で所得をおさめている方が一番得なんじゃないかという結論を出して働き控えをしているが、それでは事業が発展しない。でも扶養から出るにはもっと高額を稼がないと損をする、という国の制度のせいでなんだかアンバランスな気持ちでいます。	40代	被扶養者
社保、国保、扶養全て体験してきましたが、厚生年金以外では先行きが不安なのは否めない	40代	被扶養者
年金は圧倒的に足りないと実感している。医療保険は基本充実している印象。しかし入院すると保険が効かない部分での出費が多いので、働けなくなった時の国からの保証が全体的にもう少し手厚いとありがたい。	40代	被扶養者
会社員なら守られているが、フリーランスだと享受できない面が多すぎて、自分にあった働き方がしにくい	40代	被扶養者
会社員の時と同様に、同じ額、同じ補償内容で個人事業主も安心して加入できるようにしてほしい。	40代	扶養者無
払ったことがほぼないのですが国保に入っている罪悪感があります。	40代	扶養者無
傷病手当がなく、年金支給額が少ないため、働けなかった場合や将来的に何歳まで仕事をするか、不安を感じる。	40代	扶養者無
老後、ちゃんと支給されるかが不安ですね。	40代	扶養者無
会社員からフリーランスになった1年目のあらゆる税金の負担が多すぎて、フリーランスになることを人に勧めにくいこと。	40代	扶養者無
国保代が高いので、雇用をされることも目指している。	40代	扶養者無
売り上げがしっかりあげられれば現状でも問題ないが売り上げが上がらない時こそ不安	40代	扶養者無
支払いが高すぎる。医療はもっと自己責任にしてほしい。	40代	扶養者無

フリーランス人口が増える中、保険制度のアップデートがほぼされていないことにまず不満がある。	40代	扶養者無
所得に対しての負担額が大きすぎる（特に国民健康保険） 国民年金の受給額だけでは老後も死ぬまで働き続ける必要がある	40代	扶養者無
年金の受給金額が支払い額に対して同等でもらえるかどうか	40代	扶養者無
病気やケガをしたときの保障。	40代	扶養者無
所得に応じた金額にしてほしい。	40代	扶養者無
スキルアップの為に散在しているが、今のうちにしっかり貯めておかないと大変なことになるのが目に見えてはいる	40代	扶養者無
医療については入院保証など個人で契約できるものがあり、日々の通院などでは国保で十分だと感じます。国民年金に関しては不安しがなく、きちんと支払った分が支払われるのかさえも分からない状況なのでどうにかしてほしい。現状個人でどうにかするしかなく、個人年金等もかなり負担感がある	40代	扶養者無
国民健康保険の保険料は掛け捨てなので、もう少し安くなると本当に助かります。	40代	扶養者無
暮らしに精一杯で将来にまで目が向けられないできたけど、収入が増えてきた今改めて考えたい	40代	扶養者無
フリーランスの場合、売上は結局経費や生活費に行くわけで、（イメージの話だけど）手元にあまり残らないので、家計に入れる（会社員なら給料）分も「会社の利益」みたいな扱いになるのが、感覚としてちょっと不満です。「売上30万円」といっても、経費と生活費になるわけで、そこからさらに多額の社会保障を抜かれると、本当にきついです。	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
知人に、定年まであと数年間だからと自分自身に鞭を打って、体を壊してまで会社員として働いている人がいます。理由を聞くと、厚生年金のためだといって、休みも取れず必死で働いています。このような状況を鑑みると、フリーランス、会社員どちらかでの活動云々の前に、国の社会保険制度が、旧態依然としており、そのあたりをまずは抜本的に変えていただかなければ、そもそも誰もが安心して暮らせる老後を迎えることができるとは到底思えません。会社員、フリーランスの垣根をとって、社会保険は一律所得に応じて一人一人が負担するのが現実の世の中にあるのではと思います。そのうえで、働き方をフリーランスにするか会社員にするか、会社をおこすかなど、いろいろな選択肢を出産や介護等の人生のフェーズに合わせて柔軟に変化させて、働き続けることができる社会こそが、人生100年時代に求められているのではないかと思います。	40代	扶養者無
老後や病気になった時が不安でなりません。	40代	扶養者無
二重払いになった月の分を返還してほしい	40代	扶養者無
詳しく知ってる人や団体に繋がれない限り、社会保険制度の穴のふさぎ方を1人で考えて気づき、行動しなければならないのはしんどい。社会保険のまえに業界団体や地域の窓口がもっと身近にないと、課題があっても変えられないと感じる。フリーランスも、なれ合いは嫌いでも必要な連帯はできるはずなので。	40代	扶養者無
厚生年金に代わるものがないこと	40代	扶養者無
制度の複雑さにコストがかかりすぎているように感じます。個人的な損得よりも自由に多めに納付するような制度になると良いと思います。	40代	扶養者無
せめて時間で拘束される準委任契約については、従業員と同等の保証を雇い側、または仲介側がしてはいいのではないかと、思います。	40代	扶養者無
フリーランスとしての収入が少ないため保険料の支払いに苦労しているが、将来の給付額は多くないと予想している	40代	扶養者無
月額3-4万くらいで健康保険と雇用保険と厚生年金的なものが提供されれば…と感じている	40代	扶養者無
同じ現役世代なのに将来の不安について大きく差があることに憤りを感じる。	40代	扶養者無
年金は払っているが、自分の加入形態や年齢ではほとんどもらえないと感じている。医療保険は充実していると感じる。	40代	扶養者無
病気やケガで働けなくなった時にどうするのか、また年金も不十分なのではと思うと老後が心配です。どこかで会社員になることを考えなくてはならないのかと思うと、結局働き方の心地よさを犠牲にしなければいけないのかなと暗い気持ちになります。	40代	扶養者無
年金は積み立てという観点から仕方がないが、医療保険は収入に応じてもう少し減額してほしい。	40代	扶養者無
年金は国民年金だけだと不安なので、別で積立年金をやっている。将来について常にお金の不安は尽きない。	40代	扶養者無
病気になったら収入が0円になってしまうこと。	40代	扶養者無
将来貰える年金額が少ないので不安。	40代	扶養者無
仕組みがよくわからないし、勉強する機会もない	40代	扶養者無
とにかく国保の負担感が大きい。年間200万円の収入（控除や経費除く）に対し、30万ほどの国保を支払っている。それに国民年金、消費税などもろもろ支払うと手元に残るものが本当に少なく、フリーランスとして働くのは先がないと思わざるを得ない。	40代	扶養者無
社会保険や税金の負担が大きく、支払っていても受診を控えようという気持ちになる。しかし、病気・ケガをして働けなければ即収入減となる。年金保険も払ってはいるが、将来貰える額はそれだけで生活できる額ではなく、死ぬまで働かないといけなのかな、でもいつまでこの働き方ができるのかな、と先々への不安は尽きない。	40代	扶養者無
病気や怪我。民間の保険に加入してはいる	40代	扶養者無
特になし	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
社会保険は累進制でないため、今後増えるであろう売り上げがないフリーランスにとっては厳しい。	40代	扶養者無
年金保険に関しては、就労格差はあるものの上乗せ制度が比較的わかりやすく、フリーランスにも国民年金基金やiDeCoといった税控除のついた「準公的」とも言える選択肢がある。それに比べて医療保険は、最低保障水準もわかりづらく、一国民としての扱われ方の差に疑問が多い。またその差を埋めようとする公的な制度も見当たらず、選択肢もない。	40代	扶養者無
怪我、病気をした時に民間の休業補償保険に加入していないと支払いが出ない。 子供を産みたくても給料の心配をせずに安心して休めないため、産後すぐに仕事を始めて、老後に身体への負担がでないか心配。	40代	扶養者無
経済的負担	40代	扶養者無
障害年金は絶対だれでも該当する可能性がある。加入している保険によって区別をつけるべきではない。ただでさえ弱者となるのに、国から差別を受けているも同然です。	40代	扶養者無
とにかく高い。ほとんど病院にいかないのに保険料ばかりとられる。受給年金も多くしてほしい	40代	扶養者無
厚生年金のような制度に入れない点が、とくに課題と感じます。国民年金基金のような制度はインフレに極めて弱いため、貯金の代わりにしかならないように感じている。	40代	扶養者無
報酬は色々な理由や関係性で割り引かれ、フリーランス110番に安い報酬のことで相談しても、相場がわからないと言われておしまい。なのに年金も健康保険と必ず支払わないといけなものはきっちり取られる。そして高すぎる。本当にこれは担税力で取っているものか。生活がギリギリで食べ物も減らし、税金や年金等を支払っている。そしてインボイスで少ない売り上げ(消費税分以上に割り引かれる場合有り)の中から消費税まで納税させられる始末。しかも姑息にも自ら選択したようにしている。実際インボイスに登録しないと仕事をもらえなくなるであろう。税金や社会保障費を強制的に取るならば、個人事業主でも企業と平等に対等に商売をできるように法整備と取り締まりと、罰則を強化してもらいたい。	40代	扶養者無
記載済み	40代	扶養者無
国の運用がいまいち信用できないので、フリーランスが加入できる信頼に足る民間企業の保険があれば、月額3000円～5000円ほどなら加入したい。あるいは500円から加入可能みたいな制度。	40代	扶養者無
会社員は傷病手当や有休があるので、病気や怪我をしてもある程度の収入を約束されています。フリーランスは「休む＝収入」が減るので、健康チェックはあとまわしです。そのために医療保険にも加入して備えていますけど、通院のために有休を使える会社員はこまめな健康管理ができていいなと思いますね。これは社会保険制度というより、自分の働く時間の問題ですね。ただ、自由に見えて自由でもないで、自分の健康維持のためのコスト負担が会社員と違うなと感じますね。	40代	扶養者無
ベーシックインカムに統合 衣食住の最低限度を人間として受けるべき。これだけ経済発展している。さらに、今後、AI等で労働は少ない人で回せるのなら、労働時間、GDPを上げ続ける考えを転換すべき？複雑すぎる社会保険の仕組みに、どれだけのコストをかけているのか？シンプルにすべきで。富の再分配機能をスッキリしたい。	40代	扶養者無
老後の備えが不安。ただ、フリーランスの場合、どこからが「老後」なのかも曖昧。年齢を重ねても収入が得られるような働き方や仕事を若いときから自分で準備しておく必要があると考えている。今の年金制度はまったく当てにならないと考えている。	40代	扶養者無
国自体が会社員でいてほしい感じの制度が多く、フリーランスとして働きたいが、税金などの問題で、会社員に戻る人も多い印象があります。社会保障制度のことを多く考えなくてもいいくらい、稼げるように模索しています。	40代	扶養者無
所得補償がないのをどうカバーするか現在進行形で検討中です。支出をあまり増やせないで民間保険もなかなか厳しいのが現状です。	40代	扶養者無
いままで20年以上個人でやってきたが 近年フリーで継続することの危機感を感じていて Wワーク（半分会社勤務で社保は会社から払って貰う）という形に変えている	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
国民年金基金に加入したいと思うが、いまの収入が続くか分からないため躊躇している	40代	扶養者無
医療保険が高くてびっくりしました。	40代	扶養者無
医療や年金の制度が破綻するとは思っていないが、保障がだんだん薄くなる（負担が大きくなる）のは課題に感じる。しかし実際に子どもが少ないので仕方ないと思う気持ちもある。	40代	扶養者有
駆け出しのフリーランスや売上が軌道に乗っていないフリーランス向けに少額の月5000円でも入会可能な団体割引のような社会保険の組合があれば個々の社会保険料の負担は少なくなると思う。	40代	扶養者有
傷病手当金がない、遺族年金が少ない、というところが不安です。	40代	扶養者有
傷病手当金がないこと、受給できる年金額が少ないことが気になる。	40代	扶養者有
idecoやNISAの仕組みができたのが遅すぎたため、年齢的に老後資産が間に合わない。社保のような保障もないため不安しかない。フリーランスがここまで増加しているので、社保加入は早急に実施してほしいが、若年層は社保加入を嫌がる傾向にあると思うので、選択制なども検討してほしい。	40代	扶養者有
社会保険に入れるようになっても掛け金を払えるか不安	40代	扶養者有
まず目下、補償が薄すぎるというのは感じていて、会社員ではなくなることにリスクがありすぎる。これは必然ではなく、政治的判断であると思っている。	40代	扶養者有
会社を退職して、フリーランス初年度の負担がきつかった。	40代	扶養者有
県によって医療保険料が違うので、気軽に引越してできなくて困る。	40代	扶養者有
高すぎる	40代	扶養者有
もっと手当を充実してほしい	40代	扶養者有
とにかく高い。のに、恩恵が少ない。	40代	扶養者有
会社員と比較しての負担額、仕組みの差 収入難に陥った際の対策	40代	扶養者有
保険は掛け捨てのものしか加入していない。投資で少しずつ資産を増やすことしか考えていない。	40代	扶養者有
介護と平行してのフリーランスでの仕事をしていていた時期が長かったため、会社員であれば当然ながら休暇中でもでいてであろう給料も、介護が終了した後にメンタルが大変な時期でも休めず、休めば二度と取引が戻ってこないなどの不安がとてもあり、収入がないのに社保の負担だけがのしかかってくるという恐怖がかなりありました。	40代	扶養者有
家族構成、ライフステージによって大きく変わるので、都度検討の必要があるが、素人には調べるだけでも大変な時間と労力を使います。	50代	被扶養者
変動ある収入なので、支払いが負担にならないように費用を置いておくように心がけているが、もっと良い方法があれば知りたい。	50代	被扶養者
今の年金制度は負担額や壁など金額で設定されている事柄が多く、収入の少ないフリーランスにとって負担が大きいと思う。インフレへの対応も含め、比率で設定すべきでは。	50代	被扶養者
年収に即してもうすし配慮してほしいが、結局老後に受け取れなくなるのなら致し方ないのかなと諦めの気持ち。	50代	扶養者無
少子高齢化も止まらず、国の政策も当てにならないので、支払い、節税対策しつつも自衛するしか無いかと思っています。	50代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
自身が乳がんになってから、社会保険制度の手厚さが身にしみています。ただ、フリーランスにとっては年金は期待できず（インフレでもあります）、今後どう資産を増やしていくかが私の課題です。	50代	扶養者無
年金の受給年齢は上がるし、今の親世代（70～80代）と同様な額をもらえないのは遺憾、やるせない。	50代	扶養者無
特に年金が貰えるのか不安。高額払っても、少ししかもらえない…また、フリーだったり就業したりしているので、期間などが足りているのか不安。	50代	扶養者無
傷病休業補償がない	50代	扶養者無
自分に関しては特にない。社会保険制度全体に関しては問題ありと考えている。	50代	扶養者無
年金保険について。収入が減っていても、高額の保険料を払わなければならない制度は、将来も不透明なのに、ただ今の生活を苦しくさせているだけの苦しいものでしかない。	50代	扶養者無
通常であれば当たり前に支払う保険料も、被災等不慮の事態で支払えなくなることも多い。国の制度に頼れない分、民間の保険や貯蓄などで備える以外ない。社会保険に関していえば、よほどアテがない限りフリーランスになるもんじゃない。	50代	扶養者無
とにかく、収入に応じた金額での保険が必要です。また波があるため、前年度や2年前の収入をベースに決まって失業しているケースは多いです。この辺の対応策をもっと国にはやっていただきたいし、フリーランス全員にアンケートをとって、国へ説得するような指導者が欲しいと思う。	50代	扶養者無
既に障害者認定を受けてるので今更、、	50代	扶養者無
そもそも論として公が管理する年金と保険に信頼がなくなってしまうている	50代	扶養者無
国民健康保険の負担が大きすぎる。収入に合わせて上限を大幅引き上げ累進化すべき。	50代	扶養者無
独身税（子ども・子育て支援金制度）の徴収	50代	扶養者無
手取りが減り過ぎる	50代	扶養者無
任意加入の保険などを使い保障を充実させたいが、社会保険料の負担が大きく費用を回せない	50代	扶養者無
海外在住だが日本国籍を持ち日本の会社から報酬を得ているフリーランスは多いと思うが、法制税制全般に非居住者の存在が例外扱いでさまざまな不利益をこうむっていると感じます。例えば銀行口座、証券口座すら持てません。保険制度の前にここを改善して欲しいです	50代	扶養者無
親の介護で経済的に困窮している中、自分の年金を受け取れるのか不安であり、親を見送ったあとにさっさと死ななければと考えることがある。	50代	扶養者無
傷病等で業務ができなくなった場合の補償を充実してほしい	50代	扶養者無
確認すること、やることが多くて管理しきれない。自分は社会保険制度のために生きているのかと思ってしまう。でも1人でやる以上は仕方がない。	50代	扶養者無
フリーランスになる前に就業してた会社でも社会保険に加入してなかったので、社会保険の有難さを30歳過ぎて痛感。今から（50代半ばですが）でもパート副業とかしてでも社会保険加入しようかと検討中。	50代	扶養者無
年金が少なすぎる。また、厚生年金と国民年金の切り替えに伴う手続きが煩雑で面倒。なぜ何種類も年金制度を作っているのか。	50代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
今の物価で将来いつまで支払えば貰える金額は送られてきますが通貨の価値が下がり最低賃金は上がり物価も上がった時に将来貰える金額がわからないので不安です	50代	扶養者無
収入に対して、健康保険料が高すぎる。仮に、健康保険料+年金保険の合計が現在と同額で、健康保険料の割合が減り、年金保険の割合が増えるのなら、まだ納得できる。	50代	扶養者無
同じ受給額を貰おうとすると、会社員と比べて負担額が大幅に多い。	50代	扶養者無
国の制度だけで将来設計が可能かどうか少々不安だが、自分なりに、今できることや信頼できる情報を頼りに今後も検討していく予定。	50代	扶養者無
保険料が高い	50代	扶養者無
老後の年金が非常に心配	50代	扶養者無
保活の時もそうでしたが、なんで、こんなに身分が低いんだろうと思っています。	50代	扶養者無
自営業者が死亡した際の配偶者への補償について、改善の余地があると思う。	50代	扶養者無
各業種の国保組合が充実すればいいと思う。	50代	扶養者無
収入が少ないのに社会保険料が高すぎる	50代	扶養者無
やはり、絶対に保険料の負担が重い	50代	扶養者無
国民健康保険料がとて高いです。所得ではなく、課税所得をもとに計算してほしいです。自治体での国保ではなく、国保は国で管理運営して自治体間の不公平をなくしてほしいです。	50代	扶養者無
社会保険改革の前に、フリーランスが死に絶え、国が減びる。	50代	扶養者無
自分がその年齢になったら、本当にもらえるのだろうか？不安です	50代	扶養者無
国民年金では老後生活がままならない。国民健康保健の支払い負担が大きすぎる。	50代	扶養者無
サラリーマンの妻であれば、追加的な保険料がなくても、国民年金3号に加入、医療保険は扶養でカバーされる。フリーランスの妻でもし働いていなければ、妻自身が年金に加入しなければならないし、国保も妻1人分が追加的に保険料がかかる。子どもも似たような負担になる。一方で事業者側から見ると、人を雇うと給料に加えて事業主負担の社会保険料の支払いや、金銭解雇ができないリスクもあり、雇用をためらう要因にもなる。もっとシンプルで平等な社会保険制度にすべき。	50代	扶養者有
厚生年金と社保に加入したいのが率直な意見です。	50代	扶養者有
年金受給額が少ないから老後が不安	50代	扶養者有
働き方によって制度の仕組みが複雑すぎる	50代	扶養者有
収入が不安定でコロナ後は苦戦しているので負担率が高い	50代	扶養者有
負担が大きすぎる	50代	扶養者有
自由に働ける分の気楽さはあるが税金を払う都合、政府は社会保障制度を自営業にも拡充してもらいたい。	50代	扶養者有
収入が不安定で毎年少々変動する中適切な保険制度が見つからない。配偶者の扶養に入りしのでいるが、定年を迎え先が不透明	60歳以上	被扶養者
夫の扶養内で収まっている収入を増やすか否か？夫の定年後、どのような形態の社会保険制度を利用したらいいのか？	60歳以上	被扶養者

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
本当に不平等に生きた世代である。でも、もう60歳。今更何も変えられない。	60歳以上	扶養者無
仕事をせずに年金だけで生活していくことは望めないで、健康で働き続けられる環境を自分で整える責任があると感じています	60歳以上	扶養者無
年金だけでは厳しいので、必要な分を働かなくてはならないという課題があります。	60歳以上	扶養者無
国保なので将来の受給額は少ないことは、もはや覚悟している。一般論として制度改革は必要だと思うが、個人としては、今後いつまで働くか（働けるか）の方に関心が向かっている。	60歳以上	扶養者無
男性社員に対する健康保険／年金制度しかなかった昭和時代を生きてきた私は、家庭と仕事を両立させるためにフリーランスになりました。女性も社会でお金を稼いで生きていく必要があることを、念頭に置いた制度になってほしい。	60歳以上	扶養者無
これまでの意見のとおりです。現行の社会保険制度について、常に不安を感じていました	60歳以上	扶養者無
知らないことが多すぎたことは自身の反省もあるが制度が分かりにく過ぎる 今回のこのアンケートで再認識できた 若い頃は考えていなかったことが年齢が上がると不安を感じることもばかりである	60歳以上	扶養者無
社員の給料体系とフリーランスの収入体系は違うので、保障は大事ですよというだけでは比べられない。	60歳以上	扶養者無
医療保険については高額療養費制度を改悪しようという動きに危惧を感じている。改悪されたらセーフティネットの意味をなさなくなってしまう。フリーランスにとっては死活問題。年金については、移行期の問題はあるけれど、最終的には個人の積み立て方式にしたほうが世代間の不満は減ると考える。	60歳以上	扶養者無
医療保険が高すぎ。年金はいずれもらうものなのでまだ許せる	60歳以上	扶養者無
国民年金基金に加入しておけば良かったと思います	60歳以上	扶養者無
自力の度合いが高すぎる	60歳以上	扶養者無
自分の収入に対して高額と感じます。それに対して給付に期待を持ってない部分があります。現状は入っていない時のデメリットの方がわずかに大きいので無理をしてでも支払います。もっと累進をキツくしてもよいのでは無いでしょうか。	60歳以上	扶養者有
保障が金額に見合っていない。（保障が足りない）	60歳以上	扶養者有
収入と保険料のバランスが課題	60歳以上	扶養者有
特になし。	60歳以上	扶養者有
現在の制度が農業や商売をしている自営業と生産手段を持たない会社員しか想定していないので、フリーランスのような生産手段を持たない自営業が不利な状況に置かれている。現在の労働市場を考慮して制度を見直す時期に来ていると思う。	60歳以上	扶養者有
国民年金では老後の生活が出来ないのが実情なので、厚生保険の拡大等を検討してほしい。医療保険についても、フリーランス向けの組合等を検討してほしい。	60歳以上	扶養者有
年収が上がった際は保険料の追加支払いできて等級を上げるなど、後からレベルを上げられるような柔軟な制度になって欲しい。	60歳以上	扶養者有
特になし	60歳以上	扶養者有
老後の不安が大きい。	60歳以上	扶養者有

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
国民健康保険税の負担が問題、公的な補助を望む。	60歳以上	扶養者有
特にない	60歳以上	扶養者有
大企業/中小企業/個人事業主等の働き方の基盤の違いでの、社会保険料/給付の差が大きいと感じています。	60歳以上	扶養者有

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
出産時の保険がないことがとても不安、病気になった時も収入が完全にストップするのが怖い	30歳未満	扶養者無
日本は世界的にも保険制度や年金制度が充実している国の1つだと思います。世界によってはそういう制度が不十分な国が多いと思うのでそういう意味では恵まれていると思います。会社員や公務員と比べても、病気や育児の際の補償、給付が無いのでそういう制度が欲しいというのが正直なところ。個人事業主や一人社長向けに保険や年金を行う組合があれば良いかもしれませんが、政治的な面から実現のハードルは高いかと思います。なので、今ある制度や保険商品、クレジットカードの特典などで上手く個人でも十分な補償を受け取れるように、そういう講座をフリーランス協会でも実施してくれれば良いなと思いました。	30歳未満	扶養者無
夫の扶養で社会保険に入っているからいいが、値段が高い。ほんとは抜きたいけど抜けないのが課題。	30代	被扶養者
将来もらえる年金が少ないことが不安	30代	被扶養者
将来の年金支給額について、付加年金をかけているが、それでも不安に感じる	30代	扶養者無
毎年毎年高いと感じている。場合によっては週3の派遣やりながら複業フリーランスとして活動することも視野に入れているが、やりたいことがしにくくなってしまうため、できればやりたくない。せめてもう少し社会保障加入の条件を緩くして働き方の選択肢が広がるようにしてほしい。（週20時間以上の労働の条件がフリーの仕事と合わせると厳しい）	30代	扶養者無
年金制度は将来的に間違いなく破綻すると考えている。国民に負担を強いる形でもよいので、一刻も早く抜本的な改革を求めたい。	30代	扶養者無
急な病気や介護などで休みづらい	30代	扶養者無
今はいいけれど、将来働けなくなった場合に保証がなく、生活保護しかないだろうなと感じるくらい翔は不安	30代	扶養者無
現在子どもは夫(会社員)の扶養にはいっているが、夫が働けなくなった場合で自分の扶養にはいると、保険料負担が上がってしまう 年金が十分なのか、不安	30代	扶養者無
出ていく分が多いが、年金は貰えないと思っているので、どう収入を上げようかが課題。	30代	扶養者無
将来受け取る年金が低くなる	30代	扶養者無
年齢的に健康リスクが少ないのにも関わらず保険料は一定額取られてしまう その支払額が大きすぎる	30代	扶養者無
収入がなくなったらどうするかに対する対策が打ててない。	30代	扶養者無
民間保険の負担が大きいのので公的制度は拡充してほしい	30代	扶養者無
どのような制度があるのかそもそも情報収集をできていなかったの、まずはそこからしたい	30代	扶養者無
将来ちゃんと支給されるのか、保証されるか不安。社会保険に頼らず、自分で用意するしかないと思っている	30代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
保険料が高い	30代	扶養者無
フリーランスでも会社員でも、病気や怪我、出産・死亡、老後といった「人として直面する事態」になんら変わりはありません。それなのに社会保障の制度が働き方によって格差を設けているという現状に憤りを感じます。	30代	扶養者無
国民年金ほとんどいらないです。	30代	扶養者無
やはりできれば年金等は増やしていきたい	30代	扶養者無
年金受給額が少ないため、年金だけで暮らすことは不可能。いつまで働けばいいのか不安に思う。	30代	扶養者無
会社員時代に比べてもかなりの金額を払っているのに、恩恵がないこと。	30代	扶養者無
年金のために働いてないのだから強制的に取られるのが苦しい	30代	扶養者有
出産の時に受け取れるお金が少なくて苦労した。	30代	扶養者有
会社員もリタイア後に世話になる国保の現役世代の負担がフリーランスのみに押し付けられて、保険料が高いのが不公平。	30代	扶養者有
傷病した際の生活の保障を自分で完全に備える必要がある	30代	扶養者有
ただただ将来的な不安しかない	40代	被扶養者
同じように毎日必死に働いてるのに、会社員と保障が異なること	40代	扶養者無
金銭的な保証についてはなんとか自分で考えていくしかないと思うが、子どもがおらず、将来的に自分になにかあったときに頼れる家族がいなため、物理的なケアをどうするかという課題がある。互助組織のようなものも考えたいと思っている。	40代	扶養者無
費用負担が大きい	40代	扶養者無
医療に関しては、最低限受けることができてるので今のところは大丈夫ですが、年金の少なさは本当に不安。	40代	扶養者無
将来への不安は消えないので、iDeCoやNISAなどをしている。独身なので民間の保険には加入していないが、死亡保険はまだしも医療保険は入っておいたほうがいいのか…と考えている。	40代	扶養者無
国保が収入に比例して高くなること。もう少し安くしてほしい。	40代	扶養者無
年金だけでは食べていけないだろうな	40代	扶養者無
国保組合の新規設立が認められていないのに、存続しているのはどうなのと思う？これにより、業種の格差(保険内容は同じようなものののに、保険料が違う)が生まれていると思う	40代	扶養者無
もう少し社会保障がないと続けていけない。	40代	扶養者無
社会として、そして自分自身の将来にとって必要なものであれば所得に見合う範囲で支払いたいと思うものの、年金等、将来（数十年後）の自分にどれほどメリットがあるか分からないものを負担しなければいけないことに疑問を感じることがある。	40代	扶養者無
国民年金は破綻するのではないかと考えているため、支払うのも馬鹿馬鹿しいと日々感じています。年金は、現役で働く世代が引退した世代を支えているなどと耳障りの良いことを言っていますが、私は納得していません。	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
自分で選んだ業務形態とはいえ自己責任感が強く、安心とは言えない	40代	扶養者無
もう少し個人事業主、フリーランスに優しい保険制度になって欲しい	40代	扶養者無
休業せざるをえなくなったときのリスクが高い 働き続けていないといけないう意識になってしまう 会社員的な働き方を望みがちになり、自由な働き方を選びにくい	40代	扶養者無
フリーランスに関係なく社会保険制度自体が破綻していると思う。	40代	扶養者無
保険料が高く、それだけで疲弊してしまっている。備えは大事だが、そのために安心、安定した生活が送れないのは本末転倒では。	40代	扶養者無
国の運用方針に信頼がおけず不安	40代	扶養者無
私はフリーランスで国保、夫は会社員で社保に加入しており、子どもたちは夫の扶養になっています。私は自分の所得に応じて国保の保険料を支払っている（私の銀行口座から引き落としている）のですが、国保のお知らせがすべて世帯主である夫名義で届くの大きな違和感を覚えています。夫が会社員、妻がフリーランスという世帯もたくさんあると思うのに、なぜ世帯主であるというだけで夫の名前で請求（引き落としの案内）がくるのでしょうか。	40代	扶養者無
年々上がっていったので、無駄をなくしてほしい マイナンバーカードで保険証問題を解決して 少しでも無駄を減らしてほしい	40代	扶養者無
社会保険の支払い多い分を報酬に入れないといけないう。そのためには自分の収支を理解しないといけないう課題を感じる	40代	扶養者無
生きるための選択肢がなくなる。	40代	扶養者無
とにかく高いと思う。特に国保。国保組合はあるものの加入しづらく、医療保険の選択肢が少なすぎる。	40代	扶養者無
とにかく健康保険料の料率を下げしてほしい	40代	扶養者無
リタイアした後に、年金だけでは生活していけなさそうと感じている	40代	扶養者無
トラブル時の保証が少ない	40代	扶養者無
医療保険は高すぎる。年金は会社員と違いすぎる。	40代	扶養者無
先ほどから度々書いている通り、家族にも、自分の働き方(フリーランス)が将来的に不安定すぎると、認められないまましており、なんとか社会保険制度がしっかりとフリーランスの働き方へも対象となって、保証をしてくれる制度に変わってほしいと、心からずっと願っています。将来も安心して、自分の能力を生かした働き方を、これからも続けて行きたいです。	40代	扶養者無
年金額がどう考えても少ない	40代	扶養者無
国民年金だと障害者になった場合に厚生年金に比べて年金額が少なく、等級も3級がないため、生活が成り立たなくなり、結果として生活保護などに陥る恐れがあるので不安。	40代	扶養者無
被雇用者との格差がありすぎるのが課題。働き方に中立的であるべき。とりわけ、健康保険は、労使折半がない上に、保険料の支払い能力のない無職者（多くは企業の保護を外れた解雇者や定年退職者）に代わって高額な保険料を負担させられる仕組みであり、極めて理不尽。	40代	扶養者無
年金が少ないのは不公平な気がする	40代	扶養者無
国民健康保険は所得次第になってくるため、調整が出来れば良いと思うが、そうでない場合の対策がない。国民年金は付加、基金の増額する術はあるが世代扶助の観点から先々賄えなくなった場合、支給年齢、支給額の変更は不安である	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
どちらも将来的に不安が大きいの、制度に頼らず自分自身で備えている。とはいえ自身の健康問題、育児や介護などの負担で備えられない人が圧倒的に多いので、社会全体で支えられる制度にできたらいいと思う。	40代	扶養者無
医療保険に関しては、3割負担はありがたい。年金保険については支える人が減り、制度として今後立ち行かなくなるのではと不安がある。	40代	扶養者無
税金対策はしたい	40代	扶養者無
育児休業給付金がないため子どもを諦めざるをえない。	40代	扶養者無
あまり信用してないので、課題も難しいのですが・・・ちゃんと払ってる人は、控除がもっと増えたら嬉しい！	40代	扶養者無
払わなければいけない社会保険が高すぎる。年金も将来もらえるか不安がある。それなのに安心して過ごせる補償が足りないの、自身で加入せざるを得ず、保険に対して、お金がかかりすぎる。会社員との差に悲しくなる	40代	扶養者無
上がり続ける保険料をちゃんと支払っていけるか心配ですし、払っているのに全く病院に行かないので、無駄だなと思ってしまう気持ちもあります。	40代	扶養者無
将来もらえる年金が少なそう。生きていけなさそう。しかし「年金のためだけ」に働き方を変えるのは違うと思う。自分らしく働きながら安心したビジョンを描きたい。	40代	扶養者無
この先まだまだ子育ての出費が続く中で、自分のために蓄える余裕はまったくない。老後、年金だけでは絶対に生きていけないとわかっているが、どうしていいかわからない。	40代	扶養者無
会社員違って安定性があるわけではない分、ここの事情が多様化している分、基本的な負担は少ない中で、オプションを付ける形の方が最大公約数的には良いのではと思う。（フリーランス協会の有料プランで、補償を手厚くするみたいなものを半公的に作るなど。）	40代	扶養者無
高すぎる	40代	扶養者無
将来制度がなくなることはないでしょうが、国の医療費増大のほうも何か対処できたらと思います。	40代	扶養者無
ある意味、諦め感。	40代	扶養者無
社会保険料が高い割に、会社員と比べて保障範囲も狭く、年金受給も少ない	40代	扶養者無
フリーランスでの社会保険制度が不安なので法人成りしました。ひとり社長なので、実質、労使折半がなく社保の費用を全額自分で負担していますが、負担率が高すぎて本当に大変です。	40代	扶養者無
とにかく社会保険料が高く、社会保険料の支払いを理由として倒産するかもしれないと考えている。これに加えて、住民税の支払いも重く、インボイス制度のせいで消費税も納付している。まじめにやっているだけなのにどんどん国にお金を奪われていく構図ではフリーランスとして生活を維持することは難しく、維持だけでなく向上させていきたいという意欲を低減させることにも繋がっている。社会保険料の負担を理由として、会社員に戻った方が良いのか悩む時もある。	40代	扶養者無
とくにありません	40代	扶養者無
保険に関しては、特に高いと感じます。やはり、物価の高騰、報酬アップは、フリーランスにとっては、とても大事で、保険料の前に考えてしまうことがある。	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
厚生年金がない分、老後が不安。	40代	扶養者無
スプレッドシートに費用のまとめを作っているが、確定申告時に見直すくらいで、実は把握しきれていない。払込票が来て毎年「こんなにだったか・・・」と軽く驚く。安定してお仕事をいただいているが、年に数度「このまま払っていけるかな」と不安になる。	40代	扶養者無
インフレなどで物価が上がった上で社会保険料などの支払いで普段の生活に影響が出るのは問題だと思う	40代	扶養者有
不安があるのでどうしても貯金を増やし支出を減らそうとしている。	40代	扶養者有
フリーランスは会社員が得られる各種給付がなく、出産、育児、介護、病気とあらゆる事態で簡単に暮らせなくなってしまいます。税金も社会保険料もきちんと納めているのに、なぜ普通に暮らせないのだろうと暗澹たる思いです。フリーランス歴は20年超になりますが、日本では、会社員になるしか生きていく道はなかったのだとさえ思います。	40代	扶養者有
必要な機能はほとんど変わらないのに制度が複雑すぎるし、管理する組織も多すぎる シンプルな制度、組織にするべき 相当な無駄があることは明らか	40代	扶養者有
国保しか加入できない仕組み、フリーランスでも健保に加入したいができないこと、年金が国民年金のみとなること、厚生年金を運用する仕組みがないこと。	40代	扶養者有
制度が改悪される恐れがあり、長期でのライフプランが狂ってしまう可能性があることが課題点かと思います	40代	扶養者有
真面目にしていると損をするっていう仕組みはどうかと思う	40代	扶養者有
制度も手続きもわかりにくいことが多いこと	40代	扶養者有
将来世代の負担増	40代	扶養者有
自営業者の医療保険が高すぎて、全くメリットを感じない。年齢に関係なく、収入のみで支払う保険料・割合を決定し、さらに、保険適用範囲の再考。年金も、100歳以上は支払い金額を減らす、など、現年金受給者への改革も必要。会社員かそうでないかに依存しないシステムの構築。	50代	扶養者無
会社員との差異	50代	扶養者無
国をアテにしないで、自分で稼ぐ力をつけ、自身で医療保険や年金保険にも入った方が良いと思う。結局のところ、社会保険を全額自分で払うのがイヤなら、どこかの企業に所属して副業的に好きな仕事をするのがベストなのかも。	50代	扶養者無
フリーランスの場合、終身の年金制度の選択肢が乏しい。年金基金だけ？	50代	扶養者無
事故や病気などで働けなくなったときの不安がある。会社員のように安定した収入や保障がないため、つい無理して仕事を受注し、働き詰めになるときもあり、結果、より医療機関にお世話になってしまう状況になりやすい立場だと感じている。また、将来の年金受給額はともそれだけで生活できる額ではないため、現在の社会は後期高齢者になっても働かなければならない仕組みになっており、何のために生きているのか不条理を感じる。	50代	扶養者無
毎年支払う保険料や年金が高すぎる。将来この年金で暮らしていけるのか不安しかない。	50代	扶養者無
先に回答した中でも回答していますが、会社員・派遣社員・フリーランスと立場により社会保険制度に階層がわかれるのではなく、一本化したほうが良いのではないかと思います。	50代	扶養者無
国民年金保険の支払額では生活が難しい。	50代	扶養者無
特になし	50代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
収入が安定しないので、自己責任だけで将来に備えることが難しい。	50代	扶養者無
フリーランス協会を通じて労災保険に加入できるようになったのでよかったが、その他の理由で収入が途絶えてしまったときのことが心配。	50代	扶養者無
組織に所属するサラリーマンと同等の保証は受けれるべきだと思う。フリーランスは自身が経営者でかつ従業員という2つの側面を持った、特殊な労働形態であり、個人が尊重されるこれからの社会ではもっと増えると思う。インボイス制度で税金は一律ある意味で平等になったので、他の部分も平等にしていけばいい。	50代	扶養者無
老後、それだけではとても生活できるわけがない。つまり、そのための資金は自分で貯めるしかない。	50代	扶養者無
医療保険の負担金額が高いと感じています。今の仕組みだと今後も負担はどんどん増えていくと思うため不安です。	50代	扶養者無
現在通院中の先生からも国民健康保険での医療費支払いについて心配された、それぐらい不当で問題のある制度ではないか	50代	扶養者無
社会保険制度に頼れないので貯金するしかないと思っている	50代	扶養者無
収入が少ない時にも一定額支払うのがきつい	50代	扶養者無
フリーランスとして働いた分が年金に反映される仕組みができるとよいと思います。また、短時間でも被雇用者として働く場合はいつでも厚生年金に加入でき、働いた分だけ年金給付額に上積みされるとよいと思います。勤務時間が少なすぎる場合は保険料全額自己負担でよいです。国民の所得増加や人手不足解消にも効果があるのではないかと思います。また、国民年金基金は年金補完として心もとないです。せめて国民年金と同様に繰り下げ・繰り上げ（に伴う受給額増減）ができると良いと思います。	50代	扶養者無
国民健康保険の負担が大きいです。もう少し入りやすい組合保険がほしい。	50代	扶養者無
今のところはなし	50代	扶養者無
家族の社会保険に入れるようにしてほしいです。	50代	扶養者無
見直しまたは専門家のアドバイスが必要と感じるが、相談する機会がないです。	50代	扶養者無
前述しましたが、フリーランスではあるけど、実家の会社役員をしているので社保に加入している。もちろん、私の業種で国保組合などがあれば、加入を検討するが、そういったものもないので、実家の会社で加入としている。そういったことを考えずにすむように社会保障制度をフリーランスにも拡充してほしい。	50代	扶養者無
年金については、数十年積立金を預けるに足る信用をもって運用することはできないと思うし、イデコや小規模企業共済などを拡充してもらった方がいい。医療保険は必須だが、国民健康保険の金額は負担に感じるし、生活保護や外国人の医療保険不正利用に真剣に取り組んで欲しいとも思う。	50代	扶養者無
特になし	50代	扶養者無
現状、発注者の提案を断りにくい働き方をしているのに、保険制度上会社員のほうが手厚くなっている感覚があります。フリーランスと会社員とのバランスがとれるよう、個別に選択できる制度があれば良いと感じます。	50代	扶養者無
年金については収入に応じた増減があっても良いと思う。健康保険についても、負担額と保障内容を選択できるような仕組みなども検討してほしい	50代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
公的保障がないに等しく、支払うメリットが少ない。	50代	扶養者無
公的な社会保険制度は当てにならないと思っている。自分の老後にどれだけ年金がもらえるか微妙だ。だから、老後のために自分でコツコツ貯金や積み立て投資をして将来に備えなくてはならないと思って、積み立て投資をしている。ただし、毎月の収入には変動があるので、必ずしも毎月同額で積み立てができないときもあり、それを調整するのが面倒だと思うことがある。	50代	扶養者無
自分が年金を受け取る頃には年金制度が破綻しているのではないかという不安。	50代	扶養者無
とにかく高い！私は夫が会社員で私だけ国保です。世帯で見ると一番高いパターンかと思っています。	50代	扶養者無
保障がほぼなく、実状として年金の受給額は低いので、自力でどうにかしないといけないと感じたので、idecoや生命保険の積立などを始めた。	50代	扶養者無
国保組合に加入しているとはいえ、日頃通院の機会の少ない者にとっては保険料が高いと感じる。せめて年に1度人間ドックの無料受診くらいさせて欲しい。年金は将来6万円/月と聞いて愕然としている。いっそ無いものとしてこの先の事を模索している。	50代	扶養者無
保険料負担の問題はあるが、できれば会社員並み（厚生年金・健保）の補償が受けられるようになりたいと思う。	50代	扶養者無
会社員の時よりも、負担が重いのに、サービスが薄い点	50代	扶養者無
保険料が高く現在の負担が大きい一方で、それだけでは将来にわたったの安心感が得られないというなんとも困った制度。いろいろな意味で、公平さ・公正さを感じない。	50代	扶養者有
妻もフリーランスで、子供が4人いるので、今後どうするか悩んでいます。今は健康保険については、任意継続ですが、1年以内にはどうするか決めないとけない。	50代	扶養者有
なにかあったとき、普通に対応してくれるか。年金はもらえないと思っている。	50代	扶養者有
金額が高すぎる	50代	扶養者有
課題だらけでどうしようもない状態だと思う	50代	扶養者有
年金保険の未払い期間もあるので、受給額が少ない。60歳超えても任意継続してカバーする手もあるが、年額20万以上の保険料を払っていけるのかも分からない。	50代	扶養者有
老後の不安	50代	扶養者有
売上が高かった年の次の年に売上が減った場合、支払い金額方負担になること	50代	扶養者有
負担が高い。	50代	扶養者有
特に思い当たらない	50代	扶養者有
むしろ会社員のころの方が何も考えていないという課題があったと感じている。だから全国民が確定申告する形がよい。	50代	扶養者有
国が個人事業主をもっと支援する施策をこうじるべき	50代	扶養者有
組合保険制度はとてもありがたい。一方で国民年金にはとても不安がある	50代	扶養者有
国民年金だけでは安心できる老後を送れない。高齢者だけのベーシックインカムとか、最低限住まいだけは何とかして欲しい。	50代	扶養者有

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
60歳過ぎたため、個人で医療保険、介護保険への加入を検討しなければと思う	60歳以上	扶養者無
あまりに高すぎる国民健康保険料	60歳以上	扶養者無
昭和のほんの短い間の高度成長時代、1億総サラリーマン化と言われたときの社会環境が前提にされた制度が、根本的な見直しもされずにいることが問題ではないかと思っています。個人的な認識なので間違っているのかもしれませんが、環境がどんどん変化しているのに、政治は全く対応できていないので大企業の従業員や公務員以外は無視されているように感じます。	60歳以上	扶養者無
保険が高く医療費も高いので将来不安です	60歳以上	扶養者無
実質の収入に対し、社会保険料の比率が大きく生活保護を受けている人より、労働の対価が少ないと感じる。	60歳以上	扶養者無
国保の上位互換となるような、個人事業主向けの保険制度を検討すべき。	60歳以上	扶養者無
社会保険に限らずですが、取引先に見積を出すときに、こうした経費を全て自分で支払っていることへの理解がなく、妥当な料金とを考えてもらえないことも多い。	60歳以上	扶養者無
国民全体が国民を支える制度の考え方は非常に良いと思いますが、徴収額の考え方が少し違うと思います。社会保障は必要ですので、さらに国民全員が納得できる制度にしていきたいです。	60歳以上	扶養者無
保険料を支払う保険制度があるべきだと思う	60歳以上	扶養者無
財政を踏まえ、制度設計を見直す必要がある。個人で保険、年金をしたほうが公平だ。但し生活困窮者は税金で救わないといけない。	60歳以上	扶養者有
特にありません	60歳以上	扶養者有
フリーランスの依頼法人が費用負担を行う。	60歳以上	扶養者有
単純に高い！と思います。医療費なんてほとんど使ってないのに！と思う。	60歳以上	扶養者有
国保の保険料は高齢者の加入が大多数を占めるため、個人事業主が頼みの綱になっていると言わざるを得ない。そのため、黒字になってもほとんどが税金関連に消えることになり、ため息ばかりである。	60歳以上	扶養者有

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
特になし	30代	扶養者無
国民皆保険で、加入が義務付けられているのに、国民健康保険以外の加入選択肢がある人とならない人の負担格差が大きい。	30代	扶養者無
制度改悪が続いており支給の不安から年金辞めて自分で備えたい	30代	扶養者無
世間では当たり前とされている補償が受けられないケースがあるため、思っていた補償が受けられないような、想定と異なるケースに出くわす場面がある。	30代	扶養者無
特になし	30代	扶養者無
なんといっても制度が複雑過ぎる。わかりやすくして欲しい。	30代	扶養者無
フリーランスをターゲットにしたビジネスをどうなのかしっかりしてほしい	30代	扶養者無
個人に選択権を与えず、強制的に加入させている点が問題だと思う。自己責任と言う言葉を好きな人が多いように思えるため、加入は任意で良いと思う。	30代	扶養者無
なぜ、セーフティーネットの内容が給与所得者と著しく異なっているのか理解できない。多様な働き方を宣伝する反面、フリーランスになるのは自助努力できる人間に限定されるような印象がある。	30代	扶養者無
新しい健康保険組合が作れないということが、今の時代に合っていないように感じる。IT関連のフリーランスとしては、このあたりを是正して健康保険組合に加入できるようになるといい。継続して労働しているため。	30代	扶養者無
とにかく健康保険料が高いです。よくわからない増税？増額が沢山あります。それらを元に戻してほしいです。	30代	扶養者無
高額	30代	扶養者無
稼げば稼ぐほど保険料が高くなること	30代	扶養者無
国保が高い	30代	扶養者無
国民健康保険の保険料が高すぎる。薬を捨てている人もいるとの報道もあり、そのような人のために保険料を払いたくない。	30代	扶養者有
国保、国民年金でカバーできない部分や不足している部分はほかの制度でまかなえているので今のところ問題は感じていないが、少子化の影響をダイレクトに受ける世代なので、若い世代に負担がかかりすぎないよう制度設計を見直し続けていただきたいと思っている。	30代	扶養者有
社会保険料が高額 仮に年金を廃止してその分の金額を20歳から60歳までインデックス投資に回せば、今の年金制度よりもはるかにリターンが大きい。（ただし、遺族年金や障害者年金などもあるため、年金制度そのものをやめると不都合もあると思う）	30代	扶養者有
役員報酬を低く設定しているので将来受け取る年金の額も少なくなってしまう	30代	扶養者有
年金の手取額が少ないため老後の不安を感じている	30代	扶養者有
国保が高い	40代	扶養者無
入院等で仕事が出来なくなった時に、収入が止まり、現在抱えている業務を外注しなければならない（外注費発生）という中で、安心して療養できない社会保険制度は社会問題として解決して欲しい。	40代	扶養者無
年金は未来にもらえるのか不安	40代	扶養者無
義務ではなく、年金を払わない＆貰わないという選択肢を設けていいのではと思う。	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
稼ぎを増やせば国保が上がる。でも、会社員で働いてた頃より病院にかかることは少ない。フリーランスは傷病手当など補償がないため、健康が命。そうすると、医療機関に行くことが減るのに、収入によっては払う金額がどんどん増えるのは大変おかしなことだと思う。	40代	扶養者無
強い不安感を感じるため、どんなに現職が好きであっても、42-43歳くらいまでには会社員になり社会保険に入り安定して働けるようになるためには他社へ転職をしなければならない、と日々悩んでいます。	40代	扶養者無
ここまで述べてきたことがすべて	40代	扶養者無
マイナンバーとか使って、自分の収入にあった制度が選べるようにしたいと思う。あくまでも選ぶので、義務化はしてほしくない。	40代	扶養者無
保険料を下げて欲しい	40代	扶養者無
働かないなった時や老後が不安	40代	扶養者無
自身の健康を害し働けなくなったときのセーフティーが弱い	40代	扶養者無
医療保険料が高すぎる、年金受給額が低いこと	40代	扶養者無
とにかく国民健康保険料が高すぎるとおもいます。	40代	扶養者無
わからない	40代	扶養者無
保険料が高すぎる。下げてもらい、自身の健康は自身で守ることとして、医療機関負担を増やしてもよい	40代	扶養者無
高い高い高い高い高い高い高い高い高い。とにかく高すぎる。社会保険料も税金も、なんでも高い。国はフリーランスや副業を推奨するふりをしながら、結局は「つらいなら雇われ人でいろ」と無言の圧力をかけているように思う	40代	扶養者無
国民年金の給付額が低いこと。生活できる額ではない。国民年金基金の上積み額を増やすなど検討している。	40代	扶養者無
国に期待していない・できないので、自分で何とかするしかない。フリーランスとは、それも含めた自己責任の生き方だと割り切れない人には無理。	40代	扶養者無
高い保険料を払っているのに保証が十分だと思えない	40代	扶養者無
負担が大きい	40代	扶養者無
守られている気がしないので、自分で健康を守って資産形成していく必要があると考えています。	40代	扶養者無
特に、配偶者や遺族への手当てが心配だ	40代	扶養者無
収入金額が月、年によって大きく下がる場合があるので、収入額に応じて、月ごとの支払金額の変更や、支払いの締切日を延期できるオプションを設けてほしい。	40代	扶養者無
掛け金を支払い続けられるか	40代	扶養者有
すべてにおいて会社員が有利な制度だと感じる。	40代	扶養者有
国民年金は一定額だし将来的に年金を受け取ることができるためある程度受け入れられるが、健康で病院に行かず、たくさん働く人ほどたくさん国民保険を納めるというのはちょっと納得感がない。	40代	扶養者有

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
厚生年金、協会けんぽよりも保障内容が狭く、常に一寸先は闇と考えてしまう。民間の保険や投資で補うけれども、会社員との格差はどうしても考えてしまい不安感が付き纏う。	40代	扶養者有
支払額が多すぎるし、支払った分の恩恵を受けているとは思えないので無駄に感じる。	40代	扶養者有
保険制度自体はあれば良いと思うけど、期間を短くした方が良いと思う。世の中の時間感覚が変わってるのに、こういう制度系は何にも変えないのが変。国が崩壊しないかの心配すら出てきてる時代に、20年とか30年とか遅すぎて成立していないと思う。	40代	扶養者有
氷河期世代なので保険や年金に関して他の世代より下になる可能性が高いこと	40代	扶養者有
全体的に制度の改革が必要だと思う	40代	扶養者有
将来の生活資金として徴収されている年金ですが、自分たちの頃にはほとんど支給されないことが報道でも指摘されています。今の生活もカツカツなのに、将来のために徴収され、さらに現役の子育て世代（しかもなぜか未就学児メイン。お金のかかる中高生への支援は手薄）支援に税金を徴収され、さらに自分たちの将来は投資で増やしてねという政府のメッセージには、「投資するお金なんてないですけど?」という一言しかない。無限に湧いてくると思われていて疑問。少し前までは、個人で事業をやっている人は社会保障の支払いが少ない分、自分で将来に備えられたかもしれないけれど、今はそんな余裕もなく、さらにインボイスの悪法で搾り取られる。なけなしのお金を税金で持っていかれて、それでも将来や万一の際の保障が受けられないなんて、恐怖しなないです。	40代	扶養者有
自分で全て経理をしていると国民健康保険が一番高い。働き方の多様化を推進していた内閣の中でも手付かずで改善を検討してほしい部分だ	40代	扶養者有
保障の範囲	40代	扶養者有
もうちょっと民間サービスをうまく使って手厚くしたいと長年思っているけど、なかなか実現できていない	40代	扶養者有
社会保険に加入しているので、特に課題感はない。	50代	扶養者無
医療保険は保険料が高い。年金保険は保障が薄く感じられる。	50代	扶養者無
社会保険制度の保険料はほぼ税金だと思っている。社会保障を受けられる保証はないのに徴収されるため。その負担額が年々増えていることには限界を感じている。	50代	扶養者無
年金の受け取り時に税金をかけないでほしい	50代	扶養者無
現状の社保制度はなかなか変わらないことが課題だと思う	50代	扶養者無
年金がかなり手薄なので生きていく上で安心できるレベルとはいえない。自分で備える必要がある。	50代	扶養者無
とにかく負担が大きすぎる	50代	扶養者無
フリーランスは国民年金に加入するしかないが、厚生年金はそもそも働いている人（勤める人）が母集団なのに対して国民年金は納付を免除される人などの分まで負担しなければならず、不公平だと思う。私はたまたま業種的に国民けんぽに加入できたが、市町村の健保であれば年金と同様、免除の人の分なども負担して上限が2倍ぐらいの保険料を徴収される。とても生活できないと思う。	50代	扶養者無
労働があまり出来なくなる年代まで行っても、国民年金だけでは到底暮らせるものではない為、iDeCoやNISA、小規模企業共済などを満額行っていますが、厚生年金での生活に届くか到底怪しいうえ、退職金控除まで改正され、受け取り時のリスクまで新たに生まれている。	50代	扶養者無
老後に関しては不安しかないので、健康・体力維持に努め、資金は増やすしかない（NISAやiDeCoの活用など）と考えている。その意味では、スポーツジムの会費が経費または控除の対象になればいいのになと思う。（小学校の給食を公費でオーガニックにする自治体だってあるのに・・・）	50代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
将来も貰える年金額が少ないので、国民年金基金に加入している	50代	扶養者無
第二次ベビーブーマーとしては、私たちが年金を受給する年齢に差し掛かるころに、裏切りとも言える様な改悪を政府がしないことを祈ります	50代	扶養者無
老後の貯蓄	50代	扶養者無
みんな先のことを考える余裕はないのではないのでしょうか。先々詰んでしまう人がたくさん出てきます。政治は今さえ良ければいいという考え。課題しかないです。	50代	扶養者無
国保が高い 貰える年金が少ない	50代	扶養者無
会社員との差はわかっていたつもりですが、今のままだとフリーランスになるメリットは少なく感じる	50代	扶養者無
病氣したらお仕舞いになる	50代	扶養者無
今年妻（会社員）が癌に罹患し、治療費の月額上限がある制度には非常に救われている。これは本当に大きな安心だし、家族で社会に貢献して恩返しをしたいと思っている。なので、脱法行為で社会保険料や税金を逃れる行為には非常に憤りを感じる。だが、年金に関してはもうどうにもできない。そもそも65歳まで仕事があるかも不透明だし、（妻の看護で収入も減ったので）働けなくなる年齢になった時にどうにかできるだけの貯蓄や私的年金を用意するのは現在の綱渡りの状況ではどうにも無理。もう何かが起こった時に逐次対処するか、無理なら人生を諦めるしかないと思っている	50代	扶養者無
フリーランスというより、立場によって異なるような制度自体が問題と感じる。新たな仕組みとして、成人後は障害や病氣等一定の要件に該当する人以外は、一律で良いと思う。高齢者や若年者は要件に応じて免除できる仕様にすれば良い。今後の少子化問題を解消するためにも、老人を支える仕組みではなく自分を自分で支えるための仕組みである必要があると考えている。現行制度では破綻が見えているため、早急に抜本的な制度への転換とそれに伴う移行措置の設計にこそ着手すべきと思う。	50代	扶養者無
売りに上げに比例した、国民健康保険料の負担額増。会社員・フリーランスの違いで、年金の補償額が違う点。	50代	扶養者無
国民健康保険料が高すぎます	50代	扶養者無
現在の制度でフリーランスが社会保障を充実させるには個人では限度がある。選択の幅が広がるよう制度設計が、望まれる	50代	扶養者無
サラリーマン時代より補償が薄い、その割に負担が大きと思う。サラリーマン時代にははらっていない税金もあるので、負担が辛い。	50代	扶養者無
公的制度は必要	50代	扶養者無
会社員と異なり、年金給付できる金額がかぎられていて、老後の、お金を残せていないため。残そうとしても、会社員に比べて税額負担が大きい。	50代	扶養者有
老後受け取る年金額に不安がある。安心して老後を迎えられるのか、生活ができるのか心配。	50代	扶養者有
とにかく高い。年金なんてすでに少子化により崩壊しているのだからととて廃止してほしい。	50代	扶養者有
1階建ては厳しいが、売上1000万以下のインボイス非対応業者は比較的安心。NISA枠の拡大と延長を求めます。	50代	扶養者有
扶養家族（特に子供）の国民健康保険料が高いことが課題と思っています。	50代	扶養者有
企業に所属していれば保障される内容と同等のことをやろうとすると様々な保険に個別に加入することになり、支出が増えてしまう	50代	扶養者有
保険料高いのにもらえる年金少ない	50代	扶養者有

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
とにかく安くして欲しい	50代	扶養者有
国民健康保険の保険料は高すぎると考えています。また算定基礎の算出に際し、税金と異なり、各種控除（基礎控除、配偶者控除、その他）が出来ないことは問題です。	50代	扶養者有
国民皆保険と言いながら、企業別に健康保険組合があり、年齢構成によって若く健康な社員が多い組合はうまく運営でき、高齢の社員が多いと厳しいとかまともではない。全国民一つの制度ではダメなのか？天下り先の組合がたくさん必要なのか？	50代	扶養者有
税金と同じように財政を圧迫しているので法人格は必要と思われるが、現状は微妙なところでこの先を考えると判断がまだできていない	50代	扶養者有
プライベートに自己なら保険が使えるのに仕事では使えない、という意味不明な理由。保険会社は営利目的なのではないかかもしれないが、同じ人間に起きていることならなぜ分ける？	50代	扶養者有
老後が心配なので小規模共済に加入している。	50代	扶養者有
やはり、大企業とひとり社長と同じ制度で運用するのは不公平だと思います。個人事業主についてはいろいろな制度を活用することにより給与所得者と同様なサービスを受けることができると思います。医療保険は高いですが厚生年金制度内の健康保険料よりは負担額は低いと思います（年収がある程度高い場合）	50代	扶養者有
繰返しになるが、特に年金に対し、支払額に対する支給額の低さが不満。	50代	扶養者有
フリーランスだから時間が自由なので介護に駆り出される。会社員の兄弟は介護保険制度だと月給が下がるというて休まない。	50代	扶養者有
健康で働けるかという不安	60歳以上	扶養者無
法人になり強制的に社会保険に加入させられ経費的負担が大きくなった	60歳以上	扶養者有
厚生年金を民営化して複数から選べるようにしてほしい	60歳以上	扶養者有
定年まで普通のサラリーマンをして、退職後は年金を受給している。それに加えて、フリーランスで業務を受託している。契約を取っても、税金天引きが20～30%に達しており、それに加えて国保の負担金が非常に高額に設定されており、税金を払うために働いているような感じです（年金を含めた収入総額の40%を税金等で支払っています）。個人事業者については、減税や国保等負担金の軽減を望みたい。	60歳以上	扶養者有
医療保険は民間の医療保険を利用し、年金については年金に頼るのではなく、自分で稼ぐ。	60歳以上	扶養者有
年金だけの生活は不安が多く、フリーランスとして働くことが必要と考えている。医療保険も高齢になると高額になるので、健康保険の内容が充実すれば、医療保険もおさえることができる。人口構成が変化している中で、保険制度も柔軟に変更し、社会が支える仕組みをしっかりと整えてほしい。	60歳以上	扶養者有
収入に対する保険料に上限があったので、厚生年金の支給額が期待した額よりも低かった。	60歳以上	扶養者有
フリーランスは健康第一のため、会社員時代より健康に気を付けて人間ドックを毎年受けているが、補助金が減ってしまったため苦しい。	60歳以上	扶養者有

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
家族を作りたいのに、不安しかありません。産休を取りたくてもお金や子供の世話にもっとサポートが必要だと思います。	30代	被扶養者
個人事業主も被雇用者も平等であるべきだと思います。また、百歩譲って個人事業主と被雇用者にちがいがあっても、職種によって、個人事業主内で国保組合があったりなかったりで待遇に差があることは良くないと思います。	30代	扶養者無
何度も言うが、やはり失業保険と、職業訓練校の制度だけでもいいので、フリーランスも使えるようにしてほしい。年金や国民健康保険については、別に十分かなと思っており、それよりも、途中で仕事がクビになった際などの救済措置がない方がよっぽど不安。	30代	扶養者無
フリーランスになって厚生年金が無くなり、将来もらえる年金が大幅に減ることが不安	30代	扶養者無
パートナーが第2号被保険者なので、子どもの保障や自身の負担の増加など気にせずいられるが、もしもの時の対策を検討できていないこと。	30代	扶養者無
国民保険の内容と保険料が乖離しすぎている。あの手この手で社会保険料を下げるスキームがあり、グレーゾーンのものもありますが、そのようなスキームを使う気持ちも十分わかる。	30代	扶養者無
あまりにも国保の負担が重すぎることと職業によって必要な金額が異なり非常に不公平なこと	30代	扶養者無
会社員に比べて保障が少ないので社会保険料を削減してほしい	30代	扶養者無
家族の分もかかるため高い	30代	扶養者無
国民年金だけでは実質生活できず、生活保護受給になっているという実態があるのであれば最初から厚生年金と統合したほうが良いと思います	30代	扶養者無
会社員と同じ保障じゃないから心配	30代	扶養者有
個人事業主でも入れる健康保険組合がほしい。消費税を納めることの負担感が強い。マイクロ法人は本当は手続きが煩雑すぎるので、やりたくない。	30代	扶養者有
高い	30代	扶養者有
年金は払いたくないのに払わないといけない。出産後の男性の手当てがなさすぎ	30代	扶養者有
ここまで書いて方が、会社員と同等の選択を法人なしでも選べる世の中になってほしい。	30代	扶養者有
年金は大きな課題がある。特に老後の収入には不安。	30代	扶養者有
独立1〜2年はご祝儀的に案件がもらえ、翌年の税金が増えるが3年以降は落ち着くのでしんどい。	40代	扶養者無
なんとか安くしたいと思っている	40代	扶養者無
難病持ちなので、民間保険は高いor入れないので、なるべく広くカバーしてほしい	40代	扶養者無
負担が大きすぎる割に保障が薄いこと。	40代	扶養者無
今の制度はやはり国民全員加入義務になっているので、納得感が得られず、違法やグレーゾーンで負担を減らす仕組みが横行する温床になっていると思います。全員を満足させる制度や仕組みは存在しないので、払いたくない人には脱退する権利を与えて、自己責任で将来設計をしてもらうという選択肢を与えてはどうでしょうか？	40代	扶養者無
仕組みがややこしくて自分が何に対してお金を支払っているのかが分かりづらい。よく理解できていないまま、ただ払わされている感がある。	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
医療保険が高額であること。	40代	扶養者無
支払いが高く、恩恵は少ない。	40代	扶養者無
とにかく高いのに将来受け取れる年金額が少ないので、保障なくていいから社会保険料を減らしてほしい	40代	扶養者無
年金保険が所得に応じて変わらないことが不満。医療保険、健保は使った医療費も考慮に入れるべき	40代	扶養者無
国民投票で決められるようにしてほしい。国会で無条件に金額を増やせるのは収入源になっていておかしい	40代	扶養者無
NISAやIDECOの制度利用前に年金基金に加入したためコストパフォーマンスが悪い状態がこのあと延々続く。年金基金は基本加入後の脱退はできない仕組みだが、脱退できるようにしてほしい	40代	扶養者無
国保が高すぎる。年金は小規模共済や国民年金基金、iDeCoで補う方法があるが厚生年金と比べた時にどのように差があるのかわかりづらい	40代	扶養者無
国保は地域によっても金額が異なり負担が多い。協会けんぽに比べて保障も少なく自身で備えていく必要がある為、実質的に会社員より手取りが少ないように思う。年金は遺族年金の条件を改善してほしい。一時的に収入が上がっている時に支給条件から外れたら、その後の生活に大きく不安あり。	40代	扶養者無
社保は加入せず、すべて自分で管理、医療も自分で保険や資産運用して国家に関わらないやり方をやりたい。自分の負担は自分で賄う	40代	扶養者無
個人で国民健康保険に加入している場合、保険料が非常に高額で大きな負担となっています。そのため、自分の業界に属する人も国保組合に加入できるような制度が整備されることを強く望んでいます。	40代	扶養者無
人間ドックの費用を経費にしてほしい	40代	扶養者無
文美に入っていますが、法人にすべきかいつも考えています（法人にするほど売り上げはない）	40代	扶養者無
制度そのものに対しては将来を考えると不安でしかない。老齢年金を受給できるのか、と言ったことをはじめ、医療従事者を支えていけるのかなど自他を問わず不安である。事業主が負う事務手続きも負担であり、マイナンバーの導入を機に税と一体化した保険料と給付のあり方を見直してほしい。	40代	扶養者無
負担が重すぎるので軽くしていただきたい。	40代	扶養者無
先のグレーな組合にはいる気持ちもわかる	40代	扶養者無
制度がサラリーマンと比較し差別の中で生きてるので国に対して憎しみすら感じるがそれでも生きるしかないため自身で投資して先に将来の年金分を作った（国をあてにしない）がそれはあくまでもわたしの努力であり国の努力ではないのもっと国は考えて行動しろと思う	40代	扶養者無
フリーランスも社会保険制度を享受する必要があると思う。ただしそれは脱法的なものではなく合法なものであるべきだと考える。脱法的なものは法律で規制するべきである。一方でフリーランスも傷病手当金の受給ができるような制度を構築するべきである。	40代	扶養者無
とにかく高い。	40代	扶養者無
毎年国民保険料の上限が3万円ほど引き上げられている。政府が現金バラマキや減税施策を打ち出しても、その裏で上限が引き上げられると±0、またはネガティブである。今後も毎年改定されると、上限の対象ギリギリの収入のフリーランスは毎年、増税と同じである。	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
無駄な金を払わされていると思う	40代	扶養者無
働き方の違いで、社会保険制度が大きく異なるのは問題。社会保障制度が会社員に優遇されすぎている。	40代	扶養者無
会社員と違ってフォローアップの制度もなく、自分や家族が倒れたら終わり。	40代	扶養者無
将来の保険料について	40代	扶養者無
国保の支払上限金額が高額すぎるので実質手取りが額面の半額くらいになってしまいます。家計を圧迫しております	40代	扶養者無
保険料がどうにか下がったと思います。	40代	扶養者有
十分な社会保険制度があれば、民間の保険への加入も減らせ、出費もそれほど増えないと思うので、まずは就業形態にかかわらず安心して働ける保険制度を確立してほしい。	40代	扶養者有
高い	40代	扶養者有
とにかく高い。売り上げがたっても手取りが残らないので疲弊してしまう	40代	扶養者有
国民健康保険の中で出産・育児補償が必要。	40代	扶養者有
いかに老後の資金を増やすか。	40代	扶養者有
老後の収入が不安	40代	扶養者有
年金が少ないことと、老後に安定した収入が得られる可能性が低いことが大きな不安です。会社員は年金と再雇用されやすさの両面で、有利だなと感じます。	40代	扶養者有
会社員とフリーランスが勧誘可能な医療保険、年金の内容の差が大きすぎることは問題と感じる。	40代	扶養者有
特に無し	40代	扶養者有
会社員との差が大きい	40代	扶養者有
将来やもしもの時の不安がぬぐえない。	40代	扶養者有
支払額に応じた見返りが無いと思う	40代	扶養者有
年金が少ないので事前にかんりの資産を蓄える必要があるため	40代	扶養者有
医療保険はこのまま継続的にあった方が良くと思う。もちろん、国民保険も会社員と同等に手厚いサービスが受けられればもっと良いけれども。年金に関しては、今年納めた10万円が20年後も同じ価値で10万円なのかわからなくて怖い。今、生活苦になっても納めた金額が20年後・30年後には「たったこれだけ」の価値しかないかも。高度経済成長にかけてたった60-80年前に同じことが起きているので 高度成長～バブルが「たまたま」うまくいっただけなのでは？	40代	扶養者有
今の時代に合った保険組合を作れるようにしてほしい。	40代	扶養者有
高額医療制度があるので、その元金さえ用意していれば大きな問題は現状ないと思う。ただし、いつ起きるか分からないことにどのくらいの備えが必要なのかを自己管理となっている点。ただ、それは会社員でも同じ気はしている	40代	扶養者有
とにかく病気の時に支払うのが大変だったけれど、どうしようもないと市役所で言われて、払うしかなかったもので、何とかならないものかなと思っています。	40代	扶養者有

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
高すぎ	40代	扶養者有
フリーランスで家族（配偶者・子供）を養いながら生活していますが、税金・社会保険・年金などを滞納せず納めることを第一優先の生活になってしまっています。家族とゆとりと余裕のある生活を送りつつ、余剰分で税金・社会保険・年金などを納めていける生活を送りたいです。	40代	扶養者有
値段が高い	40代	扶養者有
フリーランスになって初めて、今まで会社員時代はいろんな制度に守られてるんだと実感した。	40代	扶養者有
国保はサポートが少なすぎるのと家族がいる事で負担が増えるため社保の方が良い	40代	扶養者有
フリーランス云々以前に高すぎる。負担の少ない高齢者が使うあてもない薬を安く提供されたり、したりする医療機関に問題がある。	40代	扶養者有
健康保険は年収に応じて自己負担が上がりすぎる	40代	扶養者有
将来必要な額をある頻度で確認していけるか、将来を見越した資産形成をしているのかが、今は自信がない。	40代	扶養者有
支払った金額に見合った保障があるとは思えない。	40代	扶養者有
フリーランスとして活動する上での特筆すべき課題感はないが、そもそもの国の制度としての社会保険制度の先行きには課題を感じる。少子高齢化に伴う労働力人口の現象による保険料収入減少と、給付金増加の問題である	40代	扶養者有
自営業者向けに中小企業共済やiDeCoの上限額を引き上げてほしい。	40代	扶養者有
現状では「なるべく負担を回避する」が個人の最適解と考える。	40代	扶養者有
国民年金だけでは将来の年金が少ないと感じ、他の制度を使って備えたいが、たくさんは回せないで、不安がある。	50代	被扶養者
以前、入院した。その際、入金なく苦しんだ。また国保だけでは、なんとも心細い。なので、自分でiDeCo、小規模企業共済やっている。ただ今後、退職所得控除の縮小などありそうで怖い	50代	扶養者無
年度によって収入額が増減するため、売上（所得）の大きかった翌年に受注が落ち込んだとき、税や保険の支払いによって資金難に陥ってしまうこと	50代	扶養者無
保険料が年々高くなってきている	50代	扶養者無
高すぎて不公平を感じる	50代	扶養者無
保証を厚くしたり、調整や選択することも出来ず、サラリーマンとの差を埋めることが出来ない事が課題だと考えてます。	50代	扶養者無
結局、手元に残るお金が少なくなるというのは会社員でもフリーランスでも同じと思う。	50代	扶養者無
保険料が高い。医療費を全額自己負担で払ってもお釣りがくるくらい高い。高齢者への過剰な医療を控えてほしい。	50代	扶養者無
さすがに見直すべき。色々無理がある。時代にそぐわない。生命を守るシステムだが、負担率の高さから、本来生まれてくるであろう命を奪ってしまっている印象。 なんでもかんでも保護するのは、この状況下では間違いでしょう。先天性の難病、障害の方は国家で保護し、それ以外は民間保険でも良い。 もはや、国民は絶対に増えないので、いまのシステム維持はやっぱりダメでしょう。 社会保険入っていない不法移民のほうが増えてますよ。	50代	扶養者無
納税者として社会貢献が相当あり、やっている仕事の質も高く、ただ働き方の自由さ柔軟さを求め、持続性の面から個人事業者でいるだけなのに、もらえる年金が少ないのは制度設計のバグだと思う。	50代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
病気で働けなくなった時の保障を個人保険の加入で賄わなくていけないことが、かなり負担。でも個人事業主が働ける配偶者の社会保険料を支払いことに反対。個人事業主はあくまでも、個人分だけの支払い、保障の範囲で社会保険制度を構築すべきだと思います。	50代	扶養者無
一定の職種のみ国保の組合があり優遇されているのが納得できない	50代	扶養者無
フリーランスは社会保障の面で会社員(特に大企業や公務員)と比べてリスクを負っていると考える。フリーランスに十分な報酬があればそのリスクを低減できると考えるが、発注元となる企業の多くはフリーランスを安く使える存在とみなしている傾向がある。特に高い技術や経験を持つフリーランスに適切な報酬を支払い、持続的に外部人材として企業の成長に寄与できる機会が必要と考える。	50代	扶養者無
フリーランスとしての問題ではなく、日本の社会保険制度自体がおかしいと思います。政治家、官僚がおかしいから制度もおかしいのですが・・・	50代	扶養者無
医療保険については保険料負担が高いという実感。年金保険については将来に年金としてもらえる金額が少ない点が課題と感じている。少なくとも「新卒で会社勤めを開始して定年（65歳）まで働いてきた人」と「新卒でフリーランスとして働き始めて会社勤めと同じ年収を稼いで65歳まで働き続けた人」とは、それまでの社会保険料負担と今後の年金の受給額は同じになるような制度設計であるべき。詳しく調べたわけではないので誤っている可能性もあるが、現状は「フリーランスの方がかなり不利になっている」のではないかという印象がある。	50代	扶養者無
フリーランスから1人社長になったが、特に初年度は手続きが煩雑で業務以外に考えることが多すぎることです。もっとフラットな社会保険制度にしてほしい。	50代	扶養者無
自身で社保制度になるべく頼らない将来設計を考えているので、それを実現するのみ。ただし、制度としての充実があれば、その情報をもっと活用すべきだと思う。	50代	扶養者無
フリーランスでも、年金についてはまだ選択の余地がありますが（国民年金基金など）、健康保険は強制徴収で、収入が少し上がるだけでも、かなりの金額になるところ。	50代	扶養者無
厚生年金のような所得に応じた公的年金制度がフリーランスでも欲しい。労使折半がない分、少し加減してほしい。課税対象額からその分引いてほしいが、年収が高いのに国民年金の額があまりにも低いのも本当におかしいと思うし情けない。脱法社会保険に騙されかけてすぐ返金させたことがある。危険で有害だし本気で取り締まってほしい。	50代	扶養者無
一人法人となり社会保険・厚生年金に加入している。報酬を少なめにして社会保険料の負担を抑えようとしているが、それでも労使で支払うとある程度の金額になる。こんなに支払ってその分のメリットがあるのかと考えると疑問	50代	扶養者無
健康保険と年金を切り離してほしいです	50代	扶養者無
稼ぐほど取られるので複雑な気もちだか、諦めている感じ	50代	扶養者無
はたらけなくなった時 収入が途絶えた時の生活が維持できないのでどうしたらよいかわからない	50代	扶養者無
家族含めた社会保険料の高さ	50代	扶養者有
会社員時代と比べて高額な上、付加価値も無い	50代	扶養者有
フリーランス、イコール、高所得者ではないし、雇用形態はいろんな事情で選択されるので、会社組織に所属できないなどの事情（家族の介護などの時間の問題など）など考慮されず、画一的な対応であまりに保障が少ないと感じる	50代	扶養者有
受け取れる年金額が少なすぎて、老後が非常に不安です。国民年金基金に加入していますが、出費が大きく事業存続が危うくなるケースもあります。金銭面的に非常に行きにくい時代だだと思います。	50代	扶養者有

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
・健康保険が高額になりがち ・国民年金だけでは足りない	50代	扶養者有
重圧	50代	扶養者有
とにかく保険高すぎて見合っていない	50代	扶養者有
とにかく金銭的負担が大きい。今の社会情勢で安くしろとは言わないし払うものは払うが、高額過ぎるように思う。苦勞して売上を増やしても、持っていかれる額が増えるなら、やる気も削がれる。国は経済発展の邪魔をしたいのか？とさえ思う。	50代	扶養者有
自分の親も国保。いま年金額を把握して、それでも少ないのに自分のときはどうなることやら	50代	扶養者有
現実的に終身保険が必要なので、国のサポートが必要。	50代	扶養者有
何が課題か現状わからない	50代	扶養者有
保険料がそもそも高すぎる 高い保険料払ってるのに、いざという時審査してもらえない。コロナの時とか。あと年金は本当に大丈夫か？ どんどんもらえる時期が後ろ倒しになっているけど。	50代	扶養者有
会社員と比べると圧倒的に不利を感じる	50代	扶養者有
くり返しになるが、現在三児の父で3人とも中学生～大学生と一番、養育費がかかる時期のため、社会保険の出費をこれ以上増やせないという事情がある。	50代	扶養者有
とにかく支払いが高い	50代	扶養者有
高すぎる	50代	扶養者有
国民健康保険の負担額が大きい、不公平で大変不愉快な思いをしている。	50代	扶養者有
国民健康保険高すぎる、国民年金も将来の支給額が少なすぎて不安	50代	扶養者有
とくにありません	50代	扶養者有
病気などで働けなくなったときのセーフティネットが少ない。（傷病手当金） 年金の制度が会社員と異なるため、自分自身で手当する必要がある。 遺族年金、障害年金の支給要件が国保厳しいのは初めて知った。大きな問題と思う。 国民健康保険料が非常に高い上に、上限額が頻繁に引き上げられることで負担がどんどん上がる。	50代	扶養者有
複雑な仕組みが多いので、フリーランスも会社員も同じような仕組みになるのが望ましい	50代	扶養者有
愚痴っぽくなりますが・・・ 国民年金はローコストローリターンなので理解できなくはないですが、国民健保は特に家族持ちの場合、ハイコストローリターンなので、ホントに勘弁して欲しいです・・・	50代	扶養者有
将来の社会保険制度の改悪の噂しか聞こえて来ず、現役世代の負担増&受けられるサービスに内容低下の制度改革はより一層社会の安定を悪化させることにしかならないと考える。 国全体の予算配分を見直し無駄か税金の使い方を削減し、社会保険制度のサービス内容の悪化を検討するのをやめてほしい。 現役世代が将来に期待と安心を得られる制度に改選していただきたい	50代	扶養者有
正式には国民健康保険税だが、税ではないような雰囲気を出しているのが気に入らない	50代	扶養者有
国民健康保険は保険料の高さが、国民年金は受給額が少ないのもあるが制度そのものが老朽化していて信用できない。	50代	扶養者有
なし	60歳以上	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
mashi	60歳以上	扶養者無
国民健康保険も国民年金も保険料の割には保証が低すぎる 普通に生活できる金額は必要だと思う	60歳以上	扶養者有
国保は高すぎる	60歳以上	扶養者有
医療保険はとても充実しているので、民間の保険に入る必要がない。年金はideco制度で充実した。	60歳以上	扶養者有
社会保障は働き方に関わらず公平にいきわたる様にしてほしい。	60歳以上	扶養者有
保険料が高い	60歳以上	扶養者有
社員の仕組みにフリーランスや自営業が希望すれば同じようにできる法制度を作ってほしい。そうすれば国民健康保険に従事する役人業務も減らせて、日本全体にも良い効果があるはず	60歳以上	扶養者有
とにかく保険料が高すぎる気がする。資金繰りにも関係するので、経営状況に応じた減免措置が欲しい。社会保険料倒産とか、現実味がある。	60歳以上	扶養者有
もはや、社会保険制度を「あてにしない」という気持ちだ。	60歳以上	扶養者有
国民健康保険は、高額納付者に対してリスペクトがない。せめてご褒美的に人間ドックなど、高額納付に応じたインセンティブがあるべき	60歳以上	扶養者有
支払っている金額の割に見合ったサービスになっていない（仕組み的に問題があるのだろうと感じではいるが、サービスの内容の違いは非常に気になる点で、例をあげると、健康診断の内容についても国民健康保険と保険組合では負担および検査の内容等にも結構な差があるなど）	60歳以上	扶養者有
65歳以上でも年金などに影響を与えない安心できる仕組みが欲しい	60歳以上	扶養者有
特になし	60歳以上	扶養者有

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
シンプルに老後の不安は付きまとっている。	30歳未満	扶養者無
保険組合の加入をどこにするか。	30歳未満	扶養者無
。	30代	扶養者無
医療保険は継続できる可能性があるとしても、年金、特に老齢年金は官営ポンスキームの化けの皮が剥がれているような様相を呈している。	30代	扶養者無
国の保険だけを頼りにしていたら将来が不安なので、他の保険にも目を向けていきたい。	30代	扶養者無
身体が資本なので、働けなくなったらどうしようというのは常にあります。	40代	被扶養者
私の世代は払った分が返ってこないと言われていました。	40代	扶養者無
細かい内容を把握していないこと	40代	扶養者無
そもそも社会保険料が高額すぎる	40代	扶養者無
フリーランスで最高売上を上げた年の翌年に手術をすることになり、高額医療費制度で限度額25万支払いをした。高額医療費制度はさらに値上がりされる状態で、フリーランスは打撃が大きい。手術前後は無職であり売上も下がるのに昨年の売上のおかげで高い医療費を払うことになった。	40代	扶養者無

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
将来もらえる年金では生きていけない。長く会社員だった時のお金はどこへ行ったのか。	40代	扶養者無
フリーランスとして、雇用されている人よりも重い責任を負って仕事をしているにも関わらず、守られないのはどうしてなのか。フリーランスはフリーランスで助け合う制度があってもいいのではないと思う。また、業務委託契約を、「雇用保険を払わず安く使えるバイト」という認識で使っている企業が実際にあるため、罰則を厳しくしたり監視をしっかりと欲しい。具体例を言うと、アルバイトでの募集に応募し、面接の後に業務委託契約を持ち掛けられ、その時給がアルバイトでの募集時と同額だった。雇用保険には入れないし、社保などもつかないため、実質報酬が減っていることになる。その旨伝えて仕事は断ったが、安易に業務委託を使っている事業者がいることは事実。業務委託であれば直接雇用よりも2倍の金額を出す、など法制化して欲しいと思っている。	40代	扶養者無
たとえば国保組合は本当に安く済んでいるのか（健康診断もないので特定検診しか受けていないけど）、などなど会社員に比べて情報がなさすぎる。	40代	扶養者無
フリーランスは収入の波が大きいの、保険料を安定して払い続けるのが大きな課題です。滞納につながらないようにする仕組みや、支払いの柔軟性があると安心できます。	40代	扶養者無
フリーランスは休めないことが多く、健康管理も非常に課題とを感じる。その一方、保障が少なく、無理することもある。日本経済が衰退している現在、増加するフリーランス、副業などをとりこみ経済発展、維持につなげるためには、制度改革や創意工夫が必要と考える。	40代	扶養者無
国民健康保険の高さはどうにかしたいとは感じているが、対処法が見つからないという現状です。（法人成は別問題のため考えていないです） 年金に関しては、期待すべきではないと思っているため、特に課題はありません。	40代	扶養者無
正社員からフリーランスになって、年金の金額が大きく減額されたことで、将来に不安しかなく、この国に未来を感じない結果となっている	40代	扶養者無
保険の運用先も運営のうえで大切ですが、その反面イスラエルの軍事関係の組織も運用先なので、今の日本は偽りの平和を主張するに等しいです。	40代	扶養者無
私の業種の場合、国民健康保険しか加入できないため、どんな業種でも加入ができるフリーランス専用の健康保険組合があると助かる。	40代	扶養者有
国民年金が定額制であること。最低保障を維持するためなのかもしれないが、収入に応じてなら未納もなくなるし、免除した後の追納の期限のことも考えなくて済む。（追納可能期間が短く、金額も当時の金額でなく現在の金額になるのも不満）	50代	被扶養者
保険、年金が格差があるのは良く無いと思うが、一本化で支払い金額が上がるのは現状では非常に厳しいと思う	50代	扶養者無
とにかく国民健康保険料が異様に高すぎるのが大問題です。	50代	扶養者無
色々していて、まとめられないものがある	50代	扶養者無
収入が少なければ収める額は少なくて済むので、現在だけを見れば特に課題は感じていない。	50代	扶養者無
個人事業主は健康を害したら即アウトと思って暮らしていますし、年金については将来に不安しかありません。	50代	扶養者無
病気で勤め先を辞め、長い間無職のまま障害年金で暮らしているが、少しでも収入を得たいため体に負担のない範囲で起業しようと思っている。病気が治る可能性もなく、今のままでは老後のための貯蓄もできず、医療費は年々かさむ一方で非常に不安である。	50代	扶養者無
問題は売上高を上げるための施策。社会保険は売上アップが実現されて保険料支払いが毎月支払える状況を作ることが課題。	50代	扶養者無
将来受け取ることができる年金額については不安が残ります。受取額を増やす術はいくつかありますが、支払える保険料には限りがあるしそれに見合った保障内容を探すのは難しい。結局何を選べば良いのか迷っていて最適解を見い出せていないのが現実。年齢やライフスタイルに応じて都度見直しが必要ですね。	50代	扶養者有

Q13.フリーランスとして活動する上で、ご自身の社会保険（医療保険、年金保険）に関して感じる課題感やこうあるべきというお考えがあれば、教えてください。

*あなたのお考えに近い政治家や専門家がいたらご記載ください。

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
収入拡大	50代	扶養者有
どのような職種であれ、組合に加入して社会保険に加入できるようにすべきである。	50代	扶養者有
保険料が上昇する一方で支給条件は悪く見直すばかり	60歳以上	扶養者無
なし	60歳以上	扶養者無
病気やけが、失業・廃業、出産・育児・介護、老後の暮らしへの保障は、最低限の社会保障だと思う。現在は、企業への雇用を前提に、企業を通して保険料の算定、徴収などが行われている。フリーランスは、発注先企業との関係が固定化していないので、国や自治体が「保険組合」のようなものを作って運営する必要があると思う。労働者とフリーランスの不公平感はなくすべき。	60歳以上	扶養者無
保険料の水準自体が高い。	60歳以上	扶養者無
社会保険制度自体がサステナブルなものなのかどうか疑問、不安	60歳以上	扶養者有
終身雇用制度は崩壊し、転職が当たり前。60歳以降も働くのが当たり前の時代なんだから、税制も社会保険制度を抜本的に見直して、シンプルにすべき。	60歳以上	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
月額がそこまで高額ではないから	30歳未満	被扶養者
フリーランスは失業給付や育児休業給付、教育訓練給付などの制度が一切なく、病気や出産・子育て、仕事の減少などで働けなくなったときに生活が立ち行かなくなる不安があります。自己負担であっても、これらの保障が受けられるのであれば、安心して働き続けることができ、長期的なキャリア形成にもつながると考えるため、ぜひ加入したいです。	30歳未満	被扶養者
金額によるが、補償が手厚く安心して挑戦できる。	30歳未満	扶養者無
万が一への備えができるのはありがたいから。とはいえ保険料が増えるのは厳しいところもあります。	30歳未満	扶養者無
国保がすでに高いのに、それ以上支払いが増えるのは困ります	30歳未満	扶養者無
収入に余裕があれば払えるが、払うのが難しい場合は、夫の扶養範囲内で働いた方がいいと思うから。	30代	被扶養者
現在の収入が少ないため	30代	被扶養者
日本国内で営んでいるので、経済の一端を担っていることを思うと補償されてもいいのではないかと思います。	30代	被扶養者
私は精神障害を抱えフリーランスとして働いており、体調が悪く働けないときに収入が途絶える不安があります。現状の制度ではフリーランスは雇用保険に加入できず、失業給付や傷病時の保障がありません。もし加入できれば、病気や体調不良の際に生活や治療に集中でき、安心して働き続けることができます。フリーランスも雇用保険に加入できる制度があれば、精神障害者で収入が不安定な人も安定した働き方が可能になると考えます。	30代	被扶養者
障がい児を育てているので、いつ仕事できなくなるか不安。介護休業を利用できる安心は持っておきたいため。	30代	被扶養者
フリーランスであれば自分一人が頑張ればいいという思考になりやすい気がするので、損益分岐点を考えれば加入しないことも選択肢に入ってしまうと思う	30代	被扶養者
年額でその支出を全額自己負担で支払う余力がない。	30代	被扶養者
今の収入では高いと感じるため	30代	被扶養者
フリーランスとしての収入が安定せず実入りも少ないため保険料が負担に感じてしまう	30代	被扶養者
使うか分からない給付金のために払いたくないと思ったから	30代	被扶養者
できれば入りたいが保険料が重荷になりそう	30代	被扶養者
他の保険に加入しリスクを減らすことができるため。	30代	被扶養者
収入に対しての負担が大きいので、加入するか否かは少し迷ってしまう	30代	被扶養者
稼ぎが少ないので負担が心配	30代	被扶養者
安心を買いたい	30代	被扶養者
社会保険料より負担が少なく保障が受けられるから	30代	被扶養者
給付金が必要なときに受け取ることができるのは、そのときにとても支えになると思うから	30代	扶養者無
失業や育児に関して手当てがつくことが出来るのであればつけたいと感じたから。	30代	扶養者無
保険料の料率が高い もとものの収入が少ないのでどのみち払えない	30代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
様々な給付金が保証されていると安心できる	30代	扶養者無
雇用保険については、個人的には払う金額とメリットが釣り合わないような印象です。これなら加入せずに貯金に回したほうがいい気がします。年代やライフスタイルによってはメリットを感じるかもしれません。	30代	扶養者無
開業したばかりで現時点ではあまり必要性を感じないから	30代	扶養者無
高い	30代	扶養者無
もし失業した場合の補償が少しでもあるなら加入したいと思いました。	30代	扶養者無
これ以上自己負担額を増やしたくない。	30代	扶養者無
第3子出産を現実的に考えれるようになるため	30代	扶養者無
加入したいが国民保険がたかいのでなんとも言えない	30代	扶養者無
思ったより月々の額が大きくなり、それで失業給付金などがあるなら安心感があります。一方で、自分の稼ぎ次第では給付金が不要となるため、状況に応じて回答は変わりそうにも感じます。	30代	扶養者無
やはり会社員と同じもしくは同等の保証や安心感が欲しい	30代	扶養者無
制度があれば使いたいし、安心して生活できるのか社会保険だと思う	30代	扶養者無
月額5000円以内ならまだ払えると思いました。	30代	扶養者無
負担額が大きくなる	30代	扶養者無
失業保険を例に挙げる場合、フリーランスだと失業の概念が企業に就職した場合よりも曖昧だと思われるため、給付条件が厳しくなることが予想され、加入するメリットを十分に受けられない可能性があるから。	30代	扶養者無
たいして稼いでいない&稼働時間も少ないため。	30代	扶養者無
傷病手当には備えたい、けど月5000円は結構しますね。	30代	扶養者有
お金に余裕があれば積極的に加入したい	40代	被扶養者
現在の収入では家族の扶養に入る方が良いが、扶養から外れるとなったら検討したい条件と金額だから。	40代	被扶養者
現在の扶養の範囲内での働き方と比較すると、魅力に感じる場所がないから	40代	被扶養者
リスクヘッジ	40代	被扶養者
自身の収入金額に左右されるため。	40代	被扶養者
雇用されていた時に各種給付金制度で助けられた経験があるため	40代	被扶養者
少しでも保証がある生活で、急な事態に備えたいため。	40代	被扶養者
フリーランスでもできるだけ安定した人生を送る権利はあると考えるから。	40代	被扶養者
収入に対して雇用保険が負担になるから	40代	被扶養者
フリーランスも流行がある物があるので、様子を見て乗り換えやすいように、教育訓練とかできると助かるかと思います。	40代	被扶養者

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
雇用保険があれば有難いです。	40代	被扶養者
自分で仕事をある程度とれる状態にあるか？そうでないかで違うと思っている。	40代	被扶養者
自分自身の稼ぎが少なく夫の扶養範囲で働いているが、稼ぎが増えた場合を考えると病気のことを考えると入っておきたい	40代	被扶養者
業務内容にもよるかなと思うので	40代	被扶養者
日本は自然災害も多く、誰も急に収入がなくなることはありうるので、セーフティーネットとして加入の選択肢がある方が、社会全体にとっても良いのではないかと思う。	40代	被扶養者
雇用保険は失業給付や教育訓練給付金が利用できるから	40代	被扶養者
育休手当が出るから。休んでいる間の不安解消になるから。	40代	被扶養者
育児休業の際に給付金がもらえるなら、金銭の不安を感じずに、のびのびと育児に取り組めたと思うから。	40代	被扶養者
自己負担となる金額が高いため、いつか雇用に戻りたいと考えてしまうため。	40代	被扶養者
必要な時期が近づいてきたら検討したいと思う。半分を経費に入れられるようにしてほしい。	40代	被扶養者
やはり女性側が介護の時間を取られるので、休業の可能性がある。給付のありなしは大きく変わる。	40代	被扶養者
収入が減ることによる不安を少しでも払拭できる	40代	被扶養者
夫の扶養を抜ける	40代	被扶養者
失業保険が欲しい	40代	被扶養者
この情報だけだと決めきれないため	40代	被扶養者
仕事を辞めたときに支給されるのは助かる	40代	被扶養者
過去3度失業し、失業保険には確かに助けられた面もあるが、そのほとんどを社会保険料で吸い上げられ、結局プラスマイナスゼロに近いことになり、貯蓄から生活費に回さざるを得なかったことから、だったら保険金に回す分を自己投資に回して、もっと収入を増やしたほうがよっぽど保険より人生のプラスになる。ただそう上手くもいかない状況も考えられるため、そのときにならないと何とも言えない。制度と自分の状況次第。	40代	扶養者無
まだ制度のメリットデメリットがはっきりわからないため	40代	扶養者無
金額が高い。	40代	扶養者無
保険制度そのものに信頼がおけないこともあり、信用できる組織があればお金を預けられるが、そうでない限り自分で運用したほうが良いと考えている。	40代	扶養者無
そもそも保険料が支払えない。	40代	扶養者無
働き方で違いがあるのは、不公平だと思うから。	40代	扶養者無
フリーランスだと失業保険は該当しないかと思うが、それ以外はフリーランスであっても日常生活で起こり得ることだから。	40代	扶養者無
雇用保険によるサポート体制があれば、業績悪化やケガや病気になっても生活保護のレベルになる可能性は低くなりそうだから。	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

安心感がある	40代	扶養者無
フリーランスの失業という概念があいまいだから。	40代	扶養者無
既に年金、健康保険の支払いに手一杯でこれ以上の支出は難しいので。もう少し安ければ加入したいです。	40代	扶養者無
デメリットを感じないから	40代	扶養者無
私にとっては負担が大きいのので現段階では躊躇します。	40代	扶養者無
自己負担ではなく公的資金も一部投入して支援してほしいと考えているため。雇用保険に加入していること自体は有用です。フリーランス個人だけに費用負担させるのではなく、税金などの、他の箇所からの支援も検討していただきたいです。	40代	扶養者無
実際に加入しようかと考えた事があるから。	40代	扶養者無
今の保険料、年金額よりかなり増えるのは困るが微増くらいなら加入したい	40代	扶養者無
やや負担が大きそう。	40代	扶養者無
個人事業を諦めたとして、雇用される仕事に就くまでの間に、失業手当をもらいながらじっくり職探しをしたいから。	40代	扶養者無
もう終盤期に入っているのと政治政策に明るい未来を感じられないどころか、絶望的なのでお金を払ってまで長生きしたいと思わないことから	40代	扶養者無
入ってないから。	40代	扶養者無
失業に備えたり、教育訓練を受けたりすることができる	40代	扶養者無
民間の保険で、介護休業をカバーする保険がないから	40代	扶養者無
事業収入の無くなる可能性は企業も個人事業主も変わらぬ条件のため。	40代	扶養者無
社会保障という恩恵だけでもありがたいと思っているため	40代	扶養者無
今の社会保険料の高さでは躊躇う	40代	扶養者無
民間の保険会社と個々に契約するよりも、金銭的にもサービスの的にも、メリットがあるように思える。	40代	扶養者無
もしもの時の保険、安心感はあるに越したことはないと思うから	40代	扶養者無
フリーランスの場合、どういう条件なら失業状態だと判定されて給付がもらえるのか。その判定が厳しくなりそうだなと思うと、雇用保険を払うよりも投資信託などでお金を増やしたほうがいいかもしれないと悩む。	40代	扶養者有
もしものため。廃業あり気で物事を先走るのは嫌だけど、家族のため。	40代	扶養者有
現状投資や夫との収入で将来はなんとかなっているが、介護休業や障害手当などを加味するとあった方がありがたい。	40代	扶養者有
将来の年金のため	50代	被扶養者
雇用保険は全ての労働者に必要だと思うから	50代	被扶養者

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

メリットが少ない	50代	被扶養者
今の働き方だと休業という概念があまり無いが、リスクリング等で給付が受けられたら嬉しい	50代	被扶養者
雇用保険料が高い。今回初めて失業保険をもらったがわずか3か月だけというのも、長年かけてきたのに割に合わない。	50代	被扶養者
現在は夫の保険の被保険者だが、いずれ開業時を出すので、その時に毎年30万の保険料よりは6万弱の雇用保険に入りたい。	50代	被扶養者
そもそも安定的な雇用ではなく、断続的な仕事にならざるを得ないから、雇用保険を払うメリットがない。	50代	被扶養者
失業した場合の備えとして	50代	被扶養者
今は収入が低いため、毎月決まった額を必ず払えるか自信がありません。	50代	被扶養者
労使折半を全額個人負担するとなると、保険料が高くなるのがネック。	50代	被扶養者
加入したいが負担金額次第だと思う	50代	被扶養者
失業に対するリスクヘッジとして	50代	被扶養者
そもそも失業したというラインが難しいと思う。	50代	被扶養者
結局負担が増えるだけかなと思い	50代	被扶養者
自分が必要な資格が取れない 補助金が貰えない時がある	50代	被扶養者
給付対象にはならなさうだから	50代	扶養者無
年齢的に必要かどうか疑問	50代	扶養者無
例示された雇用保険料には雇用保険二事業分が含まれているが、従業員の雇用を前提としないフリーランスが二事業部分を負担するというのはシミュレーションとして不適切ではないかと思う。	50代	扶養者無
経済的な負担が増える	50代	扶養者無
失業保険はほしいが、その他のものは個人的にいらない。仕事ができない時の保険は公的以外で別途あるので、それを利用してもいいかと思う	50代	扶養者無
年齢がもうかなり似て	50代	扶養者無
失業時安心できる。	50代	扶養者無
値段が高い メリットの条件による	50代	扶養者無
病気や介護で働けなくなっても収入が確保できるのは安心できてありがたいです。	50代	扶養者無
フリーランスの仕事が無くなったらパートで探します	50代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

社会ニーズとして、いつ仕事なくなるかわからない、また体調的な意味でいつまで仕事ができるかわからないから	50代	扶養者無
金額によるから	50代	扶養者無
雇用が不安定なフリーランスだからこそ必要な制度だと感じるため。	50代	扶養者無
おそらく今後どんどん金額が上がるのでいずれ払えなくなる	50代	扶養者無
一時的な給付金をもらっても、次の収入源のめどが立たなければ意味がない。	50代	扶養者無
万が一廃業する場合など、次のステップまでの保証がないのはとても不安だから。	50代	扶養者無
失業等給付金（失業保険）、介護休業給付金、教育訓練給付金がもらえるのは、ありがたい。安心して働くためにも必要だと感じます。	50代	扶養者無
高すぎる	50代	扶養者無
これから歳を取って働く際の安心材料になるから。何かあった時に保障が何もないのがとても不安だから。	50代	扶養者無
保険料額が支払ある範囲であれば加入したい	50代	扶養者無
保険額が高い	50代	扶養者無
いつ自分の身に何が起こるかわからないから。	50代	扶養者無
保障を得たいため	50代	扶養者無
選択肢としてはアリなのですが、現在の収入だと1円でも多く手元に残したい。	50代	扶養者無
費用のわりにメリットが小さい	50代	扶養者無
雇用保険は雇用されている者の保険であり、労働時間が自己管理のフリーランスにはなじまないと思うから。	50代	扶養者有
それほど負担も大きくなく 保証されるから	50代	扶養者有
自分で将来の保証をカバーできる制度まる探しつつお守り代わりに入るかもしれない。保険の内容次第ですが…	50代	扶養者有
もう還暦も過ぎていたのでメリットはない。	60歳以上	扶養者無
様々な理由により働けなくなる場合が想定され、そうなった時に支給されるとなれば安心できる	60歳以上	扶養者無
保障がないから	60歳以上	扶養者無
会社員は雇用保険があるから	60歳以上	扶養者無
怪我や病気で働けない場合の補償が必要	60歳以上	扶養者無
いつ今の職を辞することになるかわからない。	60歳以上	扶養者無
会社員と比べて高いけど、補償がちゃんとあるか不安。	60歳以上	扶養者無
いまは「フリーランスは怪我をしたら終わり」だから。Uber配達員の仕事を「儲かる」と考えて始める人の気が知れない。	60歳以上	扶養者無
不安だからとしか言えません。	60歳以上	扶養者無
経済的な負担が大きい	60歳以上	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
加入しているという事実だけでもとても安心して働き続け生活することができる	30歳未満	被扶養者
もしもの時に備えられるなら加入したい。	30歳未満	扶養者無
育児休業給付金以外はもらう予定がないから。	30歳未満	扶養者無
これ以上支払いが高額になるのは受け入れられない。	30歳未満	扶養者無
任意で加入可能、失業認定は条件付きになると思うのでその条件を広く公表してほしい	30歳未満	扶養者無
いつ病気で働かなくなってもおかしくないから	30歳未満	扶養者無
将来の安心材料がほしいから	30歳未満	扶養者無
支払うことで得られるメリットがあるから	30歳未満	扶養者無
育児休業給付金が貰えるから	30代	被扶養者
負担を減らしたいから	30代	被扶養者
なんかいい。	30代	被扶養者
やはり、個人事業主駆け出しのため雇用保険があるとありがたいです。	30代	扶養者無
自己負担額が大きいくから。	30代	扶養者無
今、雇用保険に入るためにフリーランスをやめて派遣社員になるかを真剣に迷っているくらい、産休育休手当のために雇用保険に入りたいから	30代	扶養者無
会社員である以上は時間や場所に縛られて家族(ワークライフバランス)と天秤にかけることが多々あるが、フリーランスでは成果報酬型や働く場所や時間が柔軟に調整できるため、子育て中も介護中も働きやすくなると思う。しかし社会保障(雇用保険)の部分で劣ることがこの選択肢を選べなくするのは大変もったいないと思う。労働力不足が叫ばれる中で、制度も多様になったらより労働力を取りこぼさずに済むと思うから。	30代	扶養者無
現状年金も国民健康保険もかなりの負担になっているので、これ以上負担できるのかわからない。	30代	扶養者無
できれば加入したいと思うが、現在の所得で雇用保険金も支払うとなると、月額負担が大きいくと感じてしまうため。	30代	扶養者無
加入できた方が安心	30代	扶養者無
失業の判断目安が完全失業なら入りたくないのですが、「平均月収の半分以上になった」で少しもらえたりするのであれば入りたいです。	30代	扶養者無
保険料が安い上に失業保険などサポート制度も充実している。	30代	扶養者無
保証が欲しいから	30代	扶養者無
保険のように安心、安定、安全を買いたい。	30代	扶養者無
個人事業主は開業後、数年で廃業してしまうケースが多いです。その際に失業等給付金を貰えたら再就職までの生活に困らなくなりそうですし、そもそも廃業にならないように、教育訓練給付金などを活用して自身の能力の向上などができる体制も必要だと思います。自身の親の介護もいつ必要になるか分かりませんし、加入できるなら加入したいです。	30代	扶養者無
「フリーランスの失業」の認定が難しいのでは。廃業した時なのか、仕事の依頼がしばらく何も来ない時なのか。育児休業給付金、介護休業給付金、教育訓練給付金はいいと思います。	30代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
どの状態が失業と認定されるか難しいと思うが、なかなか仕事にありつけない状態になった場合の失業給付金はありがたい。 また、介護休業を頭に入れておかないといけない年齢になったので、その場合の給付金が出るのもありがたい。	30代	扶養者無
いつ働けなくなるかは分からないので加入したいと思う。	30代	扶養者無
制度としては魅力的だが金銭的に安いとはいえないため。	30代	扶養者無
子育てをする際に、育児と仕事の両立をするため	30代	扶養者無
国保等に比べたら断然に安い	30代	扶養者無
安いから	30代	扶養者無
雇用されていないことを理解してリスクを取っているのだから、必要がない。	30代	扶養者無
フリーランスは不安定なので、いざというときの備えが必要だと思うから。雇用形態で福祉の充実度が変わるのをおかしいから。	30代	扶養者無
高い。	30代	扶養者無
これくらいの額であれば、いざという時の為加入してもいいと思えるから。	30代	扶養者無
出産育児の不安が大きいため。	30代	扶養者無
失業給付金の条件によるが、稼働できなくなっても安心できる条件なら、Adobeツールなどの経費より安く、リターンに見合う。	30代	扶養者無
フリーランスにも保証がほしい	30代	扶養者無
加入しているだけで心の支えになると思うから。	30代	扶養者無
実際に支払う額と保障内容を比較して検討したいため。	30代	扶養者無
フリーランスの方が失業状態が多いと思うから	30代	扶養者無
ないよりは良い	30代	扶養者無
今後、出産育児をする予定はないが、介護をする可能性はある。	30代	扶養者無
この月額であればそのまま貯蓄した方が良いのでは	30代	扶養者無
会社退職後、教育訓練を受けたいと考えたが、その時点で既に副業収入があり開業届提出済だったため対象とならなかった。	30代	扶養者無
フリーランスも会社員と同様に出産や介護に参加したり、キャリアチェンジをする権利が得られるから。最近は週5フルタイムのフリーランス募集もあり、会社員のように使われる場面も増えているので労働者としての側面を捉えるべき。	30代	扶養者無
手当てが厚いのは安心感があるから	30代	扶養者無
5,000円程度であれば負担することが可能。保険と思って入っておきたい。現在はリスキリング補助金などがあっても対象にならないので、これで対象になればさらに嬉しい。	30代	扶養者無
不安定な状況から抜け出したいから！	30代	扶養者無
育児給付金の金額が大きすぎるのでメリットがある	30代	扶養者無
母の介護が大変でしたが、当時はコロナ禍で仕事が無い時期でしたので、今の世の中が戻った働き方で、あの日々を過ごすには大変すぎると思います。でもなかなか施設や病院には入りづらく、保障されてると、仕事も介護も前向きになると思います	30代	扶養者無
リスキリングが受けられるようになり、仕事の質向上につながるから	30代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
失業しても案件を変えればいだけだから	30代	扶養者無
育児休業給付金の対象になるため	30代	扶養者無
「もしも」に備える発想を日常的には持ちづらく日常的な損失金額が気にはなるが、やはり備えはしておきたいため	30代	扶養者無
生活のためには加入したいと考えるが、これ以上支出を増やしたくないから。	30代	扶養者有
育児や介護はこれから自分の身に起こることだから保障が欲しいから	30代	扶養者有
いつなにかあるかわからないし、会社員よりはリスクがあるため。	30代	扶養者有
家族が出来るほど保証が大事になってくる	30代	扶養者有
そもそも雇用ではないし、雇用されるより働き方に融通がきくこともあり、同じ枠組みでの保障は双方に不公平感が生まれそうなので。	30代	扶養者有
この金額ならむしろ嬉しい	30代	扶養者有
来年の自分が見えない	40代	被扶養者
それに対応するフリーランス用の保険商品があり、そちらの方が安価だから	40代	被扶養者
付加給付があれば入りたい	40代	被扶養者
自分の仕事で手詰まった時にまさに保険として利用できる、また職業訓練校などに給付金などをもらいながら通えるので、別の道を選択しやすい。	40代	被扶養者
今以上に保険にお金をかけられない	40代	被扶養者
働き方が多様化する中で、より多くの働く世代にサポートが必要だと考えます	40代	被扶養者
この金額で更に社会保険料が半額以下になるのであれば、加入したい	40代	扶養者無
支払あの大変ですね。でも体が崩れたら終わりという日々なので	40代	扶養者無
各種給付金にメリット感じるため。任意で加入できる制度があると望ましいと感じる。	40代	扶養者無
一人で仕事していると、仕事が出来なくなった時が心配	40代	扶養者無
独身なので、それらの手当ては疾病給付金以外は特にいらないから。	40代	扶養者無
万一の時の備えは必要だから	40代	扶養者無
保険の前に受注をあげないといけないので	40代	扶養者無
支払い額が低くなるから	40代	扶養者無
もしもに備えるための雇用保険ですが、この制度が正常に機能しているのか懷疑的です。失業給付より、もしもの時に働く場所の提供や、フリーランスの職歴への差別をなく雇用してもらえるような、前向きな制度であれば、ぜひ利用したい。	40代	扶養者無
失業保険がもらえるのは大きい。精神的負担がかなり軽くなる。ただ、月額負担が大きい。	40代	扶養者無
契約が月毎で不安なので	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
今後を考えた時に、入った方が補償が大きいくと感じる	40代	扶養者無
雇用保険が全額経費扱いになるのであれば節税にもなり、入るメリットは十分あると思われるから。	40代	扶養者無
入るメリットの方が大きいから	40代	扶養者無
収入がコンスタントに保障されている状況なら是非加入したいと思うが、そうではないため。また、フリーランスの失業条件（失業状況の定義、加入年数は会社員と同じか等）による。	40代	扶養者無
失業保険など、その分を積み立てや投資に回せばカバー出来る場合もあるかとおもう	40代	扶養者無
やはり体が資本なので何かあると考えると怖い	40代	扶養者無
収入が100から急にゼロになるなら加入したいと思うが、月額5000円近くなると、徐々に収入が減っていった場合厳しくなり途中で解約してしまう可能性があるため	40代	扶養者無
教育訓練に関する支援はフリーランスこそ事業継続に必要だと思うから	40代	扶養者無
介護についてはこれから課題になるので、何かしら制度が利用できると国民として嬉しいです。	40代	扶養者無
失業や介護などいつ降りかかってもおかしくないことに備えたい	40代	扶養者無
払える額なのか心配。あと法人化したら手続きどうなるんだろうか、、、	40代	扶養者無
払う額は、受けるものを考えると、払おうと思える額だと思う	40代	扶養者無
労使折半がない状況ではあまり変わらないと思います。労の部分がなければ、国がその部分を補填するなどして、制度を改正してほしいと思います。もしくは、公平性を担保するのであれば、会員の労使折半分の会社負担をなくして平等にするのもよいかと思います。そのようにすれば、偽装フリーランスなどの問題も間接的に解消するのではないかと思います。	40代	扶養者無
失業したときの生活の保証が必要と考えたため	40代	扶養者無
雇用保険はあてにならないから	40代	扶養者無
民間保険で同等のサービスを安定的に受けられるものは少ないだろうから。国民の生活の下支えとして国に用意してほしい。	40代	扶養者無
今後介護が必要になるかもしれないので	40代	扶養者無
その金額で他の保険に加入するか貯金や投資に回すため	40代	扶養者無
仕事が不安定で、継続して働けるとはまだわからないため	40代	扶養者無
教育訓練や育児・介護給付は個人事業主でもあったら助かるため	40代	扶養者無
月額5000円で起きうる不安に備えることが出来てとてもいい	40代	扶養者無
老後が心配なので	40代	扶養者無
仕事が終わった時のつなぎの資金が必要と感じるから	40代	扶養者無
働けなくなった時の保証がないから	40代	扶養者無
失業保険や介護給付があるのは心強い。	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
何らかの理由で致し方なく失業した際も、失業保険があると思えば精神的に余裕をもって次のステップについて考えることができるから。	40代	扶養者無
まだ内容が把握しきれていないが、しっかり内容を把握して前向きに検討したい	40代	扶養者無
教育訓練給付金が魅力的なので使いたい月五千円払い続けるのは少し高いので絶対入りたいとまではいかない。	40代	扶養者無
予期せぬときでも保障されるから。	40代	扶養者無
全額 人文で支払うと手取りが少なくなってしまうから。	40代	扶養者無
必要だと思う気持ちもありつつ、月額が少ないとはいえず持ち出しにもなるので、収支面で不安があるから。	40代	扶養者無
どうしても収入が不安定なので、いざという時のための備えがあればあるほど安心なため。	40代	扶養者無
先日、親の介護のため、フリーランスの仕事を辞めることに決めたところです。しかし、今後の収入面のことを考えるととても不安です。なので、失業給付金や介護休業給付金の必要性を感じております。	40代	扶養者無
万が一には備えたいから	40代	扶養者無
少しでも不安を減らしたい	40代	扶養者無
最も大きい給付と思われる出産を控えていれば加入したが、既に過ぎてしまったのでベイベできなさそう	40代	扶養者無
現在の収入を考えると負担感が大きい。他の社会保険や税金の負担もある。可処分所得所得が増えれば検討できる可能性もある。	40代	扶養者無
ライフステージごとに仕事に100%振り切れるなくなるタイミングがあるから	40代	扶養者無
加入するよりも、自分でお金を貯めた方が良く、今の段階では感じるため	40代	扶養者無
病気、怪我に備えられるため	40代	扶養者無
他の社会保険と同じく、出産・育児・介護や失業・就労不能は雇用されていなくとも起こりうるもので、雇用保険に加入できない者は貯蓄や民間保険で備えざるを得ない状況にある。そもそも雇用保険という名で扱うべきものではない。労使折半のあり方も含め、保険料の支払額と受給額の調整は必要であるが、全ての就労者が加入できる制度が必要。	40代	扶養者無
働き方改革と言われている現代、会社員と同様、育児休業給付金、介護休業給付金は安心して、ワークライフバランスを取るためにも必要だと思う。	40代	扶養者無
経済的負担がへる	40代	扶養者無
下請法やフリーランス法があっても、やはりいつ仕事を切られるかわからないのがフリーランスの現実だから。シングルマザーだったら心中するしかありません。	40代	扶養者無
月額が少し高い	40代	扶養者無
公的な保険がないので、仕方なく民間の保険でリスクヘッジしている事情があるから。	40代	扶養者無
サラリーマンに比べて高すぎる。	40代	扶養者無
廃業した場合の保障は欲しい	40代	扶養者無
もし雇用保険と同じ金額を負担し、加入が可能となれば、生活の安心感が得られるだけでなく、スキルアップの機会を持てることが大きな強みになると思います。また、保障があることでローンや賃貸契約の際に社会的信用を得やすくなると思います。	40代	扶養者無
セーフティネットとして入りたい。(不安の解消につながる。)	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
お金に困らないため	40代	扶養者無
雇用保険が財源となるものに産前産後休暇がありますが、フリーランスのボリュームが多い層は40代ですよね。もう手遅れではないですかね。若い人のためにといってもおそらく正社員回帰や他の働き方が生まれるかなと考えています。また、失業手当もここから出す場合、長くフリーランスをしてきた人にどの程度保証されるのか、この金額負担をしてメリットがあるのか疑問です。またリスキリングなど学ぶ機会を提供する場合、現状ある動画コンテンツプラットフォームの増加などはあまり意味がないと感じています。また、会社員向けでも求職者支援給付金は所得制限があるので、フリーランスにも制限が適用されるなら私個人としてはまったくメリットがないです。ボリューム層が安心できるような制度設計が見えないので（すみません知らないだけかもしれませんが）、支払う額だけ提示して「加入したいか」と聞かれても現在の金額負担が重いの、さらに5,000円近くも？と抵抗感があります。	40代	扶養者無
国保と年金の負担だけでもきついで更なる負担は難しい	40代	扶養者無
会社員ほど守られていないのを実感している。女性の個人事業主で廃業して育児をしている人をみている 小さな地方の個人事業は社会のインフラたり得るのか？経済原理のみで潰されている感じがする。	40代	扶養者無
負担が大きい。	40代	扶養者無
失業は、契約が切れた時点なのか、どの時点で失業となるのか曖昧なため、難しような気がします。	40代	扶養者無
過去に雇用保険に加入していたため。	40代	扶養者無
社保が高すぎるので これ以上固定の出費が増えるのは苦しいと考え Wワークに踏み切りました	40代	扶養者無
廃業したときの生活保障があった方がいいと思うから	40代	扶養者無
特に必要としていないから	40代	扶養者無
給付の対象となる条件と保険料のバランスによる	40代	扶養者無
前の質問と同じ	40代	扶養者有
失業するリスクに比べて掛金が高いから	40代	扶養者有
雇用保険（失業）には自分で備えるべきと思うから	40代	扶養者有
フリーランスの場合の失業保険の定義や要件が不明だが、案件が途絶えた時など失業保険がもらえるなら加入したい。	40代	扶養者有
仕事がいっなくなるか不安だから	40代	扶養者有
現在民間の保険でプロテクションしているから	40代	扶養者有
ちょっと分からない	40代	扶養者有
保険料が高いのにもかかわらず、実際に失業した際には、生活できる水準の補償は受けられない印象だから。	40代	扶養者有
会社員より大幅に高いから。ただ、自分が自分を雇用していると考えると仕方ないのかも。	40代	扶養者有
フリーランスは基本的に、仕事量が安定している職業ではないため、もしもの時困るから。	40代	扶養者有
教育訓練給付で、新しい資格を取りたいです	40代	扶養者有

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスでも、特に家族を抱えている人にとっては切実な問題だと思う。一人暮らしでフリーランスの人、パートナーがいて子どもなしのフリーランスの人、パートナーの扶養に入っているフリーランスの人、パートナーと子どもを扶養している人、それぞれ前提がまったくことなるため、求めるレベルもまったく異なると思うが、できれば抱えているものが重い人のサポートを増やして欲しい。大変勝手な意見ですが、率直な思いです。	40代	扶養者有
ライフステージにもより、加入のメリットで考えると、選択肢がある（加入するだけでなく、どの給付かが選べるプランなど）制度設計だとよりよいと考えます	40代	扶養者有
子供の教育費や自分の老後のために、何年か前から積立投資をしているのと、今後仕事を変える可能性は少ないのではないかと考えているので。	40代	扶養者有
少し負担額が高く感じるため	40代	扶養者有
今でもこの雇用保険のために、半分社保対応になるくらいまでは働きたいと思う反面、現状の業務すべてを一旦調整しないといけないのが大半なため、もしもフリーランスでも加入できるなら自腹でも加入したいと思っています。	40代	扶養者有
若年の頃であれば、フリーランスで雇用保険加入ができることはメリットが大きいです。介護休業給付金は、実用として使えるのかどうか疑問（個人事業主にとって休業＝仕事が無くなるとほぼ同義のため）	50代	被扶養者
案件と案件とのあきが出てしまう間の収入がないなどの不安がなくなるから	50代	被扶養者
仕事が無くなった時に手当をもらえるのはいいと思うが、減収ではだめでゼロでないといけないとすると難しい。	50代	被扶養者
月額はやや高いものの、現在の働き方が出来なくなったときに対応出来る手段を確保しておきたいため。	50代	被扶養者
得られるメリットより支払うデメリットのほうが大きいから	50代	扶養者無
余裕がない	50代	扶養者無
保険料が高い	50代	扶養者無
昨年、業務外で事故にあい、仕事ができない状況があったため。	50代	扶養者無
年金が一階建てなので老後が不安	50代	扶養者無
社会保険ですら高いと感じるので他に支払う余裕はない。	50代	扶養者無
所得が少ない場合高額に感じる	50代	扶養者無
フリーランスで「失業」は当てはまらないような気がします。しかし、介護や教育に保障があると安心だと思います。	50代	扶養者無
毎月の所得が固定ではなく、月によっては収入がゼロのこともあるので、今は何とも言えない。	50代	扶養者無
失業の定義がよくわからないので	50代	扶養者無
安心料として加入したいと思う反面、年齢的に今さら加入してもメリットが少ない気がする。	50代	扶養者無
この国の制度では、結局儲かっていないフリーランスにとって不利な条件しかないので、せめて病気になった時や、事故に遭った時など、保証は絶対に欲しいです。ただでさえ1人で不安なんですから。	50代	扶養者無
個人でも勤め人でも保証は必要でしょう でも、その時期は僕には終わっているので個人的に考えたら、使えないが正解	50代	扶養者無
現状で出産が終わり育児も以前より手がかからないなど、雇用保険でうたうメリットの半分が必要ない状態のため	50代	扶養者無
雇用保険は必要なセーフティネットだから。	50代	扶養者無
失業も育児休業も介護休業もないから	50代	扶養者無
支払う保険料が妥当かわからない	50代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
会社員より失職するリスクが高いため	50代	扶養者無

雇用が保障されないのはフリーランスなら当然だと思うから	50代	扶養者無
月額が3000円くらいなら考えたい	50代	扶養者無
業務委託で働いていると、突然契約の終了を言われてしまう可能性があるから。	50代	扶養者無
加入したいが、現在の負担でも厳しいのでこれ以上負担できるかどうかわからない。負担したために経済的に破綻する可能性がある。	50代	扶養者無
失業する可能性が0ではないから	50代	扶養者無
精神的安定につながると思うので	50代	扶養者無
フリーランスの「失業」を法的に定義するのは難しいのではないかと思います。	50代	扶養者無
何をもって失業保険が降りるのか、加入できても払われなさそうだから。	50代	扶養者無
雇用されている人よりも受け取る額がやや少なくてもいいので、雇用保険料も下げてほしい。そもそも雇用保険料が労使折半というのも、見直してもよいのでは？	50代	扶養者無
時間をかけて検討したい。	50代	扶養者無
親の介護が必要となった場合に、介護した時間だけ収入が減るので。	50代	扶養者無
フリーランスとしても仕事を失い生活ができないタイミングもあるかと思うので、保険的なものがあれば安心	50代	扶養者無
どのような状態が失業とみなされるのか、明確に定義されるまでは判断が難しいと感じます	50代	扶養者無
零細企業と業務委託契約をしているため、もし倒産したらと思うと、失業手当がないのはキツイ	50代	扶養者無
フリーランスで企業同様に労使双方分を負担するのは金銭的になかなか厳しいため。	50代	扶養者無
負担を減らしたい	50代	扶養者無
加入したら安心感が違うから	50代	扶養者無
失業中に生活ができないと当座の仕事をすりに注力せざる得なくなり、日々に追われてしまい転職活動が困難になるため。失業は個人のスキルや努力だけが原因ではないケースもあるため、僅かでも救済があっても良いと思う。	50代	扶養者無
自分の状況により、その時に検討したいと思います	50代	扶養者無
独立した時点で出産を終えており、その他の面は民間の保険で備えているので自分にはそれほど必要はない。ただし、制度としては、あった方がよいと思う。	50代	扶養者無
失業等給付金（失業保険）、育児休業給付金、介護休業給付金、教育訓練給付金を受給する状況にない	50代	扶養者無
トータルで考えてみたい	50代	扶養者無
やはり安心がほしい	50代	扶養者無
育児休業と介護休業はもう自分には関係ないので、ざっくり考えるとサービスの内2分の1しか享受できないから。	50代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
6万円近い年会費は高額。	50代	扶養者無
失業等給付金（失業保険）、育児休業給付金、介護休業給付金、教育訓練給付金ももらえる方が良いから	50代	扶養者無
負担が大きいため	50代	扶養者無
社会情勢も不安定な時代で、いつ仕事がなくなるかの不安は拭えませんが、雇用保険のようなものは誰でも加入出来るようになって欲しいと思うから。	50代	扶養者有

仕事が出来なくなる時の保証として入っておきたい。持病があり保険会社の所得保障には入れない。	50代	扶養者有
安心だから	50代	扶養者有
リスクが高いから	50代	扶養者有
充分な売上があれば加入したい。	50代	扶養者有
追加の費用が重い	50代	扶養者有
フリーランスの場合、何を持って失業とするのがよく分からない。 また、一度失業した後に再度フリーランスで起業しようとした場合にどのような取り扱いになるかがよく分からない。	50代	扶養者有
失業したときの一時的な生活費に充てられるから	50代	扶養者有
リタイア前に働けない状態のときが何度か起こるものだから。	60歳以上	被扶養者
失業保険は良いが、仕事上の疾病に関する審査が厳しいのならと二の足を踏む。フリーランスは仕事とプライベートの境目はない。生きていることそのものが業務である。	60歳以上	扶養者無
フリーランスは失業かそうでないかの線引きが難しく、また転業や副業への制約がないので	60歳以上	扶養者無
仕事が途切れたり病気になったりしたときに安心感があります。	60歳以上	扶養者無
お金がない	60歳以上	扶養者無
知人の団体の保険に入れるから。	60歳以上	扶養者無
実際の支払・受給額を見ての比較検討にはなと思うが	60歳以上	扶養者無
複数の企業が共同で行われるITプロジェクトなどでは、フリーランスが加わることもあり、同じ仕事を行うメンバーがそれぞれ異なる雇用条件で仕事を行うのは合理的ではない。	60歳以上	扶養者無
拠出額が高いから。	60歳以上	扶養者無
社会保障の必要性を感じるため	60歳以上	扶養者無
失業保険が魅力だが、育児休業給付金、介護休業給付金、教育訓練給付金はあまりメリットを感じない	60歳以上	扶養者無
もっと若いときだったら加入を積極的に考えたと思うが、そろそろ引退が眼のまえに迫ってきているので、今さらなあ、という気持ちがつよい	60歳以上	扶養者無
すぐ次の契約先が見つければ失業保険を受けないので(今まで失業保険をかけていても次の仕事を見つけて受給したことが無い)	60歳以上	扶養者無
もうそろそろ年なのでもういいかな？	60歳以上	扶養者無
給付条件が厳しくなければ、またフリーランスの実態に合ったものなら入りたい	60歳以上	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
支払いと給付のバランスが悪いと感じる	60歳以上	扶養者有
フリーランスとサラリーマンの違いが曖昧に感じる。	60歳以上	扶養者有
フリーランスは雇用されていないという現実を認識したうえで選択すべき。意図せずフリーランスになった人には別の枠組を設けし救済するが合理。	60歳以上	扶養者有
保障があると安心だから。	60歳以上	扶養者有
フリーランスは会社員と同様に生産手段を持たないので、失業すると全く収入を得る手段を持たないため。	60歳以上	扶養者有
費用が高い。	60歳以上	扶養者有

失業する可能性はゼロではないので、リスクヘッジとして。	60歳以上	扶養者有
仕事が無くなった時に安心	60歳以上	扶養者有
公的年金・企業年金を受給しており、ある程度の貯蓄があるため必要性を感じない。	60歳以上	扶養者有
手元資金と年金で生活が継続できるため	60歳以上	扶養者有

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
金額が高すぎる	30歳未満	被扶養者
高いから	30歳未満	扶養者無
雇用保険があると安心できるし、何より教育訓練給付金を利用できるから。	30歳未満	扶養者無
雇用保険は魅力だが、今度は費用負担が問題になると思う。各種保険の費用負担が経費計上や所得控除できるなら良いと思う。	30歳未満	扶養者無
今後親の介護などで休業せざるを得ない状況になったとき、休んで収入がなくなると困るから。	30代	被扶養者
少額のため、負担と感しない	30代	扶養者無
保障を受けたいと思うが他の払っている保険料が高いため少し躊躇してしまう。	30代	扶養者無
もしものとか安心できるから	30代	扶養者無
今現在では必要ない。	30代	扶養者無
安心が欲しい	30代	扶養者無
例えば、フリーランスを辞めて会社員に転職したい、という際に雇用保険があればだいぶ楽になるとおもう	30代	扶養者無
出産前であれば、ぜひ加入したいと思うが、出産予定がない場合は加入しないと思うため	30代	扶養者無
出産による休業で最大2年間も給料が保証されるなら絶対に入る。子供を産まないのなら必要かないと思う。、	30代	扶養者無
雇用保険法で何か保証されるのか、明確であれば良いと思った。	30代	扶養者無
教育訓練給付を受けたいから	30代	扶養者無
追加で支払ってるサービスを受けるのはおかしいと思うため	30代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
安定は大事だから	30代	扶養者無
カバーされる範囲が広く、民間保険などの負担も減り補償も増えるから	30代	扶養者無
いきなり無収入はとても困るので	30代	扶養者無
いざというとき安心できるから。	30代	扶養者無
恩恵を受けられる範囲が限定的で払い損になりそう。失業保険は何を持って失業とするのか定義が難しいと思う。自分で投資して増やした方が良さそう。	30代	扶養者無
・フリーランスこそ不安定な働き方なのでむしろ会社員より手厚い保障が欲しいです。・保険料（コスト）に見合うだけのリターンがあればぜひ加入したいです。	30代	扶養者無
失業手当は魅力的だけど、完全に仕事がない場合にしか適当されないとするとあまり意味がないかなと思います。	30代	扶養者無

手当がなく苦しい思いをしたため。	30代	扶養者無
制度としては必要なことだと思うが、雇用保険額が一般企業と比べても高額になっていると感じる。	30代	扶養者無
育児休業給付金、介護休業給付金は大きいと思う	30代	扶養者無
育児手当は必要だと思います。フリーランスで2人生みましたが収入がないため早期から復帰せざるを得ず、心身の負担が大きいです。また、2人目も悩みましたが、3人目は無理だな、と思います。	30代	扶養者無
保険料が妥当かわからない。フリーランスの場合何をもって「失業」とするか難しい。	30代	扶養者無
現状の社会保険の負担を考えた場合、雇用保険までの負担を出せる余裕がないため。	30代	扶養者無
お金が大切だから	30代	扶養者有
安心だから。	30代	扶養者有
支払う額が高い。	30代	扶養者有
会社員も同程度負担をし、雇用保険の恩恵を受けているのなら、同じように入れるのは良いことだと思う。	30代	扶養者有
安い金額ではないため	30代	扶養者有
もしものため	40代	被扶養者
失業給付金などの保障が多いため	40代	扶養者無
万が一の場合に備えておきたいため。ただし何を持って失業とみなすかなどの課題はあると思う。	40代	扶養者無
国保と年金が高いのでその金額が下がるのであれば考えたい	40代	扶養者無
給付金を受け取れることで、安心して治療に専念したり、次の仕事を探したりするための条件が整うと思うから。健康を維持したり、契約を得たりするための努力はもちろんするつもりだが、意思に反してうまくいかないこともあると思う。そうした時の支えは、会社員かフリーランスかに関係なくあるべきなのではないか。	40代	扶養者無
ただでさえ負担が大きいのに乗せは厳しい。その分貯金や投資のほうがいいのかな…って思う。	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
高い。フリーランスでも加入できるようになった労災保険で代用してると考えても良いかも。	40代	扶養者無
失業した時、出産時、介護休業の時などはやむを得ずそうなることもあります。必要な時にきちんとお金も出るように、働いてる時は入りたいです。	40代	扶養者無
失業したときの保証は安心	40代	扶養者無
教育訓練給付金があれば新しいことに挑戦しやすくなるのと、失業等給付金があれば失業の条件によりますが、仕事が無くなったときに次を探すまでの足しになるのとそうなったときにも安心だから	40代	扶養者無
フリーランスへの保障のなさに危機感があるから	40代	扶養者無
現在すでに国保や年金での支払い負担が大きく、また雇用保険に年間6万円程度を毎年支払うことを考えた場合、支払ったことのメリットがどれほどあるかが見込めないため。	40代	扶養者無
万が一働けなくなった時に、保障があるのは安心なので。	40代	扶養者無
雇用保険をあてにするならば素直に雇用契約を結んだ方がいいと思う。理由あってフリーランスで居るだろうと思うので。	40代	扶養者無
あると安心	40代	扶養者無
ぜひ加入したいが、自分にとっては試算額が高く感じる	40代	扶養者無

雇用保険のような手厚さがなく、不安を抱えたまま一人で仕事をするのが嫌です。	40代	扶養者無
年齢的に（48歳）今から加入して意味があるのかわからない	40代	扶養者無
支出が増えるので	40代	扶養者無
自分の年齢では大きなメリットはないかもしれないが、将来世代のことを考えると、わかいほどメリットは大きいので制度としては整えていく必要があると思う。	40代	扶養者無
失業は何をもって失業とするのか明確ではない教育訓練は自主学習のみ。お金をもらいながら勉強したいけど仕事があるわけなので対象にならないだろうし普通の保険で十分ではないかという認識	40代	扶養者無
子供が大きく、介護の予定がないため。でも自分が10歳若かったら入ったと思うから、選択肢としてあるべきと思う	40代	扶養者無
失業保険は非常に心の支えになるため。	40代	扶養者無
リスクの為に通信大学に通っています。もし雇用保険があったら、教育訓練給付金の対象になっていると思いますし、それを受けられる会社員の方が羨ましいです。また個人事業主は、病気になることがあっても、失業保険もなければ傷病手当もないので、病気をしたら失業に直結します。生活が不安定になってしまうので、セーフティネットが必要だと思います。	40代	扶養者無
負担が減ることで、労働意欲が高まる。社会貢献意識も積極的になる。	40代	扶養者無
保証が増えればフリーランスがあまりにもマイノリティと思われなくて済む様々な契約（賃貸住宅契約など）で不利にならずに済みそう。	40代	扶養者無
病気やケガなどで働けなくなった時が不安なため	40代	扶養者無
何があるかわからないから。だけど会社員の時もそうだったけど、積み立てた末、何事もなかったら、そのお金はどうなるのかと思うと強制されたくはない。	40代	扶養者無
先ほどのQで述べたとおり、将来の自分がもらえる年金だけでは到底生活が成り立たないから。	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
将来の選択肢が増えるから。会社員時代は受けられた恩恵が、フリーランスになってかなり減ったと感じている	40代	扶養者無
毎月の所得額によると思うから。	40代	扶養者無
個人事業主もスキルアップは必須だし、労働者性を持ち合わせているので加入したい。	40代	扶養者無
毎月の収入が不安定なので、算定基準をどうするのが基だ疑問。	40代	扶養者無
心配が少し減る気がする	40代	扶養者無
フリーランスの場合、何を以て「失業」とするのか難しいと思われ、本当に給付を支給してもらえるのか疑問。	40代	扶養者無
昨今は業種毎に加入できる一人親方労災保険があるため、個人の判断で加入先を選べたほうがいい	40代	扶養者無
もしものときを考えると収入がさらに不安定になることが想定されるので	40代	扶養者無
高額のため	40代	扶養者無
元気な時は良いが、出産や介護、老後などのことを考えると今のうちに入っておきたい	40代	扶養者無
こう見ると会社側の負担も大きかったように感じる	40代	扶養者無
給付金を受給したいため	40代	扶養者無
これから出産をする年齢であれば検討したが、もう出産はないので、支払う額に対してメリットが少ない気がする。	40代	扶養者無
安心感、将来への投資、保険と思えば決して高くない。	40代	扶養者無
入れたら良いと思うが、現在の社会保険代が高すぎて、これ以上払えない	40代	扶養者無

金額が高いです。。	40代	扶養者無
失業等給付金は失業の判断基準が曖昧。子供を持てる年齢ではないため育児休業給付金は意味がない。介護休業給付金、教育訓練給付金がもらえたとしても、生活できなさそうに感じる。	40代	扶養者無
もっと若ければ加入したかったが、もう出産の予定もないし、迷いどころではある。全額控除されるのであれば入りたい。	40代	扶養者無
フリーランスこそ自己研鑽にお金がかかるので	40代	扶養者無
・単純に月々の支出を増やしたくない。・支給条件が厳しいので、フリーランスの働き方だと合わない	40代	扶養者無
失業の定義が難しいと思う	40代	扶養者無
失業の可能性は会社員より高いので、保険として備えるのは理に合っていると考えます。雇用保険ではない言葉で、保険を扱う団体があればいいと思います。	40代	扶養者無
自分の仕事に照らして「失業」とは何を指すのか、定義がわからない。扶養する家族がなく、良くも悪くも自分ひとりが食えればいい、という状況なので、あまりメリットを感じない	40代	扶養者無
給付金がもらえるのは金銭面で大きい。	40代	扶養者無
いざというときに役にたつから	40代	扶養者無
雇用保険一番のメリットは育児休業給付金だと思っていて、わたしはもう子どもを産む予定がないため個人としては加入しなくても良いと思っていますが、もっと若ければぜひ加入したいと思うでしょう	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
会社員で支払っていた雇用保険料よりもかなり高額であり、それとメリットを天秤にかけたときに、同額を貯金したいと思うから。フリーランスでいくつか案件を並行して得ている以上、全くの無職になることはないので失業保険を受給する可能性はない。興味があるのは教育訓練給付金だが、雇用保険料の支払額を貯金すれば、自分の研鑽に必要な金額を賄えるため。	40代	扶養者無
将来の不安	40代	扶養者無
小規模企業共済に加入している。現時点で、負担金が増えると感じてしまう側面も、ただ、特に若い世代には、必要になってくると思う。	40代	扶養者無
月に数千円程度の負担で、何かあったときにカバーしてもらえる安心があるから。	40代	扶養者無
企業の中に入って仕事をしていないので、自己防衛策として取れる手段は多いことが望ましい。	40代	扶養者無
いざという時のセーフティネットのため。経費としても換算できるはずだし、あれば加入すると思う。	40代	扶養者有
万が一の時の保証が欲しいので	40代	扶養者有
Q7の理由と同様です。	40代	扶養者有
万が一の際の保障がある方が良い。但し、労使折半がなことから支払う額が高いことは気になる。	40代	扶養者有
セーフティネットが弱く、民間の保険に入る必要があるが、その保険料よりも、雇用保険の方が費用を抑えられると思うからです。	40代	扶養者有
もっと安ければ検討したいけど	40代	扶養者有
控除の有無にもよるが、全額負担金がフリーランスにおいて妥当化が不明なため	40代	扶養者有
リスクが軽減できるから。	40代	扶養者有
働き方の違いだけでここまで大きな差があるのがおかしい	40代	扶養者有
国保が高すぎる	50代	被扶養者
保障内容がわからない。月額5000円支払って、どのくらいの「休業補償」をしてもらえるのか。	50代	扶養者無
失業の概念が難しい	50代	扶養者無
フリーランスは、いつ仕事なくなるか分からないから。	50代	扶養者無
不要	50代	扶養者無
就業不能保険とそう変わらない金額であり、保障内容（給付金のカバー範囲）が就業不能保険より広いと思うため。事業内容や年齢、性別などの環境によってニーズは異なるため、選択肢は平等にあるべきだと思う。	50代	扶養者無
金額が高い	50代	扶養者無
支払う負担が大きいの、その時の収入状況によると思います。個人事業主は、立場が弱いのでそこを担保した制度設計をしていただければと思います。	50代	扶養者無
元々雇用が不安定なフリーランスにとって、失業しているかしていないかの判断が難しいと思うから	50代	扶養者無
リスク分散できる、という感覚があるため	50代	扶養者無
会社員のように労使折半できず、高いため	50代	扶養者無
会社員をやめて、すぐ個人事業主をはじめたら、失業手当がもらえなかった。そんなに稼がない時に失業手当がもらえたらどんなにいいのかと思った。	50代	扶養者無
不安定な仕事なので、失業時の補償があると助かる	50代	扶養者無
失業保険や休業に対する給付など、なんか収入が途絶えてしまったときの保険は大切。育児休業給付金も、少子高齢化の進む現代では、会社員とフリーランスの区別なく必要だと思う。	50代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
働くひとの制度として平等でなければならないと思う	50代	扶養者無
月額5000円近い出費は負担になる	50代	扶養者無
労使折半でないのだから、国民年金基金と同じようなことになり、自己負担が増えるだけ。貯金するのと変わらない。せいぜい税金が少し減る程度。	50代	扶養者無
今の収入では年6万円でも更に社会保険が増えて払い続けるのは考えてしまいます。もっと若ければ考えたかもしれませんが。今は貯金があるので、いざというときはそれを崩して利用する方がいいかなと感じます。	50代	扶養者無
これ以上支出が増えるのはキツイ。	50代	扶養者無
ある日突然仕事が終わってしまうことがあるため	50代	扶養者無
負担が大きい	50代	扶養者無
高すぎる	50代	扶養者無
働き方は違えど同じ労働者として同等の保険はほしいと思います。せめてハローワークを窓口とする職業訓練に申し込めるようにしてほしいと思います。ある程度の受講料負担はあってもよいです（フリーランスになる前の受講資格があるタイミングでは受けられなかった訓練内容について、仕事の幅を広げ質を高めるため学びたい気持ちが今なお残ります。	50代	扶養者無
一般の保険より安い	50代	扶養者無
国民健康保険の負担額が大きいので、加えて年間6万円近くの支出は厳しい。	50代	扶養者無
雇用されていた時から、メリットを感じないため。	50代	扶養者無
病気をすることもあるし、仕事がなくなることもあると思うので入りたいです。	50代	扶養者無
将来的な不安の解消になるため。	50代	扶養者無
労使折半の恩恵がないので、加入に悩む	50代	扶養者無
金額次第	50代	扶養者無
もしも「自分で自分を雇用する」という考え方が成立するのであれば、すべて自己負担であっても雇用保険に加入できるべきだと考えます。	50代	扶養者無
フリーランスの失業という定義と得られる保障の内容などに問題や個人差が大きいため	50代	扶養者無
料金が高い	50代	扶養者無
いつ仕事なくなるかわからないので、雇用保険があると安心だと思う。	50代	扶養者無
フリーランスになる以上、失業そのものは自己責任だと思いますが、教育訓練給付金や育児介護に関する支えは会社員同様に必要。	50代	扶養者無
仕事がなくなったり病気になって収入がなくなった場合などに備えたい。	50代	扶養者無
備えがあればとりあえずは安心材料になる	50代	扶養者無
個人事業主歴が長いので、国に保証してもらおうという感覚に今更感があるため	50代	扶養者無
いつ仕事が切られるかの予測が立たないので。	50代	扶養者無
クライアントとの業務委託契約が切れる可能性があるから。	50代	扶養者無
保険会社の所得保障保険の掛け金より負担が少ないから	50代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
------	----	------

月額負担が大きいため。	50代	扶養者有
将来に向けての安心となるから。	50代	扶養者有
ありがたいと思うが、現状でも支払いが大変な年があるので、負担になる可能性が出てきそうです。	50代	扶養者有
誰かに雇われたくない	50代	扶養者有
加入したいから	50代	扶養者有
育児休業給付金、(親などの)介護休業給付金は、既に該当しない年齢なので、雇用保険料を払うことで、どの程度のメリットがあるか判断できない。	50代	扶養者有
失業が設定できない	50代	扶養者有
万が一の場合の備えとして。	50代	扶養者有
失業した時に困る。	50代	扶養者有
ある程度の保証が必要だと思います	50代	扶養者有
フリーランスは契約更新されずに、次の契約が決まらないうち無収入になるから	50代	扶養者有
育児・介護のサポートは必要と思うが、失業や教育訓練(自己研鑽)は自己責任が妥当かと。あるいは、法人成りしたらよいかと。	50代	扶養者有
金額が高い	50代	扶養者有
月額この程度ならぜひ加入したい	50代	扶養者有
1/10になるのは安い	50代	扶養者有
保険料が許容範囲	60歳以上	扶養者無
雇用保険は、そもそも保険金を回収できないので、個人で入るのは無駄。	60歳以上	扶養者無
収入が安定しないことを考慮すると、雇用保険料が高すぎると感じてしまう。	60歳以上	扶養者無
年金が出ているので 個人的にはあれば良いかなというレベルです	60歳以上	扶養者無
今の時代、いつ何時自分の意志と関係なく仕事ができなくなるリスクがある。	60歳以上	扶養者無
割に合わない	60歳以上	扶養者無
フリーランスの場合、失業状態とはっきり線引きできないことも多く、その割に支払いが多い印象があるため。保障が限定的でももっと安く数百円であれば、検討したい。	60歳以上	扶養者無
現実のところ 税金や社会保険料以外での 年間50000円以上の負担は 少し考えさせられる金額です	60歳以上	扶養者無
いつ何が起ころのはわからないため	60歳以上	扶養者無
雇用形態によって制度に格差が生じるのは好ましくない	60歳以上	扶養者有
保険料と給付が釣り合うか分からない	60歳以上	扶養者有
フリーランスは不安定だから	60歳以上	扶養者有
年齢面で現在は必要無い。	60歳以上	扶養者有

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
失業保険の補償要件次第ではあるが、無いよりはあった方がいい。	60歳以上	扶養者有
傷病時には働けないので。	60歳以上	扶養者有

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
雇用保険は期待値がプラスになりやすいお得な保険だから。	30代	被扶養者
働き方が多様化している時代には必要な保険だと思うから。	30代	扶養者無
金額的にそこまで負担を感じず、得られるメリットの方が大きいと思うため	30代	扶養者無
将来ことを考えたらあったほうがいい	30代	扶養者無
以前退職時に雇用保険（失業手当）に助けられたので、フリーランスでも加入できる方がうれしい。	30代	扶養者無
加入できる選択肢があることは素晴らしい！必要な人は入れる。選択制にしてほしい。強制加入には反対です。	30代	扶養者無
自己責任を求めてフリーランスになった為	30代	扶養者無
支払った額よりも支給される額の方が大きそうだから。	30代	扶養者無
少し高い。半額ぐらいなら考えたい。	30代	扶養者無
支出が増えることの方が目先では負担だから。	30代	扶養者無
入院や急なケガのリスクを考えるとそんなに高くない	30代	扶養者無
子供を産むことはもうない 失業保険適応する前にすぐ働くはず 色々な理由からもう制度を活用することはないだろう	30代	扶養者無
国保に比べて制度や金額面でのメリットが大きいため	30代	扶養者無
様々な休業リスクが存在するものの、それらに対して自ら備えるほどの金融資産を保有していないから。	30代	扶養者無
継続して契約している仕事はあるがいつ切られるかも分からないため、両親も高齢になり介護が必要になった場合仕事量が減るかもしれないため	30代	扶養者無
現在もかなりの費用が保険にかかっています。これで国民健康保険が減るなどあればいいですが、減らないまま雇用保険に入ると負担増になります。	30代	扶養者無
もし何かの際にあったほうが安心して働けるから。	30代	扶養者無
今のところ必要性を感じない	30代	扶養者無
あと数年はどれの給付対象にも当てはまらない可能性が高いが、いずれ必要となると思うため	30代	扶養者有
金額に対するメリットが自分の中で整理しきれていないから 単純に負担が増加するのが厳しいもある	30代	扶養者有
雇用保険があれば働けなくなった時のための民間保険を考えなくて済むから	30代	扶養者有
正社員時代に雇用保険に加入していたが、職業訓練など受給の条件が厳しく結局受給できなかった。	30代	扶養者有
自己負担額次第では将来のために加入を検討したい	30代	扶養者有
負担額と加入メリットをよく比較してから決めたい	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
保険料を支払うとしても、いざという時の安心が欲しい。	40代	扶養者無
お金を貯めておく方が融通効くような気もする	40代	扶養者無
高いから	40代	扶養者無
金額による部分がありそう。この金額であれば加入を検討したい。	40代	扶養者無

国保高いのにさらに払うというのがもう	40代	扶養者無
時代も変わり、終身雇用ではなく子で働く時代の今、制度は変えるべきだし、国民の義務である労働をみんなしているのに雇用されているか否かで違うのはおかしい。むしろ、雇用されてない働き方をしている人の方が責任もリスクも大きいと思うのに手当や給付がないのはおかしい。	40代	扶養者無
雇用保険と同等の保障が受けられるのなら十分許容範囲の金額だから。	40代	扶養者無
不安定な身分だから	40代	扶養者無
フリーランスは自由がメリットなので、強制はしてほしくない。必要な人が入ればいい。自由なので、自分でそこらへんは管理したほうがいいし、一人フリーランスだとほぼ失業することはないと思う。	40代	扶養者無
必要な給付金だと思う。	40代	扶養者無
小規模事業共済など代替があるため	40代	扶養者無
会社員並みの補償があると安心だから	40代	扶養者無
今後あらためて企業に雇用されたいと思わないから	40代	扶養者無
フリーランスの働き方が一般的になってきているので、フリーランスでも選択肢を持てるようにするべきと思います	40代	扶養者無
フリーランスに対して、何を根拠に「失業状態」なのかを判定するかは難しそうですが、まったくの無収入という機会が多少なりとも減るのであれば良いと思います。	40代	扶養者無
本当はぜひ加入したい。 が、年収額がそんなに高くはないのに、すでに支払っている税金・保険料が多すぎている為、今以上に支払い額が増えるのは厳しい。	40代	扶養者無
支払い金額に対して、受給金額が少ないと思われるため	40代	扶養者無
もっと条件のいい、所得保障の保険があるので、そちらを選びたい	40代	扶養者無
フリーランスといえど、時期による変化への支援はあってもよいと思う	40代	扶養者無
基本的には安心が欲しいので加入したいが、支払額や受給額、また今の自分の年齢（約50歳）などを考慮すると思う。	40代	扶養者無
介護休業は今後あり得ると考えているから。育児や介護など、現実問題として仕事ができない状態になったときの保証はフリーランスにも必要だと思う。ただ、失業給付に関しては、フリーランスの場合、何をもって失業とするかが難しいと思う。	40代	扶養者無
会社員と個人事業主の格差是正に必要なため。	40代	扶養者無
働けなくなった時のリスクはむしろ会社員より大きいから	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
不安定なため	40代	扶養者無
月5000円が妥当か判断できない	40代	扶養者無
自己負担なのであれば保険ではなく自分で積み立てて運用したほうがいいのかと思うから。	40代	扶養者無
選択肢によって内容を限定的にし、保険料を下げられるのであれば加入を考えたい	40代	扶養者無
現時点では、支払う金額が妥当かどうか判断できない。	40代	扶養者無
税額控除の対象であれば検討したい。	40代	扶養者有
前提として、フリーランスは雇用ではないので雇用保険は不要と思う。一方で、私は過去に会社員で雇用保険料を支払っていた期間があるため、支払い期間に応じて雇用保険の受給ができるようにしてもらいたいと思う。	40代	扶養者有
フリーランスも人間であるので病気や怪我、予期せぬ状況に置かれるのは会社員と同じ。業務委託など、会社員以上に仕事を失いやすい状況下にあるフリーランスも多いと思う。金額はともかくとして、加入するしないの選択肢だけでも与えてほしい。	40代	扶養者有
提示している仮定では、支払額だけで給付額がいくらになるのか不明なため加入したいかの判断がつかない。	40代	扶養者有
仕事が続くか分からないし、介護はその内必要になりそうなため	40代	扶養者有
失業保険がないと厳しいので	40代	扶養者有
現在、自分は47歳で近い将来親の介護などで仕事に割く時間が減ることも想定されるから。	40代	扶養者有
不安定なため。	40代	扶養者有
条件付きになります。フリーランスが納める税金の掛率を見直した上で導入かと。もしくは、既に私たちは個人負担+会社負担を支払っているため、新たに徴収すること自体がおかしいと考えています。	40代	扶養者有
自分の状況的にあまりメリットを感じない	40代	扶養者有
雇用保険が支給される条件による。退職したとき、自主退職扱いで雇用保険の支払いはなかった。	50代	被扶養者
老後が心配	50代	扶養者無
失業の定義がフリーランスの場合どの時点なのかはわからないが、体一つで仕事を行っているのである程度の保証は欲しい	50代	扶養者無
会社員もフリーランスや経営者も勤労者という意味では違いがないので 必要な保障は似ていると考えているから。フリーランスも保険料を払えば社会保障の財源も確保しやすいのでは？	50代	扶養者無
フリーランスなので雇用という側面が弱いからです。	50代	扶養者無
いつ仕事なくなるかわからないから失業保険があると安心できる	50代	扶養者無
この先何が起こるかかわからないので安心のため」加入したいが、年間6万弱は少し躊躇してしまいます。	50代	扶養者無
全額個人負担だから割高	50代	扶養者無
休業の概念自体が、フリーランスは会社員と違い10-0ではないので、よほどの状況でない限り全く仕事をしないという状態にはならないと思う。	50代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
収入が得られなくなる＝失業状態と考えるから。フリーランスではその状況に陥ることも十分に考えられるから。	50代	扶養者無
相互扶助の仕組みであるので、就業形態に関わらず加入できるべきだと思う。	50代	扶養者無
現状では、働いているうえで必ず存在するリスクに対してあまりにも無防備過ぎました。一度業務上の負担で大病を患って仕事が出来なくなった際には、失業や労災、生活維持、その後の職業訓練、全てにおいて保証がなく大変苦労しました。	50代	扶養者無
失業保険よりも、入院などの不測の事態により働けない＝一定期間、収入が絶たれた場合の保険に魅力を感じるから（コロナ禍での政府補助金は非常にありがたかった）	50代	扶養者無
何かあった時に不安	50代	扶養者無
保険に加入することで得られるメリット、金額が年々改悪されるように思うから	50代	扶養者無
自分で民間の保険会社を探します	50代	扶養者無
必要だと思う。でも高い。	50代	扶養者無
何かあった時に保障があるのはかなり心強い	50代	扶養者無
労使折半がないため高い	50代	扶養者無
介護に対する不安	50代	扶養者無
休業補償がなにもないから	50代	扶養者無
失業保険給付金を受け取る際、自発的理由による待機期間について、契約による労働の場合どう扱われるかがわからない。また、給付金の限度額が社員と同様の場合、実際は国民健康保険料を払ったらほとんど残らなくなってしまう	50代	扶養者無
現在加入している各種保険と比較検討し、吟味した上で検討したいため。	50代	扶養者無
教育給付金を使えたら活用したい。	50代	扶養者無
失業手当、教育訓練費があると安心だから。	50代	扶養者無
扶養家族がいない場合、負担が大きい	50代	扶養者無
育児、介護は誰もが経験する可能性があり、働き方が多様化しているなかでフリーランスに対しても、保証の拡充が必要と考える。	50代	扶養者無
何かあったときの保証が何もないから	50代	扶養者無
手取りが減るから	50代	扶養者無
加入したいのだが、サラリーマン時代にはなかったが支払うことが必要な税金もある上、健保、年金及び損害保険等の負担が増えており余裕がない。	50代	扶養者無
廃業して就職する際に必要と思います	50代	扶養者無
フリーランスの立場から言うといつ解雇されるかわからないので	50代	扶養者無
個人事業主の失業という概念がわからないため	50代	扶養者有
フリーランスは、安定しない職業なので、少しでも保険、補償があると安心するから。	50代	扶養者有

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
経営者が雇用保険というのは変だと思うので。	50代	扶養者有
Q6で答えた理由とおなじ	50代	扶養者有
全額負担を避けられる為	50代	扶養者有
もう若くもないので	50代	扶養者有
開業した直後で、失業保険の支給開始を猶予しており、直近加入の必要がないため。	50代	扶養者有
昨年手術で3ヶ月休業することになった。	50代	扶養者有
失業中の給付金は必要	50代	扶養者有
ないよりまし	50代	扶養者有
この年額で補償をいただけるなら安いものだと思う。取引先企業にとってもフリーランスの安定的な職業環境は有益だと思う。	50代	扶養者有
やはり保証はどんな立場になっても必要だから	50代	扶養者有
雇用保険があるとモラルハザードになってしまい、次の仕事を探す意欲が薄くなるため。	50代	扶養者有
保険料が高い	50代	扶養者有
加入しても実際は休業や失業の定義が難しく申請できない気がするから	50代	扶養者有
人生において避けられない状態を救うための保険なので	50代	扶養者有
国の制度が100%信頼できなくなっている	50代	扶養者有
補償制度がないと将来に不安。しかし、全額自己負担は辛い。	50代	扶養者有
そもそも、失業手当等の考え方が個人事業主を想定してない。会社を辞めて個人事業主の届を出すや失業給付をもらえないとか、制度の根本的考え方を変えないといけないと思います。	50代	扶養者有
フリーランスこそ手厚い社会保障が必要と考えるから。	50代	扶養者有
雇用されていないので就業場所や勤務時間に縛られていない。雇用という言葉が適切では無い。	50代	扶養者有
フリーランスは収入が安定せず、いつ仕事なくなるかわからないから	60歳以上	扶養者無
育児休業給付金、介護休業給付金、教育訓練給付金はあってもいいと思います。	60歳以上	扶養者有
現在受けている仕事は雇用的でないで、このような制度になじまないが、過去数年の収入が激減した場合には、補填してくれる制度があったら大変良いと思います。	60歳以上	扶養者有
自分には、育児休業給付金、介護休業給付金、教育訓練給付金は関係ないから。	60歳以上	扶養者有
高齢者でも社会保障が整備されていれば、働きやすくなる。年金だけで生活するのは難しい世の中になっている上、少子化の影響で労働人口が減少しているので、フリーランス、高齢者が安心して働ける環境整備が必要。	60歳以上	扶養者有
失業の認定が曖昧で悪用される危険がある	60歳以上	扶養者有
年金受給年齢に達しているため。	60歳以上	扶養者有

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
保険料の負担が軽くなり生活が楽になる	30代	扶養者無
先ほどの質問にも答えた通り、やはり失業保険や職業訓練などの制度を受けたいので。	30代	扶養者無
そもそも給付制度の該当になる予定が無ければ、加入したくない（実質的に不加入を選択できる現行の制度も捨てがたい）	30代	扶養者無
将来的に子どもが欲しいから	30代	扶養者無
負担額が下がると思うから	30代	扶養者無
もしもの時不安だから	30代	扶養者無
国保の負担が下がるなら検討したい	30代	扶養者無
育児・介護・教育は分かるが、失業等給付金が何をもって「失業」となるのか不明なため判断できない	30代	扶養者無
個人事業主のボラティリティが高すぎる	30代	扶養者無
契約が終了してしまうと収入が完全に0になってしまうので非常に不安に感じているため	30代	扶養者無
加入した所で、あまり意味が無いから。個人事業主は自分一人で全てやるので、休業中に給付金を貰っても復帰した時に顧客からこれまで通り仕事がもらえると限らないから。失業保険はありがたいが、その他は利用するメリットがあまり無さそうだから。	30代	扶養者無
保険として安いと感じる。	30代	扶養者無
育児や介護の期間をどうするかは常に気にしているトピックです。	30代	扶養者無
個人で資産形成しているため失業時に困ることがない 技術職のため再就職が容易なため	30代	扶養者無
何かあった時に安心	30代	扶養者無
個人事業主は会社員よりも保護が弱く、もしもの時の備えとして雇用保険に入りたいと思います	30代	扶養者無
この先子供が増える予定はないのと、現時点ではスキルアップの教育等を受ける予定がない。失業保険については失業した時点で会社員にすぐもどけると楽観しているのあまり気にしてない 介護についてはありがたいが、その為だけに加入したいかというと前向きではない。	30代	扶養者有
現状はあまり雇用保険のサポート範囲に心配ごとが少ない。ただ、もう少し歳をとったら考えは変わるかもしれない	30代	扶養者有
負担額がどの程度なのかわかれば	30代	扶養者有
現状民間にしか頼るところはなく、自己責任という点はあっても雇用に近い働き方をする人も多数いると思うので選択できるようになってほしい。	30代	扶養者有
失業保険のイメージがわからない。失業という概念がないので、例えば1ヶ月仕事受注できなかったとかになるかどうか。	30代	扶養者有
皆と同じ安心感を得られる	40代	扶養者無
入るか入らないかは、本人の状況次第。今は入れない一択なのが問題。	40代	扶養者無
ちょっと高い	40代	扶養者無
一定の安全な状況が確立されてこそ、仕事の価値を発揮でき、学びのサイクルを回すことができると考えるため。	40代	扶養者無
内容としては良いと思うが、自身としては高齢独身で親も死去してるため失業等給付金ぐらいが対象かなと思うもう少し安くならないかなと思ったため。とは言え制度としてあったら入ってたと思う。	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
いまの状況では受給が必要になるシーンが想定できないため	40代	扶養者無
リスクリングが叫ばれる中、新しい知識や資格を増やしても補助が受けられないのが悲しかった。女性なら出産すれば誰でも一定期間は休むべきなのに、給付がないから妊娠を避けたとか働くしかないっておかしいと思うため。	40代	扶養者無
備えておく制度があれば活用したい	40代	扶養者無
どちらも今今で必要とする保障ではないが、取引先との契約終了や育児などの状況になった時に必要になりそう。	40代	扶養者無
失業時に受け取れる保険料が少ないため。	40代	扶養者無
失業、育児休業、介護休業、教育訓練をすることがない。	40代	扶養者無
民間の保険や貯蓄で対応した方がフレキシブルだから	40代	扶養者無
いつ、委託先から契約が切られるか分からないから	40代	扶養者無
雇用されるかどうかについては会社員もフリーランスも同じである。経営者になるかどうかの選択肢ではないので同じ制度があってもいいと思う	40代	扶養者無
年金基金に払うよりもだいたい負担が軽い	40代	扶養者無
仕事を失うリスクが常にあるから	40代	扶養者無
社会保険料の負担額が増えるだけで全く意味がない。自分で貯金した方がよい。	40代	扶養者無
雇用保険は失業と仕事が取れない期間の取り扱いが難しく、基準・審査が厳しそう。	40代	扶養者無
そもそもリスクを負ってやっているのに、さらに自己負担は納得できない	40代	扶養者無
フリーランスは、いつ契約を終了されてもおかしくないという不安定な立場にあると感じています。実際に、契約違反にもかかわらず一方的に契約を打ち切られた経験もありました。特に最近はそのようなケースが増えているように思われ、ますます不安を感じています。	40代	扶養者無
介護休業などは現実的にあり得る状況だと思います。ただ、実際にそうなった場合でも、私は少しでも仕事を続けるなど、ある程度フレキシブルに動くのではと思います。休んでクライアントを失うことなどが怖く感じるのです。そのため、収入が一時的に減ることはあっても、仕事をすべて辞めることはあまり想像できません。結果的に受給要件を満たせず、制度を利用できない可能性があるのではないかと感じていますので、どちらとも言えない、を選びました。	40代	扶養者無
保障の範囲に対して保険料が割高だと感じる。会社負担分の中には会社が受け取ることができる助成金として還元されるものもあるため、それを全額個人負担とするには割に合わないと感じる。	40代	扶養者無
法人経営者なので雇用保険は対象外のため	40代	扶養者無
フリーランスは雇用されないことを選んだ人はずなので公的保険は不要。同様の民間の保険があれば、それに個人の判断で加入すべき。	40代	扶養者無
フリーランスが入れるものがないことに困っている	40代	扶養者無
明確に損益分岐点を計算していないので Q8の回答とした	40代	扶養者無
仮にフリーランスをやめる場合、職業訓練の機会を得ることができるから	40代	扶養者無
高い健康保険を払っているのに、さらに雇用保険も払うとなると負担が多すぎる。ただでさえ、売り上げの3.5割くらいは税金に持っていかれるのに、払っている恩恵を感じない。	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
現在の働きかたを維持するために子供を持つという選択をしなかったが、出産や育児による一時的な仕事を減少を補填する仕組みがあれば検討したかもしれない。今は、病気なので一時的に業務ができなくなった時の備えとしてなら検討できる。会社員からフリーランスになった身としては、自営業転身の際に仕事が安定するまで失業保険等がもらえないのは不公平だと感じた(会社員時代に掛け金を収めても、雇用を探す人にしか給付されない。)	40代	扶養者無
金の無駄	40代	扶養者無
リスクを取ってフリーランスになっていることを考えると、過剰補償と考えるから	40代	扶養者無
介護とかどうしようもないことがこの先起きる可能性は高い。フリーランスだと依頼先がない上に、介護が終わっても仕事の保証がない。	40代	扶養者無
メリットが少ない	40代	扶養者無
働き方に関わらず社会保険は公平であってほしい。介護が必要になったときやリスクリングに利用したい。	40代	扶養者無
会社員時代に雇用保険のベネフィットを享受したことがなく、この先も独身でありお世話になる未来は想像できないが、それでも介護休業給付金や教育訓練給付金はもしもの時の安心材料となるため。	40代	扶養者無
雇用保険は別途保険会社の所得補償保険で賄えると思います。	40代	扶養者無
フリーランスなのだから経営は自己責任 会社も正社員は社会保険があるが会社の役員はないのと一緒に	40代	扶養者無
失業手当がないと、契約が継続出来なくなったら、とたんに生活に困るため	40代	扶養者有
民間の同等の保険より割安のため	40代	扶養者有
ただでさえ不安定なフリーランスなので、雇用保険で少しでも心配事が減るのであれば加入したい。	40代	扶養者有
子供がまだ小さく、働けなくなった時のリスクも考慮してのこと。	40代	扶養者有
会社員と違い、経費は売り上げからのマイナスとなり、手取りが減る分、なににお金を使うかはかなり慎重になることが多いため	40代	扶養者有
労使折半ではないので。	40代	扶養者有
あれば嬉しいが、まあ、フリーランスにとって一番いいのは仕事が途切れないことであり、「失業状態」にならないことが大切なので、どちらかというと失業状態にならない努力をしていきたいと考えている	40代	扶養者有
失業保険は自分が「失業」していると判断するのが難しいように感じます（何かしら活動を続けていると思うので）。介護休業給付金は一見メリットのように思えますが、親などの介護が必要になったときには公的支援を受ける流れを主流にして、働く人が仕事を続けられるようにすることのほうが重要だと考えます。	40代	扶養者有
失業時への備えのため。	40代	扶養者有
同じ額を自分で運用した方が合理的と考えるから	40代	扶養者有
保険料は妥当だと思うが、そもそもフリーランスの働き方として雇用を保障してもらうのが違和感があるため。（自身で仕事を取るべきであると考えてるため。）	40代	扶養者有
もしもの時に不安である。	40代	扶養者有
安心して働ける環境が大事だとおもうため	40代	扶養者有
フリーランスの方が失業の可能性が高いので	40代	扶養者有
仕事が途切れた時に失業保険のような形で何らかの補填がしたい	40代	扶養者有

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
現状は他の制度などの比較した上で、加入すべきかを判断したい。よい制度でしたらぜひ加入したいがメリットデメリットが現時点では判断できない	40代	扶養者有
新たに子どもをもうける予定がないためあまりメリットを感じない。失業手当はあるとありがたい。	40代	扶養者有
失業というのはフリーランスはどのように決めるのかな？と思いました。	40代	扶養者有
金額が高いのと、個人事業主は失業と言えるか微妙なため	40代	扶養者有
フリーランスなだけに何を持って雇用とするのか判断できないと思うため。一時期派遣と開業届を出したフリーランスのダブルワークをしていました。給与から雇用保険は徴収されていましたが、開業届を出しているため退職しても失業保険の対象外。子供のいる年齢でもなく、両親も他界。自分にメリットの全くないものに払わされていた。ダブルワークの場合の対応も時代変化に合わせて必要かと。	40代	扶養者有
普通は途切れないように複数営業したりするので、お金の無駄 頭悪い人が入るもの	40代	扶養者有
退職や離職という概念が難しい	40代	扶養者有
育児や仕事がない期間、給付を受けることができる	40代	扶養者有
失業保険が出るなら価値ありそう。でも悪用されそうなので、条件や給付額が厳しくなりそう。そこのバランスによる。	40代	扶養者有
少し高い	40代	扶養者有
給付金額による。介護休業給付金の受領については自身の今後のことを考えると、あるといいのかと思いつつ、毎月の金額を資産運用しながら、給付金額として積み立てておくことができるのであれば、必要ないようにも思う。	40代	扶養者有
あまり影響がないから。	40代	扶養者有
いま仕事がなくなっても困らないだけの蓄えがあるから。今の働き方だと、雇用保険金が支給される条件というのが、ちょっとわからない。	40代	扶養者有
あまりメリットを感じない	40代	扶養者有
フリーランスは個人で仕事をとるべき立場の人間であり、雇用保険の対象としてそぐわない。雇用保険金をかけるぐらいなら実収入が増える方が良い。	40代	扶養者有
負担額が大きいと支払う余裕がないと思う。	50代	被扶養者
教育訓練費用はとてもうらやましい	50代	扶養者無
現行では急な病気やケガで働けなくなった時の不安が残るので。	50代	扶養者無
仕事が不安定になる恐れがある。	50代	扶養者無
いつ親の介護が発生してもおかしくない。また、通常でもスキルアップに自費で学んでいるが、教育訓練給付金で安くなるなら有難い。	50代	扶養者無
自力では難しい為、制度があれば加入したい	50代	扶養者無
結局自分が全額負担するのだと、あまり意味がないから。	50代	扶養者無
教育訓練給付が使えること	50代	扶養者無
あれば良いかなとは思う。民間の保険商品があれば、それでもいい。	50代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
不安定だから	50代	扶養者無
年齢によるリスクは会社員と同じだから	50代	扶養者無
会社を退職した翌年の社会保険料の支払いに、失業等給付金で支払うことができたので。また、教育訓練給付金がもらえるのであれば、学びに役立てたい。	50代	扶養者無
雇用保険はいらない。金額が高い。	50代	扶養者無
いつ仕事がなくなるかわからないから	50代	扶養者無
フリーランスには収入のアップダウンが起こりうるが、条件のよい仕事を契約できればリスクヘッジとなりうるため。	50代	扶養者無
あまりメリットがない	50代	扶養者無
雇用保険は雇用されている人のためのもの。フリーランスの雇用保険加入のディスカッション自体がおかしいと思いますが・・・フリーランスのさまざまな不利な条件は過去20数年感じています、これはないと思います。雇用保険加入したければ、雇用されるべきでしょう。	50代	扶養者無
こうした補償は必要だが決して安い金額ではないため、保険料と給付について民間保険との比較になると思う。またフリーランス自身が支払った雇用保険料も経費に出来るか否かも重要。	50代	扶養者無
前述と同じで社会を支える一員としては同じだと思うからです。	50代	扶養者無
少ない掛金で保険がかけられると思えば、そんなに高くはないと感じる。ただし、失業がどのような判断で認定されるかが気になる。	50代	扶養者無
もらえる額が低い	50代	扶養者無
具体的な補償内容と支払額のバランス次第かと思いますが、各自の判断で加入できるのなら、そのような制度が導入されるのは望ましいと思います。	50代	扶養者無
失業保険が受給できても報酬が高いのでまったくあてにならない。妊娠出産の時期を超えているので、自分には関係ない。教育訓練給付金は、年齢制限などがありほぼ使えないのが分かっている。介護休業保険は、今は在宅ワークなので必要性をそれほど感じないし、休業以前に契約先の理解を得るほうが重要。	50代	扶養者無
比較的少ない負担で複数のメリットが得られるから	50代	扶養者無
失業リスクが低いため	50代	扶養者無
必要性をかんじないから	50代	扶養者無
自分の収入を守ってくれる制度は必要	50代	扶養者無
不安材料が減るため	50代	扶養者無
いつ何があるかわからないから。でもそれを個人で対応するには限界があるから	50代	扶養者有
フリーランスは好きな仕事を出来る反面、生活においては全てにおいて不安定となるため	50代	扶養者有
額と保障内容が妥当と考える	50代	扶養者有
会社員とフリーランスにおける社会的な格差があることは国の制度として問題があるから	50代	扶養者有

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
育児は終わってますし、雇用保険については絶対必要とまでは私の立場では考えにくいですが。 が、加入できるようにはして欲しいです。	50代	扶養者有
今後雇用されるつもりはないが、介護休業保険は欲しい。そもそも「雇用」と「介護休業」とは関係ないはず。	50代	扶養者有
病気で働けなくなるのが心配	50代	扶養者有
保証はあるに越したことはない	50代	扶養者有
雇用が不安定なため	50代	扶養者有
例えば一生治らない怪我や障害を受けることになって、今の専門的な仕事を断念せざるを得なくても他の仕事ならできる、という場合もあるかもしれない。よって雇用される道に進みやすい制度は必要。	50代	扶養者有
50代半ばを過ぎてまさかの大病。年金がもらえる年齢まで生きているかすらわからないため	50代	扶養者有
民間の所得保障保険には入っているが、安いことに越したことはない。	50代	扶養者有
雇用保険の現行制度そのままであれば意味がうすいかな。フリーランスにも開かれるのであれば大幅な改正も必要なのでは。具体的には表現できませんが	50代	扶養者有
収入保証保険に加入しているため	50代	扶養者有
フリーランスは雇用されてるわけではないので、雇用保険という呼称はやめた方がいい。フリーランス自身が、事業主であることの責任と自覚をしない恐れが多いにある。ただ同じような仕組みはあってもいい。	50代	扶養者有
フリーランスは、仕事依頼が不安定というリスクがあるため	50代	扶養者有
3割以上も支出が増えるのは厳しい。三児の父親のため、当面は生活費（主には養育費）が高止まりするため。	50代	扶養者有
失業の基準があいまいなので	50代	扶養者有
SEなので教育はudemyでいいので協会があってよかった ただ手厚さや全く違うものに転職すると考えるとあったほうがいいのかもしいかなと思う	50代	扶養者有
フリーランスは雇用される立場ではないから。	50代	扶養者有
良くメリットデメリットを調べないと何とも言えない為	50代	扶養者有
教育訓練は経営者でも必要だから	50代	扶養者有
雇用の概念はないので、「雇用保険」が何を意味するのか不明。仕事の受注が減ったら補償してくれるのか？そもそも、そうだとしたらフリーランスとは？という話になると思う。	50代	扶養者有
年額が高すぎる	50代	扶養者有
収入が不安定な為	50代	扶養者有
フリーランスの場合、毎月の支払いが少ない方が良いので躊躇する	50代	扶養者有
近い将来、介護を担当することになるので、介護休業給付金があると助かるため。	50代	扶養者有
フリーランスは働き方が自由裁量のため、仕事が取れる、取れないは自己責任の範疇と思う。	50代	扶養者有
安定した社会保障の維持、働き方による受けられる支援の内容に差はるべきでないという考え	50代	扶養者有
給付金はいらなから	50代	扶養者有
小規模企業共済である程度代用できそう。	50代	扶養者有
フリーランスでも雇用保険は必要だ	60歳以上	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
安定のための保険として	60歳以上	扶養者無
不安なので。	60歳以上	扶養者有
任意加入って形で希望者が選択できる制度が良いと思います	60歳以上	扶養者有
今が高すぎるから	60歳以上	扶養者有
所得がなくなった時にリスクリングで再出発ができるとよい。	60歳以上	扶養者有
事故など何かあった時の保証が欲しい	60歳以上	扶養者有
年齢的に今の仕事をいつまでできるか不明なため	60歳以上	扶養者有
雇用保険より扶養家族対応のほうが切実だから。	60歳以上	扶養者有
社員が会社からの補助があるように、フリーランスは国や自治体から補助を行うべきと考える。	60歳以上	扶養者有
保険料が高いと感じる。リスクを担保する意味はわかるが、相応のリターンが見込めない。	60歳以上	扶養者有
根本的な制度の見直しが必要なのはずだ。今のままの制度で「雇用保険に加入できるとして」という仮定での試算は、出来の悪い政治家が思いつきそうなことだ。	60歳以上	扶養者有
フリーランスは、いつ仕事を失うかわからないから。	60歳以上	扶養者有
国民健康保険等や年金制度など含めた差分や、サービス内容の格差調整が先に必要なのではないかと感じます。	60歳以上	扶養者有
65歳となり、もう保証は必要ないと考えるため	60歳以上	扶養者有
給付金があるから	60歳以上	扶養者有

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
単純にリスクヘッジに繋がるため加入したいと考えます。体を壊したらおしまいですし、育児休業金が出ないと余計に少子高齢化は加速すると思います。子育てする余裕が更になくなるので。	30歳未満	扶養者無
保証部分、支払う金額を考えると入るほうがお得だと感じる。	30歳未満	扶養者無
雇用保険の立法主旨が事業主になじまない。似た制度を作るとしても別建てにしなければ、運用上で無理が生じ、実際には機能しないものになってしまうおそれが大きい。また、雇用保険料として提示額は過大である。	30代	扶養者無
個人事業主において、「失業」の定義が不明瞭。	30代	扶養者無
加入はしたいが、もらえる金額にもよる	30代	扶養者無
失業保険は必要ないと思いますが、育児や介護の給付金は誰にも必要だと思います。	40代	被扶養者
会社員時代の雇用保険はそこまで高額ではなかったので、個人ではいるか悩みます。	40代	扶養者無
収入が低い時に困るかもしれないから	40代	扶養者無
高い	40代	扶養者無
失業保険は失業する理由は現在関係なくもらえているのだからフリーランスがもらえるのも当然だと思う	40代	扶養者無
減税もされなくて、支払う金額だけ増えるのは厳しいから。抜本的に税制を変えてほしい。	40代	扶養者無
仕事が途切れた時の安心材料として、雇用保険に加入できるのなら加入したいが、月額があまり高いとそもそも払う余裕がない。	40代	扶養者無
失業保険は受給ハードルが高いし、他を取ってもリスクに対して支払い額が高すぎる。今以上に負担を増やしたくない。	40代	扶養者無
必ずしも、雇用保険加入の会社で働けるとは限らないし、職業訓練などの支援を受けられるようになるからです。	40代	扶養者無

Q6.フリーランスも自己負担でこのような雇用保険金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q6F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
自主退職の場合の失業保険が受給できるまでの期間が不明のため。また、現役であれば受給前に副業することも考えられ、かつコロナ後、副業も可能になってきているので、この制度自体どこまで機能するかが今後見逃せないため。	40代	扶養者無
金額次第。無駄に保険料だけが高いのであれば意味がない。	40代	扶養者無
フリーランスに失業という概念がなくそぐわない	40代	扶養者無
日本人の手当は手薄なのに、外国籍の移民に手厚いと言われる状況なので、一旦解体が必要かもしれません。	40代	扶養者無
フリーランスこそ働けないことを想定する必要がある	40代	扶養者有
フリーランスは自己責任が重要と考えているので、雇用保険が必要かと言われるとそこまで感じない。	40代	扶養者有
毎月の収入によって金額が決まるのであればアリかと思う。これも国民年金のように定額なら考えてしまう。金額によってだと、もらえる給付金も変わるだろうが、何もないよりはマシかもしれない。	50代	被扶養者
給付金などの保証が充実するのは良いがその分の保険金額が上がるのは今の現状で厳しい。	50代	扶養者無
金額によっては加入を検討したい。	50代	扶養者無
職種によって違うので、状況によりです	50代	扶養者無
もうこれ以上何を払えというのか・・・。	50代	扶養者無
失業も怪我も介護も誰にでも高頻度で起こり得ることで、それに備えられるのは大きな安心につながる。	50代	扶養者無
廃業後、なんらかの仕事を見つけるまでの間、求職手当や職業訓練などが受けられると良いと思うため。	50代	扶養者無
雇用保険同様の保証が付くなら安心して生活ができるから	50代	扶養者無
できれば加入したいと思うが、（労使折半がなく全額自己負担なので）保険料を考えると躊躇する	50代	扶養者有
高い	50代	扶養者有
フリーランスは不安定であり、仕事が一定期間取れなかったり、病気等で業務ができない場合も考えられる。しかし、その保障が一切ないため、そのような仕組みができるのは、非常に助かる。	50代	扶養者有
若ければ加入したいと思う	60歳以上	扶養者無
万一来備え	60歳以上	扶養者無
なし	60歳以上	扶養者無
保険料はフリーランスの全額自己負担というのは、労働者との公平性を欠く。保険料は発注企業と折半（割合はともかく）する必要がある。仕組みとしては、国が運営することとし、企業とフリーランスから雇用保険料を徴収し、給付も行うというものにする。新しい制度が必要だと思う。	60歳以上	扶養者無
雇用保険の恩恵を受けたことがないから。	60歳以上	扶養者無
保険のメリットだけでは判断できない。あくまでも収入に対してどれだけのメリットがあるかの判断になる。	60歳以上	扶養者有
年齢的にいずれの給付金も受給することは無いと思うので。雇用保険は共済にして任意にすれば良いと思う。	60歳以上	扶養者有

Q8.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q8F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
将来のために加入はしたいが、月に支払う金額による	30歳未満	被扶養者
フリーランスは国民健康保険・国民年金のみで、会社員に比べて保障が少なく将来への不安が大きいと感じています。協会けんぽや厚生年金に加入できれば、医療費や扶養、出産・育児休業の給付、年金額の増加といった点で大きな安心につながります。自己負担であっても、長期的に見れば安定した生活と老後の備えができるため、ぜひ加入したいと考えます。	30歳未満	被扶養者
高すぎる	30歳未満	扶養者無
手に職があるとはいえ、老後への備えはしたいから。特に私の世代(20代)は年金が減ると懸念されているので、できる備えはしておきたいです。	30歳未満	扶養者無
上の表に記載している内容がよくわからない。	30代	被扶養者
年金は信用したがつたい。	30代	被扶養者
法人化する為の手続き等もあるので、年金が増えるから一概に良いとは言い切れない	30代	被扶養者
私は精神障害を抱えフリーランスとして働いており、病気や体調不良で働けないときの収入や生活の不安を常に抱えています。国民健康保険や国民年金では傷病手当金や厚生年金の上乗せがなく、将来設計が非常に不安です。もし自己負担であっても、健康保険（協会けんぽ）や厚生年金に加入できれば、会社員と同様の保障を受けられ、安心して働き続けるとは思うものの、健康保険費を払い続けられる自信が無い為、払える期間だけでも払ったらその期間に応じて、フリーランスも同等の保障を受けられる仕組みが整えば、精神障害者や収入が不安定な人も長期的に安定した生活と働き方を実現できると考えます。	30代	被扶養者
金銭の余裕があれば老後の積み立ての気持ちで加入を検討するだろうが、そもそも現在の年金制度が継続できるのか仕組みに疑問があるため、すぐに加入には至らないと思う	30代	被扶養者
厚生年金を増やしたいが、自己負担が難しい。	30代	被扶養者
将来の保障が手厚くなるのは嬉しい	30代	被扶養者
Q9と同じ回答	30代	被扶養者
状況によって選択したいと思ったから。私の住む地域は国保の保険料が高いのできちんと自分で計算して決めたいので。	30代	被扶養者
できれば入りたいが本当に得なのか現時点ではわからない	30代	被扶養者
支払う金額が高すぎるため。将来の給付が増えるとしても、現在これ以上の負担増は耐えられません。	30代	被扶養者
厚生年金はありがたい。老後の心配が減る	30代	被扶養者
あんしんをкаいたい	30代	被扶養者
扶養内かどうかを考えなくて済む。早ければ早いほど将来の年金が増えるから	30代	被扶養者
受給額が増えるのは将来の生活のためになるから	30代	扶養者無
やはり手当てがあると安心感があるし、備えにもなると感じるの。	30代	扶養者無
支払う額ともらう額の差が大きいためうまみが多い気がする	30代	扶養者無
年金が給付されるまで元気が分からないから	30代	扶養者無
厚生年金に入れるのは魅力的だと思いました。ただ、こうしてみると労使折半のありがたみが分かります。	30代	扶養者無
自由に使えるお金は多い方がいいと思うから。老後資金は事業や投資で増やしていく	30代	扶養者無
障害年金を受給しているから	30代	扶養者無
少しでも補償がある方が良から。	30代	扶養者無
金額による。高額だと厳しいと感じる。	30代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
国保のみの年金額では将来どう考えても生活が厳しくなるため	30代	扶養者無
実際は微妙だと思うので	30代	扶養者無
健康保険は年齢や自分の健康状態で検討の余地はあるかもしれませんが、年金は自分が払った分が戻ってくるとは思えないのであえて加入しようとは思いません。	30代	扶養者無
会社員と同じ様な安心感と保証が欲しい	30代	扶養者無
結局、厚生年金を払っていた人ほどもらえる見込みはないから。	30代	扶養者無
払う額は月額1万円ほど増えるが、貰う額が月額3万円ほど増えるため。	30代	扶養者無
負担とは感じるが節税も込みで考えて妥当性があると思う	30代	扶養者無
保障範囲が増えるのはありがたいが、物価高の兼ね合いもあり、毎月の費用を支払えるか不安に感じるため。	30代	扶養者無
現時点で会社員と個人事業主（私）の世帯のため。お互いに協力して生計を立てているため、自分が入る必要性を感じていない。仮に個人事業の方でもっと稼ぎがあれば別の考えになるかもしれない。が、それにしても高額だと感じる。	30代	扶養者無
保険料高いですよね…年金に関しては国民年金基金とかiDeCoもありますし、厚生年金は折半だからいいけど自費負担になるなら将来本当にもらえるのかもわからないので貯金や投資に回したいです。	30代	扶養者有
そこまで収入がない	40代	被扶養者
現行の制度より頼りになりそうだから。	40代	被扶養者
今は良くて税制改正等が頻繁に行われるので、判断できないし、将来の試算も信用ならない	40代	被扶養者
それだけの差額で将来もらえるお金が増えるなら、払う	40代	被扶養者
収入を上回る金額は重荷に感じるため。	40代	被扶養者
同等の年金給付を望むなら加入したいが、納付額も高額になるため	40代	被扶養者
先の雇用保険と同じ内容だが、少しでも老後に備え安心したいため。	40代	被扶養者
老後の不安をできるだけ小さくしておきたいから。	40代	被扶養者
収入が多ければ検討したい	40代	被扶養者
受給額が確かなものとも思えないし、大きなメリットがあるかどうかケースによると思う。	40代	被扶養者
確かに老後の備えにはなるが、自分の仕事にある程度の目途がつけられているか次第。	40代	被扶養者
障害者年金を受給している身としては入っておいて良かった面が大きかったので、保証の面では入っておいた方が家族も安心なんじゃないかと思う	40代	被扶養者
そこまでの事業になっていない	40代	被扶養者
入れる選択肢はあった方がいいように思う。	40代	被扶養者
年金の受け取りが増えるなら	40代	被扶養者
トータルで見ると収入が増えるなら、そちらを選ぶと思いますが、現在の支出が増える点を少し検討したいです	40代	被扶養者
今の扶養から外れた場合、健康保険料の負担が大きいため、分散できる方法があれば前向きに検討したいため。	40代	被扶養者
万が一の保障が大きくなるから。国保は明らかに加入者が高齢者が多く、相互扶助感がなく不平等感が強い。	40代	被扶養者

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
もちろん仕組みはわかる。労使折半できないからその分負担になるということ。にしても、保険料を全く払っていない扶養の状態で、国保ですらきついの、さらに保険料が増えるのはやはりためらう。が、どうせその大きい額を払わなければいけないのなら、上乗せしてでももらう額を増やしたい。だが支払額が現実的ではない。と、行ったり来たり悩みます。	40代	被扶養者
上乗せメリットの意味がわからない	40代	被扶養者
ちょっと高い	40代	被扶養者
メリット・デメリットが整理できないため	40代	被扶養者
今はそれほど収入がないから	40代	被扶養者
制度そのものに良いイメージがない。無駄金な気がする。今に投資したほうが正解かなと思っている。	40代	扶養者無
これからどうなるかわからないので。	40代	扶養者無
保障が増えるのはありがたいし、社会保険料も減らしたい	40代	扶養者無
よくわからない。	40代	扶養者無
もはや運営側が信じられない時代であることから自分で運用したほうが良いと考えているため。	40代	扶養者無
自己負担がづらい。	40代	扶養者無
会社員との差が大きいと感じるから	40代	扶養者無
厚生年金部分が大きいから	40代	扶養者無
扶養家族がいる場合はメリットが大きい、そうでない場合は支払額が大幅に増えるため、収入を増やす必要がある。	40代	扶養者無
受給額が増えるから	40代	扶養者無
医療費の負担が変わるわけではなく、国民年金基金等もあるから。	40代	扶養者無
将来年金がもらえるか不安なため、目先の支出を抑えたいので。確実にもらえるのであれば加入も検討したいです。	40代	扶養者無
支給額のアップはよいが、支払う金額が大きいため、実際は難しい。	40代	扶養者無
保険料が負担しきれません	40代	扶養者無
これらに加入できることで安心して仕事に取り組むことができると考えているから。	40代	扶養者無
実際に加入しようかと考えたから。	40代	扶養者無
負担金額が大きくなければ加入したい	40代	扶養者無
自分が40歳なら受給額がふえそうなので加入したいが、そろそろ50代に入ってしまうので、実際は加入しない。	40代	扶養者無
今よりメリットがあるから	40代	扶養者無
病気やケガに保険で備えることができたら安心だから	40代	扶養者無
投資で増やせばいいと言う意見もあるが、増える確証はない。社会保険は減るリスクは無い。	40代	扶養者無
年金について考える年齢層のため。	40代	扶養者無
扶養もいないし出産する年齢じゃなくなり、傷病は別の民間の保険に加入しているため	40代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
今の生活が苦しいので、将来の年金額増加より今の負担を下げたい	40代	扶養者無
労使双方分の社会保険料を負担することになるのですね。でも、会社員と同様の社会的サービスを受けて働き暮らせる安定性をフリーランスも享受したい。	40代	扶養者無
理想としては加入したいが、所得が少ないので毎月の支払いが厳しいから	40代	扶養者無
それだけの差額を払えるほど稼ぐ自信がない。	40代	扶養者有
老後の事を考えると上記の様に思うけれど、フリーランス社保運営会社がどこまで維持出来るのかに疑問がある。	40代	扶養者有
扶養対象（子供）がいるので、ありがたい。	40代	扶養者有
将来の年金のため	50代	被扶養者
『厚生年金は会社員の特権』だということは働き方の選択肢を限定させる最大の原因だと思うから	50代	被扶養者
制度の理解が乏しい為	50代	被扶養者
負担額が大きい	50代	被扶養者
年金をもらえない世代と言われているのに、年金制度の意味がわからない。社会保険加入時に強制的に引かれていた分すら受け取ることも出来ないなら、各自で貯蓄するべき。	50代	被扶養者
先に多めに支払ったとしても、老後に多くもらえる安心感には変えがたいと思う。	50代	被扶養者
必要性があるから仕事があり、働いていていいるのだから、働く立場で健保に加入したい。	50代	被扶養者
支払った分貰えるのであれば加入したい。	50代	被扶養者
収入が低いので、そんなに払えません。	50代	被扶養者
将来の年金受給額が手厚くなるため。また、国民年金と違い、収入額に応じて支払額がスライドする点も納得できる。	50代	被扶養者
「働く」ということの意味が均一化されると思うから	50代	被扶養者
手当の厚い選択肢として	50代	被扶養者
フリーランスとはいえ仕事は仕事なので、また業務委託もしているので。	50代	被扶養者
投資の方法は他にもあるので	50代	被扶養者
どこの健保組合も加入者が減り大変と聞く ここで個人事業主が入れば万事OKでは？	50代	被扶養者
支払い分の負担増が大きい	50代	扶養者無
老後の不安解消	50代	扶養者無
給付の種類と額が優遇されるので加入した方が良い。	50代	扶養者無
将来もらえる年金を増やしたい	50代	扶養者無
全額自己負担になるのは重すぎる	50代	扶養者無
年齢的に	50代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
今よりも安心できる。	50代	扶養者無
利益額の計算が面倒ですぐには判断できない	50代	扶養者無
何かあった時に手当金をいただけるのはありがたいが、保険料の負担が大きく、また現在の年齢からでは将来もらえる年金額よりも負担する保険料の方が大きく（差額がマイナス）になりそう。	50代	扶養者無
このままでは年金額が心配なので関心はあるけど、負担額が増えるのは厳しい今でも手元に残らない制度ができた場合、試算して決めるとします	50代	扶養者無
協会けんぽはそこまで手厚くないけど、国保よりマンだと思うから	50代	扶養者無
傷病手当金、老齢年金の権利が得られるのは魅力的だから	50代	扶養者無
余裕がない為 別の、民間の保険に加入しているから	50代	扶養者無
法人化は現時点では考えていないため。	50代	扶養者無
ややこしすぎる	50代	扶養者無
見返りはありがたいけれど、その分引かれるとなるとあまり意味を感じない。	50代	扶養者無
現在の収入では追加で加入して年金保険料を支払う余力がない。もし余力があれば検討したい。	50代	扶養者無
将来の安心が増えるから、加入できるなら入りたいです。	50代	扶養者無
もう50歳なので、今から加入しても増える金額が少なそうだから。若い人には良いと思う	50代	扶養者無
保険料が支払える範囲であれば	50代	扶養者無
高齢者になった時の備えとして期待できるから	50代	扶養者無
将来を見据えて	50代	扶養者無
保障を得たいため	50代	扶養者無
まだ法人化をイメージできないため。	50代	扶養者無
負担の割にメリットが小さい	50代	扶養者無
社会保険料の負担が大きいため。	50代	扶養者有
負担が…	50代	扶養者有
毎月の支払いが高いのであればそれがネックだから収入が安定していたら考えます。差額があまり変わらないのであれば入らないかも	50代	扶養者有
もう還暦も過ぎていたのでメリットはないと思う。	60歳以上	扶養者無
社会保険そのものや、保険料等の負担、不就労時の手当てなど考慮すると必要な制度だと考える 若者のフリーランス増加という現状を考えても制度見直しを行うべき	60歳以上	扶養者無
少しでも改善したいから	60歳以上	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
何かあったときの保証だから、あった方が安心できる	60歳以上	扶養者無
怪我や病気で働けない場合への備え	60歳以上	扶養者無
特になし	60歳以上	扶養者無
もう60歳をすぎているので、自分にはあまりメリットがなさそう。	60歳以上	扶養者無
稼ぎが多ければ「ぜひとも加入したい」が、いまの自分の稼ぎではとても支払えない。いまでも国民年金基金は月額最大65,000円くらい非課税枠があると思うが、売上のある自営業者は月額いっぱいまで掛けて所得控除も受け年金額を増やしていた。国民年金基金は会社員の社会保険の役割を果たしていたはず。近年、国民年金基金のウワサはさっぱり耳にしないが、いったいどうしてだろう？	60歳以上	扶養者無
加入したいと思うが払えるのか疑問です。	60歳以上	扶養者無
経済的負担が大きい	60歳以上	扶養者無

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
もしもの時のために備えておきたい	30歳未満	扶養者無
出産手当金はほしいが、そもそも年金自体支払わずに自分で積み立てたいから。	30歳未満	扶養者無
年間支出額が増えると厳しい.. パターン3は魅力あるものの 扶養配偶者がいない、年金貰えるのは仮定でも20年後(60歳~)でそこまで資金が持つか分からない.. 扶養配偶者ができず、10年後完全失業する可能性もあるため	30歳未満	扶養者無
高いから	30歳未満	扶養者無
出産手当金が貰えるから	30代	被扶養者
メリットが大きいから	30代	被扶養者
安心安全だから。	30代	被扶養者
お金を出してみんなで支え合う仕組みがあればすごく良い。自営にチャレンジする垣根も下がると思います。	30代	被扶養者
まだ想像がつかない	30代	扶養者無
保険料が増えるのでは意味がないので。 年金がもらえる保証はどこにもない。	30代	扶養者無
支払うよりも受給額が増える計算なのであれば入りたいが、昨今は支払った額が取り戻せる率(月数や年数)が低い/遅いので、そこは慎重に見極めたい。	30代	扶養者無
将来年金が受け取れる保証がない、あるいは受け取れるとしても目減りするのは確実なので、それなら年金として多く払うよりも投資に回したい	30代	扶養者無
受け取れるものが増えるのであればその方が安心だから。	30代	扶養者無
ちょっと値段的に難しいかもしれない。	30代	扶養者無
自分の現状での試算ができて支払いできそうなら加入したいです。	30代	扶養者無
将来に対する安心感がある。	30代	扶養者無
さらなる負担が増えるのはおかしいと思う	30代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
貰える年金が増えるので、安心感がある	30代	扶養者無
国民年金だけだと将来の年金は80万程度しかもらえず、それでは生活していけないと思います。また、自分の身にいつなにが起るかわからないことを考えても、傷病手当は必要だなと感じます。ただ、支払う金額もかなり大きくなる（例えばパターン1だと毎年40万ぐらい負担が増えてしまう）ことを考えると、民間の所得補償保険とか医療保険とかそういうものを活用したり、idecoや国民年金基金で老後の費用を準備するなどの方法と、どちらが良いのか検討する必要があると感じました。	30代	扶養者無
そもそも国の年金制度を信用していない（自分が高齢者になった時にもらえるか疑問）。	30代	扶養者無
自分の条件だと、支払う額が多いわりに、得られるメリットが少なそう	30代	扶養者無
パターン1を想定した場合、あまり差引合計では魅力を感じないため。	30代	扶養者無
傷病手当金、出産手当金が魅力的だから健康保険には加入したい。ただ、厚生年金にはあまり魅力がないので、年金は加入しようと思わない。	30代	扶養者無
支払う金額が高い	30代	扶養者無
年金はあてにできない	30代	扶養者無
国民年金だけだと少ない。物価スライドに対応できる金額として、割増したい。国民年金基金が物価スライドに対応しているなら、そちらでも構わない。	30代	扶養者無
手取りが減るから	30代	扶養者無
iDeCoや他の小規模企業共済でなんとかなるならそれでいいため。	30代	扶養者無
年金の制度自体について懐疑的な部分があるから。	30代	扶養者無
支払う額が大き過ぎて目処が立たないため	30代	扶養者無
費用が高い	30代	扶養者無
自己負担の金額が辛い。毎月自転車操業で余裕がない	30代	扶養者無
老後に備えたいため	30代	扶養者無
現状法人化しないと加入できず、現状の所得と比較するとあまり旨味がないと感じるため。	30代	扶養者無
正しく健康保険に加入したいため。	30代	扶養者無
老後が不安だから	30代	扶養者無
月にプラスで支払う額が多すぎる。	30代	扶養者無
法人化しようがしまいが、経営者視点から見ると負担額のコストは変わらないので、加入できる選択肢を増やすことが重要	30代	扶養者無
難しくてよく分からないが、扶養家族が夫についている場合、メリットより支払う額の増額分の方が大きく感じる	30代	扶養者無
もらえる額が少しでも増えるのはありがたいから	30代	扶養者無
月額でそれほど大きく変わらないのであれば、将来に備えて加入したいと思う。受給額がかなり増えるのは心強い。	30代	扶養者無
不安定な状況から抜け出したいから！	30代	扶養者無
出産含め、妊娠、出産後も仕事が制限される部分もあるので、少しでも出産手当が入ると、安心して産めるかなと思います。	30代	扶養者無
扶養家族のことを考えると、扶養の概念がない国保よりいい	30代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
国保が高すぎるため	30代	扶養者無
子どもができる場合を考えると、出産手当金と扶養制度を確実に使うことができるし、将来の年金の心配も国民年金のみに比べたらかなり安心できるため。	30代	扶養者無
自分はおそらくパターン1に近い属性と思われるため、メリットはやや薄いのかなとは思ったが、年金の2階建などはやはり魅力だと思うため	30代	扶養者無
メリットは大きいですが、現在の支出が増えすぎるのは不安。	30代	扶養者有
今の自分から必要だとは思わないから	30代	扶養者有
メリットはでてくると思うから。	30代	扶養者有
年金制度には期待していないので入れるとしても使わない。健康保険は扶養に入れる対象がいるならメリットが大きい。	30代	扶養者有
子供を育てることに必要な金額は社会が負担すべきだと思う	40代	被扶養者
そもそも国が信用出来なくなってきており年金も本当にもらえるのか分からないので、投資に回したほうが良いのではないかと最近思い始めているから	40代	被扶養者
選択肢は多いほうがいいが、わからない	40代	被扶養者
売り上げ次第。	40代	被扶養者
将来の安心のため	40代	被扶養者
社会が高齢化する中、厚生年金に入れたら自分達世代にもお年寄り世代にもプラスだと思います	40代	被扶養者
負担額が多すぎる	40代	扶養者無
加入に対しては前向きだが、費用負担が大きくなるため、比較検討したい。労使折半がないため、フリーランスでも大きな負担なく保障を受けられるような仕組みにしたい。	40代	扶養者無
難しくて	40代	扶養者無
加入はしたいが、費用がネックとなるため	40代	扶養者無
差額があまりない。多分パターン1	40代	扶養者無
払う額は多くなるが、将来に備える方が大事	40代	扶養者無
安心につながる	40代	扶養者無
負担が増えるのは困る	40代	扶養者無
国民年金だけでは老後は確実に生活できないと思っています。	40代	扶養者無
将来への備えに不安があるから	40代	扶養者無
所得金額によるが、控除額が増えて節税にもなるし、老後に備えられるメリットがあるから。	40代	扶養者無
毎月支払えるだけの十分な利益を上げることが難しい場合もあるため、なるべく入りたいが金額負担の大きさが悩みどころではある	40代	扶養者無
老後に散財するとは思えないため、再び厚生年金払ってまで年金を増やしたいとは、今は思っていない。	40代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
安心というものを常に担保しておきたい	40代	扶養者無
金額面で厳しい	40代	扶養者無
現状の自分の収入規模で考えると、毎月の支出増というリスクに対して、得られるメリットがちいさそうだから	40代	扶養者無
iDeCoやNISAを利用した場合に年金として納めるのが良いのか、その分を運用した方が良いのか比較検討しないとなんとも言えないです。	40代	扶養者無
とにかく現在のままでは老後が立ち行かない	40代	扶養者無
払える金額かどうかによる	40代	扶養者無
もらえる額といっても、実際にもらえるかは分からないので（その前に亡くなるかもしれない）、この試算では何とも言えない	40代	扶養者無
あくまで会社員と平等にという観点では、手放しで賛成はできませんが、実際のところ、厚生年金に加入して、将来の年金額が増えることには賛成です。	40代	扶養者無
支払うだけの余力がないため	40代	扶養者無
安心できる	40代	扶養者無
収入規模からいって現状は対応できない。	40代	扶養者無
収入を増やしたいので	40代	扶養者無
選択肢が増えることは多様な価値観に答えることが出来て良いから。	40代	扶養者無
やはり今後歳を取り支給される年金はできるだけ厚い方がいいから	40代	扶養者無
将来の年金額が大幅に増えるため	40代	扶養者無
現状稼ぎが不安定で毎月支払えるか不安	40代	扶養者無
できれば会社員時代と同等の条件が良い 現在検討中	40代	扶養者無
働いている以上会社員と同等の処遇を望むため	40代	扶養者無
働けなくなった時の保証がないから	40代	扶養者無
あまり増えないなど。	40代	扶養者無
支払う金額が増えるのは地味につらいけれど、一般の保険に入った場合の掛け金と比べて安ければ加入したい。	40代	扶養者無
表の内容の意味が良く分からない	40代	扶養者無
収入が安定しないためずっと定額ですっとその金額を払い続けられるかわからない	40代	扶養者無
純粋に支払い額が多くなるから。	40代	扶養者無
安心感はあると同時に、個人事業主だと収入がきっちり安定しているわけではなく、持ち出し金額が気になるため。	40代	扶養者無
実際に自分の状況でどのくらい支払金額が増えるかを確認してみないとなんとも言えないけれど、可能なら加入したい。収入が不安定なので、いざという時の備えが欲しいため。	40代	扶養者無
金額が高い。	40代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
節税も兼ねて	40代	扶養者無
国保は健診でも最低限。人間ドッグやインフルの補助など、より手厚い補助がほしい。	40代	扶養者無
前の問の雇用保険に関するものと同様	40代	扶養者無
将来の年金	40代	扶養者無
払う金額が気になる	40代	扶養者無
年金関連は様々なiDeCoなど別対策があるため。健康保険においては、万が一に備えた手当金があれば嬉しい	40代	扶養者無
フリーランスが求めるものは、潤沢な給付ではなく、あくまで格差の是正である。たとえ受給額が増えたとしても、負担がさらに大きくなりすぎると本末転倒。傷病や出産の最低限度の保障は国民健康保険でカバーすべきである。老齢年金の上乗せについては、各個人や企業の裁量選択肢に委ねれば良く、労使折半や扶養制度に至っては廃止を含めた根本的な見直しが必要である。	40代	扶養者無
会社員もフリーランスも平等に人生設計ができる世の中になるために、必要。老後は、職種によるが、年金が多くもらえる方が安心して生活していけそうのため。	40代	扶養者無
会社員と同等になる	40代	扶養者無
保障が増えるのはよいがさらに自己負担が増えるのは厳しい	40代	扶養者無
個人年金に入っているから	40代	扶養者無
老齢年金、傷病手当金など、現状の制度では会社員に比べ、かなり不利な立場に置かれていると感じているため。	40代	扶養者無
加入したいが、お金がない。そしてサラリーマンに比べて高すぎる。納得できない。	40代	扶養者無
健康保険については、保険料が減額され、かつ傷病手当金を受けられるのであれば、ぜひ加入したいと思います。年金については負担額がかなり増えるのであれば慎重に検討が必要ですが、将来の安心につながる仕組みであれば前向きに考えたいです。ほぼフルタイムで業務委託として働いている場合には、会社側にも一定の負担をお願いしたいと考えています。	40代	扶養者無
「自身で雇用主と従業員の性質を兼ね備えているため、労使双方分の社会保険料を負担することになり、支払う社会保険料はおおよそ下記のように変化します。」とあるように、支払う額が多額だから生活していけない。	40代	扶養者無
会社員と同等の仕事をすることもあるので、ベースとなる保障が同じものになるなら助かります。	40代	扶養者無
負担増になるので	40代	扶養者無
安心して事業に取り組める。他に、フリーランスという働き方をすすめやすい。企業で働いている人で、メンタル不調が多すぎる。個人の裁量で働くことができる社会にすべき。GDPしかみない成長に意味はない。時間効率をはかるために発展してきているのなら、最低所得保障（ベーシックインカム）制度などへの転換をはかり、新しい個人事業主が多く生まれ、それぞれ社会課題にむけてとり組み、家族と多くの時間を過ごすライフスタイルに移行したほうが人類全体の幸せにつながる。個人事業主・フリーランスとしてそれぞれが特徴ある、幸せな人生を送ってほしいと切に願う。	40代	扶養者無
小規模企業共済やそのほかの制度を調べて、同じような安心を得られ、かつ事業資金の借入れなどもできるような方法を選ぶ可能性が高い。社会保険料だけで判断せず、トータルで判断すると思う。	40代	扶養者無
法人化して売上が高くなれば、加入したい。	40代	扶養者無
年額負担が大きくなることに現状の収入でどのくらい耐えられるかがちょっと不明なため。	40代	扶養者無
金額による	40代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
老後や健康に対する不安があるため	40代	扶養者無
社会保険のメリットはいいなと思います	40代	扶養者無
労使双方を負担するような金額は払えない	40代	扶養者無
社会保険の加入を目的に法人化したばかり。	40代	扶養者有
今でもキツイので、たとえ保証内容が増えても社料を増額して払う余裕がない。	40代	扶養者有
厚生年金にはそんなに魅力を感じていない	40代	扶養者有
国民健康保険が高すぎるのと、傷病手当金はあった方が安心して働ける。また、国民年金を満額支払っても、生活できるほどの受給額ではないため。	40代	扶養者有
傷病手当、障害基礎年金3級、老齢年金など、入らない理由がない。フリーランスも社保に入れてほしい。	40代	扶養者有
将来の備えになるから	40代	扶養者有
ほかの保険でカバーしてるため	40代	扶養者有
高いからです。	40代	扶養者有
支払う額が増えるだけなのであれば、自分で運用した方がいいとも感じるため。	40代	扶養者有
支払う額が大きいので、iDeCoや自分年金を使った方がリターンに期待できるから。	40代	扶養者有
これから老いる一方で、老後が心配だから。	40代	扶養者有
特に傷病は手当を厚くしたいです。	40代	扶養者有
こうしたサポートが充実すれば、フリーになることを躊躇している人も踏み出しやすく、人材の流動性や、自分に合った働き方の模索、新しい道への挑戦などへのハードルが下がると思う。	40代	扶養者有
保証、負担面を考えての充実度が高い	40代	扶養者有
魅力はあるが、毎月の支払額が高いと思う。シングルで子供もいるので、今の収入だと払うのは難しい。	40代	扶養者有
会社員からフリーランスになった際に延長で2年間自腹で倍額を払っていましたが、国保になるとさらに金額が上がって生活が大変になったため、社保に入れるなら入りたいと思います。	40代	扶養者有
そもそも公的な年金制度に不安があるため、加入を検討するかどうかはわからない。中小企業共済や保険会社の個人年金も併せて比較したい。	50代	被扶養者
加入したいと思うが収入に変動があるので加入して案件のないときの支払いが負担になるかもと考えるとどちらともいえない。	50代	被扶養者
厚生年金はあったほうがいいと思うが、全額自己負担になると思われるので難しい人もいると思う。	50代	被扶養者
自分がそれによるメリットを享受できるか判断しかねるため。	50代	被扶養者
将来の年金より、今の収入のほうが重要だから	50代	扶養者無
金額や制度による	50代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
国民年金だけだと、老後の年金支給額で暮らすのが厳しいと思う。	50代	扶養者無
厚生年金に加入できるのはありがたい	50代	扶養者無
2年前までは厚生年金に入っていたため。	50代	扶養者無
ある程度の売上がたって法人化すれば、健康保険にするほうが良いと考えている	50代	扶養者無
目先の収入が増えていないので、出ていく現金が今より増えることは避けたい。	50代	扶養者無
今はまだ売上げも少ないので時期ではないが、いずれと思うところもある。	50代	扶養者無
法人化して社保とすれば保障は手厚くなりとても魅力的だが、法人税など法人化することによってほかの出費も増えるため、慎重に検討しなければならない。加えて私はパターン1に近いので現状ではそれほど大きなメリットはなさそう。	50代	扶養者無
やっぱり保証があるのは大きいです。ただ金額が満額ってのが怖いので、収入に応じて、減免などができるような制度があればありがたいです。	50代	扶養者無
労使折半というけど、結局は労働者の報酬になる部分でしかないと思いますけどね。勤めていても、会社負担分として語られているけど僕の報酬に入ってる部分です。給料明細には別扱いとされていますが会社の経営者も僕も労働者の報酬分という認識でした。最終的に保証が国保より厚いから必要 もっと言うと、社会保険と国保の基準を同じにすべきだと思う。	50代	扶養者無
厚生年金との差があまりにも大きすぎるから。	50代	扶養者無
厚生年金保険料を支払うより、自分で運用した方が受取金額が大きいと思うから	50代	扶養者無
自己負担が妥当かわからない	50代	扶養者無
現時点ではこれ以上負担が増えたら生活できなくなるので	50代	扶養者無
具体的に検討したことがないため	50代	扶養者無
月々支払える金額であれば加入を考えたい	50代	扶養者無
メリットがあるかどうかかわからないから。	50代	扶養者無
万が一のとき、困るのは自分だけではない。家族に迷惑をかけたくない。	50代	扶養者無
老後の事を考えると少しでも年金が多いほうが将来に対しての不安が減るので	50代	扶養者無
現在協会けんぽに加入中。健康保険料が一定になる反面、国保のように所得に連動しないので急に売上げが落ちた時が心配。厚生年金は、入れるなら入ったほうがいい。	50代	扶養者無
自分のケースでどのくらい差があるのかによる。残りの支払い期間が10年程度なので。	50代	扶養者無
若ければメリットがありそうだが、一定期間雇用されてスキルを身につけ、独立して働くとなると40代以降の層が多いと考えられる。その場合、この試算が正しいとすると、メリットがほとんどない。	50代	扶養者無
高すぎる	50代	扶養者無
支払金額が現在より高くなるため。	50代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
厚生年金の負担額が会社員と大幅に違うのでとても不公平。	50代	扶養者無
毎月志原ができるかどうか、いますぐには決められないため。	50代	扶養者無
イデコとどちらがいいのか悩めます	50代	扶養者無
金額による	50代	扶養者無
金銭的な問題 扶養対象配偶者がいないとメリットが少ないかも	50代	扶養者無
経済的にたすかる	50代	扶養者無
将来の安心感が違うから	50代	扶養者無
安心だから	50代	扶養者無
現在加入中の保険組合のおかげで保険料が低くおさえられているため。もし国民健康保険に加入しているのであれば、ぜひ加入したいと考えたと思う。	50代	扶養者無
可処分所得を増やしたい	50代	扶養者無
扶養者がいない自分にはあまりメリットがない	50代	扶養者無
安心感は、すべての基本か、と。	50代	扶養者無
今の社会保険の条件より良さそうだから。	50代	扶養者無
金額と保証のバランス。	50代	扶養者無
やはり多少でも年金もらえるなら多いほうがありがたいので	50代	扶養者無
受給額が僅かでも増えるので	50代	扶養者無
扶養している人がいる場合は、健康保険組合のほうが有利である。組合健保には最低報酬額で加入し、フリーランスとしての収入は事業所得という形が最も金銭的なメリットがあると考えられる。	50代	扶養者有
どう見ても国保と国民年金が得であると思えない。何かメリットが有るなら逆に教えて貰いたいです。	50代	扶養者有
金額が高いから悩む	50代	扶養者有
安心だから	50代	扶養者有
国民健康保険が高すぎる	50代	扶養者有
十分な売上があれば加入したい。	50代	扶養者有
セーフティーネットになるので	50代	扶養者有
何年間納付して何歳から受給できるかにもよるが、そもそも支払額の増加が大きく、働いている間の負担が大きくなりすぎるような気がする。	50代	扶養者有
手厚い保証制度	50代	扶養者有
フリーランスになる前も現在も、けんぽ組合加入の家族の扶養に入っており、すでに年金支給が近い。	60歳以上	被扶養者
そんなに払えない	60歳以上	扶養者無
現在対象者がいないので	60歳以上	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
これは悩ましい問題です。	60歳以上	扶養者無
年齢が60代ということもあり、個人的には今さら感もあるが、一般論としてはあったほうが良いと思う。	60歳以上	扶養者無
老後の備えを雇用主に任せるのではなく、自分自身で行えることは安心だと思う。	60歳以上	扶養者無
国民年金、社会健康保険よりは遥かに良いと思います。	60歳以上	扶養者無
自己負担で加入できるなら加入したいと思っていたから	60歳以上	扶養者無
保障はあんしんだが、収入が不安定なので払いきれんだろうか	60歳以上	扶養者無
前問の回答と同様、この歳になって今さらなあ、という気持ちが強い。若い世代のフリーランスには必要な制度だとは思うけれど。	60歳以上	扶養者無
もう60歳すぎているので、あまり恩恵が無さそう	60歳以上	扶養者無
労災も加入できるようになってほしい	60歳以上	扶養者無
負担が大きすぎる	60歳以上	扶養者無
支払いと給付のバランス悪いと感じる	60歳以上	扶養者有
個人事業主に労使の関係ではないので、折半は国費でいいのでは。	60歳以上	扶養者有
「保険」と考えれば理解しやすいのではないかな。	60歳以上	扶養者有
安心できるから。	60歳以上	扶養者有
現在の国民年金では保険料が固定額なので、将来の年金給付額を増やしたいと思っても増やす選択肢がない。	60歳以上	扶養者有
厚生年金の扱い	60歳以上	扶養者有
年金額に圧倒的な差があり、それはそのまま老後生活のクオリティに直結する。	60歳以上	扶養者有
老後の経済不安が減る。	60歳以上	扶養者有
厚生年金に加入できれば、年金が増える。65歳以降であっても毎年在職時改定で年金受給額が増えるから	60歳以上	扶養者有
すでに高齢のため	60歳以上	扶養者有
雇用における厚生年金会社負担分は、個人の厚生年金額計算に反映されない。フリーランスが「全額自己負担」となる場合の、個人の厚生年金の計算基準がどうなるか不明	60歳以上	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
今の生活が楽になる方が嬉しいから、	30歳未満	扶養者無
国民健康保険は高額なため、それ以外の健康保険が使えるという選択肢は魅力的だと思う。年金に関しては、制度自体が破綻しかかっているのであまり期待していないというのが正直なところ。公的な年金に頼るのではなく、投資などにより自分で年金を構築する必要があると思います。	30歳未満	扶養者無
年金の受給金額が下がっているから	30歳未満	扶養者有
高いから払えるか分からない。	30代	被扶養者
将来保証のため	30代	扶養者無
もらえる受給額が増えるのは嬉しいが、今でも負担が大きいのので支払い額が10万単位で増えるのは躊躇する。	30代	扶養者無
負担が増えるため	30代	扶養者無
正社員と同等の年金を確保できるのは非常にありがたい。	30代	扶養者無
将来の不安を解消したい	30代	扶養者無
自己負担で加入できても負担が多すぎる。個人事業主の場合は法人化してしまっても変わらないから個人事業主ではある意味はない気がする	30代	扶養者無
国民年金基金や個人年金で備えているため、あまり必要性を感じないから	30代	扶養者無
お得なら良いと思う。	30代	扶養者無
労使折半がない分、支払いが増えるから	30代	扶養者無
老後はiDeCoなどの資産形成で賄うから	30代	扶養者無
老後が不安だから	30代	扶養者無
カバー範囲が広がるから	30代	扶養者無
加入したいと思うが、手続きが煩雑になるのなら本来の業務に支障を来すので内容次第	30代	扶養者無
負担が大きそうに感じる	30代	扶養者無
・長寿化の傾向を考えると厚生年金の上乗せは非常に魅力的で、ぜひとも加入したいです。・病気などで長期間働けない状況になることは会社員・フリーランス問わずあることなのに、社会保障として差別されるのは納得できません。	30代	扶養者無
法人成りでできていない個人事業主なので負担が高すぎてとても払えません。私は独身なのでその分貯金したほうがマシだと思うくらい高いですね。	30代	扶養者無
少子高齢化を考えると、20年後も現在と同じ保険制度の恩恵を受けられるとは考えづらい。しかしフリーランスの選択肢が増えることに関しては歓迎できるし、支持したいと思う、	30代	扶養者無
現在の年金制度は改悪が続いているため積極的に賛成！とは言えないが会社員との格差がなくなると良いと思う	30代	扶養者無
保険料の負担が大きい	30代	扶養者無
負担額が多すぎるため。	30代	扶養者無
加入したいと思うから	30代	扶養者有
受給額が増えるなら安心だから。	30代	扶養者有
協会けんぽには加入したいが、厚生年金には加入したくないから。	30代	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
法人化せずとも老後に備えられるのなら良いことだと思う。	30代	扶養者有
今の年金制度が維持できるとは思わないため	30代	扶養者有
老後のため	40代	被扶養者
年金が二階建てになっているため	40代	扶養者無
加入したいと思うが、支払に対して受給が見合う金額なのかはよく検討したい。年齢的に、自分でNISAなどで増やした方がよいのか、比較検討する必要があると思う。	40代	扶養者無
今支払う額を抑えたいため	40代	扶養者無
通知などで将来貰える国民年金の金額試算を見るたび、こんなんでも老後生きていけるのかなと、かなり不安に思い、悲観的な気持ちになっているので、将来の支えは増やしたい。	40代	扶養者無
高い。やはり目先の支出を第一に考えてしまう。	40代	扶養者無
今はNISAなど、自分で投資する方法も増えてるので、選択肢としてある分にはいいと思いますが、収入がそこまでない場合は入りたいとは思わないと思います。	40代	扶養者無
加入するしなは別として、将来の保証として選択肢があるだけで安心	40代	扶養者無
将来もらえる保証がないから（減るリスク）	40代	扶養者無
保証は魅力だが金額が高い。小規模企業共済や確定拠出年金を利用すれば、厚生年金代わりなるため、厚生年金は特に魅力を感じない（なおかつ、積立額も柔軟性がある）健康保険組合は国民保険の保証で十分で、扶養有だと魅力を感じるが、今は独身のため感じない	40代	扶養者無
負担額によるが整えていくべき事柄だと考えるため。	40代	扶養者無
試算ではある程度加入のメリットがあるように思えるものの、年金については数十年後、自分の世代がもらう側になった際の受給額が少なくなるという話もあり、一概にメリットが大きいと考えにくい。	40代	扶養者無
そもそも年金制度は持続できるのか、疑わしいと考えているため。	40代	扶養者無
他の共済があるので導入する意義が感じられない	40代	扶養者無
傷病手当などと助かる	40代	扶養者無
ぜひ加入したいが、増える負担額が高く感じる	40代	扶養者無
将来に貰える額が少しでも高い方がいい	40代	扶養者無
年齢的に（48歳）今から加入して意味があるかわからない	40代	扶養者無
支出が増えるので	40代	扶養者無
NISAやIDECOなどさまざまな代替手段も増えつつあるが制度の選択肢として多い（企業労働者との差が縮まる）のは良いと思う。	40代	扶養者無
支出が増えた分もらう額が増えるかもしれないが、それであれば小規模企業共済などへの掛け金を増やして備えたい	40代	扶養者無
金銭的なデメリットが少ないから	40代	扶養者無
選択肢があるのは助かるため。	40代	扶養者無
支払額が高すぎる。支払い能力を超えている。	40代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
個人年金で賄っているため必要無いと考えます	40代	扶養者無
今の年齢からだが増える差額が微々たるものなので	40代	扶養者無
これ以上健康保険料を払う余裕がないし、恩恵を受ける見込みがない。	40代	扶養者無
魅力的ではあるが、自分がもう47才になるので、これからの加入期間を考えた場合に、メリットがあまりないような気がするから。	40代	扶養者無
将来的にメリットを感じるから。	40代	扶養者無
保障はありがたいものの、月々の収入額によると思うから。	40代	扶養者無
金額によると思うから。	40代	扶養者無
自営業のために二階建て制度として設けられている国民年金基金は、女性の掛け金が高く差別的な制度であるが、現時点で終身年金の選択肢がこれしかなく、極めて理不尽。	40代	扶養者無
心配が少し減ると思う。	40代	扶養者無
毎月の負担がかなり増えそうである上、将来の実際の年金額や自分が何歳まで生きるのが不透明な面もあるので、負担増分を資産運用などに回した方がよさそうな気がする。	40代	扶養者無
老齢基礎年金の支給額が増えるのは良いが、その分毎月の年金額が高くなるのであれば、選択制がよい	40代	扶養者無
そのために年金基金や保険には入っているので、内容による	40代	扶養者無
社会保険料の負担が高額のため	40代	扶養者無
浮き沈みの大きい個人事業主なので、元気で働ける時に色々やって置けると良いと思う	40代	扶養者無
自分で運用したい	40代	扶養者無
職能別の国民健康保険組合の充実化を希望しているため。NISAやiDECOで十分なため。	40代	扶養者無
支払う額が多すぎる。将来年金でもらえる額も確かではない。	40代	扶養者無
しっかり将来設計などをしてから考えたい	40代	扶養者無
これ以上社会保険料にお金を出せない	40代	扶養者無
安心感が違うため。なにかあったときに、ひとりだと不安です。	40代	扶養者無
厚生年金をもらいたいからです。しかし、ただでさえ複雑な税制度で、法人化しても自分で税の管理ができる自信がない。その手間に時間がかかりすぎて仕事に支障が出たら本末転倒。	40代	扶養者無
年金制度に対する信頼がなさすぎるし、仮に今40万以上の負担が増えるのは無理。まずは子育てが終わらないと、自分の老後のことまで考えられない。	40代	扶養者無
翻訳業者なのだが他の文筆業や漫画業界のように協会がない。	40代	扶養者無
仕事が不安定になるリスクは常にあるので、今の月々の支出を減らすほうが大事だから。年金に払うなら、その分を投資に回すほうが良い	40代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
将来の年金額が増えるという安心材料。しかし折半分も払うのは高すぎる。	40代	扶養者無
今より老後の資金が欲しいです。	40代	扶養者無
10年前なら「ぜひ」と回答したが、現在の年齢（49歳）からでは、受け取る年金のプラスよりも支払うマイナスの方が大きいと思われるので	40代	扶養者無
ひと月(年数)の支払う金額が多い割に、もらう額が少ない。	40代	扶養者無
負担が少なくなるのなら入りたい	40代	扶養者無
自分が社会保険の充実を考えて法人化したところも大きいから。	40代	扶養者無
社会保険料が圧倒的に安いから。将来的な受給額については、高齢になっても続けられる職種のためそれほど興味はなく今と同等に働いていると思うためそこまで重視しない。とにかく今の支払額を減額したい。	40代	扶養者無
支出が増えるから	40代	扶養者無
やはり負担金ができること前提だと、躊躇してしまう。それよりも物価高騰、単化アップ、事業計画をしっかりとる方が、フリーランスには、大事かと思う。	40代	扶養者無
少しでも将来の備えになると思うから。	40代	扶養者無
扶養家族がいれば入りたいと強く思うのだろうが、自分は独身で最低限の保証の場合と費用対効果を天秤にかけて検討することとなりそうだから。	40代	扶養者無
払えるかどうかの金額次第だが、できれば加入しておきたい	40代	扶養者有
差額が大きすぎる。	40代	扶養者有
厚生年金や傷病手当が魅力的だから。ただ、現状だと法人なりする場合、法人税や決算などが加わり、単純に試算結果のような黒字にはならないと考えている。	40代	扶養者有
年金支給額の不足は大きな不安ですが、自分の当てはまると思われるパターン1で見ると、1年あたり増える支払額と受給額が同等のため悩むところです。	40代	扶養者有
協会けんぽにはぜひ入りたいが、厚生年金は入らなくて良い	40代	扶養者有
老後や万が一の時の保障の充実。国保は加入人数に応じて、高齢者が多いことから納付額が高くなるから。	40代	扶養者有
扶養家族がいる方には有利となる部分もあるが、保険料が会社負担分も含め高額となる為	40代	扶養者有
余裕がなさすぎて	40代	扶養者有
ライフステージにもよるため、諸手当に該当しない場合、単純に負担増になると考えられるため	40代	扶養者有
働き方の違いで差をつけるべきでない部分だと思うので	40代	扶養者有
納める金額が高すぎる	50代	扶養者無
厚生年金が手厚くなる	50代	扶養者無
貰えるかどうかかわからない年金のために全額収めるなら、事業でいっぱい稼いで貯金した方が良いと思う。	50代	扶養者無
厚生年金は検討するが、けんぽは不要	50代	扶養者無
経済的に合理的だと考える。	50代	扶養者無
メリットがあまり感じられない	50代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
補償が手厚くなるため加入したいとは思いますが、費用が倍増するなら加入できないと考えています。	50代	扶養者無
一人会社の場合は会社負担額を経費にできるが、個人事業主の場合は経費にできないのではないかなと思うから	50代	扶養者無
負担が増えても、医療費の安さに繋がるはずということが魅力的だから。	50代	扶養者無
自分の場合、どの程度増えるのかがよくわからないため。	50代	扶養者無
会社員で長年支払ってきた過去があるから、続けたい。	50代	扶養者無
子育て世代であればぜひ加入したいと思うと思う。	50代	扶養者無
働く人は平等でなければならないと思う	50代	扶養者無
イチイチ理由を記載するまでもなく厚生年金の方が手厚いから。	50代	扶養者無
労使折半でなく全額自己負担になるのであればメリットを感じない。	50代	扶養者無
パターン1のケースになるので、法人化の手間を考えるとあまりベネフィットを感じません。	50代	扶養者無
老後の生活の為に今の収入が少なくても保険になる	50代	扶養者無
負担が多すぎる	50代	扶養者無
自分で投資などで増やすよりも一生もらえる年金の方が安心	50代	扶養者無
老後不安解消のため老齢年金の上乗せを望むため	50代	扶養者無
国の政策に不安があるから	50代	扶養者無
法人化によるほかの手間がどれだけ増えるかにもよる	50代	扶養者無
加入しています	50代	扶養者無
将来のことはわからないため、もし加入してもかえってよくない方向に向かうリスクもあると思うので。	50代	扶養者無
最終的にももらえる年金が増えるため	50代	扶養者無
経済的なメリットがあれば加入を検討します。	50代	扶養者無
現在、国民年金・国民健康保険に加入すると高額になるので、実家の会社の役員をやっているのでそちらで社保に加入している。その会社も精算の方向で動いているので、フリーランス向けの社保ができれば加入したい。	50代	扶養者無
年金はあまりあてにできないというか運用機関を信用できないので、選べれば良いと思う。健康保険は加入したい。	50代	扶養者無
内容と金額次第	50代	扶養者無
厚生年金の存在感がハンパなく大きく感じています。選択肢として存在するなら、加入を検討したいところです。	50代	扶養者無
今から加入したとしても年数が長くないため	50代	扶養者無
少しはメリットがありそうです。	50代	扶養者無
今より多く社会保険料を払いたくない。払えない。	50代	扶養者無
フリーランスは何かと不安だから。	50代	扶養者無
将来に備えたい	50代	扶養者無
受給額が増えるなら検討したい	50代	扶養者無
同じく今更2階建てにしたところで…という感覚がある	50代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
現状では収入と保険料とのギャップが大きく支払いが困難だと思われるから。	50代	扶養者無
負担額を抑えたい	50代	扶養者無
月額負担額が大きいため。	50代	扶養者有
安心が得られる	50代	扶養者有
現状から倍近く支払いが変わると支払いが辛くなるかもしれない。収入が安定していれば、ありがたいと思います。	50代	扶養者有
老後の問題	50代	扶養者有
なんとなく	50代	扶養者有
扶養対象の子も配偶者もないうえ、現在の年齢も50代後半なので、上の試算だと支払額が増加に見合う受給額になるようにとは思えない。	50代	扶養者有
老後に備えたい	50代	扶養者有
所得に対してどういう基準で保険料が決まるのか分からないので	50代	扶養者有
安定している。	50代	扶養者有
法人を立ち上げる事で多くのメリットがあるかも知れないと思っています。	50代	扶養者有
支出が増えるから	50代	扶養者有
協会けんぽと厚生年金を望むなら、法人成りしたらよい。	50代	扶養者有
厚生年金はとても魅力的	50代	扶養者有
扶養制度は必要	50代	扶養者有
今の方が、負担が少ない	60歳以上	扶養者無
協会けんぽの保険料の方が国民健康保険より安価。 厚生年金は現在の返還率で考えると全額負担となる個人事業主にとって、どれだけメリットがあるか不明。インフレ時のメリット（物価スライド）も現時点では不明。（投資等で貯蓄するほうが確実のように思う）	60歳以上	扶養者無
現在、配偶者がなしなのでメリットが感じられない。	60歳以上	扶養者無
国民健康保険が高い	60歳以上	扶養者無
一長一短ある。	60歳以上	扶養者無
今さら加入しても差がない。その分投資したほうがよい。	60歳以上	扶養者無
年齢的に遅いから	60歳以上	扶養者無
現在は 国民健康保険料のみの徴収なので こちらの保険料をなんとかしていただきたいと考えます	60歳以上	扶養者無
保障は必要だと思う	60歳以上	扶養者無
現状の国民年金・健康保険が、高齢者への給付の重圧に耐えられる制度設計ではないため	60歳以上	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
個人健康保険、個人年金のほうがいまいちも知れない	60歳以上	扶養者有
保障は厚い方がいい	60歳以上	扶養者有
フリーランスの人数が増えている。	60歳以上	扶養者有
年金は既に受給者のため	60歳以上	扶養者有
配偶者の加給年金にもかかわると思うので。	60歳以上	扶養者有

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
厚生年金は将来のインフレをあまり考慮されていない。ポンジスキームのような制度だから加担する気にならないため。	30代	被扶養者
節税として利用できるのであれば、利用したいと思う。	30代	扶養者無
負担は増えるものの、そのぶん将来に得られる金額も大きくなるため	30代	扶養者無
むしろないのが納得いかない	30代	扶養者無
以前休職時に傷病手当金に助けられたので、加入できるならうれしいが、ただでさえ国保は会社員の健保に比べて加入者負担が増えるので、そこまで払えるかは現実問題厳しい気がするので、どちらともいえない。	30代	扶養者無
国民健康保険より条件のよい？健康保険にフリーランスでも加入できて、年金の上乗せ方法があるのは嬉しい！（今現在選べる健康保険が、国民健康保険一択なのがづらい）	30代	扶養者無
自己責任を求めてフリーランスになった為	30代	扶養者無
将来安心して生活できる額がもらえるなら加入したいが、貰える年金額は減る見込みと聞いたことがあるから	30代	扶養者無
年金で生活するよりも、働く期間や収入を獲得できる期間を延ばすほうに注力したいから。	30代	扶養者無
後々を考えると不安が消えるので良いと思う	30代	扶養者無
前にみん社保という会社を使い協会けんぽに入っていたが、税理士からグレイだ。やめといたほうが良いと言われた グレイな会社があるくらいならフリーランス協会で作っていただき安心安全な社会保険に入りたい	30代	扶養者無
年金支払うメリットが無い	30代	扶養者無
厚生年金+健康保険となった場合の増加金額を支払えるかどうか分からない。	30代	扶養者無
国民健康保険料が高すぎるため、健康保険組合に入れるものなら入りたい	30代	扶養者無
健康保険には入りたいですが、厚生年金までとなるとまた話は別かと思います。別個に試算すべきではないでしょうか。	30代	扶養者無
負担が多すぎる	30代	扶養者無
iDeCoやその他投資で資産を増やしているため。30年後に年金がどれだけもらえるか疑問なため。	30代	扶養者有
家族がいるので状況によってはメリットのほうが大きくなりそうだから	30代	扶養者有
どちらかを選べるのであれば、フリーランスのままでいるか、もしくは、マイクロ法人と個人事業の二刀流でいくか、などを考えなくてもよいため。	30代	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
将来のリスクを減らせるのと家族が多い場合は保険料も安くなる	30代	扶養者有
将来の万が一のときのため	30代	扶養者有
老後により安定した資金を確保できそうだから	30代	扶養者有
もらえる額増えるなら加入したい	40代	扶養者無
所得額に合わせた掛金となること、掛金の半分为経費になることが嬉しい。	40代	扶養者無
収入に応じた適正金額が良いと思うから	40代	扶養者無
高いから、会社負担分のお得感が無いから	40代	扶養者無
年金受給年齢になった時、どこまでももらえるかわからないので、厚生年金に加入するのがメリットあるのかは考えどころ。そこに支払う額を資産運用に当てた方が、実質の年金額より増やせると思う。しかし、国保は所得に応じて変動するので、健康保険には入りたい。	40代	扶養者無
試算する背景や計算が複雑すぎて3パターンの例を見てもあまり参考にならない気がしてしまうのと、状況や将来は不確実性が高い現代において実際のところメリットデメリットの差を正確に図り判断するのは難しいため	40代	扶養者無
扶養家族がいないので、主に健康保険組合のところを、現状の民間の保険（保険料控除対象）も含めて比較検討すると思う。	40代	扶養者無
不安だから	40代	扶養者無
サラリーマンは厚生年金があるとはいえ、その半分は会社が負担しているが、その負担が少なからず給料にも反映されているので、どっちもどっち。国民年金基金があるし、idecoなどで自分で管理することがフリーランスの義務の一つでもあると思う。厚生年金として払うより投資した方が、将来増えそう。	40代	扶養者無
いざという時の保障は必要	40代	扶養者無
すでに国民年金基金、全国共済に支払っているため	40代	扶養者無
将来の生活に不安を感じているから	40代	扶養者無
加入したいが、その分の負担が大きくなりそうだから	40代	扶養者無
前項と同じくフリーランスでも適切な負担をすることで選択肢が持てるようにするべきだと思います。	40代	扶養者無
国民年金だけでは将来の支給額が少なすぎるので。	40代	扶養者無
現状でさえ高い年金・保険の支払い額がこれ以上増えるのは厳しい。	40代	扶養者無
社会保険料が高いため、金額の差によって検討したい	40代	扶養者無
支払額の負担が大きいため。月額変更の下方修正が柔軟になればよいが、協会けんぽでも上方はすぐに変更を求められるに対し、下方はできない	40代	扶養者無
基本的には安心が欲しいので加入したいが、自分の年齢（約50歳）を踏まえて検討すると思う。	40代	扶養者無
自分の場合、健康保険は建設連合の保険組合なので比較的安く保険料が抑えられているので、協会けんぽに入るメリットがない。厚生年金は検討したいが、月額6万円は現状の収入からは払える金額ではない。	40代	扶養者無
先の回答のとおり（格差は正のため）	40代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
健診の補助などメリットが大きい	40代	扶養者無
健康保険料の負担が大き過ぎる	40代	扶養者無
自己負担で出ていくお金が一時的に増えることに躊躇する。	40代	扶養者無
年金については、国民年金基金という選択肢があるため	40代	扶養者無
現時点では、支払う金額が妥当かどうか判断できない。	40代	扶養者無
掛け金負担が大きい	40代	扶養者有
フリーランスになった当初は協会けんぽの任意継続を利用していたがそのときの保険料のほうが国保より圧倒的に安価で済んでいたため。収入は同じなのにこの違いは何なのか、納得できる理由がないと感じる。	40代	扶養者有
国民健康保険が高すぎるのに対し協会けんぽほどの保障やメリットが無さすぎるから。また、国民年金だけでは老後資金が不足するため、結局別の手段を用いて老後資金を用意する必要がある。であれば支払額2倍であろうとも厚生年金に加入して備えた方が安心だと考える。	40代	扶養者有
健康保険料の負担額が多すぎるのが非常につらいため、少しでも安くなるのであれば加入したい。	40代	扶養者有
配偶者でない扶養家族もパターン3に該当するのかどうか次第のため	40代	扶養者有
安くなるなら是非加入したい	40代	扶養者有
高すぎる	40代	扶養者有
フリーランスをしながら子供2人の教育費を捻出するのにいっぱいいっぱい将来に備える余力がないので、こういった制度があると少しは老後への安心感が持てる。	40代	扶養者有
将来が不安なため	40代	扶養者有
元々、個人負担+会社負担分の納税しているので、新たに支払っていくのではなく、当然の権利ではないかと思います	40代	扶養者有
メリットもデメリットもあるけど、キャッシュフロー的には現実的でなく感じる	40代	扶養者有
国民年金の支払いが終わったので	50代	被扶養者
将来の年金が当てにならないとは思っているが、それでも国民年金の受給額を見ていると不安でしかない	50代	扶養者無
現在法人を持っているので加入している。民間の保険でおなじ保障を確保しようとするとコストが高くなるため、協会けんぽに加入したほうがコスト面でもメリットがあると考えています。	50代	扶養者無
国民健康保険があまりにも高額だから。	50代	扶養者無
将来の受給額が増えるとしても現在よりも支払額が増えるのは厳しい。	50代	扶養者無
50代なので今更加入してもという気がする	50代	扶養者無
手当があるのは助かる	50代	扶養者無
老後に備えられるように	50代	扶養者無
現状では、とにかく国民健康保険が高すぎる これをどうにかしたい	50代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
加入したいと思うが、企業が負担する分をフリーランスになると全て負担するのでいずれも2倍になるような仕組みは、持続可能でないと思う。	50代	扶養者無
現在、政府などの老後生活の試算などは厚生年金ありきで出されたものであって、それを基準した政策も、フリーランスにはまるで当てはまらないため、参考にならない。	50代	扶養者無
現役時代に増える支払い負担と、退職後（老後）の受給額を比べた場合、メリットをあまり感じないから	50代	扶養者無
国民年金だけではもらえる年金額が少ない	50代	扶養者無
法人化するリスクと事務負担と費用負担の方が大きいと思う	50代	扶養者無
負担額が大きい	50代	扶養者無
国保は払えるの？と思うほど高い。高すぎる。もう少し同じ働く人として平等が欲しい。	50代	扶養者無
年齢的に（50代）なので入れても今更なのですが制度があるのは良いと思います	50代	扶養者無
高い。扶養者がいないのでメリットがなさそうです	50代	扶養者無
老後の心配	50代	扶養者無
高い……	50代	扶養者無
国民健康保険ですでに全額自己負担なので、金額がほぼ変わらず制度が手厚くなるならそれはもちろん加入したい。別件として、（予算や制度的に厳しいのはわかるが）ITエンジニアにも文芸美術国民健康保険組合みたいな健保があればまだ助かるのに……と思う	50代	扶養者無
ベネフィットが薄いと感ずるため。	50代	扶養者無
収入が安定していないので払い続けられるか不安。	50代	扶養者無
健康保険料が段階的に上がると、やはり負担は大きくて、売り上げを上げるのに戸惑いを感じることもあるから。また、将来の年金についても準備しておきたい。	50代	扶養者無
健康保険は加入したいが、厚生年金は負担が大きく長生きしないと取り返せないと思うので入りたくない	50代	扶養者無
国民健康保険料の負担が非常に大きい、協会けんぽと比べて、健康診断の内容や医療補助が非常に低いと感じる。	50代	扶養者無
控除できて将来のためになるなら	50代	扶養者無
扶養する配偶者がいるので健保と年金の負担が減ると思うことから	50代	扶養者無
負担は大きくなってでも将来的に必要	50代	扶養者無
負担額の違い過ぎて微妙な感じです	50代	扶養者無
高齢者の保険料の負担をしていない協会けんぽに加入できると、保険料が安くなるため	50代	扶養者有
老齢年金の上乗せ等のメリットがあるから。	50代	扶養者有
高すぎ。	50代	扶養者有
上乗せが有益な為	50代	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
得をするのであれば	50代	扶養者有
小規模企業共済等の制度もあるので、収入を踏まえてメリットデメリットを比較して決定する必要があるため。	50代	扶養者有
月々の負担額を減らしたい	50代	扶養者有
現状より高いから	50代	扶養者有
わからんから	50代	扶養者有
まだよくわからない	50代	扶養者有
健康保険（協会けんぽ）は国民健康保険とのお比較で保険料が安くなれば加入したい。	50代	扶養者有
高いから	50代	扶養者有
そこまで稼げているなら入ることができるでしょう	50代	扶養者有
収入が多くないのに、負担が増える。	50代	扶養者有
個人事業主も厚生年金のルールを適用すると自由がなくなり一律的に他のサラリーマンと同等あるいは倍の負担になる可能性がある。会社負担・個人負担の制度等も見直さないと個人事業主・ひとり社長にはメリットが少ない制度です。	50代	扶養者有
支払額に対する給付額の大きさ	50代	扶養者有
保障は必要 経費から差し引ける	50代	扶養者有
法人化に伴う事務量増加の負担が大きすぎるので、簡単にはこのスキームを適用できない。	60歳以上	扶養者無
必要性がないと感じる	60歳以上	扶養者無
年金がただでさえ少ないから	60歳以上	扶養者無
民間の生命保険に入ったほうがいいのかと思います。	60歳以上	扶養者有
働けなくなる年齢が来ることは確実だから。このような好適な年金と民間の信託投資などと2本立てで老後の資金を確保できたらよいと思います。	60歳以上	扶養者有
すでに年金を受給しているから。	60歳以上	扶養者有
いろいろな面でメリットが多い。	60歳以上	扶養者有
老後になってお金が入らないのはとても困るから	60歳以上	扶養者有
健康保険組合のほうが給付が充実しているため。	60歳以上	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
メリットが多いから	30代	扶養者無
私は文芸美術国民健康保険に入っているの、特に高いとは思っていないので。	30代	扶養者無
前設問と同じ理由です	30代	扶養者無
これから子どもが欲しいから	30代	扶養者無
手当てが厚くなり、負担額も減ると思うから	30代	扶養者無
現在は文芸国保に加入し健康保険の費用は抑えられているので問題ない。年金は厚生年金よりもiDecoにて運用するほうが効率がよいため、現状で問題ない。	30代	扶養者無
戻ってくる金額が増えるとは言え、事業を回すことを考えると、手元の資金が年金に縛られるのはデメリットであるため。iDeCoやNISAをつかい柔軟に年金の対策は可能なため慎重に考えたい	30代	扶養者無
加入して支払い金額が上がる(手取りが減る)のであれば、会社員になれば良いので。	30代	扶養者無
税金や社会保険料などの支払いが多すぎて資金繰りに問題が出る可能性があるため状況や仕事の案件の有無によってまったく異なる回答になってしまうため	30代	扶養者無
保険証が紙が嫌だから	30代	扶養者無
もしフリーランスも自己負担で協会けんぽや厚生年金に加入できるなら、加入したい気持ちはあります。なぜなら、出産手当金・育児休業給付金・傷病手当金といった「休むときの保障」が、現行の国民健康保険や国民年金には無いからです。人生の転機に備えられる安心感は大きいと感じます。	30代	扶養者無
明確にメリットがあるため	30代	扶養者無
労使折半を全額自己負担することを考えると負担が大きすぎるため 厚生年金が割に合わないため	30代	扶養者無
家族がいるため	30代	扶養者無
現在法人化の作業を行っておりますが、その理由として厚生年金と社会保険に加入したいというのがあります それほど、二階建ての年金や傷病手当金といった制度は重要だと感じております	30代	扶養者無
キャッシュの動きが大きくなるのはうれしくないのと、それだったらIdeco枠を広げてもらった方がうれしい	30代	扶養者有
これは本当にほしい。デザイナーなど、職種によって健康保険組合がある方は本当に羨ましく思う。法人化をした理由の大部分は国民健康保険が高すぎるからだ。社会保険料がサラリーマン時代と大差ないのであれば私は今も個人事業主で働いていて、負担感は今より少なかったと思います。	30代	扶養者有
年金は30年後減らされてそうだから	30代	扶養者有
現状国民健康保険を満額で支払っており大変辛い思いをしているため。法人設立もハードルが高く、そこからの手続きや維持、いざという時に畳むことなどを考えた時、そんなにおいそれと設立をしたいと思えないうえ、会社員だけに限定してこんな特典があるのは改善すべきだと思う。	30代	扶養者有
将来的なことを考えれば多少の差分なら厚生年金と健康保険加入できる方がメリットはありそう。	30代	扶養者有
NIISAはやっているけれど、NIISAやIDECOに不安を感じているから	40代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

└Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
取られる額をiDeCoやNISAにまわし、資産運用した方がいい結果になると思うから。	40代	扶養者無
加入したい、したくないというよりも、選択肢があることが重要と考えます。立場・収入などにより状況が異なる方々がいるなかで、特に厚生年金以外員も、idecoなどの仕組みも増えつつあります。従って、制度としての差をなくす方向（雇用されないものへの選択肢がふえること）を期待しております。	40代	扶養者無
配偶者が会社員なので現状ではメリットが加入する小さいものの、状況が変わった場合に検討する可能性はあると思われる	40代	扶養者無
社会保険を理由に法人化を考える人は一定数いると思う。でも実際にはその分負担が増えるし法人税などの新たな負担もあるので、メリットを感じない。よく考えて判断するべきだと思うため。	40代	扶養者無
未来のことはわからないので、備えておけば少しでも安心できる	40代	扶養者無
現状よりは自分に返ってくる金額が大きくなる可能性があるのでは。	40代	扶養者無
将来的に受け取れる年金額が増えるため。	40代	扶養者無
一階建ての年金では、受給時足りなすぎる。	40代	扶養者無
国保が高すぎる	40代	扶養者無
内容次第です。Ideco, NISA, その他資産運用しているものと比較してどうかで検討します。	40代	扶養者無
制度は崩壊している。掛け金に対してもらえる額が世代によって異なる。世代別の加入人数や人口比を加味したルールになるなら考える	40代	扶養者無
常に不安定な状況なので、せめて老後の安心材料を増やしたい	40代	扶養者無
国保が高すぎる、国保を全額払っている人の割合が少ないので全額払っていることが馬鹿らしくなる、厚生年金を受給できたほうがよい	40代	扶養者無
負担額が増えるだけで全く意味がない。	40代	扶養者無
国保は非常に負担になっていて、協会けんぽで軽減できるなら加入したい。また、国民年金と国民年金基金と2階建にしているが厚生年金に1本化して、条件向上するなら加入したいから。	40代	扶養者無
正直言って、年金には期待してない今まで払った年金を全額返金して、自分で資産運用したい	40代	扶養者無
年金制度そのものに対して不安を感じています。働く人口が減少傾向にある中で、現在の年金制度が今後も維持できるのか疑問に思います。	40代	扶養者無
会社員じゃなくなったらなぜこんなにも不遇なのだろうと感じるので。	40代	扶養者無
実際に法人化して協会けんぽに加入しているため。	40代	扶養者無
すでに加入しているため	40代	扶養者無
厚生年金は将来的に破綻しそう。それでも加入した方が今より保険料が抑えられるなら加入する。	40代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
困っている	40代	扶養者無
サラリーマンであれば会社が半分も負担してくれて将来の年金も増え、扶養される方も適応なんて贅沢すぎる いっぽう個人事業主はそれらはないとなると 日本の国から差別を受けている 組合をつくり個人事業主も適応していただきたい	40代	扶養者無
社会保障を享受することができるから	40代	扶養者無
もらう額が将来も同じとは限らないから	40代	扶養者無
現状で支払いが増えるのは負担が大きくなるので、将来もらえる金額が大きくなったとしても、入りたいとは思えない。 しかも今はその金額だとしても、将来、その金額は保証されていないから。そしたら、自分で管理できるNISAやiDecoで増やしたほうがいい。	40代	扶養者無
収入の高いフリーランスは既に高額な国民保険料を支払っている。これ以上の支払は難しい。老後も大事だが、現役の掛け金負担を軽減してほしい。	40代	扶養者無
金の無駄	40代	扶養者無
国民健康保険料の負担が重いから	40代	扶養者無
過去は会社員で厚生年金でしたが、ねんきん定期便で会社負担分の記載がないのが気になっています。これもどうなるかわからないため。	40代	扶養者無
働き方に関わらず保険は公平であってほしいから。	40代	扶養者無
現在、多くの業態の個人事業主だと時限的に任意継続ができて、その先は国保しかオプションがなくなるため、自らの意思や将来設計に合わせて選択肢があることが重要だと考える。	40代	扶養者無
国民年金だけでは老後暮らせないと思うので	40代	扶養者無
絶対いらないです！	40代	扶養者無
厚生年金分も増え、保険料の支払いも下がるため	40代	扶養者有
先の質問での回答と同じ。	40代	扶養者有
保証が手厚い方がありがたいため。	40代	扶養者有
想像できない	40代	扶養者有
老後を考えると、厚生年金は大きな存在なので。厚生年金加入のために、フリーから会社員になる人もいるくらい。	40代	扶養者有
好青年かの方が手厚いので、あれば加入するかもしれない	40代	扶養者有
現在、健康保険については業界の国民健康保険運営法人経由で、年金については国民年金基金に加入することで、会社員に近い状態になるようにしているが、協会けんぽと厚生年金に入れるなら、それがシンプルになる。ただ、国民年金基金に払った分が損にならないようにはしてほしい。	40代	扶養者有
将来貰える年金額に大きな差が出るから。	40代	扶養者有
厚生年金にある扶養制度が非常にお得だから。	40代	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
保険料負担が増えるのは考慮が必要だが、その後の保障が手厚くなるため。	40代	扶養者有
将来の不安を解消できるため	40代	扶養者有
老後のことや、体が動かなくなったとき、自分に万一のことがあった際の残されたものが生活に困ることを考えた際に保証が大事と思うため	40代	扶養者有
パターン3に当てはまり、そちらの方が得に思えるため	40代	扶養者有
かかる費用の削減	40代	扶養者有
法人化すると支出が増えるので、個人事業として同じ制度が受けれるなら加入したい	40代	扶養者有
マイクロ法人スキームで既に参加済。	40代	扶養者有
わたしたちには定年がないですし、退職金もない。どうやって老後生きていくのだろうと思っています。	40代	扶養者有
加入できない前提でフリーランスになっているので、その分は自分で稼ぐしかない割り切っているため。しかし人によっては加入したいと思うことも理解できるため。	40代	扶養者有
社団法人のアルバイトになれば社会保険料は格安になるのにわざわざ社会保険料を増やすのは頭の悪い人	40代	扶養者有
老後や何かあったときの手当が国保はないから	40代	扶養者有
マイクロ法人設立したが最大の理由が社会保険の違いだったから	40代	扶養者有
選択肢が増えるのはいいこと	40代	扶養者有
年収1000万超だと自己負担が膨大になる	40代	扶養者有
現在価値で割り引いたときに、今の支払額（投資額）が、退職年齢後にもらえる額に比べてどうかを検討してみたいと思う。	40代	扶養者有
私のケースでは支払い負担を減らせると試算しているから	40代	扶養者有
保険料が高い。その分自分で運用した方がいい。	40代	扶養者有
現に法人化して、協会けんぽの健康保険と厚生年金に加入している。保険料支払いは、将来への備えにもなるし、現在の節税にもなる。	40代	扶養者有
年金を増やす制度が他に用意されているため	40代	扶養者有
健康保険は国保で十分。厚生年金にかかるぐらいなら小規模企業共済とideCoにまずは満額かけるのが最適解。	40代	扶養者有
月々の負担がとても大きいと感じる。収入が一定でない場合の支払いに不安がある。	50代	被扶養者
今は国保組合に入っているの、保険料がある程度、抑えられているから	50代	扶養者無
将来、厚生年金が今の想定通りに支給されるかどうか信用できないので	50代	扶養者無
会社員と同じサービスを受けられるから。	50代	扶養者無
できる事は全てやりたいからです。	50代	扶養者無
他の手立てで補填した方が良さそうだから。	50代	扶養者無

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
制度としてはあっても良い。	50代	扶養者無
現在50歳のため、いまさら感が強い。	50代	扶養者無
社員と同じもしくはそれ以上に仕事やプロジェクトに貢献しているから報われるべき。老後安定は社会全体の負担を軽減するはず。	50代	扶養者無
支払いが増える分を自分で運用した方がリスクが低そうだから。	50代	扶養者無
年長的にあと10年くらいしか続けられないと思うので、支払い金額に対して受給できるようになる金額にメリットを感じない。またもう出産することはないので、相互扶助の精神になれない。	50代	扶養者無
金額負担に対するメリットがわからない。	50代	扶養者無
支払金額がかなり増えるので迷うが、何歳まで生きても必ず貰える年金は、貯蓄より頼りになるので、貰える額は増やしておきたい	50代	扶養者無
フリーランスには定年がないが、健康上の理由で働けなくなるリスクがありうるため。	50代	扶養者無
かかる経費高すぎ。	50代	扶養者無
私は国保ではありますが、私の職種で加入できる国保組合に入っているため、少なくとも健康保険の支払額は低めに抑えられています。ですが、この組合を探すのが非常に大変でした。これらの組合は加入資格が厳しいからです。つまり、加入できる組合がない職種も非常に多い。これ自体が問題だと思います。厚生年金についてはあまり興味がありません。フリーランスであれば、退職後の手当は自己責任ですべきと考えます。が、国民年金の仕組み自体がおかしいと思います。そもそも、国が勝手に余剰金を使い込んだために資金難に陥ったのを、責任も取らずに負担を国民に負担させているわけですから。公務員のように甘い汁を知っている国民もいつつ、全て自己責任で賄わなければいけない国民もいる。この仕組み自体がおかしいと思います。	50代	扶養者無
老後資金の不安感は強いので加入を検討するが、雇用保険同様にコストと便益の比較検討のうえでの判断となる。また保険料を経費に出来るかも重要。	50代	扶養者無
前述と同じです	50代	扶養者無
損金として処理できるなら加入したいが、単純にフリーランスが自己負担するには高すぎる。それなら、別でiDeCoやNISAなどで賄おうと考える。	50代	扶養者無
現状だと死ぬまで働くしかないと思っている。年金が増えることで、将来、引退についてビジョンを描けるようになる	50代	扶養者無
細かいことは分かりにくいけど、厚生年金を払うことで所得税なども同時に減額されるなら加入したい。	50代	扶養者無
さまざまなメリットがあるから	50代	扶養者無
長生きしそうなので加入を考えています	50代	扶養者無
年金は貰えない可能性が高いと思っているため。健康保険は特に必要性がないため	50代	扶養者無
法人成りはハードルが高く現状が割に合わない	50代	扶養者無
不安材料が減るため	50代	扶養者無
老後の生活のために年金を少しでも増やしたいため	50代	扶養者有
国保料が高すぎる	50代	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
社会保険料だけの問題で法人化を考えることはできないから	50代	扶養者有
やはり遺族年金が部分が大きいので、加入したいです。この制度は是非早く実現して欲しいです。	50代	扶養者有
手厚い保障がほしい	50代	扶養者有
負担が減るならなら入りたい	50代	扶養者有
単純にメリットは多い方がいいので。	50代	扶養者有
今までの回答と同じ	50代	扶養者有
民間の終身保険は高くて入れない。	50代	扶養者有
自己防衛的に厚生年金の代わりにiDECOに入ったほうがよさそうな感じもありますが詳細に比較しないとわからないか・・・	50代	扶養者有
払う額が増えるから。	50代	扶養者有
国保の保険金の高さ、国民年金の保障の低さから	50代	扶養者有
個人で任意保険に入るよりも一括して管理できるし、アフォーダブルだと思うから。	50代	扶養者有
現状では、国民健康保険の保険料が高いので。年金は、これまで厚生年金加入期間が長いので、国民年金で良い。	50代	扶養者有
健康保険料高すぎるから 厚生年金は半分払ってくれるなら入りたいけど払ってくれるひとがない	50代	扶養者有
同じサービスを受けるのに保険料の負担額が会社員と比べて不公平だから。	50代	扶養者有
今のままだと将来の年金が心もとないため	50代	扶養者有
自己負担額の問題	50代	扶養者有
協会けんぽに加入できれば扶養制度、傷病手当金があることが非常に魅力である反面、厚生年金は保険料が高額であるにも関わらず、将来どの程度受給できるかわからないためiDecoの方が良いと思う。	50代	扶養者有
得な方を選択したいので	50代	扶養者有
社会保険の方が有利なことが多いので	50代	扶養者有
自分の場合、健康保険料が確実に安くなるため。	50代	扶養者有
特に国民健康保険は、地域にもよるが、所得のある人が非就労者（シニア世代等）の保険料を補填している側面がある。所得のあるフリーランスを（社会的に）組織化して、会社員と比した社会保障費への不平等を無くし、非就労者向け健保事業への負担は全労働者で等しく按分するのが良策と考える。	50代	扶養者有
働きかたによる、社会保障制度は働き方の違いで差があるべきでは無いと考えます。また受けられるサービスも同様であるべきと考えます。	50代	扶養者有
年金受給額が上がるから	50代	扶養者有
国民健康保険が高すぎる。	50代	扶養者有
厚生年金が増えるし保険料も安くなると思うので	60歳以上	扶養者無
保険「として	60歳以上	扶養者無
安心感のため	60歳以上	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
保険料の負担が増えるだけなので	60歳以上	扶養者有
60を超えているから	60歳以上	扶養者有
この優先度が高い	60歳以上	扶養者有
将来の保証が多いほうが良い	60歳以上	扶養者有
年長的に今の仕事をいつまでできるか不明なため	60歳以上	扶養者有
高すぎるから	60歳以上	扶養者有
仮に負担がある程度増えても会社員時代と変わらない仕組みにしてほしいから	60歳以上	扶養者有
国や自治体からの補助もなく100%フリーランス負担である以上は、なんともいえない。	60歳以上	扶養者有
厚生年金はメリットが大きいと思う。国民健康保険は、もともといずれも高い。	60歳以上	扶養者有
そもそものルールを改正すべき。このままで自己負担による議論を持ち出すこと自体、狂っている。	60歳以上	扶養者有
今の国民健康保険料は税金で、負担率がバカ高い	60歳以上	扶養者有
65歳になったが、健康保険が年金に影響を与える可能性があるため確認したい	60歳以上	扶養者有
協会健保はあまり良いとは思わないから	60歳以上	扶養者有

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
二階建てになることに関しては良いですが、その分支払いも増えるとなるとなかなか厳しい状況です。	30歳未満	扶養者無
協会けんぽは手厚いし、万が一何かあって働けなくなったときの保証が安心につながる	30歳未満	扶養者無
扶養や出産の予定がないので傷病手当金のみと考えると、条件を満たすことが難しく、実際に受け取れる場合があるとは思わないため（なお、現在は労使双方分を負担する場合、国保のほうが安い）。厚生年金は魅力だが、本当にもらえるか不透明な制度にそんなにお金を出せる状況にない。	30代	扶養者無
年金のみで議論するのであれば、個人事業主でも、小規模企業共済、国民年金基金、あるいはiDeCoなどの保険・年金を活用することで「二階」部分を運用できる。	30代	扶養者無
そこまでもらえる金額が増えそうにないから	30代	扶養者無
私が年金をもらう年になるころには年金制度が破綻していると思っているので、メリットを感じられません。	40代	扶養者無
他の方法で賄えるならばそれでも良いから	40代	扶養者無
なんとも言えない	40代	扶養者無
フリーランスこそそのような保証が必要である	40代	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
一つの企業に縛られず働くフリーランスが厚生年金に入れないのはアンフェア また、週3稼働のパートタイムが厚生年金に加入できるのにフルタイムのフリーランスが入れないのは違憲ではないのか	40代	扶養者無
減税もされなくて、支払う金額だけ増えるのは厳しいから。抜本的に税制を変えてほしい。	40代	扶養者無
手当金などの安心材料は欲しいが、やはり月々支払うものが増えるのは厳しい。仕事が毎月安定してある訳ではないので。	40代	扶養者無
確かに法人化すれば年金受給額は増えるが、・会社員とは違い、結局のところ自己負担が増える・法人化することのデメリット（メリットばかりではない）というあたりで微妙。	40代	扶養者無
手当が厚くなったり、貰える年金額が多くなると言うメリットもありますが、支払う金額が高くなることを考えると、今のところはどちらとも言えません。	40代	扶養者無
老齢年金、健康診断などの付随項目が国保よりも条件がいたため、現在価値等との比較でも支払額が増加しても検討に値する。	40代	扶養者無
国民健康保険が高すぎるのが問題の認識のため	40代	扶養者無
国保が高すぎるから	40代	扶養者無
保険の組織の会計の透明度によります。	40代	扶養者無
子供がいる場合の協会けんぽのメリットは大きいです。（国民健康保険は高い！）ただし、法人は売上が下がった場合、自分に月額給与を払っていないくとも払ったことにしなければならぬのが辛いです。報酬月額を実際に自分に払っていない場合、考慮されるといいのですが。	40代	被扶養者
フリーランス専用の健康保険組合があると助かる。	40代	扶養者有
独立時に知っておきたかった	50代	扶養者無
新保険になれば保証の充実度は上がるがその分の支払い金額も高くなるので、費用対効果がどうなのかが、まだ分からないので	50代	扶養者無
国民健康保険よりは良さそうだから。	50代	扶養者無
解雇されない限り数年後の収入まで安定している会社員と違い、フリーランス、個人事業主は不安定なのに保険と年金の支払いにストレスを感じてられない。	50代	扶養者無
保険料の支払い額を考えると躊躇する	50代	扶養者有
国民年金だけの年金額では心もとない。すこしでも備えられるのであれば検討したい。	50代	扶養者無
病気で働けなくなった場合、傷病手当金が給付されたり、障害を負ったときなど、将来受け取れる年金の額が増えるため。	50代	扶養者無
保証が手厚いから	50代	扶養者無
収入に応じての支払額（受給額）になると思うが、国民年金に少しでも上乗せできるならアリかもしれない。	50代	被扶養者
支払額の負担が大きい	50代	扶養者有
年齢が若ければ、加入したい。しかし既に50代なので、今からではあまり価値が感じられない。	50代	扶養者有

Q7.フリーランスも自己負担でこのような健康保険（協会けんぽ）と厚生年金に加入できるとしたら、あなたは加入したいと思いますか。

↳Q7F1.あなたがそのように考える理由を教えてください。

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
2階建てが理想	60歳以上	扶養者無
なし	60歳以上	扶養者無
それだけの収入を得ることができるかどうか。	60歳以上	扶養者有
健康保険料が高すぎるから。ただ、協会けんぽも扶養家族も保険料の負担が生じるように変更するのであれば、加入しない。医療費が不足しているのならそうすべきだと思う。	60歳以上	扶養者有
Q9の回答と同じ。	60歳以上	扶養者無
既に加入可能年齢を超えているから。	60歳以上	扶養者無

Q9.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

☞Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
将来的に保障や給付が充実しているのはもちろん嬉しいけど、今の所得では保険料を上げるのは難しいため	30歳未満	被扶養者
現在でもフリーランスの社会保険料の負担は大きく、これ以上増えると生活に直結するため現状維持を望みます。保障や給付が充実することは安心につながりますが、その分保険料が高くなれば支払えず制度を利用できない人が増える恐れがあります。まずは現状の制度を維持しつつ、将来的に持続可能な仕組みを整えていくことが現実的だと考えています。	30歳未満	被扶養者
増えても良いが、増えすぎて支払えなくなるなら、現状維持がいいです	30歳未満	扶養者無
年金は将来いくもらえるか分からないため、老後資金は投資などで自分で準備しておきたいから	30代	被扶養者
稼ぎが少ないから	30代	被扶養者
年間制度そのものが不安	30代	被扶養者
偽装フリーランスのようなば雇用状態の案件や誤った認識の企業が多いので、統一してくれたほうが分かりやすい。	30代	被扶養者
支払う保険料自体が高いため、これ以上増やしたくない。	30代	被扶養者
国に頼るよりも自分で動いたほうが確実だと思うため	30代	被扶養者
どちらもメリット、デメリットがあるので、現時点では様子を見たい	30代	被扶養者
私は精神障害を抱えフリーランスとして働いており、病気や体調不良で働けないときが月のほとんどを占め、収入不安が大きく、将来の生活設計も不安です。会社員と同等の健康保険や厚生年金の保障があれば、傷病手当金や年金上乗せなどを通じて生活や治療に安心感を持てます。月数百円程度であれば、払い続けられる可能性が高く、長期的に生活の安定や就労継続を支える投資として価値があると考えます。フリーランスも安心して働き続けられる制度の整備が必要です。	30代	被扶養者
現状維持以外の考え方のどちらかに振れるような具体的なメリットがはっきりとしていないため	30代	被扶養者
年金が想定通り受け取れるとは限らないため	30代	被扶養者
現状実入りが少ない分支払う保険料の負担を少しでも軽くしたい	30代	被扶養者
フリーランスはやはり経済的に不安な場合があるので負担を増やすのは辛いと思いました	30代	被扶養者
いつ持病が悪化するかわからないため	30代	被扶養者
給付も保険料も高すぎます。後期高齢者の医療費は1割負担、高額医療費の優遇など、必要以上に手厚いと思います。年金も、物価の変動を考慮した実質支給額の減少が実質賃金の減少より小さく、ここまで手厚くする必要が分かりません。保険料の支払は現役世代の生活を大きく圧迫しています。高額医療費制度も現役世代の治療を諦めさせるような設定になっています。もう限界です。	30代	被扶養者
同じように働いている身として、会社員と同等の保障があるのは差別なく欲しいため	30代	扶養者無
今の収入ではこれ以上支払いが増えるのは負担になってしまう為	30代	扶養者無
とにかく苦しい	30代	扶養者無
年金はきゅうふされるねんれいまで元気が分からない。保険は保証される給付が増えてほしいので間を取って中間です。	30代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
保障や給付が充実するのはありがたいのですが、個人的に現状では非常に収入が低く、健康保険と年金の保険料に頭を痛めています。今の自分にとっては、保険料を減らせるほうがありがたいです。稼げるようになったら、逆に支払いを増やしてでも保障を充実させていと思うかもしれません。	30代	扶養者無
障害年金を受給しているから	30代	扶養者無
金額は今よりも高額になったとしても、補償がある方が良いと思うから。	30代	扶養者無
本音は、金額を現状維持のまま会社員同等程度に充実させてほしい。または、保険料増額の金額が少額なら払ってもいいと思う。	30代	扶養者無
支払う保険料は増えてほしくないが、保障と給付を充実させてほしい。国に財源はあるはず。	30代	扶養者無
支払う保険料は増えてもよいと思う	30代	扶養者無
今は支払い額を減らしたいので	30代	扶養者無
会社員と同等な社会的な保証が欲しい	30代	扶養者無
限度はあるにしても、差額が大きすぎる。	30代	扶養者無
支払額が大きく跳ね上がるのは厳しいですが、多少の増加であれば保険料が上がっても構いません。稼ぎが少ないうちは、保険料は現状維持の方が安心ですが、収入が増えれば所得に比例して保険料も上がるだけなので、その分受けられる保障が充実するのなら嬉しいと思っています。私は通院しているため、給料補償保険には加入できません。ですので、何かしら手厚い補償が受けられる保険に入りたいと考えており、厚生年金保険並みの補償が得られるのであれば、支払う価値があると思っています。	30代	扶養者無
万一の保証が必要と感じるが、自身の現状で支払いの負担が増えることは厳しい面も感じる	30代	扶養者無
収入増が見込めるのであれば、支払い保険料が増えても良いとは思う。	30代	扶養者無
健康保険は現状維持が良いが、年金は自分のときには大してもらえないんだろうなと思うとかなり複雑。年金は支払いを減らしたいなと思います。	30代	扶養者無
手取りがまだまだ少ないので一律負担がキツイです。	30代	扶養者有
支払えるかどうかは別にして、活きた制度が選べても良いのでは	40代	被扶養者
保険料の増額は心配も大きいですが、保障や給付をもっと充実させるためには必要と思うので。	40代	被扶養者
障害児を抱えて働くには、社会保険制度の扶養が必要で、その範囲内で働く現状がとても我が家にはあっているから	40代	被扶養者
国民健康保険について、家族を扶養に入れることの算定方法を見直して欲しい。	40代	被扶養者
完全に個人フリーランスとして生計を支えるのなら保険料負担で得られるメリットのほうが大きいのかな？と感じたため。	40代	被扶養者
不安定な世の中で保証がない事が怖いから	40代	被扶養者
高い保険料を納めても会社員と同等の保険や給付を受けるという選択肢があってもよいと考えるから。	40代	被扶養者
扶養に入っているから	40代	被扶養者

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

└Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
保険料を支払うことでそんなにメリットがあると思えない	40代	被扶養者
自分がある一定稼げるようになるまでがフリーランスは結構大変だと感じている。正直、この仕事である程度集客できて食べていけると思えるようになったら、支払う保険が増えても保証を充実させたいと思う。	40代	被扶養者
いつどう体を壊すのかわからないので	40代	被扶養者
自分自身は、今の時点では、収入がそもそも少ないので支払う保険料が増えてほしくはないが、社会全体としては、保険料を多く支払うことで、保障や給付を充実させられるように選べる必要があるのではと思う。	40代	被扶養者
期間は満たしているが1号、2号、3号どれも経験しているから	40代	被扶養者
できれば会社員と同等の費用で同等の保障や給付が欲しいというのが一番の意見です。	40代	被扶養者
世の中が不安定過ぎ、かつ、働き方も折り合いをつけた働き方のため、少しでも保障を厚くしたいため。	40代	被扶養者
経費にならないので、支払う保険料やどの程度の給付を受けられるか、納得感が大事。必ずしも同等程度ではなくてもいいと思うが、同様の保障をもてる選択肢が欲しい。	40代	被扶養者
本当に保障や給付が必ず受けられるのであれば。	40代	被扶養者
毎月安定した収入がないため	40代	被扶養者
少しくらいなら高くても近い保障は欲しい	40代	被扶養者
万が一の際に備えたいため	40代	被扶養者
よくわからないから	40代	被扶養者
制度そのものが信用ならないのに何故あんなに高い金額を払わねばならないのか。西洋医学も信用ならず、病院にはほとんどいかないのに、何故何万も払い、年金はほとんど貰えないのに、なぜ払い続ける必要があるのか。	40代	扶養者無
収入が安定していないのでなるべく支払う方を減らしたい。	40代	扶養者無
これ以上保険料が増えるのは辛い	40代	扶養者無
支払う金額を増やすのではなく、法律など国からの保障を増やしてほしい	40代	扶養者無
あくまでも「保険」なので、今を生きることが優先させたいため。同じように働いているのに、会社員のほうが社会保険料の負担が軽いのは不公平。まるで国ぐるみで会社勤めをしろとシステムで強要されているみたい。	40代	扶養者無
病院に行ってもないのに国民健康保険を払わされ、貰えもしない年金のために年金を払わされる。そのくせ子ども家庭庁のような無駄な省庁を創り、税金の無駄遣いを当たり前に行う国に対してどうやって信用しろというのだろうか。不要な支出を全て避け、自費で生きられる仕組みに変えて欲しい。	40代	扶養者無
保険料の支払いがなければ困窮しなかった。	40代	扶養者無
支払う保険料が減っても、会社員と同程度の保障が受けられるようになるまでは、支払いは増やしたくないから	40代	扶養者無
国民年金も、ちょうど自分たちの世代くらいから払う額より貰う額の方が少なる可能性がある。現状でも所得が少ないので、払いたくても払えない。	40代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

Q8F1.あなたがそう考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
扶養家族の有無によって状況が異なるため、加入するかどうか選択できるなら良い。	40代	扶養者無
自身の場合は収入が少なすぎるのでメリットが薄い	40代	扶養者無
所得が下がれば健康保険料も激減するから。	40代	扶養者無
年金に関しては、将来の給付が少なくなっても良いので支払額を減らして欲しいです。ですが、雇用保険など、万一の時に必要な保障は支払額が増えても充実させたいです。	40代	扶養者無
支払保険料が適切な増額なら、保障や給付の充実は良いとおもう。	40代	扶養者無
増えてもよいですが、収入に応じた支払額としてほしいです。	40代	扶養者無
保険料を変更しないか微増にして、保障を増やす方法を考えていただきたいです。Q12にはこの趣旨の選択肢がありませんでした。	40代	扶養者無
保障は欲しいが現状収入的に厳しいので。	40代	扶養者無
充実させるために今より増えてもいいが劇的に増えるのは困る	40代	扶養者無
自分は主人の厚生年金がバックボーンにあるため、将来的な恩恵を考えるよりも、現時点での支払額を減らして生活を豊かにしたい。	40代	扶養者無
フリーランスを続けていきたいから、手厚くしてほしい	40代	扶養者無
どの程度もらえるかわからない年金への負担が大きすぎるとかんじているため	40代	扶養者無
フリーランスでも安心して家族の介護、出産、結婚ができる社会になって欲しい	40代	扶養者無
社会保障のセーフティネットを拡充することが必要と感じるため。	40代	扶養者無
やはり自分が動けなくなった時のことを思い制度が変われば加入したい。	40代	扶養者無
とにかく生活が苦しい	40代	扶養者無
自分に不測の事態が起きた時にも安心して生きることができる社会的枠組みの中にいたいと思います。リスクリング、心身の健康を守る働き方を会社員同様に私も享受したいです。	40代	扶養者無
保障や給付を充実させたいのは山々だけれど、現状支払いが苦しいので	40代	扶養者無
特に困っていないため。実際にいろいろ困る事態が起きたら考えが変わるかもしれない。	40代	扶養者有
今のままでは、老後に不安が残るため	40代	扶養者有
子供がいるので、保障はあって欲しい。	40代	扶養者有
将来の年金のため	50代	被扶養者
将来の年金を増やす手立てを確保したいから	50代	被扶養者
現状が苦しい為	50代	被扶養者

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

ㄥQ8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
負担が増やせる程稼げていない	50代	被扶養者
前Q同様	50代	被扶養者
若いうちと年をとってからでは、圧倒的に老いてから楽が出来るようにしたい。将来の安心に繋がりたいから。	50代	被扶養者
そもそも手取りが少ないから。時給制でも月給制でもなく、実働で収入が決まる働き方だから。子供に迷惑をかけたくない。	50代	被扶養者
フリーランスほど、制限なくフリーに働ける為、無理をしがちだと思うので、社会保険厚生年金同等の保証があって良いとおもう。	50代	被扶養者
増えても良い、とは思わないが、増えるのは仕方がない、と思う。	50代	被扶養者
経費になるなら保障を充実させたい	50代	被扶養者
今の年収にあった年金額が良い。当然ながらフリーランスを続けることが難しくなる。	50代	被扶養者
NISAやiDeCoなどでも良いかなと考えてます	50代	被扶養者
業績予想も落ちてきた	50代	被扶養者
現状支払いが増えるのは厳しい	50代	扶養者無
老後を考えた時に、多少の負担はしょうがないと思う。	50代	扶養者無
就業に対するリスクや裁量度が異なるので社会保険の給付と負担のみでサラリーマンとフリーランスの差を論じるのはどうかと思う。	50代	扶養者無
将来が不安なため	50代	扶養者無
ただし増える保険料の額によります 自分が全額払うならちょっと・・・	50代	扶養者無
保険料と受給額が見合っていないと	50代	扶養者無
今のままではあまりにも心許ない。	50代	扶養者無
保障や給付があることはとても魅力的ですが、正直なところ現在の収入では保険料を納めることもかなり苦しいと感じているので、現状維持がいいです。	50代	扶養者無
ただし、増える額による	50代	扶養者無
今年大幅に収入が減ってしまったので	50代	扶養者無
保険料が増えるのは困るが、今より保障が手薄になるのも困るから	50代	扶養者無
健康保険料と民間保険料で手一杯だから	50代	扶養者無
会社員のように雇用主と折半する形でフリーランス負担分が増えるのには賛成だが、折半する相手（業務委託先）がそれに同意するのは難しそう。	50代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

└Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
会社員を見ていると負担がどんどん増えているので今のままのがましだと思う	50代	扶養者無
支払料の保険額によるので	50代	扶養者無
会社員より支払う保険料が増える場合を考えると現状維持が良いかもしれない。	50代	扶養者無
今のままでは、老後が心配なので将来に備えたいです。	50代	扶養者無
年収が低い場合、保険料の負担が大きすぎる。子供の世話や家事を負担しながら働く場合、それほど年収を増やすことができないから。	50代	扶養者無
年齢が高いと加入可能期間が短いことに対して、これから支払うであろう保険料に対しての受給額のリターンが見合わない気がする。	50代	扶養者無
保障などを充実させたいが、負担増は厳しそう	50代	扶養者無
将来の物価上昇により国民年金では暮らせない。	50代	扶養者無
保障を得たいため	50代	扶養者無
AIの台頭で現在の生活が苦しく、尚且つアラ還という年齢により会社員復帰も厳しい。むしろ1円でも多く手元に残し、生涯現役で働くためのスキルアップ投資に回したい。	50代	扶養者無
保障野球は会社員と同等程度にしたほうがよいが、フリーランスの場合には雇用主分も実質自己負担となるため負担は会社員より大きくなるので、費用と便益のバランスをとる必要はある	50代	扶養者無
保険料の額が今でも高く、かといって保障が低くても良いとは思わないため。	50代	扶養者有
まずは保証 そして負担過多にならないこと	50代	扶養者有
生活にまず大変で支払いが増えると今は厳しい状況	50代	扶養者有
もう還暦も過ぎているので今更払っても保障や給付が増えるわけではない。	60歳以上	扶養者無
払う金額と受けられる内容のバランスが重要	60歳以上	扶養者無
フリーランスは収入が安定しないから	60歳以上	扶養者無
保障には負担が必要と考えるから（タダでは何も得られない）	60歳以上	扶養者無
低所得のフリーランスのため、経費は大きい	60歳以上	扶養者無
単身世帯のため、保障や給付よりも今現在の生活をよりよくしたい。	60歳以上	扶養者無
毎月の収入が一定しない中で高い保険料を払うのは厳しい。	60歳以上	扶養者無
現状を考えれば「現状維持」以外は選べないのだが、もし自分がまだ若ければ、将来のためなら保険料負担が増えても良いと考えたと思うから。それにつけても、この役割を担っていた国民年金基金は一体どこへ消えたのか…	60歳以上	扶養者無
会社の後ろ盾はないが、個人の働く意欲は会社員もフリーランスも同じだと思う。しかし個人で支払える金額はそう多くはないのが現状です。	60歳以上	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

Q8F1.あなたがそうように考える理由や、その他に良いアイディアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
大幅に増えるのは困るが相応の負担は必要だと思う。	30歳未満	扶養者無
もらうかわからない手当のために全額自己負担するくらいなら、最低限（病院窓口負担3割、高額医療制度）だけ享受して、あとは自分で積み立てたい。強制なのが気に食わない。	30歳未満	扶養者無
とにかく支払う金額が高いと感じているから。	30歳未満	扶養者無
現状がきつすぎる..毎月2万程度の固定収入は確保出来たものの 国保と年金で5万円のため新しい仕事が見つからない場合破産してしまう	30歳未満	扶養者無
目の前の生活が苦しいからです	30歳未満	扶養者無
給料低いから	30歳未満	扶養者無
多少の負担増加は構わないが、手当を充実させてほしい	30歳未満	扶養者無
自分で投資などするから出費を抑えたい	30代	被扶養者
フリーランスも社会保障は大事だと考えるから。	30代	被扶養者
ある程度は保証があってほしいが、支払料は抑えたい	30代	扶養者無
選択肢になかった。 気持ち的には、「保障や給付が会社員と同等程度に充実し、支払う保険料は増えないでほしい」です。	30代	扶養者無
年金など保障を受けられる保証がどこにもない、むしろもらえない可能性もあるため。	30代	扶養者無
同等程度となっても手続きの複雑さがあると思うのでなんとも言えないです。	30代	扶養者無
育児中であり、今後も傷病手当や産休など受け取る可能性があるため、フリーランスのままでも制度が受けられると嬉しい。 また介護の問題は自分だけではどうにもならないので、これも共助できるならその輪に入りたい。	30代	扶養者無
国に払っても高齢者に使われるだけで自分たちの世代や下の世代に恩恵があるイメージがないから払う額は最低限にして浮いた分は投資に回す方がメリットがあると思うため	30代	扶養者無
現状売り上げ安定が全くせず、税金によって逆に貯蓄もできないまま生活する現状になっているから。これ以上増えたとしても、毎月払い続けられるかが不安だから。	30代	扶養者無
会社員同等ほどの制度がなくても、もう少しフリーランスとして仕事をする上で保障ができればと感ずるため。	30代	扶養者無
フリーランスですが、お金がないから。	30代	扶養者無
上記の問題がフリーランスになる上で一番のネックだったため解消されるとよりフリーランスとして頑張れそうだなと思います。	30代	扶養者無
これ以上保険料が上がるのは困る。	30代	扶養者無
会社員も国保も平等の保証があってもいいと思う	30代	扶養者無
フリーランスとしての収入が安定していれば、同等がいいが、安定していない場合は難しい。選べるのが良い。	30代	扶養者無
支払う保険料が増えてもいい だと語弊がある気がしますが、「保障や給付を会社員と同等程度に充実させるために、支払う保険料も会社員と同程度になっても良い」がしっくりきます。 会社員と同程度の保障を受けられるのに、支払う保険料は少ないだと今度は会社員の方が不満に感じるからです。	30代	扶養者無
ある程度なら、保険料が増えてもいいが条件による	30代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

└Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
支払い保険料が増えてもそこまで充実しないのであれば、今払うものを減らして自分で蓄えていきたいため。充実するのであれば支払いが増えてもいい。	30代	扶養者無
健康保険の内容が魅力的だから	30代	扶養者無
現場保険料が高いから	30代	扶養者無
現役の私たちには、将来受けられる分も含めて考えてもメリットない気がする	30代	扶養者無
不安定だから	30代	扶養者無
収入そのものが少ないため、出費を減らし、生活費に充てたいと考えるため。	30代	扶養者無
不安があるから。	30代	扶養者無
月額5,000円程度であれば増えても問題ない。	30代	扶養者無
保険に使う額を投資に回した方が、将来の給付を上回るため。	30代	扶養者無
これ以上負担が増えるのが厳しい	30代	扶養者無
負担するのであれば、支払うコストと享受できるメリットが見合うようになってほしいため	30代	扶養者無
支払う保険料の上限はあるが、会社員同等の保障は魅力的に感じるため。	30代	扶養者無
今払っている額が少ないため、まだ上がっても大丈夫だから。	30代	扶養者無
老後が不安だから	30代	扶養者無
保障や給付は魅力的だが、支払う保険料はあまり増やしたくない。増やす余裕もあまりない。	30代	扶養者無
現状と比べて、補償内容に見合っていないほど保険料が増えるようなことが無い限りは増えるのは想定範囲内。任意継続被保険者と同等くらいが望ましい。	30代	扶養者無
保障が充実するのは望ましいが、会社員と同程度まで充実させるとなれば、負担が大幅に増えるのではないかと思う。	30代	扶養者無
本当は補償を会社員と同程度にして保険料キープが望ましい。それが無理なら実際に会社員より補償が手薄なので、支払う額を減らしてほしい	30代	扶養者無
将来への安心感があるから	30代	扶養者無
負担が増えすぎるのは困るが、ひとりでも何かあったときや老後に困らないように保障は厚くしておきたい。	30代	扶養者無
これ以上、支払が増えたら生活費がなくなる！	30代	扶養者無
それであれば民間の保険には入らないかもしれません。今の補償だとプラスで入っているので支払いは辛いので、収入に応じて減った方が助かります	30代	扶養者無
国保が高すぎるため	30代	扶養者無
結局は現在のフリーランスも国民年金だけで将来生きていけるわけがなく、idecoなど自己責任で対策をする必要があるため、その選択肢が増えることはいいことだと思うため。	30代	扶養者無
増えてもいい、と手放しでは言えない（現状も高いと思う）が、現状では保障や給付がとても手薄だと思うため	30代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
現在の家計でこれ以上保険料が増えるのは負担が大きすぎるから。	30代	扶養者有
会社員もフリーランスも形態が違っただけなので、そこは平等であるべき。	30代	扶養者有
自分で手厚さも含めて選択できるのがフリーランスのメリットだと思うから。一律で手厚くなると選択肢が狭まる。	30代	扶養者有
所得に応じてあまり高額にならないならば、という条件付きですが多少増えても保障を増やしたい気持ちはあります	30代	扶養者有
他のidecoなどを、活用しているが厚生年金のような強靱さはないのでここも選択して払うことを望んだら加入たざるようになってほしい。	30代	扶養者有
死ぬまで働く前提では不安だから。	40代	被扶養者
先に記入したように、リターンが望み薄だから。公的なお金は頼りにならないので自分で備えたほうが良いのではと思い始めている	40代	被扶養者
病気になったさいに詰んでしまうので。	40代	被扶養者
難しい質問です。フリーでどこまで収入を得られるかによります。	40代	被扶養者
サポートが増えるなら多少負担が増えてもいいですが、所得に応じた費用の負担になることを希望します。	40代	被扶養者
正直どれも当てはまらない。せめて収入によって保険料を変えて欲しい。	40代	扶養者無
とにかく安く！	40代	扶養者無
支払う金額は多少増えてもいいと考える。ただし、売上などに応じて、算出される仕組みとしてほしい。	40代	扶養者無
既に高いので、増えるのは厳しい	40代	扶養者無
減らした保険料を投資に回して自分で運用して、いろいろな事態に備えたいから。	40代	扶養者無
悩ましいが、今より多少支払いが増えても支給額を増やしたい。その差額による。	40代	扶養者無
どちらもどっちなので	40代	扶養者無
会社員と同等に欲しいが、負担が増えるのは困る	40代	扶養者無
特に、医療費は実費負担が10割でも良いので、保険料を安くしてほしいぐらいに、極端な考えを持っています。ここ20年間、病院や歯医者などを受診した回数は5回未満です。それにも関わらず、これだけ生活を圧迫する額を支払わねばならないことに、憤りすら感じます。加入への自由を認めてほしいです。	40代	扶養者無
仕事をするモチベーションになるから	40代	扶養者無
老後に備えられるのであれば多少なら増えてもいいと思う。	40代	扶養者無
会社員と同等の保障を受けるには、保険料も同等の負担は致し方ないと思う。ただし、支払い猶予期間など会社員よりも柔軟な支払いプランがあると嬉しい	40代	扶養者無
入りたいものを各々で選択できればと思う。条件が良いものであれば、加入して支払っても良いと思っている。制度設計にもよるが、雇用保険によって、収入が無い時の保障がされるなら心強い。	40代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

└Q8F1.あなたがそう考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
支払われる額が増えるとしても、老後働かずに暮らせる金額までは受け取れないのであれば結局働くのは変わらないため	40代	扶養者無
現状は困っていないし、手元にお金が少ないので。潤っているなら多少高くても問題ない。	40代	扶養者無
どのくらい保険料が増えるかにもよるが、現在はフリーランスという働き方も、使う企業も増えているのでもう少し会社員との差をなくしてほしい	40代	扶養者無
フリーとして会社員以上の収入が得られるようになることが分岐点。現状、会社員越えの収入を目指す目的でフリーをやっているわけではないため	40代	扶養者無
国民年金はこれ以上増額しないでほしい。国民健康保険料が高すぎるので減らしてほしい。	40代	扶養者無
働ける期間(不自由なく体が動く期間)には限りがあるので、稼ぐ力があるうちに頑張って備えたい	40代	扶養者無
増えるのは当然だけど、、金額ですよね、、	40代	扶養者無
難しい質問だけど、ひとまず今負担の社会保障がとにかく大きいので、厳しく、減らしたい	40代	扶養者無
回答としては、どちらともいえません。あくまで会社員と平等にという観点では、手放して賛成はできませんが、実際のところ、厚生年金に加入して、将来の年金額が増えることには賛成です。	40代	扶養者無
理想としては充実されるほうがよいが、支払う保険料が増えすぎると事業が成り立たなくなるので、一概に言えない	40代	扶養者無
個人年金に入っているから	40代	扶養者無
現状、国から民間保険に頼れといわれている状態は平等とは思えないから。ただし、保険料の値上がりはそもそも運用の失敗があるので、現状とこれまでをしっかりと評価、改善してからの話である。現状を見ず、とにかくお金を積みばよくなる、というものではない。	40代	扶養者無
将来の所得の不安を取り除きたいので	40代	扶養者無
保険なので加入したい人に選択肢がある方がよいから。入らない選択も出来るようにしつつ、選べるようにするのが望ましいから。	40代	扶養者無
本当は会社員と同程度の待遇の方がいいが、まだ収入が不安定のため、現状維持	40代	扶養者無
将来働きたくても働けない状態はいつか来るため	40代	扶養者無
社会保険料を一定額払わないとある程度の保障を受けられないのはしょうがない話だとも思うので（少額の保険料で多くの保障を受けようというのがおこがましい）	40代	扶養者無
本来は保険料を増やし補償や給付を充実させたいが、現在収入が少ないためそこまで手が届かない状況のため	40代	扶養者無
会社員と同等で無いと差別だと感じるから	40代	扶養者無
本当に手厚く充実されるなら、多少増えてもよいが、正直今の保険料でも高すぎと感じている	40代	扶養者無
現状が高すぎる	40代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
スマホでも、高いけれど保障に入っているが「どうせ使う可能性は低い」と思いつつ、実際二度ほど使っていて「入っていてよかった」と思ったので、やはり困った時に助けとなる保障はあった方がいい。実際、年齢を重ねて体調も前より崩しやすくなって、何があるかわからないという思いが強くなっていることもある。	40代	扶養者無
毎月の支払いがづらい	40代	扶養者無
多少支払う金額が増えてもメリットが増えるなら前向きに検討したい。	40代	扶養者無
保険料が増えるのは仕方ないが、会社勤め並みの保険料になってほしい	40代	扶養者無
何かあった時に収入が0になるため、救済措置はあった方が良くと思う。	40代	扶養者無
社会保障を充実させたいが、保険料がかなり高くなるのは厳しい…。	40代	扶養者無
控除になるなら支払ってもよい	40代	扶養者無
将来の不安を減らしたい	40代	扶養者無
既になんかの負担があるため。	40代	扶養者無
現状の負担感は大きいが、フリーランスだからこそ保障等は必要と思う。本当は保険料が上がっても会社員と同等の保障等を選ぶ択肢を選びたいが、現実を考えると選べない。	40代	扶養者無
手薄になったとしても賄えるように貯金にまわせるから	40代	扶養者無
年金は、制度に頼らずとも別で積立ができる。健康保険はそれに該当するものがなかなかないから、手当金に相当するものがあれば良い	40代	扶養者無
どちらとも一概には答えられない。基礎となる国民健康保険・国民年金が最低限度の保障の就労格差を是正するために、保険料が増える分には受け入れられる。しかし単に会社員の保障・給付水準に合わせるために保険料が増えることは受け入れられない。労使折半や扶養制度の見直し、上乘せの仕組みのあり方、過剰医療費の削減などの議論なしに判断はできない。	40代	扶養者無
フリーランスでも、健康保健、年金制度がある方が、いざという時に安心。扶養の家族が増えても金額が変わらないことはありがたい。	40代	扶養者無
バランスの問題	40代	扶養者無
保険料は減らしたいが保障は増やしてほしい　せめて障害年金だけは同等にしてほしい	40代	扶養者無
先のことはちょっとわからないので。。	40代	扶養者無
保険制度である以上、保障や給付の充実と支払保険料の増額がセットであることは理解している。	40代	扶養者無
上の三択には選びたい選択がない。わたしの考えでは個人事業主もサラリーマンと同額で同じ保障や給付を受けられないとおかしいと思っている。	40代	扶養者無
業務委託で働いているが、将来や不測の事態について不安に感じており、正社員への転職を考えているが、正社員になることのハードルが高いため。	40代	扶養者無
年収が一定以上（年収600万円以上、月収50万円以上）あれば、できることかもしれないが、その半分くらいの年収では社会保険を充実させることで自身が立ちゆかなくなり、難しいと思う。	40代	扶養者無
現状でも負担が重い。直近の生活を楽しむゆとりがまるでないのにこれ以上「万が一」を想定し続けるのは苦しい。現状維持でどうにかならないかと思っている。	40代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

└Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
今負担が増えたぶんが将来の補償につながるとは考えられないので今の負担を減らした方がメリットを感じられる 介護保険料の新設、年金の受給年齢の引き上げなど	40代	扶養者無
上記の中で近い答えがなかったので、現状維持を選んだ。会社員と同等程度に充実させようとは思わないが、フリーランスの場合、どのようなセーフティーネットを作るか、選択肢がもっとあると良いと思うし、何を組み合わせて病気や老後に備えるかが重要のように感じる。	40代	扶養者無
売上が高くなれば、保証も手厚くなれば良いと考えられるが、現状では、保険料等が増えることはかなりの痛手なので、現状維持が良いです。	40代	扶養者無
いざというときの保障がないのはやはりちょっと困る。	40代	扶養者無
社保の金額が高くなっているため	40代	扶養者無
老後や健康に不安があるため、民間だけでなく、国の保険制度での上乗せ保障が欲しい	40代	扶養者無
支出が多くなっては困るので	40代	扶養者無
保険料が増えるのはやむを得ないが倍では無理	40代	扶養者無
フリーランスも利用できるという選択肢が増えるのであれば良いと思う。	40代	扶養者有
本当は「会社員と同じ自己負担半分の金額で同じ保障」が望ましいが、それができないなら現状維持。	40代	扶養者有
保険料は払いたくないが保証は欲しい、というなんとも矛盾した考えになってしまいます。むずかしい。	40代	扶養者有
セーフティーネットとして必要だと思うから。	40代	扶養者有
なにかあると大変だから	40代	扶養者有
ただし、保険料が高すぎるのはダメ	40代	扶養者有
現状維持でもいいとは思っておらず、そもそも会社員が企業によってその生活を支えられているのであれば、個人事業主が経済的な弱者にならない社会システムではないこと自体が問題だと思う。	40代	扶養者有
まだそこまで稼げていないので、現時点では負担額が増えても困るから。	40代	扶養者有
保険料が高くて家計を圧迫しているから。	40代	扶養者有
支払いを増やしたくない	40代	扶養者有
保障や給付などが充実するのは嬉しいが、保険料が増えて保障や給付を受ける機会がないかもしれない。保険料も高くて生活を圧迫しそうな気がする。堅実に貯金と投資を頑張る方がいいかもしれない。	40代	扶養者有
ただ、現状はどう考えても会社員時代と同等または少し減るくらいの稼ぎとなってしまうため、逆に健康保険と年金の支払額が会社員時代より増えていますので、結果的に社保を自腹で払ってもおそらく保険料は安くなり手厚くなるといどちらの面も良い方向にしか行きません（かなり収入が多い人は逆転すると思いますが）。	40代	扶養者有
比較検討する時間もないのが現状。検討しなければ、と思ううちに日々の業務に追われ時間がたってしまう。保険会社の個人年金や生命保険、中将棋業共済など、民間のサービスとの比較がしやすくなると助かる。	50代	被扶養者
支払い額が大幅に増えると負担がふえるから	50代	被扶養者
自分は50代で2階、3階部分もあるので問題ないが、若い人が1階部分だけだと将来大変だと思う。	50代	被扶養者

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
現状の保険料が高いので、まず保険料軽減を希望し、保障については別途対策を考えたいので。	50代	被扶養者
減るのは困るから	50代	扶養者無
ただ、年金制度がいろいろ変わってくと思われるのであまり国を信用できていない。	50代	扶養者無
フリーランスが抱く不安は、保証がないことが大きい	50代	扶養者無
3択で選ぶものがない。支払う保険料は所得に応じて決めてほしいというのが本音。今より手薄にならず現状維持がよい。	50代	扶養者無
当てはまるものがない	50代	扶養者無
未納者の問題を解決するのが先だと考えています	50代	扶養者無
3択しかなかったんで、選ばざるをえなかったが、コロナ以降、直近の収入が減り続けているのに物価上昇で、蓄えを切り崩している現状のため、支払う保険料が増えても給付が減っても困ります。	50代	扶養者無
本当に充実するのであれば月々の負担が増えても構わないが、現状私の場合は現状維持でいくしかない。	50代	扶養者無
本当の気持ちは1番ですが、現在の収入状況で支払う額が多いのはきついです、3番を選択しました。	50代	扶養者無
現在給付を受ける立場なので、想像でしかない	50代	扶養者無
主たる収入を担っていないため	50代	扶養者無
既存の制度ができた時点では自営業者の社会保障についてあまり重視されていなく、そのまま改正されていない。	50代	扶養者無
保険料が減る場合、社会保障は保険料減額以上に改悪されそうだから。逆に保険料が増えても、扶養家族がいないのであまりメリットを感じない。	50代	扶養者無
この選択肢では選べない	50代	扶養者無
すでに保障や給付が手薄であり支払い負担額に見合っていないと感じているため	50代	扶養者無
手厚い保障が欲しいなら、会社員を選べばよいと思うから	50代	扶養者無
保証が充実するなら支払う金額が増えるのは仕方ないが支払える金額なのか不安である	50代	扶養者無
保険料の支払いを増やす余裕がないから	50代	扶養者無
ただし、現状でも勤め人より負担が多い点をどうにかしないと、低所得であるほど苦しい。	50代	扶養者無
少しでも将来の不安を少なくしたいので	50代	扶養者無
保障や給付が現状でどの程度なのかよくわかっていない。	50代	扶養者無
国民年金基金とは違い、社会保険と同じならシンプルなので	50代	扶養者無
本当は、若干支払額が増えてもいいから、充実させてほしいというのが理想。これ以上保障が減るのは困るので、減額の選択はしない。会社員に対して、会社が労使折半している状況を変えてほしい。	50代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

└Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
年金はまだわかるが、健康保険料は将来への備えではないのに、高すぎる。	50代	扶養者無
支払う額が増えれば受給額が増えるのは当たり前のこと。問題なのは、会社員と比べて支払う額が倍ぐらい多いということが不公平。	50代	扶養者無
少しでも安心材料があれば嬉しいが、年収によって支払いの増減があるような仕組みを望みます。	50代	扶養者無
国保でも高いと感じていますが、得られる保障の内容次第では支払う価値があるかも、とも思います	50代	扶養者無
物価は上がっているのにギャラが増えないから	50代	扶養者無
年金が少なすぎる	50代	扶養者無
収入が不安定なフリーランスにとって固定費は低く抑えてプラスアルファで選択肢がある方がよいと考える。現状でも、老後に備える選択肢はある。	50代	扶養者無
フリーランスのほうが不安定なので保障が手厚い方がありがたい	50代	扶養者無
収入がかなり減っているの	50代	扶養者無
負担がリーズナブルに思われます	50代	扶養者無
保険料が安い制度に加入できるのが最善ですが、現在はそういう保険組合がなく国民健康保険に加入しています。保障も給付も現況より手薄になっても構わないと思っている訳ではないですが、現状が満足できるレベルではなく既に手薄だと感じているので支払保険料を減らしてほしいです。	50代	扶養者無
今の保証が低すぎる。	50代	扶養者無
もらえる額が多いほうが良いから	50代	扶養者無
会社員と同等程度に充実させるか現状維持か選択できると良いと思う	50代	扶養者無
社会保険料の事業主負担分を、フリーランスの報酬に上乗せしてくれるとありがたい。	50代	扶養者有
国保や国民年金に加入するしか無いのであれば、社保と厚生年金との価格と補償の違いを分かりやすくする為にせめて納める額は同額であるべき。そうなると補償が少なくなるでしょうが。	50代	扶養者有
個人事業主は不安定だから	50代	扶養者有
治療目的来日の外国人の医療費は負担したくない	50代	扶養者有
現在が苦しすぎる	50代	扶養者有
廃業後が心配なので	50代	扶養者有
保険料を増やさずに条件を改善させることはできないものでしょうか。それが難しければ、現状で維持するくらいかと考えます。	50代	扶養者有
加入できるならある程度の値上げは目をつむる	50代	扶養者有
若くして独立するフリーランスには、出産や病気などの事情に備えて保障制度があった方がよい。	60歳以上	被扶養者

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

└Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
増えても良いが、正社員同等支払い同等いただくなら良い	60歳以上	扶養者無
そのような選択肢があってもよい（フリーランス本人が選択できる）、という意味で上記のように回答しました	60歳以上	扶養者無
これも悩ましい問題です。目先のお金は大事なので。	60歳以上	扶養者無
実際は「どちらとも言えない（支払・受給額による）」	60歳以上	扶養者無
自身の健康保険／年金制度を企業任せにしたい。	60歳以上	扶養者無
支払う金額が多くなるため、やむを得ない選択です。国家として制度の見直しを願いたい。	60歳以上	扶養者無
会社員と同じような保障や給付を希望するため	60歳以上	扶養者無
特にライターはそうだが、全く原稿料があがらない。会社員のように昇給していく仕事とは安易に比べられない	60歳以上	扶養者無
これも前問の回答と同様。若い世代には選択肢としてこういう制度があったほうが良いと思うけれど、個人的には今さらという気持ち強い。	60歳以上	扶養者無
一応選択はしたが、どれがいいのかわからない	60歳以上	扶養者無
建設連合国保に加入できたので、そのままで良い	60歳以上	扶養者無
増え具合にもよるが、老後を考えると。	60歳以上	扶養者無
本来ならもっと安く入れて、今と同じ給付にできるはずと考えます	60歳以上	扶養者有
上記の回答ではなく、保障や給付が同等なら保険料も同等にすべき。	60歳以上	扶養者有
公平性	60歳以上	扶養者有
安心できるから。	60歳以上	扶養者有
保証や給付を増やしたいと思っているが、現在はその選択肢がない。	60歳以上	扶養者有
65歳以降の生活を見据えて充実させたい。	60歳以上	扶養者有
老後になってから気づくのでは遅いから。	60歳以上	扶養者有
老後の生活保障、リスク軽減のため	60歳以上	扶養者有
老後の経済不安が減る。	60歳以上	扶養者有
国民保険税の負担が大きい。補償内容を少し手薄になってもいいから、もう少し減らして欲しい。	60歳以上	扶養者有
特に給付を必要としないため、保険料は極力減らしたい	60歳以上	扶養者有
増える範囲は、別途検討要	60歳以上	扶養者有

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
何歳まで生きるかわからないし、今のために働くという価値観だから	30歳未満	扶養者無
保険料をより多く支払うようになって構わないが、それはあくまで事業を安定して行うためであるので、保険料支払いの経費計上や控除を広く認めて欲しいです。	30歳未満	扶養者無
もっと頑張ろうと思えるし、フリーランスになって独立する人も増えると思う。日本に活気が出ていいと思う。	30代	被扶養者
将来保証のため	30代	扶養者無
出産・怪我・病気・失業とあくまで万が一に備えての保障、年金も厚生年金で払っていてもいくらもらえるのかわからないといった状態と感じているので、保険料を減らして資産運用や貯金で自分で備えた方が良いのではと感じてしまう。	30代	扶養者無
負担が大きいため	30代	扶養者無
将来に対する不安はぬぐえない。	30代	扶養者無
保険を払うならメリットが欲しいから	30代	扶養者無
どちらもメリット、デメリットがあり、総合的に判断すると現状維持が無難な	30代	扶養者無
現状は自前で備えを行っているが、限界があると感じているため。たとえば老後の備えとしては、国民年金基金や個人年金があるが、育児や出産、介護、失業といった就業年代でのイベントに備えることが難しいと感じている。安心して働き続けるためにも、こうしたイベントへの備えがほしいと思っているので、多少支払い額が増えたとしても、会社員と同程度の保障が欲しいと思う。	30代	扶養者無
出ていくものは少ない方がよい。今は健康であるから、危機感を感じていない。	30代	扶養者無
保険料が高すぎる	30代	扶養者無
雇用が不安定なので、社会保障だけでも手厚くやりたい。	30代	扶養者無
統一性がある方がよいとは思う。しかし選択制であるべき。	30代	扶養者無
年金がそもそも会社員であっても給付されるのか疑問であると思う	30代	扶養者無
自分で貯金したり、運用して増やすこともできそうなので。構造が変わらずであれば、保険料減らして自分でなんとかする。	30代	扶養者無
現状の国保ではそもそも支払った保険料に対しての保障が少なすぎます。多少保険料が増えてでも、働き方によって国の保障が違いうという格差を是正してほしいです。	30代	扶養者無
国民健康保険に関しては、よくお世話になっているのでそのままでもいいですが、今のところ現役世代には全くうまみがない年金は払いたくないです。その分貯金しりつみたてNISAとかに回した方がよいと思ってしまいます。両親が年金貰い始めて、ふたりが現役の時の給料の事を思い出すと強くそう思います。	30代	扶養者無
会社員は年金や保険料を半額会社が負担している。フリーランスは金額負担が増えずに保障が充実してほしい	30代	扶養者無
保険料を減らし、そのぶん自分で投資するなどして備えておく方法もあると思うから。	30代	扶養者無
本来であれば貰える額が増える方がよい。ただ、全て個人で支払えるだけの余裕が全くない。	30代	扶養者無
そもそも頼んでないから	30代	扶養者有
将来が不安だから。	30代	扶養者有

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

ㄥQ8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
既に会社員以上の金額の保険料を支払っているの、これ以上支払う保険料が増えて良いと考えるわけでもないし、保証や給付が今より手薄になったら困る。この選択肢の中では、現状維持がマシ。とにかく会社員と同負担で同内容の保障・給付にしてほしい。働き方に関わらず同じ社会保険であることが一番公正だと思う。	30代	扶養者有
例えば、同じ仕事内容で会社員として雇用されるのと、フリーランスで業務委託を受けるのとでは同じ仕事内容なのだから同じような保証制度はあって然るべきだと思います。	30代	扶養者有
増える額にもよるが、家族を安心させるためにはあった方が良くと思うため	30代	扶養者有
老後の保障が少なすぎるし、未来が見えなさすぎる	40代	被扶養者
会社員と負担も保障の広さも平等にしてほしい	40代	扶養者無
増える金額にもよるが、万一の場合に受けられる保証は多い方がよいと思うため。	40代	扶養者無
フリーランスが安定収入を得るまで時間がかかる、それまで社会保険の負担がどうしても厳しくなるため	40代	扶養者無
「充実させる」には「保険料が増える」のは当たり前なので、いくらでも払えるわけではないけど、ある程度は増えても許容したいと思う。	40代	扶養者無
会社を守ってもらえなくなる前提で自由を手に入れている、という認識があるのである程度の制約は仕方がない	40代	扶養者無
フリーランスはやはり社会保険の面で弱い立場だと思うから。独身でなければやらないと思う。	40代	扶養者無
健康保険に関しては入ってもいいかなと思いますが、年金に関しては自分でやりたいと思います。	40代	扶養者無
国保は払ってる分の恩恵を感じない。とにかく税負担を減らしてほしい。ただ年金の給付は減っては困るので、どちらとも言えない	40代	扶養者無
育休や産休を取る未来がないから	40代	扶養者無
どちらの制度も国任せなので、支払う金額が増えても良くなるとは思えない。よって、支払う保険料を安くして、保証も少なくしてほしい。足りない分は民間の保険会社に頼る形が良いと思う そうすれば国の制度に振り回されずにすみ、かつ現状の年齢によって損得が分かれることも防ぎやすいと思う 民間保険は競争があるので、価格は高騰しにくいと思う	40代	扶養者無
会社員との補償の差が大きすぎる	40代	扶養者無
現状の保険料の負担が重く、可能であれば保険料を減らしたいとは思うものの、保障等を考えると現状維持が妥当と思えるため。	40代	扶養者無
健康保険料について、病院をほとんど利用しない身としては、もっと安くしてもらいたいから。年金は継続可能かどうか疑わしいと思っているため。	40代	扶養者無
フリーランスという立ち位置を選ぶ以上、雇用契約のある正社員と同等になるとは思っていないため	40代	扶養者無
税金など、かかるものが多いので少しでも減らせるなら	40代	扶養者無
現在の制度でフリーランスがカバーされる範囲は不十分であると感じるため	40代	扶養者無
今は一人で働けて、10年後はわからない。高齢化が進んだ時に健康保険は充実させておきたい。	40代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
今までずっと自営（フリーランス）で全て自己責任でやってきたから	40代	扶養者無
なんとも言えないが、保証は増えた方が良い。ただ、フリーランスに対する企業側の姿勢は法改正後も正しく機能しているとは言えず、また社会的な印象もあり、よくなっているとは思えない。きちんと評価され、安心して報酬の交渉ができるようになるなど、待遇面などからの見直しが欲しいです。	40代	扶養者無
得られるメリットと支払うコストとの比較になるので、一概には言えないが、選択できるようになるとよいと思う。メリットが大きい人もそうでない人もいる。	40代	扶養者無
定年になって本当に払った分の額が貰えるのかわからない	40代	扶養者無
ライフステージ的に産休などはいらないし、必要なものを選べるようにしたい	40代	扶養者無
とにかく保険料が高い。元が取れるとは到底思えないため。	40代	扶養者無
泣く泣く選ぶなら1。しかしQOLや子どもの進路等多大な影響が及ぶと思う。副業するほかないか。	40代	扶養者無
収入を上げたくてフリーランスになったのに収入が増えると健康保険料がだいぶ高くなると感じているため	40代	扶養者無
現状の支払額は厳しいけれど、受ける保証や給付が手薄になるのは不安なため	40代	扶養者無
これ以上高額になると余裕がないから。	40代	扶養者無
夫にも、私自身の将来の年金について、ずっと心配されているため、フリーランスを辞めて正社員になれと言われ続けている。この立場でも、健保や年金制度が正社員と同等の権利を得られるのであれば、将来に対する安心感も増え、現在の仕事を受け入れてもらえるかと思う。	40代	扶養者無
現状では保障が心許ないから	40代	扶養者無
現状の収入ではこれ以上の負担は家計を圧迫するため。ただ理想を言えば、充実させるために支払額が増えても良いと考えている。	40代	扶養者無
法人化と比べてメリット、デメリットを考えたいから。	40代	扶養者無
応能負担の仕組みを取り入れるべき。	40代	扶養者無
これ以上税金を増やすより、無駄を減らして欲しい	40代	扶養者無
個人の選択制にして、必要に応じて他の保険等に加入する	40代	扶養者無
現状の金額と内容を踏まえて追加の保険等を組み立てたところなので、今から変えるのも面倒。フリーになりたての頃だったら、同程度に充実した制度にしてくれたら嬉しかっただろうと思う。	40代	扶養者無
保障の充実度を上げる以上、社会保険料が増えるのは当然だが、負担額が適正かどうかを知りたい。日本の税金の高さや国内の公務員数の過剰など政策の見直しも含めて、本当にこの納付額でなければならない理由を知りたい。	40代	扶養者無
できればもちろん支払いは低い方が良いが、良い制度が受けられるのであれば増えても仕方ない	40代	扶養者無
数字を見て思った	40代	扶養者無
育児休業給付金はかなり重要なため。	40代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
保障は充実してほしいですが、これ以上支払うのは本当に厳しいです。	40代	扶養者無
NISAやiDeCo、その他の投資をしている。でも、年金でプラスになったらそれは嬉しい。	40代	扶養者無
同等程度になるのが理想だが、保険料は現状で高すぎるし、これ以上手薄になっては困る。	40代	扶養者無
会社員と同等になるなら、適正料金の支払いであれば問題ないと思います。	40代	扶養者無
国民年金がもらえる確証もなく、老後に生きていける未来が見えないから。	40代	扶養者無
今より手薄になるのがどの程度かによるが、とにかく負担感が強く、支払う保険料が下がるほうがうれしいから。	40代	扶養者無
多少増えても構わないのもう少し充実したらよいと思う。会社所属の時との落差が大きいです。	40代	扶養者無
基本、健康なのと年金等で国を信用していない。そういうオプションがあるのはかまわないが、義務化されるのであれば、それは迷惑。	40代	扶養者無
その分、保障を手厚くしてくれるなら仕方がない。	40代	扶養者無
当面は何とかなる程度には稼げているので、老後の資金を優先したいです。	40代	扶養者無
公的保険でカバーされた方が安心感がある	40代	扶養者無
ある程度の保証は欲しいが、これ以上保険料が増えるのは、手元に残る現金を考えると絶望感しかない。	40代	扶養者無
不自由していないので	40代	扶養者無
会社員と同等の保障や給付を任意選択できると良い	40代	扶養者無
現状保険料の負担がおもすぎる。これ以上支払う余裕のない人も多いのではないかと。保険料に応じて保証内容が変えられるようになるのがベスト。	40代	扶養者無
現在健康だから言えることかもしれないが、年に1回程度歯医者やコンタクトで眼科にいくくらいしか病院にかかっていない自分からすると、健康保険料は自分のために保険料になっておらず、知らない高齢者のために払ってあげている金額という認識でしかない。保障や給付は民間の保険もかけているので、いざという時に大きく困ることはないと考えているため、現在の支払う保険料を減らして、そのぶんを貯蓄したり民間の保険に加入したり、健康を維持するための活動に使ったほうが良いと思うため。	40代	扶養者無
今のまま満足だから	40代	扶養者無
本来は、会社員同様の充実を求めるが、収入が不安定になると、現状維持のままだと良いかと感じることも。	40代	扶養者無
支払額が増えたとしても、何かあったときの給付が増えるのであれば備えたい。	40代	扶養者無
既に今まで手厚くなかったもので、半ば諦めている。先行きが見通せない一時的な施策に頼るよりも自己防衛の方に舵を取りたいという気持ちが根強い。	40代	扶養者無
保険料自体は経費として考えているため。ただし、払える金額次第	40代	扶養者有
保険料が保証に比例して上がるのは仕方がない。現状は選択肢がないことに問題を感じる	40代	扶養者有
とりわけ年金支給額について、現状の支給額で生活できないことは目に見えています。年金保険料は上がるのに、支給額は物価が上がってもほぼ横ばいで、実質目減りしています。フリーランスが年金で暮らしていくことはほぼ不可能という現状を、政府は直視するべきだと思います。	40代	扶養者有

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
健康保険が高すぎるため	40代	扶養者有
会社員の保障は充実しているから。会社員は辞めたが、保障が充実させてほしいと思っているから。	40代	扶養者有
保険料は増えても良いですが、一人会社の場合は、支払いの保険料負担をもう少し下げていただく処置を検討いただきたいです。	40代	扶養者有
どちらかといえば現状キープで精一杯 増えるなんてとんでもない	40代	扶養者有
同じ納税者として、行政サービスは公平であるべきと考えるため	40代	扶養者有
育休を繰り返して暮らしている人がいるのがおかしい。そうしたいわけではないけど、それが会社員の特権になってる	40代	扶養者有
特に健康保険は、入院や手術しない限り、支払う保険料の方が保険適用無しで計算した医療費より高いから。	50代	扶養者無
いざというときの保障が必要	50代	扶養者無
貰えるかどうかかわからない年金ならば、自分で備える方が良いようにも思います。	50代	扶養者無
職業に貴賤がないなら、国民が最低限保障されるべき健康と年金は負担においても同等であるべき。	50代	扶養者無
何歳まで生きられるかわからないので、できるだけ現在払う支出は減らしたい	50代	扶養者無
補償を同等としたいので、それに対する支払いが増えるのは当然だとも思うが、現実的に支払える額は限られるので何とも言えません(補償を同じで支払は少ないままの、自分の都合のいい考え方で申し訳ありません)	50代	扶養者無
1人会社で保険料も経費としてカウントできるので、高い保険料も我慢して支払っているが、経費にできないフリーランスの場合は難しいのではないかと思うので	50代	扶養者無
安心を得たいから	50代	扶養者無
現状が高いので、支払い額をこれ以上増額してほしくないため。	50代	扶養者無
会社員やフリーランスの働き方の違いで区別すべきではない。	50代	扶養者無
選択肢がなかったので「支払う保険料が増えても良い」を選んだが、個々人の家族構成や年齢、状況に合わせて選択できる制度が望ましいと思う。	50代	扶養者無
フリーランスは不安定な職業なため、より働く人として他と平等でなければならないと思う	50代	扶養者無
保険料が全額個人負担なのは厳しいから	50代	扶養者無
保障や給付が少ないことや、現状の自己負担額そのものが問題なのではなく、雇用主が半分出してくれる会社員との不公平感が問題。	50代	扶養者無
フリーランスと言っても色々な方がいるので、選択できるようにしたら良いと思います。わたしの場合は保険料が増えるのであれば現状維持が良いです。	50代	扶養者無
引退後の為	50代	扶養者無
保障が手薄になるのは困る	50代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

└Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
いざ年金をもらう側になったら増やすことはできないから、今のうちに増やす努力をしたい	50代	扶養者無
老後の不安（特に長生きリスク）を軽減したい。雇用関係はないにしろフリーランスも企業活動を支えている存在なので、会社員並みの保険・年金制度の整備を進めてほしいと思います	50代	扶養者無
金額にもよるが、選択肢は欲しい	50代	扶養者無
若い時なら増えてもよかったかもしれない。今は既に「保障や給付が薄い」ことを前提に対策しているので、保険料を増やしたくない。	50代	扶養者無
今の状況を選んでいるため納得している。	50代	扶養者無
必ず年金が増えるなどメリットがあるなら増えてもいいですが、確定じゃなければ現状維持で	50代	扶養者無
制度がないため、検討が難しい。	50代	扶養者無
現状維持が一番ではある	50代	扶養者無
年金は国民年金とidecoがあればいいと思う。結局は自分で資産をつくって準備していかないと厚生年金も信用できない。健康保険は負担額によるが必要ではある	50代	扶養者無
金額と内容次第なので何とも言えない	50代	扶養者無
保険とは、将来の損害に備えるものだと考えております。フリーランスや会社員などを問わず、制度上存在してもよいと考えます。	50代	扶養者無
回答と考えは全く異なる 支払う保険料はより安く、保障の内容は一定程度充実する形を望む	50代	扶養者無
選択肢が見当たらないためです。	50代	扶養者無
自分の収入だと現状維持が一番損がないように思う。	50代	扶養者無
年金の必要性は会社員と変わらないから。	50代	扶養者無
設問になかったのですが、保障はこのままで支払う保険料を減らすか現状で保障を充実させたい。とにかく支払額が大きすぎる。	50代	扶養者無
独身フリーランスなので保障や給付が充実している方が安心できる	50代	扶養者無
あと20年早ければ保障や給付を充実させたいと考えたと思う。	50代	扶養者無
一定以上の収入がなければ対応できないから	50代	扶養者無
将来に備えたい	50代	扶養者無
選択肢がないので仕方なく選択。支払保険料は減らしたいが、保障や給付が今より手薄になってはそもそも社会保険としての意味合いがなくなる。	50代	扶養者有
将来の安心感が得られる。ただし、健康保険は高すぎると思います。	50代	扶養者有
現状より良い方向に変わるのにはありがたいが、会社員と比べ支払いが多く現段階でも負担になっているので、これ以上支払いが負担になるのは困ります。	50代	扶養者有

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

└Q8F1.あなたがそうように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収400-600万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
保険は必要	50代	扶養者有
老齢年金や傷病手当は、フリーランス・会社員にかかわらず、不安が少ない保障があるようにしてほしい。	50代	扶養者有
将来への安心があるならば支払う保険料が多少増えても安心を担保したい	50代	扶養者有
保険料はできるだけ増やしたくない	50代	扶養者有
支払いが苦しい。	50代	扶養者有
現在社会保険に加入しているため	50代	扶養者有
理由なし	50代	扶養者有
会社員相当の補償を望むなら、法人成りしたらよい。個人事業主は最小負担がよい。	50代	扶養者有
保険料の負担を増やすことなく、国の負担でが給付水準をあげるべき	50代	扶養者有
特に年金は会社員に比べて差があると思うから	50代	扶養者有
支払いが増えては困る	50代	扶養者有
あまりにも、所得額によって、支払い額に差があるため	60歳以上	扶養者無
健康保険について、保障、給付を会社員と同じにして、負担が増えるとは思えない。	60歳以上	扶養者無
保険料が増えるとやりくりが厳しくはなるが、まずは制度の充実を優先して、将来的には保険料の減額や補助制度の導入などを働きかけていけるような力をフリーランスとして持てるのが理想です。みんなの力を合わせていくことが大事だと思います。	60歳以上	扶養者無
経費が増えるのは困る	60歳以上	扶養者無
保証を充実させ、増えた保険料は所得から控除される。	60歳以上	扶養者無
年金はまだしも、国保が高すぎる。制度に問題あり。	60歳以上	扶養者無
残念ながら私の年齢ではたいして効果がないと思うため。またフリーランスの場合収入が安定しないので、月ごとの固定費があまり増えるとなると、それに見合った返りが明確にないと難しい。	60歳以上	扶養者無
保障は大変大事な項目ですので 徴収額を少なくして 保障額も少なくなるのは 問題外です	60歳以上	扶養者無
いつ何が起るかわからないため	60歳以上	扶養者無
納付を増やすことで将来の給付を増やすことができるため	60歳以上	扶養者有
個人は個人で民間保険に加入したほうがいい。	60歳以上	扶養者有
程度問題だけれど増えるのはやむを得ない	60歳以上	扶養者有
老後の安心感	60歳以上	扶養者有
既に年金受給しているため	60歳以上	扶養者有
年金だけでは生活が維持できない。	60歳以上	扶養者有

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

ㄥQ8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
現状の保険料は高いと感じている。そのため保険料を減らし、自分自身で備えたい。	30代	扶養者無
万が一の時のセーフティネットが手厚いのは安心感につながるため。可能であれば、任意で会社員と同等の保険料を支払うかどうか選べるとありがたい。	30代	扶養者無
制度が拡充する分、他の税金等を見直してほしい	30代	扶養者無
病気や休職になるかは可能性の話なので、一旦いまは現状維持が最も考えに近い。	30代	扶養者無
選択肢に近いものはありません。保証などは現場維持で、支払う保険料を減らしたい。医療費対象の幅が広く用途にムダが多いので、そこを精査すれば実現できると思います。	30代	扶養者無
自己責任を求めてフリーランスになった為	30代	扶養者無
将来貰える年金額が少なくなるなら払いたくはない	30代	扶養者無
自分がもらえる金額がどうというより、今の高齢者への支給財源に当たっていると思うため。	30代	扶養者無
年齢や環境の変化によって選択できるようになればいいと思う。	30代	扶養者無
いくらかわからないが経費で落とせるなら増えても仕方ない	30代	扶養者無
フリーランスなので自身でなんとかする それが嫌なら会社員になれば良い	30代	扶養者無
本来、制度的に区別されること自体が理解できないから。	30代	扶養者無
国民健康保険料が高すぎる	30代	扶養者無
三択は少し暴論な気がします。元々の負担が大きすぎるので、負担減を望みます。	30代	扶養者無
会社員と同じ額を稼いでいても保障が少ないのは悔しいから	30代	扶養者無
保障や給付を充実させたい思いはあるが、これ以上保険料を増やしたくはない	30代	扶養者無
国民健康保険は減らしたい。高齢者の方が保険を使う機会が多いので年齢が若いと払う額が下がるような仕組みを入れて欲しい。国民年金は現状の支払額を1口として払いたい人は2口、3口と支払いを増やせるようにして、年金の額も2倍、3倍と増えるようにすればフリーランスでも年金額を増やせると思う。	30代	扶養者無
国民健康保険の保険料が高すぎるため、健康保険だけ会社員の制度を取り入れてほしい。	30代	扶養者有
家族があるのでなるべく安心できる材料を増やしたいため どちらにするか選択できるとなおよいと思う	30代	扶養者有
実際になった時に詳しく試算したいが、思いとしてはこちらの方が強いため。	30代	扶養者有
フリーランスの方が正社員より不安定なのでリスクを減らしたい	30代	扶養者有
老後の資金を増やせそうだから	30代	扶養者有
手元に残る金額が減るのを止めたい。その分を投資に回したい	40代	扶養者無
保険料が増えても、いざという時の安心が欲しいため。	40代	扶養者無
お金は少しでも運用した方が良さそう	40代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
少額の保険はあるべきと考える。しかし会社員と同等の保険料を払いたいフリーランスはいないように思われる	40代	扶養者無
得られるメリットに対して支払うデメリットが長く重すぎる	40代	扶養者無
これ以前の設問で回答してきた通り。	40代	扶養者無
一長一短なため、この3択しかないのであれば、現状維持を選ぶほかないように感じたため	40代	扶養者無
年金制度に関しては民間でカバー出来ない部分が多いと感じる為、支払う保険料が増えてもいいと思っている。健康保険に関しては民間の商品も多数ある為、現状維持でかまわないと感じている。	40代	扶養者無
多少増えるのはやむなし	40代	扶養者無
投資に回してもっと増やす	40代	扶養者無
休まざるを得ない時に何の保障もないから	40代	扶養者無
収入のばらつきが激しいため支払う	40代	扶養者無
将来の生活を考えると現在の負担が大きくなってもよい。今は仕組みすらない。	40代	扶養者無
フリーランスの場合の国民健康保険料が高すぎるから	40代	扶養者無
前項と同じくフリーランスでも適切な負担をすることで選択肢が持てるようにするべきと思います。	40代	扶養者無
法人化しているため、すでに個人事業主の時と比較して負担は増えている状態ですが、多少の安心感があります。(ちょっと高すぎるとは思いますが。)	40代	扶養者無
正直、年金制度も今後支払いされる額が、現状より少なくなるのではないかと。支払額がただでさえ高いのに、今後いつ使えるかわからない保障・給付のためにさらに高額になるのは厳しすぎる。	40代	扶養者無
とにかく毎月の社会保険料が高すぎる	40代	扶養者無
現状ではフリーランスが払う保険料がとにかく高すぎる。これを考えている役人の方は、一度、1年間同じ条件で暮らしてみしてほしい。保障は大事だが、現状では社会保険料を減らしてほしいというのが本音だ。このまま高い社会保険料を支払わせるなら、フリーランスの所得税や消費税の減税をするなど、フリーランスいじめをやめてほしい	40代	扶養者無
保険料がどれだけ増えるかにもよるが、働き方や生き方の自由度を高めるためには保障（または周りから見ても保障がある状態）が必要と思う。	40代	扶養者無
病気やケガで払えなくなる可能性、老後の生活費を備えなければならないことは、会社員と変わらないから。ただし、収入が不安定な分、払えるときと払えない時があるので、選択制で入会脱会がしやすいシステムならいいと思う。	40代	扶養者無
どのみちフリーランス労災保険のように自分で支払う保険料は増えているので、今更多少増えたところで保障が充実するなら不満はない。	40代	扶養者無
一種の保険だと思うので	40代	扶養者無
手薄になるなら現状維持。でも高過ぎる	40代	扶養者無
そこまで払って保証されるものがなんなのかわからなくなったから	40代	扶養者無
インボイス導入後に消費税の非課税事業ではなくなり、自己負担で補償の充実に資金を回す余裕を失った	40代	扶養者無
現時点では、支払う金額が妥当かどうか判断できない。	40代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
国保はとにかく高すぎると感じる。現状の保険／年金制度は、会社員に有利すぎる制度になっていると感じる。	40代	扶養者有
手取りが増えることで投資や貯蓄など自分自身で将来に備える選択肢が増えるため	40代	扶養者有
労使折半だから会社員負担額が安く見えるだけで、実質支払う額が変わらないのであれば保障が充実している方が良い。	40代	扶養者有
医療に関してはそんなにお世話にならないのにかなりの額を負担しており、それなら自己負担で払ってもよいので、保険料を安くしたい。年金は、もらえる額が少ないのはわかっているので、支払いをやめて自分で積み立てをしたい。	40代	扶養者有
一応の保障があれば良いため。ただ保険料は減らしたい。単純な金額のことでなく総合的な意味で、平等に会社員と同じにしてほしい。	40代	扶養者有
ただし保険料の増額割合による。そのバランスによって回答は変わってくると思う。	40代	扶養者有
やはり収入に対する比率が高すぎる	40代	扶養者有
考え方の違いがありますが、恐らくは余計な徴収をさせるのではなく、個人負担+会社負担を国に徴収されているのだから、それに見合う事が必要かと思います。会社負担分をなくして、その上で新しい制度として徴収するということであれば、理解出来ますし、良い制度になると思います。要するに平等と言いながらも、実は不平等かつ見下ろされた制度ではあるので。	40代	扶養者有
正直保険料低め保障は手厚めがいい。保険料を上げて保障を手厚くしたいなら民間のサービスを使えばいいだけなので。	40代	扶養者有
フリーランスは収入が不安定だから	50代	被扶養者
保険料が増えても戻ってこない	50代	扶養者無
将来働けなくなった時のために	50代	扶養者無
民間の保険と比較してメリットが大きいと考えるから。前述と同じ理由です。	50代	扶養者無
割高なので、その分を別で補いたいです。	50代	扶養者無
ほぼ医療機関を利用しないため現在の国民健康保険料がかなりの負担だと考えている。これ以上の負担は厳しい。	50代	扶養者無
もし今からでも保障や給付が享受できるなら保険料が増えても良いが、変わらないのであれば現状維持が良い	50代	扶養者無
上記の3つはどれも当てはまらないです 保険料は安く保障は手厚くお願いします	50代	扶養者無
どのみち備えは必要なので	50代	扶養者無
健康保険の負担割合が大きすぎる。現状では年収1000万あたりが上限になっているので、2000万を超えてくるような高額所得者にはむしろ負担割合が少なく富裕層が優遇されるという愚策になっているから。	50代	扶養者無
保障や給付が充実すると良いとは思いますが、現実としてこれ以上保険料を払うことができない。	50代	扶養者無
とにかく入れる保証そのものがないことにより、老後の選択肢も無くなっている。	50代	扶養者無
現在、支払っている保険料が高すぎるから	50代	扶養者無
いざというときの備えが必要なため	50代	扶養者無
保証や給付が手薄になっていいとは思わないが、支払う保険料は減らしたい 現状維持で良いとは思わないが、上記に選択肢がない 政治の力で削減できるところはたくさんありそうに思う	50代	扶養者無
民間のもっと手厚い保証を探したほうが良いような気がします	50代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
増えるのは困るけど、今のままでは生活保護が増えるだけ。	50代	扶養者無
これから入る若い人にはあれば良いと思います	50代	扶養者無
手取りを減らしたくないため	50代	扶養者無
ただでさえ不安定な立場のフリーランスに選択できるチョイスがあったほうが良いとおもうから	50代	扶養者無
とにかく高い	50代	扶養者無
上記の選択は苦渋の選択。現状補償が十分とは言えないが、それ以前に（国保・年金・所得税/地方税で収入の約半額を持っていかれる現状でも十分に厳しいのに）現状以上の負担を強いられれば物価高/AIによる収入減の状況ではITエンジニアのフリーランサーは生活が維持できない といえ、補償制度が薄くなればそのために自分で貯蓄して備えなければいけない訳だが、その収入源を確保するのだから容易なことではない すでに現状が綱渡りになりつつある	50代	扶養者無
別途フリーランスに適した保障が得られる制度構築を望むため。あるいは、民間サービスに加入等、で自分が必要な分をカスタマイズできるため。	50代	扶養者無
非課税になったときの措置はありがたい制度だと思う。	50代	扶養者無
人口が少なり、近い未来を支えるのは、まだ働ける中高年です。その働き手が安心して力を発揮できる環境を、こういった制度で整えてほしい。	50代	扶養者無
国民健康保険料が高額すぎます。	50代	扶養者無
働き方の多様化されるなら保険、年金制度も同様に多様化されるべきと思う	50代	扶養者無
選択肢がこれしかない	50代	扶養者無
いざというときのために備えるのが保険であるため、今の負担は大きいサポートされる内容が薄いよりは、多少負担してもサポートされる内容が濃い方がいい。	50代	扶養者無
将来の安定のために必要	50代	扶養者無
もう少し負担が軽ければ保険料が増えても構いません	50代	扶養者無
健康保険料が高すぎるため、協会けんぽレベルの保証になっても問題ありません	50代	扶養者有
少しでも安心して働ける方が良い。	50代	扶養者有
全額負担を避けられ利益が上がるため	50代	扶養者有
自分は特にどちらでもないが、若い人は必要だと	50代	扶養者有
メリット/デメリットを天秤にかけてからでないと決められないので、今のところは現状維持で行きたい。	50代	扶養者有
保障を下げるのは反対だが、支出は増やしたくない	50代	扶養者有
消去法で、保険料増える、保障手薄なら現状維持	50代	扶養者有
希望の選択肢がないからこれにした	50代	扶養者有

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

ㄥQ8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスと企業との関係は持ちつ持たれつであるからこそ成り立つものだと思う。立場が違えば保障も違うではこの関係性は維持できないと思う。	50代	扶養者有
費用負担を増やしたくない	50代	扶養者有
現状では税金などの支払いが多いため手元に現金をできるだけ残したいから	50代	扶養者有
現状これ以上払いたくないのは収入の問題。これが解決すれば払えるようになる。保険の問題は全ての条件が整ってから、と考える	50代	扶養者有
国民健康保険料の支払いがきつい。現在、収入の半分以上が国民、年金、市県民税、固定資産税で消える。	50代	扶養者有
Q11と同じです。	50代	扶養者有
経費で落とせる	50代	扶養者有
会社員時代の社旗保険料程度に抑えたい	60歳以上	扶養者無
フリーランスの場合は、最低限の保険と必要な民間のサービスを選ぶようにした方がいい。厚生年金を分離して民営化すべきで、選べるようにした方がいい	60歳以上	扶養者有
働けなくなる年齢がくることは100%確定だから	60歳以上	扶養者有
年金受給者だから	60歳以上	扶養者有
保証が手厚い方が安心なので、多少保険料が高くなってもそのほうが良い。	60歳以上	扶養者有
将来に対する備えをすることは重要だから	60歳以上	扶養者有
会社員時代の水準を維持したい。	60歳以上	扶養者有

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
社会保険の内容を見直して、額は変えずに内容を変えてほしい。年配者の待遇が良すぎる。	30歳未満	扶養者無
国民年金だけでは実質生活できない金額になっているため、厚生年金と統合して必須にしても良いと思います	30代	扶養者無
保証や給付のために保険料の負担が増えるとなると、おそらく給付金以上の保険料負担が発生すると思われるため 保険料を減らして、利率の高い年金が減るのは避けたい	30代	扶養者無
健康保険、年金について国にあまり期待していないので、どちらでもいいかと思っている。なんなら自分で小規模企業共催や国民年金基金に入っているし新NISAで増やしているので、そちらの方が当てにしている。	30代	扶養者無
どちらかというと、支払う金額を増やして相互扶助を強化する方が良い	30代	扶養者無
貯金で備えるのもひとつ	30代	扶養者無
保障が薄いと思うので、保障を厚くしたい人向けに選択肢を増やしてもいいと思うから	30代	扶養者無
なによりも今よりも支払う金額が増えるのは避けたいため。また、補償が今よりも悪化するのも避けたいため、消去法で2を選択	30代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

ㄥQ8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
貰えるかどうか分からない年金や、(10割負担の場合の)実費の30倍以上を支払う国保の、保障・給付はたかが知れているから手薄になっても全く問題ない	30代	扶養者無
現在保障として手厚いのは自治体の取り組みであって国ではない、会社員と同じ内容であったとて将来国からの給付が十分な内容だとは到底思えない	30代	扶養者無
支払う金額と受けられるサービスが現状釣り合っているとは思えないので自分で運用など意思決定できた方が助かるので	30代	扶養者無
夫が会社員なので、子供の扶養は夫の方に入れてもらえるので保険に関しては困っていないから。年金も将来本当に貰えるか不安なので、掛け金を増やすよりも貯蓄や投資に回したいから。休業に関する保証も、フリーランスは自分が働けなくなったら終わりなので、再起の為の保証は不要だと思うから。	30代	扶養者無
フリーランスは収入に上限がなく、自分の努力次第で大きく伸ばせる一方、社会保障が薄いのが現実です。だからこそ、出産・育児・病気など人生の転機に備えられる公的な保障があるなら積極的に利用したいと考えます。保障があれば安心して仕事に挑戦でき、結果的に収入や社会への貢献も増えるはずです。一定の保険料増はそのための必要な投資だと思います。	30代	扶養者無
社会保険負担が重すぎるため、支出となる保障を削減して社会保険料負担を下げるべきと考えているため	30代	扶養者無
社会保障が充実する	30代	扶養者無
収入が多いと保険料の額が大きいの、手元にお金を残しにくい。	30代	扶養者有
手薄になっても構わないとはあまり思わないが、そもそも会社員とフリーランスにこの差が生まれにくいのがいいと思う。会社が頑張って従業員分払わされている部分をもっと均してあげて、社会全体として働き方関係なく同じ条件で保障があったほうがいいと思う	30代	扶養者有
国民健康保険にいくら支払っても将来の年金は増えないが、払ったお金がちゃんと厚生年金のようになるなら、支払う金額が増えても心象は全然変わりますね	30代	扶養者有
育休をしっかりと取りたい	30代	扶養者有
厳密には減らしたい訳ではないが、選択肢があることが大切だと考える。	40代	扶養者無
考えに近いものはありません。保障はこのままで、支払額の上限金額を下げしてほしいです（100万上限は高すぎます）	40代	扶養者無
本質がネジ曲がるので強く反対 開業の意味よ。	40代	扶養者無
すでに自分としては結構な額を払っており、これ以上はつらい	40代	扶養者無
すでに高いのが軽減されるならそれがいい	40代	扶養者無
売上とコストの両面での議論が必要です。支払う保険料が増えても、売上が増えていなければ選択を躊躇する方もおいでしょう。 選択肢を増やし、営業利益/可処分所得を極力残せるよう（働き方のいかにかわらず、経済的余力を増加する）制度になることを期待します。	40代	扶養者無
いまでも必要な選択肢はあると思う	40代	扶養者無
すでにかなりの額を負担しているにも関わらず保障は手薄です。負担が増えるのはありえないかな、と思います。	40代	扶養者無
実際に国民年金基金や小規模企業共済などで自主的に備えている	40代	扶養者無
今時点では払い損のような気がするので、またこれから年数が経つに連れて保障を必要とする年代に入っていくため。	40代	扶養者無
本音は、給付が充実し、支払いが現状維持。	40代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

└Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
保険料がこれ以上増えて保障が充実するより、自助努力で資産を増やして万が一に備えたほうがよいから	40代	扶養者無
健康保険は使った医療費に応じて費用が決まると良い。そうすると皆自力で健康になろうとするから医療費も下がり間違いなく国や国民にもよくなる。自動車保険の事故による等級の変更と同じ。国民健康保険もそうならば必ず同じ心理が働く	40代	扶養者無
現状維持＝政府がほしい時に高齢化した人口比に合わせて少ない現役勢の社会保険料を増やせるというのは制度が崩壊している。人口比に合わせて現役と年金受給人数と受給額のバランス計算が今より良いルールになるなら保険料は増えてもよい。自分が高齢者になった時に受給額が増えるようなルールになるならよい	40代	扶養者無
将来的に年金で生活できない人が増えて、結局生活保護などに頼ることになるくらいなら最初から保険料を集めておくほうが良いと思うから	40代	扶養者無
小規模共済や国民年金基金に掛けている分を考慮すると同じくらいの負担になると思うから	40代	扶養者無
選択肢にないが、保障や給付は手薄にせずに支払う保険料を減らしたい。完全に払い損。頑張って働いたら負けっておかしい。	40代	扶養者無
保障な給付は、将来を見込んでいるところもある為、現状以下は避けたい。保険料は保障給付内容が変わらないなら現状維持まで留めたいから。	40代	扶養者無
会社負担分がなら、その分、負担を減らしたい。また、経費で認めて欲しい	40代	扶養者無
個人的には、雇用保険に加入したいと考えています。厚生年金や雇用保険については、個人の選択で加入できる制度であれば、特に問題はないと思います。	40代	扶養者無
国保は比較すると、とても高い。年金もかなり差があると思うため。	40代	扶養者無
負傷疾病は予想できないため、特に休業補償である傷病手当金や障害年金を考えると、国民健康保険・国民年金よりも社会保険の方が安心感が強い。	40代	扶養者無
特別会計も含めた国家予算全体で見たときに社会保障給付費が大きすぎると思う。	40代	扶養者無
金額高い以外は現状困ってない。	40代	扶養者無
トータルで見た時にどちらがお得とか明確に計算できていないがひとまず	40代	扶養者無
世の中にはフリーランスでありながら実質労働者と同じような立場で働かなければならない方々もおられる。彼らが負担だけを必要とするのはおかしいと考えているから。	40代	扶養者無
選択制にしてほしい	40代	扶養者無
ただし、保険料増加分が会社員個人の負担と同等にして欲しい。	40代	扶養者無
保障はいらないので、入らない選択肢が欲しい	40代	扶養者無
国民健康保険料が補償に対して高いから	40代	扶養者無
国保がサービスが悪すぎる。	40代	扶養者無
会社負担分が増えることにやる手取りの減少がイヤだ	40代	扶養者有
支払う保険料は増やしたくないので、そのために保障や給付を充実させようとは思わないし、またその保障や給付のレベルを下げることもない。	40代	扶養者有
老後の生活資金の安定をとりたいたから。	40代	扶養者有

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
保険料分を自分で運用した方がいい。健康保険は取られるだけで何もリターンがない。	40代	扶養者有
売上が多く、国保の負担感が相対的に減ったため	40代	扶養者有
現在の社会保険制度が現役世代にとって負担が過酷すぎるため。	40代	扶養者有
保証も給付も欲しいが、そのために保険料が上がるのは頂けない	40代	扶養者有
将来の給付や制度の維持ができるとは思えないため、今時点の収入を増やしたい	40代	扶養者有
シングルマザーなので、自分に何かあって仕事ができなくなったときの不安が多いから。	40代	扶養者有
会社員に比べると自己での管理や手配が多いため	40代	扶養者有
将来にたいしての扱いが正社員とあまりに異なるので	40代	扶養者有
日本の少子化が進むのみの将来を考えた場合、老後は厳しくなるので。	40代	扶養者有
タダでさえ社会保険料が高いので、これ以上増えるのは正直つらいかな	40代	扶養者有
現在、会社員時代と同じかそれ以上の収入があるため、多少の支払いの増加は許容できる。また、会社員と同等の保障や給付が得られると知ること、将来に対して安心感をもてる。	40代	扶養者有
現状年金など老後の生活においてフリーランスの自己責任が大きいが、それはフリーランスの総人口が少なかったからで、フリーランスの働き方を選ぶ人が増えてきた現状では、制度として必要と思うから。	40代	扶養者有
特に今のままでも不都合はないから。	40代	扶養者有
負担増、保障減のバランスを考えた結果。	40代	扶養者有
もしもの時にあつくしたいため	40代	扶養者有
フリーだった人の老後が苦しい現実を見てきたため	40代	扶養者有
現在支払っている保険料とあまり大きく変わらないように思われ、そちらの方が得な気がするため	40代	扶養者有
しっかり家計管理をすれば公的な制度でも十分受けれるため。ただし、費用対効果は常に比較検討できるようにはしていきたい	40代	扶養者有
選択肢が増えたほうが良い	40代	扶養者有
私は病気をして、治療しながらフリーランスで働いた経験があるので、生活の安全を守りたい思いが強いため。	40代	扶養者有
支払っただけのリターンが現状自分にはないため	40代	扶養者有
会社員と同程度に充実させるために保険料が増えるとフリーランスはそれを払うために稼がなくてはならないプレッシャーと毎月戦うことになる。それであれば、毎月の保険料が下がりその分心への余裕も生まれ充実した生活の中で稼いでいければ良いと思う。	40代	扶養者有
今は社会保険加入していて独立前の社会保険料の1/3になっているので現状維持	40代	扶養者有
年金が減るといってもすでに低く、影響が少ないから	40代	扶養者有
すでに法人設立したがフリーランスでも同等の対応ができるなら法人設立は不要とも考えられるため	40代	扶養者有
恩恵を受けられることもあると思うが、実際、年金の支払い額は不透明だし、月々の負担があまりに大きいと続けていけない。	50代	被扶養者
国民年金だけだと、老後、どう暮らせばという額。この国、考えられない。	50代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

㊦Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
自分や家族の将来のためにいくらか投資するのは当然だと思うので。ただし、企業とは自己資金の額が相当異なるので、支払い額の上げ幅は抑えたいです。	50代	扶養者無
支払う保険料は収入次第で決まるから	50代	扶養者無
数年前と違い、インフレ経済に入った現在ではできるだけ収入を増やし、NISA含む投資にまわす方が資産構築は有利なので。	50代	扶養者無
先々が不安な為、できることならやりたいからです。	50代	扶養者無
保障や給付を求めると支払う保険料が上がるのなら、別の方法で補填した方が良さそうだから。	50代	扶養者無
代替の制度があるため	50代	扶養者無
50歳、比較的健康、健康にも気をつかうし、扶養家族無し、国家の保護はあまり必要無い。	50代	扶養者無
低年金化を防ぎ、老後を安定させることは、社会全体の負担を軽減するはず。	50代	扶養者無
今置かれている状況だと、これが一番よいから。ライフステージによって変えられるとよい。	50代	扶養者無
将来の生活について、ある程度目的が立ってから独立したため。	50代	扶養者無
負担額が現状高すぎる	50代	扶養者無
自身の年齢的に保障の大きい方に魅力を感じる	50代	扶養者無
保険料として支払う額と受け取る給付額のバランスに不透明感を感じる。自営業、サラリーマン関係なく統一した制度を望みます。また画一的な保険料ではなく受けたい給付の大小で保険料のプランを選べるようであってほしい。	50代	扶養者無
Q12は必須なので選びましたが、どれも私の考えに近くはありません。論点自体がずれていると思います。	50代	扶養者無
現状は会社員と比較するとフリーランスの社会保険は負担が大きいわりに便益が少なめという不公平感があるという認識。それを完全できるのはありがたい。	50代	扶養者無
前述と同じです	50代	扶養者無
保障や給付内容にもよるが、フリーランス全体で考えると少ない保険料を支払い、不足する部分を各自経済状況に応じたオプションがあるといいと思う。	50代	扶養者無
とにかく国民健康保険が高すぎるため（収入によりますが）、強制的に徴収される金額は抑えたいです。	50代	扶養者無
年収1000万円超えても国民年金年額10万円台というのはどう考えてもおかしいと思う。厚生年金に加入するか、国民年金自体が厚生年金同様増額して老後に備えられるようにしてほしい。	50代	扶養者無
老後のことを考えると「今のお金」より「将来のお金」が重要なため	50代	扶養者無
手取りを増やしたいから	50代	扶養者無
余裕があるので将来に蓄えたい	50代	扶養者無
健康保険と年金は別々に考えた方がいいと考える。	50代	扶養者有
現在の年齢・ライフステージでは、今使う金額はそこまで多くは必要とせず、将来に備える方が重要なため	50代	扶養者有
老後や家族のことを考えてのこと	50代	扶養者有

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

ㄥQ8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
適切な範囲の負担は当然だと思うし、雇用形態や所属によらず所得によって適切に計算された負担と保険料によって制度が維持されるべきだと思うので	50代	扶養者有
会社員と同程度に支払って、会社員と同程度に保証があるようにして欲しいです。	50代	扶養者有
終身で受け取れる年金を厚くしたいため	50代	扶養者有
保障は万が一の時のため	50代	扶養者有
特に役に立たないことは明白	50代	扶養者有
本当は保障や給付は現状通りで支払う保険料が減るべき。今は高すぎる。これでは勤労意欲が削がれるばかりなので、高齢者への待遇を減らしてでも保険料を減らすべき。	50代	扶養者有
フリーランスが今後増えるだろうから態勢を見直す時期だと思う	50代	扶養者有
民間の終身保険が高すぎる。しかし、所得に応じた納付でないと、厚生年金だとしても入れない人は入れない。	50代	扶養者有
社会保障制度そのものを大幅に見直す時期に来てるのでは。少しくらい改正したとこで現在年金を確実にもらってる人は良いかもしれないが現役、学生、子供たちのことを考えると非常に問題ではないかと。政府与党も全く信用にならないので	50代	扶養者有
遺族年金や障害年金の給付条件が厳しいのは是正してほしい。それ以外は、不公平は感じないので。	50代	扶養者有
選択肢のなかにベストな答えがないが、強いて言えば近いのが、この回答のため	50代	扶養者有
現状維持を望んではないが、回答の選択肢の中では強いて選ぶならという感じで選んだ。	50代	扶養者有
毎月の支払いが大変	50代	扶養者有
保険証だけなんとかしてほしい 高すぎる 年金は自分で積み立てたほうがいいのかもしいないと思ひ始めた	50代	扶養者有
利益が同じなら不公平はあってはならないから。	50代	扶養者有
健康保険は高すぎるが、年金はもっと高いほうが良い	50代	扶養者有
経営者として自ら貯蓄して備える必要がある	50代	扶養者有
支払う保険料が増えることについて、厚生年金については負担と受給がバランスしていないと思うが、全体的に会社員か否かで制度が異なることはおかしいと思う。	50代	扶養者有
毎月の支払いはフリーランスだと少ない方が良いので、保険料は現状維持か少ない方が良い	50代	扶養者有
ケガ、病気など、本人責に依らない部分の社会保障は、安心して就労できる環境づくりのため、労働者全体に広く遇されるべきと思う。	50代	扶養者有
社会保障制度は働き方の違いにより差が生じるべきでは無いと考えています。	50代	扶養者有
補償は必要	60歳以上	扶養者無
あくまでも保険の1つとして	60歳以上	扶養者無
安心できる	60歳以上	扶養者有
安心のため	60歳以上	扶養者有

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

ㄥQ8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
保険料の割に生活できるほどの金額でもないので安い方が良い。	60歳以上	扶養者有
年金は大切だと思うから	60歳以上	扶養者有
協会健保の算定方法だと会社負担分を自分で支払っても、国民健康に比べ保険料は下がり、保証内容も充実するはず。	60歳以上	扶養者有
ある程度のたくわえがあるから保証は少なくともいい	60歳以上	扶養者有
フリーランスの社会保障を手厚くする必要がある	60歳以上	扶養者有
会社員時代と変わらないようにしてほしいから。国民健康保険は会社員時代と比較して面食らうことが多すぎる？	60歳以上	扶養者有
全て自身の考えに遠いが、その中でも比較的近いのが3番目。	60歳以上	扶養者有
年金は払った分だけ返ってくるので将来を考えると上積みできる方がいい。	60歳以上	扶養者有
支払ったぶんの保証や給付があるべきだ。	60歳以上	扶養者有
国民健康保険料を超えることはない。	60歳以上	扶養者有

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
同等程度充実させつつ保険料自体も多少は控除してほしいので。	30歳未満	扶養者無
現状、会社員時代より高いので。	30歳未満	扶養者無
社負担は会社員ですら過大。事業主でこれ以上増やされたら、メリットを得る前に生活保護になってしまう。	30代	扶養者無
自分自身が、国民保険、自立支援医療、あるいは高額医療制度などの恩恵にあやかっている、あるいはその可能性がある以上、「保険料を減らせ」と主張することは簡単だが、それによって保険医療の自己負担額が減額分以上に増額した場合、皮肉にも自身の負担を減らそうとする行為が自身の負担を増やす事になるため、安易な問題ではない。	30代	扶養者無
保障や給付は安心材料になるから。	30代	扶養者無
特に女性は出産のときに休まないわけにはいかないので、カバーできるように制度を整えるべきです。	40代	被扶養者
将来何歳まで健康にいられるかわからないので、どちらとも言えません。	40代	扶養者無
とても苦しい	40代	扶養者無
開業届をだしておらずアルバイトのような稼ぎの方が保険料を減らしたいのは分かるが 開業10年以上経過しているプロのフリーランスが保険料を払えるのに補償が少ないのは納得いかない	40代	扶養者無
増えても良いが、それに見合った制度でないと増えてもらっては困る。現状見合った制度であるとは言い難い。	40代	扶養者無
本来は保障や給付を充実させて欲しいが、支払いが増えるのは現実的に厳しいので、現状維持を選ばざるを得ない。	40代	扶養者無
保険料増加と享受できる恩恵がつり合うかどうかかわからないので。	40代	扶養者無
病気やケガで働けなくなるリスクには備えたいです。ただ、年金の方は、会社員と同等程度の金額が貰えても生活が難しいことを考えると、自分で備える必要はありそうです。	40代	扶養者無

Q8.フリーランスの健康保険／年金制度について、あなたの考えに近いものを選んでください。

↳Q8F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
長寿、罹患率上昇を勘案すると、保障があった方がよい。一方で、それに対する責任は対価で支払うのが現状の落としどころと考えるため。	40代	扶養者無
あくまで国民健康保険料の高さが問題と認識している。（多く支払ったところで保障や給付がふえるわけでもない。）よって他の保障や給付に関しては別問題。	40代	扶養者無
相互扶助と言うには負担が重すぎて、なんのために働いているのかわかなくなるから	40代	扶養者無
透明度の無い制度は、信憑性に欠けます。	40代	扶養者無
選択型が良い	40代	扶養者有
保障や給付よりかは保険料を下げたい。保障や給付を受けたい場合は自分自身で加入するべきだと思っている。	40代	扶養者有
保険料は減らしたいが保障・給付が手薄になるのは困るし、会社員と同程度は理想だが・・・保険料がどの程度増えることになるのかにもよる。現時点では現状維持しか選べない。	50代	被扶養者
将来を考えるなら保証が充実した方がよいが、現状で支払い金額が上がるのは苦しい	50代	扶養者無
あまり金額が高くないのであれば検討したい。	50代	扶養者無
就職氷河期世代としては、それ以外の世代に比べ損失していると思われる生涯収入額を補填してほしいくらいで、充実させるために支払額が増えることすら理不尽に感じる。	50代	扶養者無
保障や給付を会社員と同程度に充実させるために、支払う保険料が増えても良い。ただし同じ程度の保証や給付ならば、負荷の程度の会社員と同じなのが望ましい。	50代	扶養者無
民間の保険に入るよりよほど保障が充実しているし、社会保険料の支払いは所得税の控除を受けられるため。	50代	扶養者無
会社員として働いても保険料は高い。フリーランスの保険料も同様な支払額で良いと思います。	50代	扶養者無
保険料の支払い額が会社員とフリーランスでは差が大きいため現時点では現状維持だが、差がもう少し縮まれば加入を考えたい。特に1社と長期間契約している場合など	50代	扶養者有
今は支払いを減らしたい	50代	扶養者有
フリーランスは1階建てなので、老後資金が心細い。手厚くできるのであれば、特に若い人は検討すべきと考える。	50代	扶養者有
負担が大きい	60歳以上	扶養者無
なし	60歳以上	扶養者無
Q12は、該当する選択肢がなかった。国民健康保険、国民年金は、保険料が高い割に、給付内容が充実していない。国民年金は老齢年金額が低すぎて生活できないことが問題となっている。労働者の健康保険／厚生年金と国保／国民年金を一元化し、新しい制度にすべきである。現在の保険制度は逆進性が強いので、国が税金などを投入し、逆進性を緩和する措置が必要であると思う。	60歳以上	扶養者無
社会保険料の水準自体が高いから。	60歳以上	扶養者無
制度は均一・平等であるべき。	60歳以上	扶養者有
そもそも共済的なものなので、働き方で制度が異なることが問題。	60歳以上	扶養者有

Q10.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q10F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスは社会保険制度の面で会社員と比べて保障が薄く、働き方の違いによって将来の不安が大きくなっています。すべての働く人が立場に関係なく同じ基準で保険料を負担し、必要なときに同じ給付を受けられる仕組みが公平だと思います。その上で、所得に応じた柔軟な保険料設定や、加入の選択肢を広げる工夫があれば、より持続可能な制度になると考えています。	30歳未満	被扶養者
一定額制であれば、現在会社員の方にもフリーランスへの窓口が広がり、自分らしく働けると思います 私は社会保障の不安から正社員になることを考えているため、もし一定になるのであれば、フリーランスを続けて、正社員と同じように安心した生活を送りたいです	30歳未満	扶養者無
日本はたくさんの収入を得ている人から、税金を取る制度になっている。その方向性は今後も変わらないと思っている。だとしたら、働き方が多様化している現代では、所得に応じた社会保険料のあり方を模索した方がいいと思った。	30代	被扶養者
労使折半の仕組みを無くし、すべての働く人が会社員かフリーランスかを問わず自身の所得に応じた社会保険料を支払う ↑そのうえで、社会保険料の支払額、支給額を見直す	30代	被扶養者
所得や、その時の生活に応じて払う社会保険料を増減させることができるようにしてほしいです。	30代	被扶養者
考え方は賛成だが、一斉にそういう仕組みにしないと発注ができない／もらえないと想像する そのため「どちらかといえば」賛成です	30代	被扶養者
労使折半の仕組みはとてもよくできていて、良い仕組みだと思うが、それをフリーランスでも行おうとすると発注者側からのトラブルになりうる要素が不安に感じる	30代	被扶養者
フリーランスでも不利にならないことを優先に考えてほしい 日本は会社に所属していることを重視しすぎている そこに入りたくても入れない、拒まれた人もいることに目を向けてほしい	30代	被扶養者
労使折半は社会保険料の実態を分かりにくくしていると思うので反対です。人件費として極めて高額な社会保険料が支払われていることを直視し、削減に向かうべきだと考えます。	30代	被扶養者
社会保険料を折半するとなると発注者側の負担が増えるため、フリーランスの案件が減ってしまわないかという懸念がある	30代	被扶養者
特になし	30代	被扶養者
よくわかりません	30代	被扶養者
フリーランスに指揮監督下があるメリットがない。社会保険に入るかどうかは任意とし、入るなら自己負担で良いと思うが、所得次第。 労使折半をなくすならそもそも社会保険料が低く抑えられるような努力や義務が必要。	30代	被扶養者
自分自身の所得に応じた社会保険料を支払うことは、平等な感じがするから	30代	扶養者無
個人事業主でも社会保険に入るかどうか選択できるようになったらいいと感じたため。	30代	扶養者無
会社員という生き方を選んだ人がフリーランスよりもらう社保のお金が少なくなると、フリーランスはますます嫌われるのではないかな？	30代	扶養者無
所得によって支払う額が変わると税金貧乏にならないと思うので	30代	扶養者無
「発注者と労使折半」には賛成です。フリーランスの社会保険料を企業と折半することで、フリーランスの地位向上にもつながる気がします。 また、逆の考え方として、最後の「労使折半の仕組みをなくす」というのにどちらかというと賛成です。会社員の方も、自分がどれだけ高額な保険料を払っているか分かりやすくなり、保険料への意識が高まると思います。	30代	扶養者無
障害年金を受給しているから	30代	扶養者無
今はどうしても限られてしまうが、協会けんぽや厚生年金などへの加入など、選択できるようになってほしい	30代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスが増えている現代、昔のままのしくみはもう合わないと思う。	30代	扶養者無
全額負担は現実的に厳しそうなので	30代	扶養者無
仕事が変わるたびに保険料が変わるのは大変。特にフリーランスで収入が安定した場合、反映される翌年が困るので。	30代	扶養者無
なるべく会社員と同等の制度が望ましい	30代	扶養者無
労使折半の前提が変わってきているので社会保証も抜本から変えるべき	30代	扶養者無
取引先にその都度社会保険料を負担してもらおう形になると、依頼が減ってしまうのではないかと不安があります。ただ、ウーバーイーツなど雇用に近い形態で働く人たちには、発注者と労使折半で社会保険料を負担してもらおう方が望ましいのではないかと思います。また、夫が会社員であるため、労使折半の仕組みがなくなるのはつらいですが、どれだけ社会保険料を支払っているかを実感できる仕組みがあれば良いのと感じています。	30代	扶養者無
会社員・自営業問わない制度の拡充があれば双方の目線から状況の改善について考えることが増えそう	30代	扶養者無
発注者と社会保険料が折半になるのは負担が減りありがたいが、他の契約条件に皺寄せがいくような気がしている。社会保険の加入については、個人事業主・法人経営者に関係なく、国保か社会保険かを個々で選択できる体制をとった方がよいように思える。	30代	扶養者無
協会けんぽと厚生年金に加入したい人は加入できる仕組みがあれば良いと思います。 労使折半の仕組みを無くして今の負担額を全額個人負担にするのはかなり困ります。会社員のメリットがなくなる。労使折半でも高額で大変ですけれど。	30代	扶養者無
会社員の良い保障を格下げするのは良くないと思います。「下に合わせる」のはよくないです。上に合わせたほうが良い。でも取引先と折半だと仕事減りそうで困りますね。	30代	扶養者有
今の家族の状況だと、不要の上限を超えて働くことが現実的でなく、今の扶養制度の中で働きたいから	40代	被扶養者
発注者が保険料を負担することが、発注者の心理的負担を増やさないか心配。	40代	被扶養者
発注者側が業務委託契約者と仕事をしたい理由や事業主の負担を考えると賛成しにくい	40代	被扶養者
現在仕事を依頼されている会社は中小の小さい所で、雇用保険や社会保険をかけるような余裕を感じないため、依頼されたと同時に社保や雇用保険の適用になるとしたら、社員と遜色ない責任や時間管理を求められるためフリーランスとして仕事をするハードルや自由度がなくなってしまう。 公的な部分で雇用保険や社保のハードルが高いのは常々感じているため、団体保険のようにフリーランスでも加入できる社会保険プランを独自に作ったり、フリーランス向けの国民健康保険組合を作る。	40代	被扶養者
フリーランスも、会社員レベル以上の収入があれば実現できると思うから	40代	被扶養者
会社員と同じ仕事をフリーランスをすることもあるが、正直仕事の取り方は会社員と違い色々なやり方がある。会社員は、あるいみ時間に対して給料をもえらるが、フリーランスは時間でもらうことも、成果をだすからもらうことも両方できる。保障の不公平感はあるのが当たり前という気がする。そもそも、業務への関わり方が違うのだから。	40代	被扶養者
仕事を出す側も一緒に仕事をするのだから、駒扱いではなく仲間として少し負担してくれてもいいと思う	40代	被扶養者
103万の壁、130万の壁、などそもそも税金のかかる仕組みが複雑すぎるので、一律に「自身の所得に応じた社会保険料を支払う」くらいシンプルにした方がいいと思う。ただ、家庭に入るのが普通とされてきた年代の女性は、これから起業や就職も難しいわけなので、どこかで線引きしないといけないのではないかと思います。色々そこ30年のツケが回ってきていると思う。	40代	被扶養者
企業に勤める人が多い社会である現状があり、その中で耐えてきたので、「働き方に中立な社会保険制度」と言われてもあまりピンとこないが、実現できるのであればすごい助かると思う	40代	被扶養者

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
自分たちで理解しやすいシンプルな制度設計にしたほうが良いと思う。	40代	被扶養者
会社員とフリーランスの格差はなくしてほしいが、労使折半の仕組みをなくすのはいかがなものか。個人との折半ではなく、企業は企業で国に（いままで労使折半してた分を）保険料として納めて、すべての働く人の保険料を下げることはできないものか？	40代	被扶養者
所得に応じてくれないと困る	40代	被扶養者
企業で働く旨みがないと意味がない。 その分給料が増えるなら折半なしでも良いかもしれない。	40代	被扶養者
現状の働き方に合わせた形で抜本的に見直してほしい	40代	被扶養者
個人事業主は望んでその立場にいるから自己責任で生きられるはず。その強い意思を持たないひとが企業の奴隷になる。そのため企業負担は非常に大きいので、自責で生きる個人事業主が企業を助けてあげたほうが良いと思うので折半などは必要ない。 なんなら報酬をあげてくれたほうが個人は助かるわけだから、下手なルールは作らないほうが良い。 インボイスみたいな失敗がまた起きるのが目に見えている。	40代	扶養者無
発注者との労使折半はその都度の対応が必要だと思われるから。	40代	扶養者無
前述の通り。	40代	扶養者無
保障のない保険はいらない。 だったらベーシックインカムにして欲しい。	40代	扶養者無
働き方を問わず、所得で判断してほしい。	40代	扶養者無
会社ではなく、国がサポートする仕組みが必要だと思う。 この国の今の制度がおかしいと思う。	40代	扶養者無
所得に応じた社会保険料が理想だが、それだと貰える金額も少ない。 結局、所得が多い方が得になる。 働いてる人から取る仕組みではなく、 ・政治家の数を減らす ・働いていない政治家を辞めさせる ・政治活動について領収書のないものについては立替しないと、一般の企業のように管理すれば、その財源で広く社会保険料を賄えると思う	40代	扶養者無
会社員としての働き方が合わず収入も十分でない人と、会社員との格差が広がってしまう。	40代	扶養者無
「フリーランスも取引先の発注者に対する被用者（指揮監督下にある雇われ人）と見なし」では、発注者が取引先を「下」に見てしまうのでは？とも思うが、偽装請負がしにくくなるとも考えられる。	40代	扶養者無
労使折半になったら、その分、フリーランスに払われる報酬が減るから。	40代	扶養者無
所得に応じた保険料であれば、納得できる。	40代	扶養者無
立場によらずセーフティネットが充実するのはよいことだと思いますが、職業柄業務委託での立場が弱く、とても敬意があるとはいえないような業務委託料で働くことも少なくありません。 その上で保険料負担は、ありがたい反面、労使ともに現実的とはいけないのではないかと考えてなりません。	40代	扶養者無
現在の社会保障制度そのものを全体的に見直さなければ、フリーランスが損をする制度のまま続いてしまうと考えているため。 制度全体を変更していただきたいです。 または、フリーランスにならなくても働き続けられる柔軟な勤務制度を持つ会社を増やすように、国を挙げて支援していただきたいです。	40代	扶養者無
マイクロ法人の設立や同業者同志で組合を作る事は妄想した。	40代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
LQ9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
1つ目に対しては、発注者が中小企業の場合、保険料の労使折半が費用に上乗せされることで中小企業の経営が苦しくなる事があったり、上場企業でも上乗せを嫌気して個人を取引先として選んでもらえなくなるケースが出るのではないかと考えるとその対応も含めて考えないと賛成しかねる。2つ目は結局加入することで個人、労使折半分両方を負担ということは今よりも劇的に負担額が増えると想定されるので何ともいえない。	40代	扶養者無
セーフティネットの選択肢は多ければ多い方がよい。	40代	扶養者無
所得に応じて支払えば、大分負担が減るから。	40代	扶養者無
フリーランスのみの変更でよいと思う	40代	扶養者無
労使折半の社会保険料は実質の給与でしかありません。フリーランスを増やそうとしているのに会社員の方が得な社会保険制度では納得がいきません。	40代	扶養者無
会社負担が多くなるのを嫌って企業が給与を上げない場合がある。また、人を雇わなくなる。会社負担が減れば雇用と給与が増えると思う。	40代	扶養者無
以前業務委託で請け負ったクライアントさんがアンケートの選択に近い社会保障をつけるよなので雇用します！と言われて契約をしたけど、結局フリーランスじゃ無理！と社会保障はつけてもらえなかった際ケガや病気になって契約を切られた際の教訓を踏まえて、制度が当たり前になったらと思います。	40代	扶養者無
会社員とフリーランスの差をなくしてほしい	40代	扶養者無
一律の社会保険料負担だと、支払いに窮してしまう可能性があるので、所得に応じた社会保険料を支払う方が精神的にも金銭的にも余裕が生まれそう。	40代	扶養者無
取引先との折半は、単発の仕事の場合どうなるのか、都度折半だと面倒だなと思った。社会保険もフリーランスに特化したものや職種に応じて入れる協会など、保障や金額も柔軟に対応してくれると嬉しい。	40代	扶養者無
会社員は会社が自分ひとりを雇うためにどれだけの社会保険料を払っているか、基本的に知る機会がない。それを皆が知ること、社会保険料の適正な割合をどうすべきか、減り続ける人口で社会保険の仕組みを維持するためにできることは何かを考えるきっかけになると思う。	40代	扶養者有
なぜに雇われは保障され、自営は保障されないのか意味がわからないから。自営も多かれ少なかれ税金等は支払っているのに。	40代	扶養者有
フリーランスが下に見られやすいのはこころだと思う。社員であってもフリーであっても仕事の質に大差はないという前提で、同じように認めてほしい。	40代	扶養者有
結局フリーランスは正社員に関わる費用を負担したくない会社側の都合だから	50代	被扶養者
所得に応じた社会保険料の支払い額の決定は分かりやすくよいと思います	50代	被扶養者
特に無し	50代	被扶養者
自分が損をしているからと言って得をしている人がズルいとは思わないので、フリーランスにもメリットがあるように改善される事が望ましい	50代	被扶養者
社会保険料が高すぎるため	50代	被扶養者
社会保険料については良くわからないが、どこかで支払わないとならないモノならば、自分が若いうちに払い終わって、のちのち助かる方がいい。	50代	被扶養者

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、

たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須

↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスの法人化をより簡単にしてほしい。手間という負担が増えても、「賃貸物件を借りやすい」「社会的信用力」の向上を図りたい。また、家族がいる人は、扶養型（せめて未成年だけでも）の健保加入をしたい。	50代	被扶養者
働き方に応じた保険料で、受給も働きにおたち	50代	被扶養者
「働く」という意味ではみんな平等なので、みんなが平等に負担できればいいと思います。	50代	被扶養者
所得に応じて払うのが一番シンプルでわかりやすいと思うから	50代	被扶養者
国保や社保代に収入の4割取られると残った額が少なくなり生活困窮し、あと1年で月収20万行かないと会社員にならざるおえないという現実がある。すべての働く人が会社員かフリーランスかを問わず自身の所得に応じた社会保険料というのがいいと思う。会社員だからと安心するという考え方はそもそもおかしく、仕事というものはフリーランスであれ、会社員であれ同じものである。	50代	被扶養者
折半だと経営者負担が大きいので、下請け等の仕事の受託に不利な影響がらある気がする。	50代	被扶養者
格差が大きいのに疑問を持っているから	50代	扶養者無
目先の損得のみならず医療や年金財政も考えたうえで議論すべきだと考える。	50代	扶養者無
あまり負担を増やさずに保障があればと思います	50代	扶養者無
日本の制度はサラリーマンを優遇しすぎです。社会は変わったんだし、制度を変えるべき。いつまでも高度経済成長のモデルなのは違うと思う。	50代	扶養者無
収入がすくないので	50代	扶養者無
昔の会社員を前提とした制度から、今の働き方の多様性に合わせて公平に特にフリーランスに配慮した制度にしてほしい。	50代	扶養者無
会社員だと労使折半の実感がない（仕組みを知らない人が多い）	50代	扶養者無
取引先に負担させるのはさすがに仕事が減りそう	50代	扶養者無
今より保険料出費が増えないでほしいから。	50代	扶養者無
多種多様な働き方が今後も増えていく事を想定すると、現状の制度には不公平感が否めない。業務委託元との折半に賛成。	50代	扶養者無
誰にも雇われない生き方をしたいので所得だけで判断してほしい	50代	扶養者無
さすがに話が飛躍し過ぎているような気がする。	50代	扶養者無
全体的に支払う分が増えるのは、収入が少ないと不安。しかし、セーフティーネットの格差をなくす方法は欲しい。ベーシックインカムなどの制度などは検討の余地はないのだろうか。	50代	扶養者無
フリーランスの業務委託でも社会保険に加入できるのはありがたい。でも、取引先が複数ある場合、どうなるのか気になります。また、業務委託の契約期間が数年にわたる長期ならいいのですが、数ヶ月といった短期契約の場合、社会保険に入ったり、入れなかったりするとややこしいので、その整備は必要かなと思います。	50代	扶養者無
一律に決めるのではなく、立場や年収によって「選べる」ようにしてほしい。	50代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
社会保険加入を切り札にされて業務委託費用を値切られたり、雇用側と何らかの力学が発生してフリーランスが弱い立場になる可能性も考えられるので。	50代	扶養者無
取引先の被用者になるのは結果、報酬減につながりそう	50代	扶養者無
公平性がある。	50代	扶養者無
家族の介護や自身の障害など、様々な事情により会社員の仕組みでは働けず、個人事業主の形態を取っている人も多いはず。そうした人が胸を張って使えるセーフティネットが必要と考えているから。	50代	扶養者無
社会保険方式を廃止して、税方式を導入し、我が国の社会保障はすべて保険料ではなく税金で賄う（税方式導入に伴い、日本年金機構は廃止する）。	50代	扶養者有
保証も平等 支払いも稼ぎに応じて平等 それがよい！	50代	扶養者有
個人事業主は、社会保証は自己負担でまかないますが 税金対策でメリットが得られるのか Win-Winなしくみになるには、どうしたら良いのか私もよくわかりません。	50代	扶養者有
まず、高騰している医療費、介護関係の費用、どこのもれだけ使われているのかを明確にして欲しい（国に対して）。納得できる保険料であれば苦しくても払おうと思いますが、現在はそうではない。もしも私が発注者であれば、社会保険料をわざわざ負担しないといけないような個人のフリーランスには仕事は発注しないと思います。もう外れたけど労使折半は良い制度だと思います。	60歳以上	扶養者無
難易度が高いことは想像するが、フリーランス向けの制度や社会保険用組織を立ち上げ、運用 中小企業との連携	60歳以上	扶養者無
仕組みが複雑で理解しづらい	60歳以上	扶養者無
会社は社内留保が多いため、会社員に還元すべきだと思う。個人事業主も応分に負担が増えるべきだが、全額負担は？に感じる（税法その他が公平ではないため）	60歳以上	扶養者無
現時点では所得が低すぎて、そこまで考えられない	60歳以上	扶養者無
特にない	60歳以上	扶養者無
保険料を負担してもらうことで自由が損なわれるのは嫌。	60歳以上	扶養者無
一番いいと思うのは3番目だが、現在の日本でそれをやるとフリーランスではない貧困層は壊滅的打撃を受ける。補償や権利は会社員と同等にし、腕一本で稼げる価値と、自由と、「自由」に伴う負担も大きいこと、そして何より、人として対等につきあう、交渉できる力の付け方を、教育として、小さい子どもの頃からしっかりと教えるようにしてほしい。	60歳以上	扶養者無
全て個人を基本とすればわかりやすいのではないと思う。専業主婦、壁など分かりづらい。	60歳以上	扶養者無

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
労使折半を無くし個人の応能負担になるには価格転嫁がより確実に行われなければならないと感じる	30歳未満	扶養者無
フリーランスに発注する企業に負担を強いても、結局その分フリーランスの報酬が減るだけだと予測されるから。	30歳未満	扶養者無
Q1のようにすると負担先がややこしくなったり 受託開発の場合は結局無意味 Q2は選択肢として有効、透明性あれば賛成！（なぜその料金が、任意加入） Q3は根本改革として賛成！ただし企業が負担してた分は全額従業員に支払われるようにする(義務化)	30歳未満	扶養者無
負担を減らしたいから	30代	被扶養者
所得に応じた社会保険料にしてほしい。	30代	被扶養者
所得に応じた社会保険料となると、稼げば稼ぐほど高くなるので、みんな一律がいい。また、医療費の自己負担は高齢者も3割負担にし、過剰な通院入院を辞めることでその分ほかの子どもの手当に使ってほしい	30代	扶養者無
・1つ目 事務手続きが煩雑になりそうだから ・2つ目 強制加入なら負担が大きくなりそう。 自由加入の場合、入る人と入らない人の間に結局格差が生まれるから。 ・3つ目 賛成にしたけど、会社員の自己負担額が増えるだけで、フリーランスのセーフティネットの充実度にはつながらないと思う	30代	扶養者無
取引先がたくさんある人の場合はどうなるのがよくわからない。	30代	扶養者無
労使折半の仕組みは有難いので残していいと思うが、その分フリーランスの働き方が企業にも浸透し、会社員・フリーランスの垣根がなくなる・低くなるとより良いと思う。	30代	扶養者無
所得に応じた社会保険料をそれぞれ払う形の方が公平感を感じるし、納得がいく。会社に所属しているか、していないかで同じ働きなのに保険制度が違うのは不利だと感じる。	30代	扶養者無
ただ、発注者と折半すると、仕事量は減ると思う。内製した方が会社の資産にもなるし安くなるんじゃないか。	30代	扶養者無
現実的には結構難しいなって思いますが、全ての労働者の条件を揃えていくのは社会的にはいい取り組みだと思います。	30代	扶養者無
海外との取引がある場合は異なると思うので、何ともいえない。	30代	扶養者無
これから多様な働き方を日本もアメリカのようにしていくには、会社員とフリーランスを分けずに平等にすべき	30代	扶養者無
フリーランスの人が自分で選択できる方が良い。発注者の負担になると、依頼が減りそうなので難しい。	30代	扶養者無
法人と個人は違うので、「個人事業主も法人経営者と同様に、狭義の社会保険（協会けんぽと厚生年金）に加入できるようにし、労使双方分の社会保険料を自ら負担する」を全員に適用しなければならなくないと、個人事業主の廃業を加速させるような気がするので、「加入を選択できる」ようにするのは良いと思います。	30代	扶養者無
労使折半の仕組みをなくせば、より人の動きが流動的になりそう	30代	扶養者無
雇用主はより雇用しやすくなるし、個人事業へのハードルが下がり働き方の自由度があがると思うため。	30代	扶養者無
特になし	30代	扶養者無
何かあれば、すぐ病院という考えを改めて欲しい。そうしたら医療費減るのでは？ 元気な高齢者が病院にいるのが不思議でならない。	30代	扶養者無

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
結果的に会社員として働いてくれる人がいなくなると困るから。	30代	扶養者無
保険の仕組みが複雑すぎて、確定申告が恐怖なため。	30代	扶養者無
このことに関しては経営者の視点がないと考えることができないと思うため、よくわかりません	30代	扶養者無
取引先の発注者に負担を強いると、契約自体が終了になったり、おそらく収入が減るので、理想的ではあるが現実的ではないと思う。フリーランスとして働く人々を増やそう・強化しようという動きが国全体としてあるのならば、会社員やフリーランスを問わず、働いて得ている収入などに応じて社会保険料を支払うのがシンプルで分かりやすいと感じる。また、もしこの制度が整えば、会社員とフリーランス双方の垣根も下がり、より労働に対して自由な選択ができる（ライフスタイルに応じて会社員として働いたり個人事業主として働いたりなど）社会に繋がるような気がするため。	30代	扶養者無
フリーランスエージェントを利用する場合は契約社員になり、一時的にでも雇用されている状態が望ましい。	30代	扶養者無
まずは加入先の選択肢を増やすことが重要。負担額はその後に加入状況等を考慮して議論すればよいと思う。	30代	扶養者無
「労使折半の仕組みを無くし、すべての働く人が会社員かフリーランスかを問わず自身の所得に応じた社会保険料を支払う」に賛成。自分がどんな社会保険料（税金）を払っているか、全国民が身体で理解すればいい。	30代	扶養者無
ある程度の金額で継続的に受注できる仕事であれば、労使折半の形を取るのはいいと思うが、それで仕事が減るなどのデメリットが生じる懸念がある。	30代	扶養者無
今の社会保険制度は人口増加を前提に考えられた制度であり、このままの制度維持は国民に過大な負担を強いるものと考え、根本的な見直しをすべきと考えます。その1stステップとして、厚生年金等の制度をやめ、すべて国民年金・国民保険に一本化。国民年金にも扶養の概念を適用させ、出産・育児・介護に関する助成金を一律に補償します。	30代	扶養者無
フリーランスでも長期にわたって発注されている場合は、社会保険の加入条件を満たしているように思う（1年以上など）。ただ、会社側からするとコストと捉える気持ちも理解できる。会社員の保障が厚く、個人事業主が弱い立場になるのはよくない。所得に応じて等しく社会保険料を払うようになれば、よりフェアな世の中になると思う。	30代	扶養者無
健康上の問題で、働けないことは無いけど、私のように在宅ワーク・フリーランスしか選べない人間もいるのですから、そんな人間への補償はあって然るべき。働かない人間への生活保護を検討するよりもまずは働いてきちんと納税しながらも、不安定な収入状態の人間への救済をしっかりとすべき！	30代	扶養者無
まだよくわかってないです	30代	扶養者無
終身雇用でもないのに会社に年金制度の面倒をってもらう仕組みはおかしいと思うため。	30代	扶養者無
雇われ人とみなすのは、社会保障以外のところに皺寄せが来そうなため怖いと感じた。全ての人が自身の所得に応じた社会保険料を払うのはいいと思う。会社員は会社にお任せにしすぎていて、あまりにも支払いや保障に対して無頓着すぎるため。フリーランスと会社員とで意識の格差、認知している情報の格差もとてもあると思う（そして情報認知していない人の方が守られているというのはなんだか違和感）	30代	扶養者無
フリーランスか否かに関わらず、所得に応じた保険料を払うことは公平に感じるから。	30代	扶養者有
とにかく平等な制度であってほしい	30代	扶養者有

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
会社員として縛られない分会社に負担してもらうは平等では無いと思います。個人で払うのもフリーランスは収入の変動がある関係で毎月きっちり支払うのも難しいと思います。なので確定申告などで払える分（何口分）みたいな形でまとめて納税出来たらと思います。必要な保証の分の口数を収めたら必要な分の保証を得られるみたいな形に出来たらなと。	30代	扶養者有
会社側への負担が増えれば増えるほど、フリーランスを使うメリットが小さくなる可能性がある。不公平感を調整するには、むしろ会社負担を減らす方向がいいのではないかと考えるため。	30代	扶養者有
取引先は固定してないため。	40代	被扶養者
配偶者は現在会社員であり労使折半の恩恵を受けているため。会社から守られる立場はやはり助かる	40代	被扶養者
とにかく不公平をなくしてほしい	40代	被扶養者
難しいです。ただ、個人事業主も法人経営者と同じ形も選択できるようになればいいと思います。選択肢は多い方がいい。	40代	被扶養者
雇用の種類に関わらず、労使折半が妥当だと考えるからです	40代	被扶養者
個人事業主がこれからどんどん増えていくと予想はしているが、保険料の負担が大きい分、加入に悩む人たちも増えると思う。国でもっと負担してくれたらと思う。	40代	扶養者無
言葉の意味が分からず、	40代	扶養者無
収入に応じて保険料は決まる仕組みの方が、望ましいと思う。そのようにした場合、すべての人が保険加入を任意選択できる仕組みの方が、いいのではないかと考える。	40代	扶養者無
働き方の違いによる不公平は良くない	40代	扶養者無
なぜ働き方が違うだけで税金が変わるのかわからないから。どちらも同じように働いて稼いだ金額のうち同じ負担分が税金にすべきである。	40代	扶養者無
会社員とフリーランスの待遇の差は無くしてほしい	40代	扶養者無
より平等に	40代	扶養者無
どうしても自分の置かれた状況で、判断してしまうのですが、すべての働く人が会社員かフリーランスかを問わず自身の所得に応じた社会保険料を支払うことには賛成ですが、不正がないように、経費などの概念をもっとシンプルにしてほしいと思います。	40代	扶養者無
取引先の発注者の負担が増える場合、それによって仕事を獲得できる確率に少なからず影響がある気がする。	40代	扶養者無
働き方や家族の在り方が昔と変わってきてるので、今の社会保険は不平等であるように思える。収入がなくても日本に住んでいる成人全員が国民年金と最低額の健康保険料は支払うべきだと思う。現行の所得に応じて段階で割合を設定するのではなく、所得に対して一律の割合で社会保険料を支払う仕組みにすれば国民全員に対して公平な社会保険制度になると思う。	40代	扶養者無
セーフティーネットを会社員と同様に受けれる制度作りは希望するが、職業選択の自由を行使しているためそのことを踏まえた上での保険料は自身でまず何とかできないかを考えるべきと感じるため。	40代	扶養者無

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、

たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須

↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスに対し、発注者の権限を強める恐れがあるため、発注者と労使折半で社会保険料負担は、どちらかというところと反対。公的な保険でも強制ではなく選択できるようにすればよいのでは。支払い金額に関しても、プランを複数用意して老後に手厚い保障が欲しいければ支払い額をアップできる、老後はそんなにお金いらないと思うなら支払い額を下げられる。それをフリーランス、会社員問わず選択できれば良い。	40代	扶養者無
出来高制ではないが、儲けのレベル（段階）をつくって、それに見合った保険料で良いと思う	40代	扶養者無
フリーランスも発注者と労使折半にした場合、代わりに報酬を下げられたり、少額の発注だと契約自体をためらわれたりするのではないかと思いますので、難しいと思うができれば労使折半の仕組みを無くし、所得に応じた社会保険料を支払う形が良いと思う	40代	扶養者無
第1案は請求書が複雑になるので賛成しない。第3案が理想だが、収入や資産状況に合わせて柔軟に選べる制度の方がありがたいです。	40代	扶養者無
発注者が複数でその中には個人事業主もいるので、仕組みがとても複雑になりそう	40代	扶養者無
取引先に面倒がられるだろうから 一律のルールだったらいいなあと。	40代	扶養者無
フリーランスは通常の会社員が負担する分も払うのなら、同等のものを受け取れるべき それと、いくつか選択肢があれば、今は手薄くていいとか事情に合わせて選べるのに、と思う	40代	扶養者無
偽装フリーランスの問題も解消すると思いますので、「労使折半の仕組みを無くし、すべての働く人が会社員かフリーランスかを問わず自身の所得に応じた社会保険料を支払う」が現実的だと思います。 そのようにすることで、会社員+副業などの人からも適正な社会保険料を徴収できるようになるのではないかと思います。	40代	扶養者無
仕組みが簡単になる	40代	扶養者無
会社員の賃金を上げずに副業をさせよう、という昨今、働く時間にコントロールも含め、皆がフリーランスという考え方はシンプルでいいかもしれませんね。 その場合、税務の管理は煩雑になるかもしれませんね。	40代	扶養者無
会社員とフリーランスの将来もらえる額に差がないほうがよい	40代	扶養者無
シンプルだから。	40代	扶養者無
私は「人件費がかからないフリーランスではないと雇えない」と言われ、準備もままならない状態でフリーランスになりました。いざなってみて、フリーランスエージェント提供の求人情報を見ると、どこの企業もそういった意図を感じます。従業員もフリーランスも、企業の仕事をやる者なのに差があるのはどうか、と思います。せめて、従業員とほぼ同じの「準委任契約」だけでも従業員と同等の保護を雇い側、または仲介側が保証してもいいのではないかと、思います。	40代	扶養者無
社会保険料も捻出できないような会社は淘汰されるべきであるため	40代	扶養者無
できれば節約して加入したいため	40代	扶養者無
なぜ働き方によって保険料が変わるのか、そもそもそこに疑問があります	40代	扶養者無
健康保険や年金の加入義務をなくしてほしい。	40代	扶養者無

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
働き方も生き方も選択肢がある方がみんな生きやすくなるのに、保障だけは会社員だけが高いというのは今の時代ありえないと思う。フリーランスも社会に貢献しているのだから、同じセーフティネットの権利があるべきだと思う。	40代	扶養者無
保証の拡充のためなら良くなる方に行ってほしいが、支払額が増えすぎた場合逆に苦しくなるので金額次第。	40代	扶養者無
社会保険料の負担は高いと感じる。とはいえ会社員で所得に比例するとそれは苦しいと思う。一方で個人事業主の立場となると国保など一律負担の金額は辛い。どの選択肢もあまり良いとは思えないが、フリーランスの立場だけで考えると社会保険料は所得で異なっても良いと思う。	40代	扶養者無
所得に応じた保険料や税金を払うのが公平なのではないでしょうか。	40代	扶養者無
転職や働き方に関わらず平等にしたほうが手続きも簡単だから	40代	扶養者無
フリーランスの取引相手は複数いることが多いと思われ、労使の区別をすると制度設計が複雑になり、実効性が伴わなくなる可能性がある。それよりは、できる限り単純化されたシステムを構築するほうがよいと思う。	40代	扶養者無
手間は増えるかもしれないが、全ての人が確定申告をした方がいいと感じる。被用者とみなして天引きは、受注側は楽だが、メリットを感じづらい制度だと思うし、フリーランスに発注するのを面倒くさがれる可能性が怖い。	40代	扶養者無
特になし	40代	扶養者無
社会保険料は発足当時は数千円だったから特に問題なかったが、現在においては数万円取られるため、仕組み自体変えないと低所得者層ほど負担が大きくなるから。よって、所得に応じた保険料を支払う仕組みに変える方がベター	40代	扶養者無
会社負担が増えると仕事の機会が減る可能性を考えた。その他、アイデアはない。	40代	扶養者無
前年度医療費が使わなかった、安かった人は次の年保険料を安くしてほしい	40代	扶養者無
労使折半の仕組みの廃止は政治的にハードルが高そうだが、働き方が多様化する中では、そうした変更を行った方が制度的にシンプルになり、格差の根本対策になるように思われる。この場合、会社員の給料に、それまで会社が負担していた社会保険料の上乗せを義務付けるなどして手取りが実質的に変化しないようする必要がありますね（そうでないと、会社員にとって、とてつもない不利益変更になってしまう）。	40代	扶養者無
取引先の発注者に支払いは、現実的ではない。さらにそれをさせれば、報酬の減額、発注の削減が目に見えている。個人事業主の金持ちは労使双方の金額を払えるかもしれないが、貧乏人は払えない。サラリーマンを個人事業主と同じくし、そこから国民全体でどうするかを考えた方が良いと思う。今はかなり不公平である。	40代	扶養者無
フリーランス新法ができたとはいえ、法人経営者との関係性に上下関係が生まれる原因になって辞めたくても辞められないという状況が生まれかねない	40代	扶養者無
現状雇用の有無に関わらず、社会保険料の増加が社会問題となっており、社会保険や雇用保険の仕組みを見直す必要があると感じるため。知識が少ないので、将来を見据えて勉強と検討が必要です。	40代	扶養者無
会社員（発注企業側の担当者）は、フリーランスの状況を知らないで、値下げを要求したり、値上げをする体制がないと思うので、会社員もフリーランスと同等の立場になり、いっそのこと会社に勤める人がいなくなればいい（全員個人事業主になる）と思う。（暴論かもしれないが、）	40代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
現状、夫は企業の健保組合に加入しており、そのおかげで安心して暮らせる部分があります。一方で私はフリーランスで会社員との格差を感じつつも、公平を望むと現状の生活に大きく影響がでるのでは？と不安もあります。自分自身のことだけ考えると、労使折半をそう無くそうといたいところですが、難しいところです。あと「フリーランスも取引先の発注者に対する被用者（指揮監督下にある雇われ人）と見なし、発注者と労使折半で社会保険料を負担する」はとても良いと感じていますが、これは発注コストを抑える要因になるのではないかともおもっています。インボイス制度の2割特例が終わるころには、受注金額の交渉も考えていますが（負担が増えるので）、もし社会保険料も負担してもらうとなると、企業にとってはフリーランスへ発注するうまみがなくなるから発注しなくなるのかなと。なので、できればフリーランス自身が保険料を支払い、そのうえで各種制度を充実させるのがいいかなと。年齢や性別、家族構成で加入したい制度を選択して、その選択数に応じた保険料を負担するってのはどうでしょうか。フリーランスのボリューム層は40代ですよ。晩婚化を踏まえると子育て世代も十分にいます。完了した人も多いです。そういう人は出産手当や育児手当よりも、傷病手当などを重視します。選択できるようにすることで、自分の生活を守る選択ができる、フリーランスという働き方を選ぶ人なら「自分で選べる」ほうがいいのではないかと思います。これなら会社員との差別化もあるので、会社員からも不満の声は出にくいと感じます。	40代	扶養者無
組織に所属しているか否かでセーフティネットの恩恵が変わることに疑問を感じるから。会社員が所属できないフリーランス専用の社会保険制度があっても良いと思うが、高齢の社会保障を支える目的も備えるとなるとおそらく破綻すると思う。	40代	扶養者無
色々な制度から自由になれるのがフリーランスの良さなので、全く会社員と同じ仕組みなのであれば、会社員のままで良いと思います。ただフリーランスは会社員のように決まった収入が得られるとも限らないため、救済措置として、フリーランス向けのクレカのように支払い方法を柔軟にもらえるとう助かります。	40代	扶養者無
平等性を考えると労使折半をなくすか、個人事業主も労使分を払い、その負担額を税額控除するのが筋が通ると思います。	40代	扶養者無
会社員が社保折半の仕組みが税の意識を全ておかしくさせていると思うのでなくした方がいいと思う	40代	扶養者無
労使折半の仕組みを知らない人が多すぎることに、大きな疑問がある。	40代	扶養者有
労使折半の仕組み自体が公平性に欠けるのでなくなるのが理想だが、現実的ではないので、私は思わないが厚生保険に入りたいフリーランスは入れるようにしたいと思う。	40代	扶養者有
労使折半で雇用主に負担してもらうと、多少の窮屈さを感じるのであまり賛成できない。	40代	扶養者有
働き方によってセーフティネットの格差があるのはおかしいと思う。	40代	扶養者有
取引先の発注者に対する被用者になるというのはまたフリーランスが不利益を被られるような気がするため。	40代	扶養者有
この問題は社会保険だけの問題ではなく、経済における生産性や、個々人の能力をどのように社会に活かすかという問題から議論されるべきだと思う。そうでなければ、支えあいという考え方は薄れていく一方になると思う。	40代	扶養者有
フリーランスも～は取引先のメリットがないから+毎月安定した収入がないと基準額を決められないから。労使折半の～も基準額をどう決めるかの問題はあるけど、これが理想的だと思う。	40代	扶養者有
フリーランスも会社員と同等に扱ってほしい。	40代	扶養者有
会社員、個人事業主やフリーランスのどちらの視点から見ても公平な制度となるように検討する必要がある	40代	扶養者有
取引先も大企業はほとんどなく、個人商店や零細企業、中小企業が多いので、お互いに負担が増えるのは苦しいのではないかと思ってしまう。国民保険や国民年金の仕組みは変えようがないのだろうか？と思う。	40代	扶養者有

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
現状、会員の社会保険料が労使折半になっている根拠が理解できないため。会社員だけが過剰に守られていると感じるため。	40代	扶養者有
取引先が折半して払うとなると、おそらくフリーランスを真っ先に切って社内での作業または直接雇用の低価格でのアルバイト雇用に切り替えると思うので、発注者との労使折半での社会保険料負担は現実的ではない（むしろフリーランスが仕事を失う）と思います。そのため、自腹で負担が一番良いです。会社員は会員のメリットを享受してほしいので、現状で良いと思っています。	40代	扶養者有
大変な混乱が想像できます。実現へのイメージが湧かないです。労使双方分の社会保険料は理想的だが、クライアントの負担が増えることを懸念しまう（フリーランスへの注文を忌避する動きになる？）。フリーランスに対する「自己責任」のイメージはなお強固だと思います。	50代	被扶養者
フリーランスも安心して働けると思っただけ	50代	被扶養者
基礎年金部分は税を財源としたベーシックインカムとし、2階部分は収入に応じた全国民共通の社会保険とする。	50代	被扶養者
ありません	50代	扶養者無
正直、少子高齢化が進む中、今の社会保障制度で成り立つとは思えない。これから氷河期世代が年金暮らしになったら、制度そのものがジリ貧になると思う。	50代	扶養者無
労使折半の仕組みは正直うらやましい！でも、フリーランスなのだから仕方ないと思っています	50代	扶養者無
Q14の3つ目がいいと思った。フリーランスが長期的に報われればよいかと。	50代	扶養者無
フリーランスの場合、契約書でもこちら側に不利な内容を書かれている上、病気の時に穴を開けられないというとても恐ろしいことが起こります。先行きを考えると、本当に生きていけるのかと不安になる人も多いと思います。	50代	扶養者無
加入資格を会社員や経営者としてしまっただけで社会保険に加入したい個人経営者が入れないのは差別でしかない。又支払額は労使折半を強調されてるが本来経営者は労働者に対して対価を払っている。その対価には会社負担分とされる社会保険料も考慮されてます。要するに、労働者に対価として支払われてる金銭とは記載がないけど、経営者はそのようにとらえている。	50代	扶養者無
個人事業主が自由に選べるようになってほしい	50代	扶養者無
勤務形態により社会保障に大きな差が出るのは納得がいかない。	50代	扶養者無
労使折半の考え方は、働き方の多様化の現状に合っていない。所得税と同じような考え方でも良いかと思う。	50代	扶養者無
支払う保険料が妥当かわからない	50代	扶養者無
現状は一定の所得以下ではほぼ一律の社会保険料となり、実所得が低くなるほど負担が大きいので、もっと細かくレンジを設けた方がよい	50代	扶養者無
自分がフリーランスを選んだ理由は、組織や制度的保障から自由になりたかったから。もちろんそう考えないフリーランスのために選択肢はあるべきだと思う	50代	扶養者無
取引先と折半になった場合、支払われる契約金が下がってしまいそうで不安がある	50代	扶養者無
単発の仕事が多いため、1つ目が成り立たない。2つ目は生活が破綻すると思う。3つ目にした上で、企業が雇用＋外注分の社保料に当たる税を応分する。	50代	扶養者無

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
発注者がその金額に応じて社会保険料を負担する	50代	扶養者無
社会が複雑になりすぎて数種類の制度ですべての働く人の都合をカバーするのは無理だと思う。かといってあまり複雑にして変なところにコストをかけるのも違うと思う。一周回って、ある程度以上は自己責任の世界になるのかもしれない。NiSA、iDeCoの類が今後も充実していくのでは。	50代	扶養者無
国民年金だけでなく、養老保険、iDeCoなどにかかる金額を考えれば、支払い額が高くなってもいい。国民年金・保険の対象者は、国家公務員と同じ国家公務員共済？くくりにするとかできないもんだろうか？	50代	扶養者無
自分で支払う額も受け取る額も、受け取るサポートも選べる仕組みはないのでしょうか。	50代	扶養者無
偽装フリーランスを無くし最低賃金プラス必要経費の補償 フリーランスでも一定の要件を満たせば正社員もしくは直接雇用のアルバイトとして採用する選択をフリーランスに与える	50代	扶養者無
所得に応じて支払うのが、シンプルでよい。	50代	扶養者無
同じ仕事をしたとしても、働き方によって負担額が大幅に異なるのは、非常に不平等。	50代	扶養者無
所得に応じた保険料は賛成だが、その分金額に応じたもらえる額の格差が大きくなりそう。また、フリーランスを指揮管理下に置くのは反対。誰でもフリーランスになれる時代、管理下という甘えにより、今以上にスキルの低い方によるフリーランスの価値を下げる懸念がある。	50代	扶養者無
それぞれのメリットデメリットがわからず、判断できません	50代	扶養者無
会社員とフリーランスとの格差が大きすぎる	50代	扶養者無
フリーランスも一部分社員のような感覚での設計をしてもらいたいです	50代	扶養者無
フリーランスも取引先の発注者に対する被用者（指揮監督下にある雇われ人）と見なし、発注者と労使折半で社会保険料を負担することになると、フリーランスを利用するハードルが上がると思います。現時点でフリーランスを利用されている発注者側が考えているメリットが無くなる気がします。	50代	扶養者無
フリーランスであれば、リスク分散のため複数取引先を確保している場合がおおいのではないかな。不満があれば受注先を変えられる自由度の高さがフリーランスの魅力と思うので、会社員のような働き方になるのは反対。フリーランスのセーフティネットの選択肢が増えること、準備周到に独立するひとだけでなく、やむなくフリーランスになる人も今後増えると思うので、国民年金以外の備えに関する教育が充実すればよいと思う。	50代	扶養者無
企業雇用者の人数が多くその層の不利益になることは政府はやらないだろうと思う。	50代	扶養者無
無駄に多く払わされている気がするので	50代	扶養者無
とてもフェアな感じがして、保険料の支払いに、抵抗が少ない	50代	扶養者無
より公平な負担になるように思えるから。	50代	扶養者無
個人番号に紐付けされた保険料と保証があればいい。ただし、今の政権では無理。	50代	扶養者無

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
平等だと思うので	50代	扶養者無
発注者と労使折半できるのなら、大変ありがたい	50代	扶養者無
働き方で複数の年金や医療保険の制度があるのがそもそもおかしい。全国民で統一されたシンプルで基礎的な制度にすべき。手厚い補償を望むなら、個別に民間の保険に加入するようにしたほうがよい。	50代	扶養者有
全額負担となっても国保と国民年金よりも安く補償も多い、年金も貰える額が多いなどメリットが多いので折半以前の問題がある。	50代	扶養者有
事業主だから全額負担では厳しいとおもう。	50代	扶養者有
労使折半が正社員の給与が低くなる一因。非正規雇用との負担の差が小さくなることで転職者も増え人材も移動しやすくなる。	50代	扶養者有
フリーランスではあるが発注もするので	50代	扶養者有
大企業だけが優遇される状況は変えた方がよい。フリーランスでは所得に対する社会保険料負担が大きすぎるので、全ての働く人が収入・所得に応じて公平に負担するような仕組みが欲しい。	50代	扶養者有
フリーランスのための共済組合があればよい	50代	扶養者有
女性は雇用形態や就業形態がしばしば変化するため。その都度、被保険者の形が変わると先の保障が読めない。学生起業する人も、親の扶養から外れて収入に応じて支払い、会社員より成功するケースがあって良い。	60歳以上	被扶養者
とにかく、正社員とフリーランスの社会保障制度に格差がありすぎる。システムとして平等になるようにしてほしい	60歳以上	扶養者無
働き方や家族のあり方が多様化しているので、社会保険も一元化するより多様化に向かう方がいいのではと感じます	60歳以上	扶養者無
フリーランスが加入できる社会保険制度があれば一番いいと思います。	60歳以上	扶養者無
法人企業は結局は利益を追求するだけなので、健康保険／年金制度は個人それぞれで考えて行えるような制度にしてほしい。	60歳以上	扶養者無
最後の項目のように、雇用形態や事業形態にかかわらず、すべての人を対象とした社会保障制度の創設を早く実現してほしい。	60歳以上	扶養者無
社会保障として差があることに疑問を感じてきたため	60歳以上	扶養者無
雇用主といってもいろいろなので、払ってもいいと考える人はいるだろうか。一度きりのつき合いの出版社などもある	60歳以上	扶養者無
同一労働同一賃金の原則からも、働き方のスタイルによって差があるのは好ましくないから。	60歳以上	扶養者無
雇用されている労働者については、やはり会社が半分は負担する方がよいと思う	60歳以上	扶養者無
全ての人が自分で自分の保険料を負担することによって、副業可能な会社が増えるのではないだろうか。	60歳以上	扶養者無
その方が平等な感じがする	60歳以上	扶養者無
国家公務員の共済制度も含め、制度を複数用意する不合理さを整理し、その上で自分に合ったパターンを選ぶ権利があると良いのでは？ただ単純に労使折半の制度を無くすと、悪用する人が出てきます。	60歳以上	扶養者有
なぜフリーランスになったのかによる。選択してなったのなら自覚と自衛をするしかないのでは。	60歳以上	扶養者有

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
会社員とはまったく別の概念を作り、フリーランス独自の制度を作った方が良いと思う。	60歳以上	扶養者有
一律に制度を決めるのではなく、労使折半や厚生年金などは自身の希望により選択できるようにしてほしい。	60歳以上	扶養者有
働く人全てが、所得や扶養家族等に応じた保険を目指せばよいと思います。	60歳以上	扶養者有
収入に応じた支払い分が正当性が高いと思う。	60歳以上	扶養者有
現状は会社員とフリーランスの格差が大きすぎる。	60歳以上	扶養者有
発注者や個人事業主が保険料を負担するようになると仕事を切られる可能性の負担感が和らいでいた。	60歳以上	扶養者有
会社員も半額とはいえそれなりの負担をしており、立場を尊重すべきと思う	60歳以上	扶養者有
社会福祉制度全般の見直しが必要とする場合、上記の選択肢では選ぶことが困難	60歳以上	扶養者有

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスと会社員の格差をなくしていかないと、自由に働ける人を増やせない。経済的にも最終的にはそのほうがよい。	30歳未満	扶養者無
発注者と労使折半で社会保険料を負担するようになれば、発注者によって折半を求めるフリーランスとの取引を敬遠することが増えると思う。可能であれば、個人事業主や1人社長向けの健康保険や年金の仕組みを新たに立ち上げるのが一番良いと思う。	30歳未満	扶養者無
所得に応じた社会保険料であれば、納得がいく。後輩さを感じるから。	30代	被扶養者
個人事業主も会社員同様に所得税や、支払うべき税金を負担しているにも関わらず、補償額に差額があるのは不公平だと感じているため、発注者側と折半等、社会保障の待遇改善されるのは賛成	30代	扶養者無
同じく働く身として公平に扱われたい。消費税や源泉所得税などを請求するように、「フリーランスも取引先の発注者に対する被用者（指揮監督下にある雇われ人）と見なし、発注者と労使折半で社会保険料を負担する」のはとても良いと思った。	30代	扶養者無
全体的に社会保険料の負担を減らすべきだから	30代	扶養者無
年金を投資商品化する。	30代	扶養者無
不安をなくしたいから	30代	扶養者無
そもそも折半システムが保険制度をややこしくしている原因のため	30代	扶養者無
1つ目は企業側からの反発が大きそうで、実現可能なイメージがわかなかった。理想は3つ目で、現状はフリーランス、会社員が理不尽なほど平等だと感じているので、それを解消する方向に向かって欲しいと思っているため	30代	扶養者無
会社員でも未来の保証がない時代なので、フリーランスも会社員も安心感が変わらなくなっている気がする。	30代	扶養者無
労使折半で複雑化しているので、その仕組みをなくして賃金に反映させるような流れになってほしい	30代	扶養者無
資本主義の国なのに所得に関係なく保険料が一定のため	30代	扶養者無

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
負担が増える可能性があるので賛成できないが、具体案はない。	30代	扶養者無
発注者に対して費用負担を求めて通るのならそもそもギャラを高くして欲しいと思う	30代	扶養者無
余分に使われている税金などを精査して、そういったものを国の財源として振り分けてほしい	30代	扶養者無
事務負担を増やさずに不公平をなくしていきたい。発注者との折半は事務負担的に無理だと思う。(源泉徴収もちゃんとできていない中小企業沢山あるかと)	30代	扶養者無
フリーランス、最近はどんどん曲解されてひどい案件も見えてきているので、個人のフリーランスを使う側が企業なら程度の負担が必要なのではと思います。	30代	扶養者無
フリーランスが会社員と同じセーフティネットを利用できないとすれば、会社員もフリーランスと同じ土俵に立つべきだと思う。そもそも現状の制度では高齢化が進む日本の社会福祉制度の維持は困難かと思われる。	30代	扶養者無
特にないです	30代	扶養者有
所属ではなく所得で評価してほしいから。	30代	扶養者有
労使折半の仕組みを無くし、すべての働く人が会社員かフリーランスかを問わず自身の所得に応じた社会保険料を支払うことが、シンプルで分かりやすいし、不公平感がなくなる。フリーランスも取引先の発注者に対する被用者（指揮監督下にある雇われ人）と見なし、発注者と労使折半で社会保険料を負担することは、案件ごとの事務的コストが激増して、大迷惑だし、結局被用者が負担する保険料も加味して値下げ競争圧力となる（インボイスと同じ）ので、百害あって一利なし。	30代	扶養者有
労使の関係がない個人事業者もいますので、個人事業主として届出を出していれば、社保以上国保未満の数字で社保と同程度の保障を受けれるとかならフェアなんじゃないかな？と思います。その一方で、収入によって納付額が変わると確定申告を調整する人が一定数いると思うので、フリーランスである恩恵を受け過ぎるのも問題かなとも思います。	30代	扶養者有
一概には言えないため	30代	扶養者有
複数の取引先を持っているので、どこに保険の引受を頼むか微妙。	40代	被扶養者
フリーランスに対して国がバックアップするような仕組みができればいい	40代	被扶養者
会社員であることが前提で社会の仕組みができているので、変化は必要だと思う	40代	扶養者無
制度設計や手続きにかかる手間にコストがかかると思うので、あまり複雑な保険制度にならない方がよいと思う。例えばベーシックインカムに近い形のような、働けなくなった時に最低限の生活が全国民維持できるシステムがあるとよいと思う。	40代	扶養者無
発注者の負担はインボイスのようにフリーランスとの分断が生まれかねない。将来が見えない状況で今の負担額が大きい状況が厳しい。免除の条件がもう少し広がってほしい。	40代	扶養者無
フリーランスが集まって所属する団体を「会社」みたいな感じにして、そこの会社における厚生年金を作る。	40代	扶養者無
選択肢は色々あっていいと思います。その中でどれを選ぶのかを個人個人で決められるようになるといいと思います。	40代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
安心だからと会社員に縛られてる人が多い。社会保険料が所得に応じたものになれば、会社員でいるメリットはなくなり、独立・自立する人も増えるのでは。	40代	扶養者無
国が保証する社会保険制度は、高額療養費制度などのみにして、かぜなどの病院に行かなくてもどうにかなでできるようなものは、保証外にして保険料を安くしてほしい もし、今と同様の保険がほしいなら民間でやってほしい。そうすれば、いざというとき（高額の支払い）のときは保険がきいて安心、そうでないときは自己判断で10割負担か民間保険を使うか選べるようにしてほしい	40代	扶養者無
「発注者と労使折半で社会保険料を負担」については、フリーランスを採用しにくくなる（アルバイトなどの採用にシフトしてしまう）懸念があります。	40代	扶養者無
国の制度は破綻するように思うので、民間が参入して新たな制度を作るのはどうなのでしょう？ただの思いつきですが。	40代	扶養者無
特段賛成でも反対でもないが、これらによりさらにフリーランスとの取引を嫌悪する風潮が出るようなら反対。現実的な影響、取引先と受託者の心理も考慮してほしい。	40代	扶養者無
なるべく負担が増えない制度のほうがよいと思うため	40代	扶養者無
今から変わっても取引先が納得するか疑問。インボイス同様場合によっては切られる可能性もあるかと思う。	40代	扶養者無
フリーランスは安く使える個人という意識が強いと感じる。フリーランスの報酬には単に成果物への労力だけでなく、会社員と同様様々なものが含まれるという社会的意識を上げる工夫が必要で万博ないかと思います。	40代	扶養者無
選択は個々人がすればよいが、制度で制限をされたり受けられる保障の差が生じるのは避けられた方がよい	40代	扶養者無
やはり社会保険料は大きな負担なので軽くできるのであれば大いに賛成 とはいえ、企業側がこれによって何かしらで賃金を下げることもしないわけではないので企業との信用などにかかってくるのかなと思います	40代	扶養者無
選択肢が増えるのは良いと思うただ、会社が折半してくれるメリットを超えることはないなと感じた それよりフリーランスへの控除を増やして負担を減らして欲しい インボイスをやめて欲しい	40代	扶養者無
社会保険が独立のチャレンジの機会を奪っているため。	40代	扶養者無
不登校や介護当事者、そのケア者も充足した働き方生き方を実現させること、つまり公共の福祉、セーフティネットの意味合いとして、社会保険を労働のタイプに寄らないことが有効なのでは？と思う。	40代	扶養者無
雇用者とフリーランスの境界線が薄くなると感じるため。	40代	扶養者無
年収の壁をなくすなどといわれているが、その負担は結局、雇用主や個人事業主が負わされているように感じるため	40代	扶養者無
会社もフリーランスの保険料を払うことになると、雇われなくなりそう。インボイス制度でかなり影響を感じているので、同じようにフリーランスの働き口が狭くなりそう。	40代	扶養者無
会社員とは違うので、折半は違う。	40代	扶養者無
同じ仕事内容をしているのに、と思うことは多々あるので、保障が同じというのは納得しやすい。	40代	扶養者無
ひとつの選択肢として加入するしないを選べるとよいと思う。	40代	扶養者無

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
労使折半の仕組みが雇用の在り方を歪めており、本来は会社員であって然るべき職種までもがフリー（請負）に置き換わっているのはおかしい。フリーはあくまで専門職であるべき。	40代	扶養者無
仕組みを深く知った上で判断したい	40代	扶養者無
昨今は、医療機関に誰がしも係ることになるため、これを最低限度の生活基準と国としての考えを位置づける必要があるため。	40代	扶養者無
発注者とは対等で独立した存在でありたいし、自分のことは自分でやるので発注者と折半などしたいと思わない。また、発注者が複数いる場合は案件数や取引金額に応じて折半が決まるのか、など経理の煩雑化につながりそうなので魅力に思えない。会社員をしていたときの自分もそうだが、会社が何を肩代わりしているのか知らずに働いている人がかなり多いと感じる。給料から天引きせずにみんな自分で払って確定申告や税金、保険などについてもっと知ればいいと思う。	40代	扶養者無
会社員とフリーランスの格差を減らしたい。もっと両者間が流動的で、どちらの働き方も自由に選択できる社会になってほしい。	40代	扶養者無
できれば、働く人全ての人が負担も保証も受けられると良さそう	40代	扶養者無
どちらも一長一短ある	40代	扶養者無
制度設計上の容易さと困難さ。	40代	扶養者無
これ以上フリーランスの支払い負担が増えるのは現実的でない。	40代	扶養者無
いきなり100%変えるのは難しそう。全員じゃなく、個人で選択できるのが一番嬉しい	40代	扶養者無
発注者に負担させるのは、フリーランスへの発注をひかえることにつながりそうで怖い。	40代	扶養者無
発注者と労使折半にしたら、どの企業もフリーランスを使わなくなると思う。また、何十社と取引してる身としては、全く現実味がない。また、働き方によって差が出るのはおかしいと思うので、自身の所得に応じた社会保険料を支払うのが良いと思う	40代	扶養者無
もはや終身雇用でもないのに、労使折半する理由が見当たらない。それなら収入を増やして投資に回せばいいと思う。どんなにメリットがあろうと、保険料負担がこれ以上増えるのは勘弁してほしい。	40代	扶養者無
企業との折半にする場合は、報酬が下がる可能性があるし、月々の負担を増やしたくない。短期のプロジェクト、複数のプロジェクトにまたがる場合などの事務手続きが煩雑になる。働く側が希望する場合において、一定条件を満たすと（半年以上の契約or業務委託の実績など）をそういう制度を追加として適用するなどにすればよいのでは？	40代	扶養者無
いつまでも、いまの会社員の社会保障制度（既婚で子が2人）という家族をモデル世帯にし続けるのはおかしい。そろそろ働く人が独身でも女でも平等に扱われるようになってほしい。	40代	扶養者無
企業にとっても一時的な雇用がかない、人材確保にも貢献しそうです。	40代	扶養者無
個人事業主から法人成りを考えても、社会保険料分のキャッシュフローを考えると躊躇する。また、「発注者と労使折半で社会保険料を負担する」となると、自分が発注者側となった時の事務負担が大きい。	40代	扶養者無
個人事業主やフリーランスも何らかの国保組合に入れる仕組みがあると良い。	40代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
個人事業主として働いていても実質会社員と変わらぬ仕事をしていることも多いため、そこで差をつける意味が分からない。また自分の所得に応じた社会保険料を全ての働く人が支払い、その金額を適切なものにするために、企業に別途保険料と同等の支払いを求めることが、自己責任論に近いので賛成する	40代	扶養者無
個人事業主にも会社員並みの補償が欲しい	40代	扶養者無
フリーランスも所得の差が大きいので、どれがベストか判断できませんが、発注者と労使折半で社会保険料を負担するのいいアイデアですね。そのただ、その分、報酬が下がっていくような気がしますね。	40代	扶養者無
できれば全ての国民が公平に思える負担にしてほしい。	40代	扶養者無
中立的な、という点では賛成。実際にそうできればよいがなかなか難しいという思いがあり、もろてをあげて賛成とは言えない。制度は複雑になるかもしれないが、全員平等、よりは選択肢が増えると思うが、そこにハラスメントも生まれそうで悩ましい。	40代	扶養者無
多様な働き方がある中で、今の会社員のみを対象としている仕組みは合っていないと思う	40代	扶養者有
労使折半は社会保険料の負担感を誤解させているだけで分かりにくくしている 重い負担をしていることを全員が認識すべき	40代	扶養者有
発注者と労使折半で社会保険料を負担する仕組みは、コストの増加と捉えられること、雇用者との線引きがあいまいになる可能性があると考えます。そういった意味では、仕事の依頼が減る可能性もあるのではと考え、どちらかという反対ではあるのですが、負担が少なくなるという意味では賛成なので難しいです。	40代	扶養者有
労使折半の仕組みを無くし、自身の所得に応じた社会保険料を支払うのはフェアな考えかと思う為	40代	扶養者有
同じ納税者に対する公平性の観点から	40代	扶養者有
フリーライダーはなくすべき	40代	扶養者有
サラリーマン、自営業者、定年退職者関係なく、全員が居住地の地方自治体の健康保険に入る。	50代	扶養者無
会社員が恵まれすぎている	50代	扶養者無
フリーランスも会社員も主婦も、みんな平等に社会保険に加入（扶養控除等をなくす）するようにしたらよいと思います。フリーランスになりたくてもリスクを考えて行動を起こさない人も多いと思います。みんな平等になれば、起業家も増えて社会が活性化するのではないのでしょうか。	50代	扶養者無
フリーランスと会社員。違いがあるから不満が出る。	50代	扶養者無
先に回答したものと同じです。	50代	扶養者無
業務委託先と折半にすれば、負担が減るから。	50代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
下請け会社に勤めていて独立しました。下請け会社社長の考えは、社員の社会保険料の負担が大きいのので個人事業主として独立させ自社の負担を少なくしたいという考えでした(自分も独立したいという考えを持っていたのもあり個人事業主となっています)。派遣社員が増えていったのと同じような理由(会社の人件費負担を減らす)に思います。末端の人間の収入・安定性を考えずに会社の収益のみを考える経営者・社会構造が現在の少子化につながっていると考えます。ので、質問にあった、「発注者と労使折半で社会保険料を負担する」という考えはいいですね。個人事業主だから個人が負担しなければならないという考えで固まっていたので想像もつきませんでした。確かに、自社の運営に必要な人員ならばその保障は、社員・派遣社員・個人事業主に分けず均しく負担するべきだと思います。わけることにより、格差が生まれる原因ではないかと思います。派遣社員時代に派遣切りにあい、適齢期でしたが、収入が激減し相手を探すことすら考えられずに年月が経ちました。こういった、底辺？一般の人間に必要な時期に必要な収入を与える社会構造に返還しないと少子高齢化は無くならないと思います。回答になっていないようでしたら申し訳ありません。	50代	扶養者無
取引先の発注者が複数いるフリーランスが殆どだと思うので、労使折半は現実的ではないと思う	50代	扶養者無
個人事業主と会社員の社会保険の仕組みが違いすぎるため。	50代	扶養者無
労使折半の仕組みをなくしたときに、これまでより負担が軽くなる企業側へは、同額とは言わないまでもなんか目的税？のような負担分があってもよいのではという気もする（会社員かフリーランスかを問わず労働環境の整備や少子高齢化対策、社会補償の原資となるような…。それが法人税なのかもしれないが）。	50代	扶養者無
働く環境や立場によって保証の差がすごくある現場は、良くないと思う。全ての働く人が社会保障を払うこと、もしくはフリーランスも社会保障を受けれるようにすることは、平等という意味で非常に重要である。その制度の上で選択式や払う金額によって補償額を変えることができるようになれば、保証の有無が真の自己責任になり、平等になると思う。	50代	扶養者無
要するに社会保険料が高すぎるのが問題です。法人が会社員の社会保険料を半額負担しているから、会社員は気づかないだけで、毎月、相当の金額を負担している事を皆が気付くべき。社会保険料と言う名前だけで、税金と同じです。	50代	扶養者無
現在、労使折半の社会保険があるがために会社員にしがみついている人は多い。社会の流動性に応じた多様な働き方を選べるようにするためには、会社員の特権のような労使折半の社会保障制度はなくすべき。	50代	扶養者無
今後ますます働き方はフレキシブルになり、副業なども増えると思うので、シンプルな仕組みにしたほうが良いと思います。	50代	扶養者無
何故会社員だけが優遇されるのか理解不能	50代	扶養者無
発注者に負担させると結局日当や工事代金から引かれることになると思うので反対	50代	扶養者無
不公平感がなくなればいいと思う	50代	扶養者無
フリーランスが（保険料負担は増えたとしても）会社員と同等の社会保険に加入しやすくなる形が良いと思います。1・3番目はかなり大きな変更で実現は難しく影響度合いも見えにくい印象です。	50代	扶養者無
会社員、フリーランス、それぞれメリットデメリットがあって承知の上で現状に納得している。みんなが平等に満足する制度はないと思う。変わることで、今の状況が脅かされることの方が不安。	50代	扶養者無
発注もしている身なので折半は厳しいです。家族が社会保険に入っているの、そこに入れるように年収制限を見直してほしい。その分払ってもかまわないので、扶養ではない枠組みを作してほしいです。	50代	扶養者無
例えば、制度改定後の保険制度にメリットを感じたフリーランスの加入者が増えることで、保険料が下がるような仕組み（または都民共済のような還付金）があれば関心度が増すと思います。	50代	扶養者無
先の2つは非常に難しい。外注を受注するのに労使折半では意味がないと企業側は考える。となると正規雇用者を探さと思う。	50代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスの健康保険について考えるのは必要だと思うが、後期高齢者がデイサービスの用に医療機関を使うとか外国人が医療費を踏み倒したり医療を受けるために来日して健康保険を取得するといった問題も塞いでいく必要があると思う	50代	扶養者無
特になし	50代	扶養者無
理屈では、フリーランスは業務委託なので、発注者に対して労使折半という考え方はないと思います。いやなら受注しなければいいだけの話ですから。本当に「働き方に中立」な社会保険制度を確立させるなら、すべての働く人が所得に応じて支払えばいいと思います。しかし現実には、フリーランスは発注者の指揮監督下に置かれていると感じます。スケジュールはガチガチに管理され、複数の案件を受注しにくくなっています。何をもって「中立か」という基準がはっきりしないと、解決できない事柄かと感じます。	50代	扶養者無
そもそも労使折半の仕組み自体が、労働者に対するメリットとして機能していないように感じるため。収入を得ることと保障や負担は雇用形態を問わずに同様の制度かするべきと考える	50代	扶養者無
均等公平を考えたためです。	50代	扶養者無
会社員かフリーランスかどうかでなく、所得に応じた保険料を払うというのが最も公平に感じる	50代	扶養者無
そもそも日本は会社員が保護され過ぎ。	50代	扶養者無
社会保険制度自体が破綻しているので、なんともいえない。労使折半はなくして、他の財源から補填し支払額を減らして欲しい。	50代	扶養者無
所得に応じた金額であれば納得して払うことができる	50代	扶養者無
常々、設問3の制度ではないのは何故なのかと思っていました。	50代	扶養者無
やはり会社員の労使折半は大きい。また、取引先との折半は、委託会社の負担が増え、であれば業務委託として外注せず社員を採用した方が良いとの判断になり、結果的に業務受託のチャンスを狭めるのではないか。	50代	扶養者無
労使折半の仕組みの背景を知らないが、働き方が多様化しそれを是とするようになった今では、その優遇度合いが適切な範囲を超えているようにも感じる。	50代	扶養者有
全ての国民が平等に権利を得られるようにするべき。労使折半がなくなれば、企業も雇用がしやすくなるのでは？	50代	扶養者有
所得に応じた社会保険料を払えばいいと思う	50代	扶養者有
フリーランスとしての雇用形態が複雑（複数の発注者、単発、1日単位・時間単位などいろいろ）なので、労使折半の制度が現実的ではない。	50代	扶養者有
未来の働き方は各人がフリーランスとして活動していくようになると考える	50代	扶養者有
様々な状況に合わせて保険料が決まればと思うので	50代	扶養者有
不公平な制度を是正したい。	50代	扶養者有
会社に負担となるならいい事なのかどうなのかわからない	50代	扶養者有
なし	50代	扶養者有

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、

たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須

↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収200-400万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
労使折半を崩せるのであれば、良いかもしれない。あわせて源泉徴収も給与所得控除もやめて、会社員も確定申告（経費計上）する。つまり、全体的に個人事業主の方に寄せるのがよい。が、国（税務署、財務省）は嫌なんだろうね。	50代	扶養者有
国の積極財政にて、フリーランスの底上げを図るべき	50代	扶養者有
不公平感がないと思う	50代	扶養者有
アイデアはない	50代	扶養者有
国民健康保険料については、自治体によって変わるので、全国統一してほしい	60歳以上	扶養者無
保険料折半は、誰が支払うかが問題ではなく、合計の金額を下げていくことが大切。発注者側が支払うと、金額に経費がかかりその分発注額が目減りする。	60歳以上	扶養者無
選択肢がいくつかあれば良い	60歳以上	扶養者無
雇用形態に寄らず、同一の労働での対価はほぼ等しくないと本当の平等とは言えない。	60歳以上	扶養者無
No.1は現実的に無理だと思うが、2以降は選択できるようにすればよい。賛成か反対かというより、どう実現するかを先に言及しなければ、賛否の評価ができない。	60歳以上	扶養者無
フリーランスと一口に言っても、状況が違うので一律にきめられないと思う。私の場合折半となると複数のクライアントとの処理が発生し、料金負担が出れば発注控えにつながりかねない。基金などを用意して、自動的に(請求額とは別に)そこから出してもらえのなら良いと思う。会社員は会社が負担してもらっている自覚がない人が多いと思うので、折半の仕組みをなくすと後で困る人や気づく人がたくさん出ると思う。	60歳以上	扶養者無
日本政府は賃金を上げる話をよくされますが フリーランスの話はまったくありません サラリーマンだけが 国民ではないので労働者全体の施策をしていただきたいです	60歳以上	扶養者無
費用負担は必要だと思う	60歳以上	扶養者無
大幅な制度設計変更を行わないと、将来の破綻が避けられないと思われる	60歳以上	扶養者有
国の制度はサービスが悪い	60歳以上	扶養者有
会社が持ち出す時代でない	60歳以上	扶養者有
フリーランスも社員と同じ様な働き方をしている。	60歳以上	扶養者有
フリーランスに対する業務発注の責任として必要なと思います。現状会社員に対する労使折半をやめる件は、そのマイナス分を企業が何に使うか次第ではあります。	60歳以上	扶養者有

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
自身の収入に応じた保険料を払うのが中立だと思うから。	30代	扶養者無
自分ですべての社会保険料を負担すれば、働き方にかかわらず社会保険の問題を社会課題として認識しやすくなると思うから	30代	扶養者無
何を選ぶかは人それぞれ状況が異なるので、選択肢を増やすことには非常に賛成です。	30代	扶養者無
自己責任を求めてフリーランスになった為	30代	扶養者無
公平でわかりやすい仕組みであるべきと思うから	30代	扶養者無
特になし	30代	扶養者無
企業がフリーランスの社会保険料を支払うことになった場合、外注するメリットが消えると感じるため。	30代	扶養者無
私は自営業だがサービス業なので 誰かと仕事をする関係にない 今後社会保険について老後などは不安はある iDeCoみたいに任意でオプションとして社会保険に入るか決めるのがいいと思う 経費で落とせるかも要必須	30代	扶養者無
発注者は仕事の発注をしているだけなので、保険料の負担する必要はないと思う。 個人事業主が協会けんぽに加入できるなら事業主である本人が全額負担すべき。 会社員、フリーランス問わず全額支払いは平等性という観点からは賛成	30代	扶養者無
働き方で社会保障の内容を区別することは、働き方の多様性を否定しているように感じるため。	30代	扶養者無
取引先に労使折半を負担してもらうのは契約面で問題がありそうだと感じる。報酬から引かれたりするというのは容易に考えられる。自分の責任で社会保険に加入できるほうがよい。	30代	扶養者無
少し乱暴な選択肢です。一旦、中立を選びました。	30代	扶養者無
会社勤めでもフリーランスでも社会のために働いているのは同じなのでフェアな保障にしてほしい。	30代	扶養者無
個人でけんぽに入る場合は個人分だけで入れるようにして欲しい。	30代	扶養者無
発注者と折半することにした場合はフリーランスに発注する企業が減ると思う。	30代	扶養者有
労使折半をやめるのが一番シンプルでいいと思う 折半していた部分を給料に反映してあげれば負担が増えるわけではないので不公平感がなくなるのではないのでしょうか。会社側の経理周りに詳しくないので影響の精査はしっかりと行うべきではあると思います。	30代	扶養者有
個人事業主も法人経営者と同様の社会保険制度が使えれば、合法的な社会保険料の負担減となるため	30代	扶養者有
フリーランスが被用者という考え方は無理がありそうに感じた。	30代	扶養者有
発注者も労使折半になるとフリーランスへ発注するメリットが減って、フリーランスの仕事が減りそう そのため会社員とフリーランス問わず社会保険に加入すればいいと思う	40代	扶養者無
働き方がより自由になる	40代	扶養者無
下請法を拡大イメージで、発注主にある一定の負担を背負ってもらい、社会保険料を半額持って頂くアイデアは良さそう。	40代	扶養者無
見えづらい給与ともいえる労使折半を人員コストとして勘案しているのは経営としては当たり前の事だけど人生としては邪魔という不公平というか いっそ控除額として記載される形とせざるを得なくなる「自己負担」の方が明朗	40代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
1番上の質問は、フリーランス同士で仕事を一緒に担っている場合（WEB制作において、デザインとコーディングで役割分担して担っている）、どちらが元請けになるかで問題が起きかねない。時代が変わっているのだから、3番目で言っていることが時代を反映していると思う。	40代	扶養者無
三つ目の選択肢は、公平な感じがするため。あらゆる職業や働き方を選択したとしても、公的保障制度で不公平さがないことは良いことだと感じる。	40代	扶養者無
発注者との折半は、長期の継続的なサービス提供・商品納入などの契約（一定期間ごとの更新タイプを含める）には適用してもいいかもしれないが、単発の成果物報酬などの契約も含める事に対してはフリーランスを採用するメリットを損なうように思う。	40代	扶養者無
国保でいえば、フリーランスの文芸協会みたいなのには誰でもはいるようにする	40代	扶養者無
フリーランスから自由を奪ったらフリーランスじゃない。雇われたくない！監視されたくない！	40代	扶養者無
正直何が良いかわからない	40代	扶養者無
働き方について成熟を求めるなら、会社員とフリーランスの社会補償は同じ、または近づけるのは当然だと思うから。	40代	扶養者無
フリーランスか会社員かという違いで保険料の負担や内容が変わるのはおかしいと思うから	40代	扶養者無
会社員のみ、会社員+副業、個人事業主と就業形態が多様化しているので、就業形態によらず全体の収入にのみ応じて決まるように公平になるようにするべきと考えます	40代	扶養者無
少なくとも労使折半に関しては複雑化させているだけで意味がないので、シンプルにすべきだと思います。	40代	扶養者無
会社員とフリーランスで制度を変える意味は？	40代	扶養者無
取引先が負担するとなると、フリーランスは敬遠されます。また、価格転嫁が起こり立場を利用され不利なだけです。	40代	扶養者無
社会保険制度については、抜本的に改善すべきと思うが、あまりに仕組みが複雑化していて、改善が難しいのではないかな。フリーランス協会も、声をあげてくれるのはありがたいが、改善を期待させるだけにするのはやめていただきたい。	40代	扶養者無
そもそも労使折半は歪んだ制度だと思う。	40代	扶養者無
社会保険料の分を、取引先に要求しても聞き入れられると思えないので、発注者に初めから負担させるシステムになると良いと思う。	40代	扶養者無
働くものは雇われもフリーも平等なはず。	40代	扶養者無
フリーランスは基本的に自己負担で構わないが、インボイス制度を撤廃し、1000万以下の小規模事業者が守られる本来のかたちであるのが望ましい。	40代	扶養者無
現時点では、妥当かどうか判断できない。	40代	扶養者無
労使折半という仕組みが生まれた時代と現代との社会状況がアンマッチになっているのでは？ご破算で作り直した方が良い。同一賃金同一労働ならば同一社会保険料であるのが当然でしょう。	40代	扶養者有

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
働き方が多様化している現状では、会社員とフリーランスなど雇用形態で保険を区別することが適切ではないと感じるため。	40代	扶養者有
少なくとも雇用形態の状況に合った選択肢は欲しいです。	40代	扶養者有
会社員は自動的に社会保険料がひかれた上で給与が支給されるので、社会保険料を支払っている感覚が薄い。自分で支払う感覚が養われれば、保険料の高さが異常だということを認識し、医療にかかる頻度を下げたり、政治に文句を言ったり状況が変わるのではないと思う。会社負担分をなくし、可処分所得を増やしたうえで、個人ごとに社会保険料の負担割合を設定できるようなくみがよいのではと思う。例えば、年金は将来もらえる額を増やしたいので標準額より多めに納めるとか、自分で積み立てるので納めないまたは少額にするとか。健康保険も同様に、窓口負担額を減らしたい人は多めに納め、窓口負担を増やしてもいいひとは納める額を減らせるとか。	40代	扶養者有
自分の行動に応じた保険料が一番分かりやすいため。労使折半があっても良いけど、それをオプションとして選択するという形にした方が良いと思う。	40代	扶養者有
1の発注者との折半になると、そういった条件を出すフリーランスへの発注は避けられる事態になりかねないと思う。3の会社員を巻き込んだ論争になると、厚生年金の国民年金への上乗せの議論も含め、「好きなことを仕事にしているくせに」と個人事業主への風当たりはかなりキツくなると思う。良いアイデアは思い浮かびませんが、制度を悪用している人がいるならそこへの無駄な出費を減らすルールづくりや抜け穴塞ぎが大切だと思います。	40代	扶養者有
公平性を担保してほしいため。	40代	扶養者有
労使折半と言うが、実際は本人が支払っているのと同じだと考えている。使用者が支払う分を給与としてもらって全額本人負担にするのもあり。	50代	扶養者無
折半制度はコスト意識が身につかないのでよくないと思います。	50代	扶養者無
会社員とフリーランスの格差は無くしたいが取引先や自分の負担は増やしたくない	50代	扶養者無
指摘されて久しいのに、アイデアなんて簡単に浮かばないと思います	50代	扶養者無
自身の場合多くの会社との取引があり、単発で数万円程度の取引のみの会社もあり、個人との取引もあるので、折半という考え方は現実的でない。	50代	扶養者無
健康保険という名の税金なので、自身がどれ程負担しているのかを知ったほうが良い	50代	扶養者無
就業形態に関係なくシンプルな制度の方が良い。	50代	扶養者無
労使折半という保険制度の回避のために、企業が雇用や出社の制限などに翻弄されたくない。個人事業主の老後の為の選択肢が欲しい。	50代	扶養者無
そもそも論になるが・・・、「国民皆保険」は素晴らしい制度には違いないが、雇用形態よりも世代間格差の方が問題だと思う。	50代	扶養者無
所得が充分でないフリーランスにとっては、不利な仕組みになっていると思うため	50代	扶養者無
偽装フリーランスなど、ズルをしている企業や人がいることがわかっている 制度がおかしいから変えるべき	50代	扶養者無
一部の人がだけ得を享受するような法律やシステムは廃止すべき	50代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
とにかく高すぎる。格差をどうにかしたい。	50代	扶養者無
自分の立場が被用者とかかわらないため労使折半を希望する	50代	扶養者無
選択肢があるといい	50代	扶養者無
好きでフリーランスになったわけでないので労使折半は羨ましい	50代	扶養者無
社会保険自体が破綻の危機にあるのも確かなので、あまり都合の良いことは言えないと思う。 ので、まず（社員の給料を上げるように掲げる政治家は多いが）フリーランサーが社会保険料を発注者からの金額に転嫁しやすい社会状況が欲しい「手取りが1.5倍！」みたいな面はよく宣伝されるが、1.5倍では社会保険料を払うと正社員より年収が低くなる現状を社会的に認知してもらって、スペシャリスト人材の人件費の相場をもう少しあげて欲しい 社会保険料は経費になるし、自分で自分の社会保険料を払うのは個人事業主が自由に働ける要因の一つなので、発注元の庇護に入って代わりに自由を失うのはあまり好ましくない	50代	扶養者無
国民年金の付加金のように、自分で必要プランを選択できるオプションが仕組みとして成立していてほしい。(付加金は良い仕組みだと思うがあまりに少額すぎて大きなメリットにはならない)また、健康保険料は、通院や薬剤処方の頻度に応じた負担額にしてほしい。フリーランスとして責任を持って健康維持するために運動や整体等に通っている分は出費になるのに、軽症なのにやたらと通院する人の原資確保のために高額保険料を払いたくないため。軽症で通院する頻度が高い人の保険料を高く、通院していない人(健康維持している人)は負担額が少なくなるような制度を願います。	50代	扶養者無
企業の負担が減ったときに、社会がどう変化するか、経済はうまく回るのか、試してみてもいいのではないかと思う。そのときは、企業は実質、給与明細で手当てという形で帳尻を合わせることになるのでないかな…。	50代	扶養者無
取引先は限りなく責任を逃れたいと考える場合が多く、個人が自由に選択できる制度設計される方がよいと考える	50代	扶養者無
なんとなく	50代	扶養者無
私は負担が増えてもサポートが厚い方がいいですが、逆が良いと思う人もいると思うので、全員が所得に応じた中で選択ができると思う。	50代	扶養者無
会社員の優遇をなくして、同じ健康保険料となる事を望んでいます	50代	扶養者有
社会保険料を支払う割合と受ける保障の割合を選べると良いかな。	50代	扶養者有
法人成していますがとにかく高いので、安くなるのであれば何でもいいです。	50代	扶養者有
ただ、インボイス非対象の個人事業主は加入しないと思います。	50代	扶養者有
取引先負担はフリーランスへの需要や単金に影響しそうでいや	50代	扶養者有
雇用者が所得に応じて社会保障費を支払うことで、税金や社会保険料の使い方対しての意識が向上し、より良い方向に制度がブラッシュアップされることを期待します。（多分できないと思いますが）	50代	扶養者有
社会保険に加入できれば嬉しいが、契約企業との関係が強くなってフリーランスの良さである自由度が損なわれる。契約企業間とではなく、案件紹介企業などの中間企業との間で社会保険料を折半のほうがよい。もしくはJDPのような形式上の派遣契約で社会保険に加入できてよい。いずれにせよ、契約が切れても社会保険の加入資格が失われず維持できる必要がある	50代	扶養者有
病気にかからない努力をして健康保険を使わない場合は、割引など還元するか保険料下げて欲しい	50代	扶養者有
他にアイデアがない	50代	扶養者有

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収600-800万円未満>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスは企業側の負担が少ないからこそ重宝される面があると思う。現状、会社員とフリーランスでは、同じ仕事をこなして同じ成果を上げたとしても、やはり会社員のほうが手厚い。	50代	扶養者有
発注主が社会保険料を負担したとしても、結局のところ発注金額からその分減額されるため意味がないと考えています。	50代	扶養者有
そもそも会社員とフリーランスで制度が違う意味がわからない。考えられるとすれば国家による労働者の社畜化で、会社のいいなりの労働者が欲しいか	50代	扶養者有
インボイスでも現状は嫌がるクライアントが多いので、これ以上のクライアントへの負担は実質的な値引きが求められ、結果的には安売り合戦に拍車をかけてしまうと思うから	50代	扶養者有
とにかく国で使う保険の額が問題。これを見直せば額は抑えられるはず。ならば、保険に入れる気がする。	50代	扶養者有
税と社会補償改革が必要。中小では社会保険料の支払いが経営を圧迫している	50代	扶養者有
労使折半の制度は悪くはないのですが、大手大企業と中小企業と同じルールであるのは不公平だと思います。	50代	扶養者有
今回のインボイスと同様、その分請求額の値引きが発生する懸念点がある。物価上昇で賃上げどころか取り引き先から値引きを迫られるケースもある。ホントにありがたい立場は弱い。	50代	扶養者有
業種ごとに協会けんばがあるといい	60歳以上	扶養者無
発注者との労使折半は単純に見れば良いと思うが、関係性に問題が起これと思う。また折半をなくすのも負担が大きい	60歳以上	扶養者有
仕事は不定期である場合でも、消費税と同様にクライアントにも一定の負担を求めて給付の原資にするのが現実的。サラリーマンのような定期的な雇用形態を維持することが好ましいが、経済状況の変化が激しい現代ではクライアントにそこまで求めることは無理と思う。半面、一時的な業務契約でも一定額を老後の給付のために積み立てることができれば、給付の原資が増えることになる。経営が良好な時は大きな金額を積み立て、不振の時は積み立てる金額を減らす。将来の年金給付額は積み立て総額が基礎になるようにすればよいのでは？	60歳以上	扶養者有
正直なところ、よくわからない。	60歳以上	扶養者有
個人は所得に応じた保険料負担とし、企業は社会貢献の意味から、法人税や事業税のように収益の数%を社会保険料として負担させる。	60歳以上	扶養者有
使用側も労働者の健康に一定の責任があるため、労使折半が望ましい。	60歳以上	扶養者有

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
フリーランスは雇われではないため、保険料をクライアントにもってもらいたくはないし、そんな制度があると営業しづらくなるので反対だが、全ての労働者が健康保険料について分かりやすい制度にすべきだとは思う。	30歳未満	扶養者無
もしもフリーランスも社会保険料の支払いや厚生年金の支払いを会社が持ってくれるようになった場合、会社の負担が多くなるため、フリーランスを雇わなくなるのではないかと思う。あまりよくわからない中での回答となりすみませんが、正社員とフリーランスは明確に違った方がいいのでは？	30代	扶養者無
「～（指揮監督下にある雇われ人）と見なし、…」は、そもそも前提に良し悪しがあるためどちらとも言えない。「労使折半の仕組みを無くし、すべての働く人が会社員かフリーランスかを問わず自身の所得に応じた社会保険料を支払う」は、未納リスクが高まる等、全体的な徴収額減となる気がする、制度破綻する気がするためどちらとも言えない。	30代	扶養者無
累進課税のほうが望ましいから	30代	扶養者無
1の労使折半はありがたいが発注への足踏みと折半分を加味して報酬を決定されると思うので、懸念点が多く賛成しかねる。2は仕組み次第だが、フリーランスが加入できる健保が選択肢のひとつとしてあった方が良いと思っている。3は自助努力の社会保障に拍車をかけそうな策であるため賛成しかねる。	30代	扶養者無
労使折半はインボイスと同じことが発生するようにしか思えないので反対です。（100歩譲って労使折半の制度を作るなら、フリーランスが選択できるようにするべき）労使折半はただの言葉遊びであり、会社員も実際は社会保険料を全額負担しているのと変わらないので、労使折半の仕組みを無くすのが良いと考えます。フリーランスで加入できる国保組合が限られているので、国保組合を広げる方が良いと思います。	30代	扶養者無
どの案も案件の状況によって都合が変わってしまうので選択できるようにするようにしてほしい。上記の任意加入の原資を捻出するためにフリーランスの社会保険料の所得税控除の小規模企業共済やiDeCoなども社会保険料の算出からも控除するなど、実質的に使える金額から社会保険料も算出する計算式に変更してほしい。	30代	扶養者無
フリーランスが嫌なら雇用されれば良いので、フリーランスと言う働き方の自由度を殺すことになる	30代	扶養者無
フリーランスにも社会保障が必要だと感じますが、その形は取引先に負担を強いる仕組みや、会社員の労使折半を廃止する形ではなく、自らの選択で協会けんぽや厚生年金に加入できる制度が現実的だと考えます。収入に上限がない働き方だからこそ、保障を得て挑戦が続けられる仕組みは重要です。ただし全額自己負担は大きすぎるため、所得比例や国庫補助による軽減策を組み合わせることが望ましいと思います。	30代	扶養者無
労使折半にすると会社側の人件費が上がり、社会保険料控除額が半額になってしまうので仮に労使折半分を報酬が下げられた場合に不利益を被るため	30代	扶養者無
社会保険に入れるなら入りたいため	30代	扶養者無
発注者と労使折半で社会保険料を負担するとなった場合、その分だけ単に売上が減ると思いますので、それだったら今のままで労使双方分の負担（会社員も実質2倍払っているわけですから）で良いと思います	30代	扶養者無
会社に頑張って負担させているせいでフリーランスになるとそれが外れて負担増に感じる。このあたりをもっと均してあげたほうが良いと思う	30代	扶養者有

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
雇用者側が折半してくれるならもちろん願ったり叶ったり。ただ、健康保険組合に個人もはいれるようになるだけでも、法人の煩雑な手続きから解放されるため、それだけでも嬉しい。労使折半をなくすかどうかはそれほど興味はないけど、社会保険料が高いことをみんなが認識することになるとすれば、それはいいことかもしれない	30代	扶養者有
ある程度国が無駄な税金を減らしてそれを財源に保障してほしい	30代	扶養者有
協会けんぽへの加入までのハードルが高すぎるのをなんとかしてほしい。厚生年金も同様に法人が必須というのをやめてほしい。	30代	扶養者有
社会保険という制度を働き方によって異なるのは不公平	30代	扶養者有
発注者といちいちやりとりをするのはトラブルが増えると思う。個人事業主が法人経営者と同じようにできるのがトラブルが少ないように思う。労使折半の仕組みがないと、サラリーマンでいる人がかわいそう。	40代	扶養者無
会社と折半だと自分がいくらもらっているのか把握しづらいと思うので、サラリーマンも全部自分で払う。その分給料に乘せてもらうがいいと思う	40代	扶養者無
今後働き方が多様化するため、雇用形態に限らずに社会保険料を負担したほうが良いと考えます。(金融所得に対する税負担割合などゆがみもあるのでそのあたりも加味して)	40代	扶養者無
選択肢が増えるのはいいが、強制的に労使折半にしても発注金額が減るだけで、むしろフリーランス側の自由度が損なわれると思う	40代	扶養者無
まず、フリーランスは費用者が1つではないことがほとんどだと思うので、2カ所以上から報酬を受け取っている場合の手続きなども考慮する必要があるし、毎月一定の報酬額ではないので無理があるとも思います。個人事業主でも希望すれば社会保険に加入できるようにするのがスムーズでは？	40代	扶養者無
制度として義務付けても罰則がないと、その義務を逃れる仕組みがすぐに出てくる。制度がよくできていても産業構造がそのままであれば、結局は利益を圧迫するので、弱者を守る制度だけ充実させても意味がないと感じます。そうではなく、自由度増やしより条件が自分に合っているものを選択できる方が満足度が高いと思います。また偽装請負を行っている経営者への追徴課税などの罰則強化は社会への問題提起や業界の健全化にもなるため賛成します。	40代	扶養者無
取引先側からすると負担が増える分フリーランスへの業務委託を躊躇することにならないか、また法人と異なり所得の分散がしづらいフリーランスだと収入によっては社会保険料が大きな負担になってしまわないかが不安。それぞれの所得や環境にあった適正な負担と保障を望む。	40代	扶養者無
取引先の発注者との折半は取引に影響が出そうで怖い	40代	扶養者無
社会保険料、特に健康保険は当年使った医療費に応じて翌年の負担額を決めるべき。理由は前ページの通り	40代	扶養者無
発注者となる企業はすでに自社の社員に対する負担を負ってるので、フリーランスを使うメリットがなくなるため	40代	扶養者無
取引先と雇用関係にあると、フリーランスの意味がないように思う。正社員との格差を感じるようになると思うので、対等でよい。法人経営者と同じ扱いとして取引額を渋らないようにチェックしてほしい	40代	扶養者無
フリーランスも取引先の発注者に対する被用者（指揮監督下にある雇われ人）と見なし、発注者と労使折半で社会保険料を負担するとなったら単価下げられて結局意味がないと思う	40代	扶養者無

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、

たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須

↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
会社員の場合、労使折半の有無に関わらず、給料天引きとなることから手取りが変わらなければどちらでも良いのかと思う。フリーランスは労使折半を理由に契約金を下げられたら何も意味がない。毎年、大きな金額を納付するのは精神的ショックが大きい、その分仕事を取りやすく、契約金のアップが見込みやすい環境が大切に思う。協会けんぽ、厚生年金への加入を選択肢ができるのは歓迎。フリーランス協会で窓口を対応していただけると加入しやすい。	40代	扶養者無
そもそもリスクを負ってやっているのだから、自分でリスクも管理したいから、社保などいらない	40代	扶養者無
被用者（指揮監督下にある雇われ人）と見なされ、発注者と労使折半で社会保険料を負担する形になる場合、月々の手取り収入が減少する可能性が高く、確定申告時の処理も複雑になる懸念があります。また、発注者側の負担が増えることで契約自体が成立しづらくなったり、契約単価の相場が下がる要因となり、結果的にフリーランスにとって不利な状況を招く可能性があると感じています。そのため、雇用関係に該当しない個人事業主としての立場を維持しつつ、費用が発生することを前提に、個人の選択によって雇用保険、労災保険、健康保険組合などに加入できる制度が整備されることを望んでいます。	40代	扶養者無
社会保険は事業主も折半で負担する者の、事業主側で受け取ることができる給付は一切ないことから、個人負担とすることも一案として理解できる。ただし保険料改定や賞与における諸手続きもセットで考えると現行制度を変える必要もあると思う。例えば年末調整とセットにして、年間所得に対する保険料率の決定する。	40代	扶養者無
フリーランスは業種や業態が多岐にわたり、特定の発注者だけに依存している人ばかりではない。たとえばクラウドソーシングを使って匿名の発注者から数千円のタスクをスポットで請け負う場合など、到底「労使」とはみなせない取引関係も多い。民間の業種や業態、契約内容によって国の健康保険の形が変わるのは論理的におかしい。同じ国民であれば一律で同じ社会保障制度に統一し、シンプルにすべき。	40代	扶養者無
どれも保険料負担が増える選択肢しかない。現役世代に負担増分のメリットがあるように思えない。これから先は負担を維持しつつ保障を減らしていくフェーズだと思う。	40代	扶養者無
3つ目のQがよくわからないサラリーマンの所得は半分は会社負担で払われているので 半分のみにするのか全額サラリーマン負担にするのか ひとまず求めることは平等 今は差別しかない	40代	扶養者無
あくまでも フリーランスはフリーランスであり 労働者は労働者である。実態を見る必要がある。	40代	扶養者無
社会保険の仕組みが複雑すぎる。会社員の人、経営者の人、主婦の人、だれでも公平にわかりやすい仕組みにすべき。会社員は、給料から勝手にひかれるので、会社が負担していることや制度の仕組みを知らない人が多すぎる。それも問題。	40代	扶養者無
会社折半をなくし、会社員・フリーランスに関わらず同じシステムにすれば不公平感はなくなる。確定申告等を会社任せにしている会社員も納税等に対する意識が高まる。	40代	扶養者無
自己責任で入らない選択肢を用意する	40代	扶養者無
働き方が違ってても、必要な補償は同じであるはずなので、考え方の軸を合わせた社会保険制度にするとよい。具体的には、所得に応じた負担が現実的と考えます。	40代	扶養者無
労使折半があったら、外注ができなくなります。インボイスと同様、よくない制度の気がします。	40代	扶養者無
労使折半をやめると個人に負担が増えるのでむずいと思う。	40代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、

たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須

↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
長期雇用が前提でなくなってきたので、社会保険も従来制度をただ守るのだけではなく、現代的なものにするために、ゼロベースでプランし直すタイミングに来ていると考えている。	40代	扶養者無
労使折半をフリーランスまで適用すると、会社がフリーランスに依頼すること自体が減ると思うので本末転倒な気がします	40代	扶養者無
国民保険は全員3割負担 足りなければ増やす方向で。	40代	扶養者無
会社員だけが折半というのは、不平等	40代	扶養者有
労使折半という仕組み自体に反対のため。	40代	扶養者有
正社員のマネーリテラシーも高まると思うので	40代	扶養者有
同じ働く事なので。	40代	扶養者有
発注者に払わせるのは反対。発注者のコストが増えれば、受注可能性が減る。	40代	扶養者有
労使折半によって制度がわかりにくくなっており、その意義も明確でないと思うから。すべての人が所得に応じた保険料を払うのがシンプルだと感じる。	40代	扶養者有
フリーランスのメリットの1つは被用者ではないことと考える。会社員も労使折半の仕組みを無くすのは、会社員からの反発が大きく現実的ではないのではないと考える。	40代	扶養者有
発注者と労使折半すると、おそらく発注価格に反映されるだけだから。	40代	扶養者有
それは当然だと思います。	40代	扶養者有
厚生年金の年金定期便の記載を見ていると詐欺のように感じるため	40代	扶養者有
フリーランスは取引先の発注者から、ほとんど被用者とみなされている場合が多いので発注者と労使折半で社会保険料を負担することに違和感があまりない（ただその場合、報酬は減額される可能性がありそう） 労使折半の仕組みを無すと会社員とフリーランスの間に違いがなくなるので不満がなくなる	40代	扶養者有
労使折半とはいえ、以前友人が勤務していた会社で給与から社会保険料の徴収があったにもかかわらず会社から保険組合へ保険料の支払いがなかった、ということがあった。折半をなくして、個人個人が所得に応じて保険料を支払う そのかわり、会社員も小規模企業共済・セーフティネット共済のような共済を利用でき 各自で積み立て・控除されるようなシステムでもよいと思う。	40代	扶養者有
セーフティネットの格差は無くしたい。ただ、会社員と同じような恩恵を受けれるようにすると企業側に縛られる可能性もあり、そもそものフリーランスの恩恵を受けづらくなる気もしており、あまり発注者側へここに負担を増やすなどはすべきではないと思う。改善案：フリーランス向け共済制度の拡充（全国共通） 小規模共済や業界団体共済に政府補助を入れ、厚生年金に近い支給水準の「第3の年金」枠を創設 将来的には国が一括して管理し、企業年金のような扱いにする	40代	扶養者有
会社員との制度の差をなくしたい。	40代	扶養者有
働き方に関わらず、平等であれば良いと思う	40代	扶養者有
労使折半の仕組みを無くし、会社員であろうとフリーランスであろうと、所得に応じた保険料を支払うことが公平で良いと思う。それであればダブルワークにも対応できると思うので。	40代	扶養者有
アイデアはない	40代	扶養者有

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
1 番目に関しては経理処理が複雑化する。 2 番目に関しては、フリーランスというだけで社会的地位（保障という概念で）が低いのが気になる。	40代	扶養者有
労使折半がないのがフリーランスの有利な部分であるので、それがなくなると雇用者側の需要も減りそう。選択肢が増えるような制度設計がフリーランスには合ってる。	40代	扶養者有
個人事業主も、法人と同様の見方はできると思い、協会けんぽや厚生年金に加入できるオプションがあってもいいように思う。	40代	扶養者有
制度統一をしてほしいから。	40代	扶養者有
取引先に負担させるのは、取引先と対等な関係にならないため、おかしい。会社が一定の保険料を負担するのは、それを負担できないような会社を市場から排除するために必要。	40代	扶養者有
会社員とフリーランスとの格差をなくすことには賛成である。究極的には、多様な働き方が増えた実情にあわなくなってきた労使折半の仕組みを撤廃して、シンプルに一元化するのがベストだろうと思う。労使折半の仕組みが残るのであれば、個人事業主も労使双方分の社会保険料を負担して加入できるようにするのが良いだろう。（任意加入）フリーランスでも発注者を被用者とみなして労使折半する案には疑問がある。実態として指揮監督下にある場合には（このような場合は少なくないだろう）それの良いだろうが、受注者としてのフリーランス側に裁量が確保されているのであれば、複数の発注者と同時並行的に契約をしている場合も少なくないだろうし、労使折半はそぐわないと思われる。いずれにしても、手続きの煩雑さも想像に難くないので、現実的とは思われない。	40代	扶養者有
上記のいずれにも魅力は感じないが、業界として健康保険組合があったら良いとは思（翻訳者向け）	40代	扶養者有
社会保険料の負担は最低限・平等・シンプルにすべきであると考えのため。	40代	扶養者有
フリーランスや個人事業主が加入できるけんぽがあり、所得に応じた料率で保険料を支払うことができるといい。国保では、扶養の考え方や各自治体の財政などの影響がないといいと思う。	50代	被扶養者
発注者に負担となれば、委託されないと思うので	50代	扶養者無
労使折半にしまうと、契約単価が大きく下がる恐れがあるから	50代	扶養者無
あまり大きく制度が変わらないならば社会的な混乱も少ないと思うので、選択制などでできるならやりたい。他に良いアイデアはありません。	50代	扶養者無
働いてもらう人と働く人が支え合う仕組みがいいと思うので、どちらかが負担するのは賛成できない。正規雇用が難しく、非正規雇用をしている会社は、金銭的に相手を尊重するということをしていいのではないかと感じる。	50代	扶養者無
正社員制度的を見直すべき。	50代	扶養者無
3 番目はなるほどと思った。ただし既得権益の雇用される者たちがいるので実現は現実的ではない。	50代	扶養者無
社会保険の壁とかを考えなくてよいから	50代	扶養者無
折半することで仕事が減ってしまうのではないかと、また社員になることを進められのではないかとと思うと不安だから。	50代	扶養者無
会社側の負担が増えればその分支払う報酬や給料を減らしてくるだけのように思う	50代	扶養者無
制度はできるだけシンプルである方がよいと考えるため。	50代	扶養者無

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
労使折半は、制度として分かりにくい。一般の会社員も理解しておらず、問題があると思う。	50代	扶養者無
労使折半の仕組みをなくすのは一つのアイデアかもしれませんが、プラス、企業側に社員数に応じた拠出金を払わせるのが良いと思います。つまり、社員のみへの福利厚生ではなく、社会保険制度全体に対して負担を負わせる。そうすれば個々人は自身の所得に応じた保険料を支払い、予算は保険料プラス雇用の拠出金（税金）で賄う。	50代	扶養者無
まず1番目の「発注者と労使折半で保険料負担」は論外。フリーランスの排除や仕事減少にもつながりかねない。3番目は公平という点では最も望ましいとも云えるが、「自己責任」を要求するものでもあり日本の社会保険のよい部分を損ねてしまう感もある。自分としては2番目が最も望ましく、できれば労使双方分の／少なくとも使用者側分の保険料負担は経費にすることができるといった、法人と同様の対応が望ましい。	50代	扶養者無
前述と同じです	50代	扶養者無
基本的に働くという観点ではフリーランスも会社員も同じと考えるので、働く人全てが自身の所得に応じた社会保険料を支払う方が収支バランスが良くなると考えます。	50代	扶養者無
今の時代、フリーランスか会社員か関係なしに、社会保険制度が同じであることが望ましいと思います。	50代	扶養者無
労使折半の負担が重いからフリーランスや派遣を企業が使うのであって、Q14の1つ目のアイデアはそもそもおかしい。2番目のアイデアがふさわしいと思うが、その分他の税制が優遇されるが課税対象額から引いてほしい。3番目はアイデアとしては興味深いが、企業だけが得をして働く人のためにはならないのでNG。	50代	扶養者無
労使折半が無くなれば企業の負担が減り、結果として労働の流動性があがるため	50代	扶養者無
取り引きのある企業が複数あったり、プロジェクトベースで契約しており定期的に取り引き先が変わるため、その都度手続きするのは面倒で現実的でないため。	50代	扶養者無
何が良いのか よく考えないとすぐ答えが出せない	50代	扶養者無
発注主に負担義務が生じることは、フリーランスへの発注の躊躇につながる可能性もあるため	50代	扶養者有
フリーランスの格差が大きすぎるので、努力で改善できる仕組みは欲しい	50代	扶養者有
所得を尺度とするのが公平性の観点で一番良いと思うから	50代	扶養者有
労使折半の制度があるので個人事業と会社員に違いが起きていると思います。そもそもなぜ労使折半しているのかがよく分かりませんし、事業者負担を押し付けることで利益を圧迫して、結局給料が減っていると思います。実質の給料を上げて、支払う金額を明確化した方が公平だと思います。国から見ると多くとっているようにサラリーマンから見えるので嫌がるでしょうが、もうそういう時代でも無いでしょう。	50代	扶養者有
フリーランスを労使折半の対象にすると企業側が敬遠して仕事が少なくなりそうなので。	50代	扶養者有
雇用主にも一部負担してほしい	50代	扶養者有
保険料が高すぎるし、それに見合っていない	50代	扶養者有

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
現状の制度は若年人口が維持できる前提で作られた過去の遺物なので、国が国民に説明をし、それでは成り立たないことを納得させたいと、国民が少しずつ身を切る制度に変えざるを得ないから。そうでないと国自体が維持できなくなる。	50代	扶養者有
これに尽きるかも。→すべての働く人が会社員かフリーランスかを問わず自身の所得に応じた社会保険料を支払う	50代	扶養者有
そもそも別制度である理由が理解できない。労使折半も負担額の自覚をなくす。	50代	扶養者有
所得に応じた社会保険料を支払うこれが大事 制度設計は難しいかもしれませんが	50代	扶養者有
まず、フリーランス協会が、「フリーランスも雇われ人と見なし」というのは、どうなんでしょうか？それは偽装請負とかそっちの問題になるのでは？大前提として、フリーランスは会社員ではない。組織に縛られない自由はあるが、組織が担保していた部分は自己責任だよ、っていう前提に基づいてスキームを作らないとダメだと思う。	50代	扶養者有
フリーランスが企業負担分相当の支払いをするならば、その分の税制優遇措置が欲しい	50代	扶養者有
昭和の時代に確立された雇用に関する3種の神器はとくに破綻している。副業・複業が社会的に認められているのだから、フリーランスと会社員を対等に扱うべき。	50代	扶養者有
個人事業主でも協会けんぽに加入できる（退職後の任意継続と同様）とする程度で十分。発注者と折半は労働者的で過剰だと思うので。	50代	扶養者有
どのみち支払うってことだよな	50代	扶養者有
医療サービスは平等なので金銭負担も平等であるべき。	50代	扶養者有
そもそも労使折半の制度がおかしいと思う	50代	扶養者有
会社は様々な雇用を費用をかけて保障しています 個人事業主はそれを選択したので費用は自分だけでよいと思います	50代	扶養者有
労使折半（会社負担）の考え方は、労働者の負担を小さく見せるための「まやかし」であると考え。会社負担分がなければ、その分の賃金アップが期待できるためである。日本人の賃金が国際比較で少なく見えるのも、少なからずこのことに起因しているのではないかな。働き方によって社会保障のレベルが異なるのは平等ではないと思う。このような分かりづらい制度をやめて、平等でシンプルな制度にするべき。	50代	扶養者有
開業・独立の何年かは、国や県・市での保険の折半や社会保険の免除などがあるともう少しチャレンジする人が増えるのではないかなと思う。	50代	扶養者有
会社員だと負担が増えるが、やはりシンプルに自分が払った分が保証や将来もらえる額に反映できるのが良い	50代	扶養者有
フリーランスの社会保障を労使折半する案は、契約形態によっては煩雑となるため現実的ではない。労働者は一律で狭義の社会保険に加入することで、享受できる社会保障の不平等を無くし、働き方の垣根を下げることは、意味があると考え。フリーランスは雇用者、被用者双方の側面を持つため、一人社長と同様に労使双方の保険料を負担することは妥当。	50代	扶養者有
制度はシンプルでわかりやすくあって欲しい。また、働き方がかわっても同様に同等のサービスが受けられるべきと考えますので、雇用者負担はなくし、その分を労働者の手当を増額し、労働者が全額支払う制度にした方が良いと考える。	50代	扶養者有

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須

↳Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。

<年収800万円以上>

自由回答	年代	扶養状況
労使折半があるから社会保険未加入のブラック企業が出てくると思うため。	50代	扶養者有
特に理由は内	60歳以上	扶養者無
その方が平等だと思うから	60歳以上	扶養者有
会社員は労使折半で良い。所得税が増えるだけ。フリーランスは、その独立性が魅力。紐付きになる必要は無い	60歳以上	扶養者有
会社が折半すると、会社としても給料を上げにくくしていると思う。	60歳以上	扶養者有
契約時にあらかじめ社会保険料を上乗せできる仕組みを作る	60歳以上	扶養者有
会社員時代と変わらず、現役会社員に影響ない制度がベスト。みんな社保なとグレーのような感じの社会保険削減会社のような仕組みを安心して加入できる法制度化してほしい。	60歳以上	扶養者有
提案：フリーランス専用の協会けんぽを作り、国から助成をうけて運営できたら解決では？	60歳以上	扶養者有
発注者から見ると社会保険料負担がないことが、フリーランスを使うメリットの一つなので、その点は慎重に判断したい。別のアイデアとして、個人事業主は公費と折半にして自己負担を会社員並みにするのがいいと思う。事業税などの税金はきっちり払っているの。	60歳以上	扶養者有
労使折半という仕組み自体、現代社会に即していないのではないかな。	60歳以上	扶養者有
特にない	60歳以上	扶養者有
特になし	60歳以上	扶養者有

<わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
公平性を求めるのであれば所得に応じた社会保険料を支払うのが無難だと思う。発注者と労使折半の場合は、個人へ発注する会社が減り本末転倒だと思う。会社員だろうが個人事業主だろうが負担金に違いが出るのは違和感しかない。そもそも働き方は自由であっても良いはず、また働くというのは役に立って価値提供するからこそのはずが、会社員として属するだけで内容問わず保証が付くのは何とも言い難い。	30歳未満	扶養者無
フリーランスの取引先に社保負担を課したら業務委託の良い点が失われるおそれが高く、事業主負担の制度をなくせば事業主がその分を給与に転嫁せず、実態として減給になる企業が増え、経済がさらに冷え込む。これらのデメリットを確実になくせるような法規制をするのであれば、やってもいいと思う。ただ、フリーランスの実態としてさまざまな状況があり、結果として前者は機能しない可能性が高い。そもそも会社員も含めた現役世代の社保負担軽減が最優先であり、負担を増やしてメリットを増やすのはその後の話である。	30代	扶養者無
1. 個人事業主でも、例えば個人商店の場合では、労使の概念そのものが存在しない2. 社会保険のカバーする領域、例えば失業保険などは、「何をもって失業とするのか」などが曖昧であるため、個人事業主との相性が悪い可能性がある。3. そもそも、個人事業主・法人経営者用の保険や追加の年金制度はすでに制度化されている。	30代	扶養者無
発注者と労使折半は、それぞれの発注者によって金額にバラつきが出そうだから。	30代	扶養者無
社会保険料や年金を1年使い切りの予算とせず、余剰金は投資に回して運用益により保険料負担を減らしていく。	40代	被扶養者

Q9:会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ♪Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
そもそも消えた年金問題がなければ、ここまで切迫することはなかったと思います。	40代	扶養者無
上記に3つに同意できる理由がありません。制度をそのままにして金額だけの増減ではクリアできない問題だと思っています。強いて言えば、「所得に応じた社会保険料」というのにはかろうじて及第点をつけられますが、それに見合った保障が受けられているかどうかは（将来も含めて）疑問です。	40代	扶養者無
フリーランスや業務委託で仕事をして、何時から何時まで仕事をしてくれとか、この書類を必ず書くようになど、雇用されているかのような業務指示を受けることが多々あるため、いっそ雇用保険を払ってくれたら気持ちよく仕事ができると思う。また、企業の雇われている人だけが優遇されるくらいなら、みんな自分の分は自分で払うほうがまだ納得がいく。	40代	扶養者無
1つ目は受注が減りそうです。そうでなくても、フリーランス＝安い と勝手に思い込んでいる人が多く困っているのに、発注者の負担が増えれば企業への発注に変更する人が増えそう、という懸念。3つ目は企業の負担も減って平等性が上がると思うが、将来的に生活保護で国の負担が増えそう、という懸念もあります。	40代	扶養者無
フリーランスも健康保険の保障が手厚くなるのは賛成だが、支払いが高額になるのは避けたい。	40代	扶養者無
企業として雇用や社員を守る福利厚生の一環として労使折半が考えられるが、終身雇用が外れた現在、また、健保赤字が課題となる現在、仕組みは変えてもよいかもしれない。疾病予防の概念を日常生活に入れた、保険会社やフィットネス、身体所見、健康所見などを項目化、点数化し、それに応じた保険料の負担をかけるなども考えられる。	40代	扶養者無
各業界ごとに会社・フリーランス関係なく健康組合があるのが一番良い気はします。。。別問題を含む回答ですが、会社というものに頼りすぎて仕事レベルが低い人が足を引っ張って人手不足になることもあり、極論言えば、会社という概念を無くして全案件を国管理のギルド制にして管理したほうが人として精錬される気もします。	40代	扶養者無
法人の負担が重くて、法人が成長しない	40代	扶養者無
労使折半の仕組み自体が、役人の報酬に繋がっている話も聞くので、透明度が低い制度は信用失墜です。	40代	扶養者無
法人と同様に扱うのが良い	40代	扶養者有
フリーランス専用の健康保険組合があると助かる。	40代	扶養者有
発注者との労使折半はかなりありがたいが、その場合は各取引先との年間の取引金額から算出するのだろうか。ただそれが単価の引き下げにつながらなければいいが。労使双方の保険料自己負担、は所得の程度による。少ない所得でもそれに見合った保険料（給付）であればないよりはマシだと思うが、加入できる最低所得ラインを設けられそう。労使折半をなくす案は一見いいが、これは最低限の保障を約束されないと低所得者は見捨てられかねない。会社員でも低賃金のところはある。格差が逆に広がるかもしれない。	50代	被扶養者
保証とそれに伴う支払いのバランスが上手く取れば良いとは思いますが、個人の現状ではなんとも言いにくいです。	50代	扶養者無
職業による格差をなくすには、制度をシンプルにした方が良いと思う。	50代	扶養者無
もうこれ以上、雇用側が楽になる案は受け入れられない。この話は、過去にフェミニズムが失敗したことに通じるような気がする。	50代	扶養者無

Q9.会社員とフリーランスとのセーフティネットの格差をなくし、働き方に中立な社会保険制度を実現するために、
 たとえば下記のようなアイデアがあります。あなたのお考えをお聞かせください。単一回答/必須
 ◀Q9F1.あなたがそのように考える理由や、その他に良いアイデアがあれば教えてください。
 <わからない・答えたくない>

自由回答	年代	扶養状況
労使折半をやめるかわりに企業の負担分を給与に転換したうえで、会社員も自営もすべての労働者が所得に応じた社会保険料を支払うのが、働き方に中立な社会保険制度には不可欠だと思う。高度経済成長期のまま企業の福利厚生に頼るばかりの仕組みは、今は労働者の不公平の温床でもあると思う。雇われでも自営でも安心して働くために、立場によらず守られる制度が必要だと思う。	50代	扶養者無
被雇用者だった経験から、厚生年金保険料を全額自己負担にすると到底払えない金額になる。個人事業主と被雇用者を同じ扱いにするのであれば、より負担の少ない方に合わせるべきだと思う。	50代	扶養者無
社会保険料の支払額が上がるのは当然だと思います。問題はその支払額に見合った売上高があることが実現可能にしてくれる。	50代	扶養者無
セーフティーネットは必要なので、まずは会社員とフリーランスの格差を縮めてもらいたい。人口が減少する中では将来的に1人の役割が多くなることが予測され（副業は当たり前で、二刀流、三刀流の方が増えると思う）働き方の多様化が進むと思います。加えて、看病/介護や子育ての期間もあると思うので、働き方に関係なく充実したセーフティーネットがあれば、安心して働くことができるのではないのでしょうか。現在は正社員ありきの仕組みになりすぎていると思います。特に、1社と1年2年と長期間に渡り仕事をする時は、社員と変わらない勤務でありながら社会的保障が受けられないジレンマがあります。もちろんその分を鑑みて請求額に反映する訳ですがなかなか難しい現状です。	50代	扶養者有
そもそも負担額が大きすぎる	50代	扶養者有
国民健康保険の保険料が高く、国民年金も扶養家族分支払うのは、会社員と比較して不平等であると考えため。	50代	扶養者有
フリーランスと発注者との折半は手続き上無理だと考える。	60歳以上	扶養者無
なし	60歳以上	扶養者無
「すべての働く人が会社員かフリーランスかを問わず自身の所得に応じた社会保険料を支払う」にどちらかと言えば賛成であるが、その際、国は企業からも社会保険料を徴収すること、逆進性を是正するために、税金を投入して低所得者の保険料を低く抑える措置を設けることが必要だと思う。	60歳以上	扶養者無
フリーランスは雇用契約ではないから。	60歳以上	扶養者無
労使折半を問題視する前に、会社員でもフリーランスでも所得水準がデフレ以前のように上昇していくような経済状況が必要。	60歳以上	扶養者有
税制や社会保険制度は複雑になり過ぎているので、シンプルにすべき。	60歳以上	扶養者有